

レナイヤウニ希望スル次第デアリマス、今日ハ決シテ蝸牛角上ノ争ヲナスベキ秋デナイ、我が開國ノ進運ニ鑑ミテ近クハ支那問題デアルトカ、其他西洋各國ノ締盟列國ニ向ッテ、我國ノ利權ヲ擴張スベキ大切ナル時機デアル、諸君ガ此ノ如キ區々タル問題ニ就テ蝸牛角上ノ争ヲ止メ、ドウカ國家ノ大事ニ向ッテ共ニ慎重熟議セラレンコトヲ希望スル次第デアリマス  
福田又一君ハ討論終局ノ動議ヲ提出シ表決ニ及ヒ多數ノ宣告ニ對シ異議ノ申立アリ議場騒然タリ因テ記名投票ヲ行ヒ百八名ニ對スル百六十七名ノ多數ヲ以テ討論ハ茲ニ終局セリ  
表決ニ及ヒ記名投票ノ結果百六名ニ對スル百八十六名ヲ以テ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會、第三讀會ヲ開キ本案ヲ可決確定シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ同月二十五日可決奏上シ四月一日法律第三十四號ヲ以テ公布セラル

三七 華族世襲財產法改正法律案

(小字及——ハ貴族院修正)

華族世襲財產法

- 第一條 有爵者ハ○世襲財產ヲ設定シ又ハ之ヲ増加スルコトヲ得  
○其ノ家格ヲ維持スルニ必要ナル範圍内ニ於テ
- 第二條 世襲財產ノ設定又ハ増加ハ遺言ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
- 第三條 有爵者カ未成年者○○又ハ禁治産者○○ナルトキハ其ノ法定代理人、又ハ準禁治産者ナルトキハ○世襲財產ヲ設定○又ハ増加スルコトヲ得ス  
○其ノ保佐人ハ豫メ家政協議會ノ決議ヲ經テ○ノ認可ヲ申請ス  
有爵者カ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ家産ヲ治ムルニ堪ヘス又ハ之ヲ傾グルノ虞アルトキハ家政協議會ハ本人ニ代リテ前項ノ認可ヲ申請スルコトヲ得

家政協議會ニ關スル規程ハ宮内大臣之ヲ定ム

第四條 世襲財產ハ家實、不動産、登録國債又ハ記名ノ有價證券ニ限ル

第五條 世襲財產ヲ設定又ハ増加セムトスルトキハ其ノ財產ノ目錄ヲ添へ宮内大臣ニ認可ヲ申請スヘシ

第六條 前條ノ認可ノ申請アリタルトキハ宮内大臣ハ其ノ目錄ニ記載シタル財產ヲ世襲財產ト爲スノ當否ヲ調査スヘシ

第七條 前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ宮内大臣ハ本人目錄以外ノ財產ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

第八條 前條ノ規定ニ依リ公告シタル財產ニ關シ權利ヲ有スル者又ハ民事上ノ強制執行、假差押若ハ假處分ニ著手シタル者ハ前條第一項ノ公告期間内又ハ其ノ期間滿了後二月内ニ之ヲ宮内大臣ニ申出ツヘシ

第九條 世襲財產ノ設定又ハ増加ノ認可ハ前項ニ定メタル期間滿了ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 宮内大臣ハ世襲財產設定ノ認可ノ申請ノ全部又ハ一部ヲ認可スヘカラサル理由アリト認ムルトキハ華族世襲財產審議會ニ諮詢スヘシ

華族世襲財產審議會ニ關スル規程ハ宮内大臣之ヲ定ム

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議及表決 第四項 法律案



第九條 宮内大臣ハ世襲財産ノ設定又ハ増加ヲ認可シタルトキハ其ノ旨及第七條第二項ニ掲クル事項ヲ公告スヘシ

第十一條 前十條ノ規定ハ世襲財産ヲ増加スル場合ニ亦之ヲ適用ス

第十條 宮内大臣ハ華族世襲財産臺帳ヲ設ケ世襲財産ニ關スル事項ヲ登録スヘシ

第十一條 世襲財産中登録國債アルトキハ國債登録簿ニ世襲財産タル旨ヲ登録シ有價證券アルトキハ宮内大臣ハ之ニ世襲財産タル旨ヲ記入スルコトヲ要ス

株券又ハ社債券ニ付テハ前項ノ規定ニ依ルノ外株主名簿又ハ社債原簿ニ世襲財産タル旨ヲ記入スルコトヲ要ス

登録國債又ハ有價證券ノ世襲財産タル効力ハ前二項ノ要件ヲ具備スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十二條 世襲財産ノ効力ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルニ至リタル日以後ハ其ノ前ノ原因ニ基キ世襲財産ニ付所有權質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ判決又ハ確定日附アル證書ニ依リテノミ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ權利ヲ主張セムトスル者ハ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ申出ツヘシ

第十三條 世襲財産ハ家督相續人ノ特權ニ屬ス

第十四條 世襲財産又ハ其ノ法定果實ヲ收取スル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ質權若ハ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得ス株券カ世襲財産タル場合ニ於テ利益又ハ利息ノ配當ヲ受クル權利ニ付亦同シ

第十七條 土地カ世襲財産タル場合ニ於テ

世襲財産ニ付地上權永小作權又ハ地役權ヲ設定又ハ變更セムトスルトキハ宮内大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

ニ非サレハ其ノ効力ヲ生セス

第十五條 世襲財産ハ民事上ノ強制執行ノ目的ヲ以テ之ヲ差押ヘ又ハ一般ノ先取特權ニ基キ之ヲ競賣スルコトヲ得ス

世襲財産ノ果實又ハ前條第一項ノ利益若ハ利息ニシテ他ノ財産ト混合セサルモ亦前項ニ同シ

前二項ノ規定ハ世襲財産ノ効力ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルニ至リタル日前ニ爲シタル假差押ニ基キ差押ヲ爲シ又ハ一般ノ先取特權ニ基キ著手シタル競賣ヲ續行スルコトヲ妨ケス

第十六條 世襲財産タル不動産ノ管理ニ付テハ豫メ其ノ方法ヲ定メ宮内大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第十七條 世襲財産ハ確實有利ナル世襲財産ニ換フル爲又ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限り宮内大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ全部又ハ一部ヲ廢止スルコトヲ得

世襲財産ハ他ノ世襲財産ニ換フル爲其ノ全部又ハ一部ヲ廢止スルコトヲ得

第二條 第三條 第五條 及第六條ノ規定ハ世襲財産ノ廢止ニ付之ヲ準用ス

第二十條 宮内大臣ハ世襲財産ノ廢止ヲ認可スヘキヤ否ヤニ付華族世襲財産審議會ニ諮詢スヘシ

第十八條 前條ノ規定ニ依リ確實有利ナル世襲財産ニ換フル爲世襲財産ヲ廢止シタル場合ニ於テハ廢止ノ認可ヲ受ケタル者又ハ其ノ相續人ハ認可アリタル日ヨリ一年內ニ第五條ノ認可ノ申請ヲ爲ス

スコトヲ要ス



前項ノ期間内ニ申請ヲ爲ササルトキハ宮内大臣ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ申請ヲ爲スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得

第三條ノ規定ハ前二項ノ規定ニ依リテ認可ノ申請ヲ爲スヘキ場合ニハ之ヲ適用セス此ノ場合ニ於テ申請ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人之ニ代リテ申請ヲ爲スコトヲ要ス

第十九條 前條ノ規定ハ收用、<sup>〇、競賣</sup>滞納處分、償還、滅失、<sup>〇、他ノ</sup>其ノ事由ニ因リ世襲財産ニ代リ其ノ所有者

ハ其ノ財産ヲ以テ世襲財産ヲ補充スヘシ此ノ場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ財産ニシテ他ノ財産ト混合セサルモノニ付テハ第十五條第一項ノ規定ヲ準用ス

第二十條 前二條ノ場合ニ於テ宮内大臣ハ必要アリト認ムルトキハ管理人ヲ選任シ世襲財産タリシ財産又ハ前條ノ財産及其ノ財産ノ處分ニ因リテ得タル財産ヲ世襲財産ノ設定又ハ増加ノ認可アル迄他ノ財産ヨリ分離シテ管理スルコトヲ命スルコトヲ得果實又ハ配當ヲ受ケタル利益若ハ利息ニシテ其ノ財産ト混合シタルモノニ付亦同シ

前項ノ規定ニ依リテ管理スル財産ハ管理人ニ依ラスシテ之ヲ處分シ又ハ管理ニ因リテ生シタル權利ニ基カスシテ民事上ノ強制執行若ハ競賣ヲ爲スコトヲ得ス

第一項ノ場合ニ於テ 宮内大臣ハ管理人ヲ改任シ其ノ他財産ノ管理ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 管理人ノ選任アリタル場合ニ於テ本人、其ノ法定代理人又ハ保佐人カ世襲財産設定ノ認可ヲ申請セサルトキハ管理人ハ遲滞ナク管理財産ニ付其ノ申請ヲ爲スヘシ

第二十五條 管理財産ハ管理人ニ於テノミ之ヲ處分シ又ハ管理ニ因リテ生シタル權利若ハ不法行爲ニ因ル損害賠償ノ請求權ニ基キテノミ民事上ノ強制執行若ハ競賣ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 前條第一項ノ規定ニ依リテ管理スル財産ノ果實ニ關シテハ第十四條第一項及第十五條ノ規定ヲ準用ス其ノ財産中株券アル場合ニ於テ利益又ハ利息ニ付亦同シ

第二十二條 有爵者爵ヲ失ヒ又ハ襲爵者ナキコト確定シタルトキハ世襲財産ハ其ノ效力ヲ失フ

第二十三條 世襲財産ニ付第十二條第二項ノ申出アリタル後二月内ニ主張ニ係ル權利ヲ消滅セシメ又ハ主張ニ對シ訴ヲ提起セサルトキハ世襲財産ハ其ノ效力ヲ失フ

前項ノ期間内ハ主張ニ係ル權利ニ基キテ競賣ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條及第二十一條ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依リテ世襲財産ノ效力ヲ失ヒタル財産アル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ財産ニ代リ其ノ所有者ニ歸シタル財産アル場合ニ於テハ第十九條ノ規定ヲ準用ス



第二十四條<sup>九</sup> 世襲財産ノ廢止、失効其ノ他ノ異動アリタルトキハ宮内大臣ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

第二十條又ハ前條第三項ノ規定ニ依リ財産ノ管理ヲ命シ又ハ<sup>○選任又ハ</sup>管理人ヲ改任シタルトキ亦同シ

第七條第二項ノ規定ハ前項ノ公告ニ之ヲ準用ス

登録國債又ハ有價證券ニ付世襲財産ノ廢止又ハ失効アリタルトキハ<sup>三</sup>第十一條ノ登録又ハ記入ヲ抹

消スヘシ

第二十五條<sup>三十一</sup> 第二十條ノ規定ニ依リテ管理スル財産中登録國債アルトキハ國債登録簿ニ管理財産タ

ル旨ヲ登録シ管理終了シタルトキハ其ノ登録ヲ抹消スルコトヲ要ス

第十一條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條<sup>三十二</sup> 世襲財産ニ關スル公告、登記又ハ登録ノ費用ハ其ノ名義人ノ負擔トス

第二十七條<sup>三十三</sup> 宮内大臣ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ世襲財産ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

宮内大臣ハ世襲財産ノ管理ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十八條<sup>三十三</sup> 本法ノ施行ニ關スル規程ハ宮内大臣之ヲ定ム

附 則

従前ノ規定ニ依ル世襲財産及ヒ其ノ附屬物ハ本法ニ依ル世襲財産ト看做ス

本法施行ノ際従前ノ規定ニ依リ世襲財産ノ純收益ニ付他人ノ有スル權利ハ本法施行後ト雖仍其ノ效

力ヲ有ス本法施行前著シタル差押又ハ假差押ニ付亦同シ

不動産登記法<sup>○第百四條中「創設」ヲ「設定」ニ改メ同條ニ左ノ二項ヲ加ヘ同法</sup>第百四十三條中「解除」ヲ「認可」シタルトキ「廢止」又ハ「失効」アリタルトキ「改メ同法

第百四條ニ左ノ二項ヲ加フ

○又ハ第二十八條

華族世襲財産法第二十條ノ規定ニ依リ管理ヲ命シタル財産中不動産アルトキハ當該官廳ハ遲滯

ナク管理財産タル旨ノ登記ヲ登記所ニ囑託シ管理終了シタルトキハ其登記ノ抹消ヲ囑託スルコト

ヲ要ス

前項ノ管理中取得シタル不動産ニ付テハ<sup>○管理人カ其</sup>管理人ハ取得ノ登記ト共ニ管理財産タル旨ノ登記ヲ申請

シ管理終了シタルトキハ其登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ要ス

四年十二月十四日貴族院ニ之ヲ提出ス同院ハ五年二月十二日本案ヲ修正議決シ本院ニ送付ス本院ハ同月十六日本案ノ第一讀會ヲ開キ(十五日延會)大隈内閣總理大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

華族世襲財産法改正法律案提出ノ理由ヲ簡單ニ述ベマス、華族世襲財産法改正法律案ノ提出ノ理由ヲ申シマスルト、御承知ノ通り現行ノ財産法ハ明治十九年ノ制定ニ係ルモノデ、制定後殆ド三十年ヲ經過致シテ居マシタノデアル、從テ今日ノ實際ニ適セザル所ガ少ナクゴザイマス、且法典編纂前ノ法律ニシテ改正スベキ點ガ餘程多イノデゴザイマス、此改正ノ必要ガアリマシタル爲メ、今日ヨリ凡ソ十三年以前ニ伊藤公ガ帝室制定調査局總裁タリシ頃、改正法律案ノ起草ヲ致シタルコトガゴザイマスノデアル、其後皇室令整理委員ニ於テ之ヲ修正シテ一案ヲ作ッタコトガアリマス、今是等ノ案ヲ根本ト致シテ、現今ノ事情ニ適當スル改正案ヲ作リマシタノデアリマス、此ニ此法律案ヲ提出ス



ルコトニナリマシタ次第ゴザイマス、政府提出案ニ對シテ貴族院ニ於テハ、昨年十二月以來十數回ノ委員會ヲ開キ慎重ナル審査ノ上修正ヲ加ヘラレマシタガ、提出案ノ根本ノ義ニ關シマシテ政府ノ提案ト差異ハゴザイマセヌ、從ツテ政府ハ此修正ニ對シテ同意ヲ表シタ次第ゴザイマス、尙詳細ハ委員會ニ於テ説明ヲ申上ゲルコトニ致シマスガ、何卒御協賛ヲ與ヘラレマシテ、一日モ早ク華族世襲財産制度ノ改善ヲ見ルヤウニ切ニ希望致シマス

質疑、應答ノ後委員ノ選舉ハ議長指名(十八名)ニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ翌十七日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末同月二十四日原案(貴族院ノ修正)ヲ可決シ報告書ヲ議長ニ提出セリ

翌二十五日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長古屋慶隆君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

本員ハ華族世襲財産法ノ委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告致シマス、本案ハ政治上經濟上又法律上重大ナル問題デアリマシテ、委員會ハ前後數回ニ互リマシテ慎重ニ審議致シマシタノデ、委員諸君ノ議論ハ各種ノ方面カラ議論ガ交換サレタノデアリマスガ、先ヅ此二ツノ方面カラ見ルコトガ出來ヤウト考ヘマス、一ハ政治上經濟上ノ方面カラノ議論デアリマシテ、即チ四民同等デアアル法治國デアアル今日ニ於テ、特ニ華族ノ保護スルト云フコトハ面白クナイ、若シ日本ニ於キマシテ沿革上サウ云フ必要ガアリト致シマスレバ、ナゼ瑞西新民法ノ如ク一般國民ニ對シテ相當ノ保障ヲ與ヘナイノデアアルカ、即チ家産制度ヲ布クノ必要アリハシナイカ、斯ウ云フコトガ總テノ委員ニ一致シタル意見デゴザイマシタ、政府ハソレニ對シテ勿論家産制度ト云フコトニ付テハ平常慎重ニ攻究シツ、アルノデアルガ、未ダ定ツタル腹案ハナイ、併ナガラ腹案ガ無イト云フコトハホンノ申譯のニ申スノデハナイ、十分熱心ニ攻究ヲシテ居ル、斯ウ云フ政府ノ答辯デアリマシタ、又法律上ニ於キマシテハ各種ノ方面カラ條文ノ各條ニ付キマシテ精細ナル議論ガゴザイマシテ、最後ニ政友會ノ阿部君ノ御發議ニ依リマシテ、政府ノ原案ヨリモ貴族院ノ修正シタル修正案ノ方ガ餘程宜シイ、併ナガラ修正案モ完全ナモノデハナイケレドモ、貴族院ガ今日マデ數十回委員會ヲ開キ、各種ノ方面カラ慎重ニ審議シタ結果デアアルカラ貴族院ノ修正案ニ賛成スル、斯ウ云フ御發議ガゴザイマシテ、其ノ御意義ニ滿場一致賛成ヲ表

シマシテ、貴族院ノ修正案通り委員會ニ於テ可決ヲ致シマシタ、右御報告ニ及ビマス

別ニ討論ナク院議第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通本案ヲ可決確定セリ即日裁可ヲ奉請シ同時ニ其ノ旨ヲ貴族院ニ通知ス九月二十日法律第四十五號ヲ以テ公布セラル

三八 關稅定率法中改正法律案

關稅定率法中左ノ通改正ス

第七條第十八號ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第八條ニ依リ輸入税ノ免除ヲ受ケタル物品ヲ除ク

第八條第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

二ノ二 輸出貨物ノ容器ニ使用スル物品ニシテ命令ヲ以テ指定シタルモノ  
同條第七號ヲ左ノ如ク改ム

七 本邦ニ渡來スル巡回興行者カ輸入スル興行用物品

別表輸入税表中左ノ如ク改ム

|  |     |
|--|-----|
| 第二十六號中「同」ヲ削リ「〇、六五」ヲ「無税」ニ改メ同號ノ次ニ左ノ二號ヲ加フ |     |
| 二六ノ二 大麻子                               | 無 税 |
| 二六ノ三 蓖麻子                               | 無 税 |



第二十九號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

二九ノ二 インヂアラッパー樹、ガタバイチャ樹及木藍ノ種子

第七十一號ヲ左ノ如ク改ム

七二 皮類(別號ニ掲ケサルモノ)

第七十二號第一項甲ノ中ノ「同」ヲ「從價」ニ、同號第六項中「同」ヲ「從價」ニ、九、二〇ヲ「二割」ニ、同號

第七項中「從價」ヲ「同」ニ改ム

第七十八號中「クイルブリッスル」ノ下ニ「及ホーシンプリッスル」ヲ加フ

第九十三號中「皮」ヲ削ル

第一百十三號ヲ左ノ如ク改ム

一一三 ワセリン

一 一箇ノ重量容器共一キログラムヲ超エサルモノ

二 其ノ他

第二百二十八號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一二八ノ二 コカ葉及ヤボランヂ葉

第二百二十九號中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム

第三百三十一號中「同」ヲ削リ「六、七〇」ヲ「無稅」ニ改ム

第三百三十二號中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム

第三百三十九號ヲ左ノ如ク改ム

一三九

白檀

一 サンタラムアルブム

二 其ノ他

第四百四十一號中「每百斤」ヲ削リ「〇、五〇」ヲ「無稅」ニ改ム

第四百四十二號中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム

第四百五十四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一五四ノ二 乳酸

第五百五十五號中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム

第六百六十號中「一八、四〇」ヲ「二七、六〇」ニ改ム

第六百七十號中「同」ヲ削リ「一、〇〇」ヲ「無稅」ニ改ム

第六百七十一號中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム

第六百八十一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一八一ノ二 過酸化水素

第六百八十二號中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム

第六百九十二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一九二ノ二 ラヂウム及ラヂウム鹽類

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議及表決 第四項 法律案

無稅

無稅

從價 二割  
每百斤 二、九五

無稅

每百斤 無稅  
三、八五

從價 三割

從價 三割

無稅



|  |       |       |
|--|-------|-------|
| 第二百八號中「同」ヲ「每斤」ニ「三二六、〇〇」ヲ「九三、〇〇」ニ改ム       | 同     | 六〇、〇〇 |
| 第二百九號中「及硫酸キニ」ヲ削リ「同」ヲ「每百斤」ニ改メ同號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ | 同     | 六〇、〇〇 |
| 二〇九ノ二 硫酸キニ                               | 同     | 六〇、〇〇 |
| 第二百十一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ                         | 從價    | 五分    |
| 二一ノ二 ヨカイン                                | 從價    | 三分    |
| 第二百十六號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ                         | 從價    | 三分    |
| 二一六ノ二 ベプシン                               | 從價    | 三分    |
| 第二百十七號中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム                      | 從價    | 三分    |
| 第二百二十號ヲ左ノ如ク改ム                            | 從價    | 三分    |
| 二二〇 酒精劑                                  | 每リットル | 〇、七三  |
| 第二百四十四號中「同」ヲ削リ「五二、四〇」ヲ「無稅」ニ改ム            | 無稅    |       |
| 第二百五十八號中「及石炭タール」ヲ削リ同號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ          | 無稅    |       |
| 二五八ノ二 石炭タール                              | 無稅    |       |
| 第二百五十九號中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム                     | 無稅    |       |
| 第四百五十七號第二項ヲ左ノ如ク改ム                        | 無稅    |       |
| 二 其ノ他                                    | 無稅    |       |
| 甲 フニドシリカ製品                               | 同     |       |
| 乙 其ノ他                                    | 同     |       |

第四百六十二號第十二項中ハノ二ヲ左ノ如ク改メ同號第十三項中「每百斤」ヲ削リ「〇、一八」ヲ「無稅」ニ改ム

|                      |   |      |
|----------------------|---|------|
| ハノ二 鑲接シタルモノニシテ内徑五センチ | 同 | 二、五〇 |
| メトリトルヲ超エサルモノ         | 同 | 一、一〇 |
| ハノ三 其ノ他              | 同 |      |

第四百六十三號第一項中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム

第四百六十八號第一項中「同」ヲ削リ「四、七五」ヲ「無稅」ニ、同號第二項中「同」ヲ「每百斤」ニ改メ同號

第四項中「同」削リ「五分」ヲ「無稅」ニ改ム

第四百七十一號第二項ヲ左ノ如ク改ム

|                |     |       |
|----------------|-----|-------|
| 二 條及竿          | 每百斤 | 一六、〇〇 |
| 甲 スチウムタービン用ノモノ | 同   | 七、五五  |
| 乙 其ノ他          | 同   |       |

第四百八十四號ヲ左ノ如ク改ム

|                                  |    |      |
|----------------------------------|----|------|
| 四八四 家屋、橋梁、船舶、船渠等ノ建設材料(別號ニ掲ケサルモノ) | 同  | 一、九〇 |
| 一 鐵ノミヲ以テ製シタルモノ(卑金屬ヲ鍍シタルモノヲ含ム)    | 從價 | 二割五分 |
| 二 其ノ他                            | 同  |      |



第四百八十五號中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム  
第四百八十九號第二項甲ノ中ノ「ロ」ヲ左ノ如ク改ム

- ロ 其ノ他
- ロノ一 一箇ノ重量五百グラムヲ超エサルモノ
- ロノ二 其ノ他

第五百十四號中「スト」ノ下ニ「及同部分品」ヲ加フ

第五百三十號第一項中「ムーヴメント」ノ下ニ「(文字板及指針ヲ附著シタルモノヲ含ム)」ヲ加ヘ同號第四項ヲ左ノ如ク改ム

- 四 樂器
- 五 其ノ他

第五百六十五號ヲ左ノ如ク改ム

五六五

自轉車(サイドカーニ付テハ分離シテ第五百六十六號ヲ適用ス)

- 一 モーターサイクル
- 甲 機關付ノモノ
- 乙 其ノ他
- 二 其ノ他

第五百七十七號第五項ヲ左ノ如ク改ム

- 五 一箇ノ重量一萬キログラムヲ超エサルモノ
- 六 一箇ノ重量五萬キログラムヲ超エサルモノ
- 七 一箇ノ重量十萬キログラムヲ超エサルモノ
- 八 其ノ他

第五百七十九號中「及發電子」ヲ「周波數變換機、迴轉變相機及發電子」ニ改ム  
第五百八十號第三項中己ヲ左ノ如ク改ム

- 己 一箇ノ重量一萬キログラムヲ超エサルモノ
- 庚 一箇ノ重量五萬キログラムヲ超エサルモノ
- 辛 一箇ノ重量十萬キログラムヲ超エサルモノ
- 壬 其ノ他

第六百五號第三項ヲ左ノ如ク改メ同號第四項ヲ削リ同號第五項中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム  
第六百七十二號第一項甲ノ中ノ「黒檀」ヲ下ニ「(縞黒檀ヲ除ク)」ヲ如ヘ同項中壬ヲ左ノ如ク改ム

- 三 ミリングカッター、ギアカッター及機械用鋸
- 壬 縞黒檀、ドロノキ及ハコヤナギ
- 癸 其ノ他

第六百二十一號中「麥稈眞田、經木眞田及麥稈經木眞田」ヲ「製帽用眞田」ニ改ム



附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

五年二月十四日日本院ニ之ヲ提出ス同月十六日本案ノ第一讀會ヲ開キ(十五日延會)加藤大藏省參政官ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、關稅定率法中改率法律案ヲ提出致シマシタ趣旨ヲ是ヨリ辯明致シマス、關稅ノ作用ニ依テ、內製造工業ノ發展ヲ圖リ、外輸出入ノ調節ヲ圖ルコトハ、政府ノ常ニ必要ヲ感ジテ居リマス、譯デアリマス、今ヤ時局ノ關係ニ依リマシテ殊ニ其必要ヲ痛切ニ感ジテ居リマス、其第一ヲ申シマスレバ、內地製造ノ出來ナイ所ノ輸入品、若クハ製造シ得ルモ其價高價ニシテ輸出ニ適セザル所ノモノハ之ヲ免稅若クハ減稅スル必要アリト認メルノデアリマス、次ニハ、内地ノ製造工業ハ、漸次發達ヲ致シマシテ、外國ノ輸入品ニ對シテ多少重キ稅率ヲ課シマスレバ、是等ノ製造工業ハ、内地ニ發達シ外ニ向ッテ輸出ノ途ガ開カレルノデアリマス、次ハ、輸入ノ原料ニシテ内地ノ製造工業ニ供セラル、處ノモノハ漸次增加致シテ居リマス、是ニ向ッテ免稅若シクハ、減稅ヲ實行致シマスルナラバ、ソレガタメニ内地ノ製造工業ハ、大ニ發展致シマス、譯デアリマス、從ッテ外國輸出モ大ニ途ガ開カレル譯デアリマス、以上此理由ニ依テ政府ハ此關稅定率法ノ改正ヲ必要ナリト認メテ茲ニ提出ヲ致シタノデアリマス、宜シク御協贊ヲ請ヒマス

次テ委員ノ選舉ハ議長指名(十八名)ニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ翌十七日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末同月二十一日原案ニ修正ヲ加ヘ報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

關稅定率法中改正法律案中左ノ通修正ス

(小字及——ハ委員會修正)

第四百六十二號第十二項中ハノニヲ左ノ如ク改メ同號第十三項中「每百斤」ヲ削リ「〇、一八」ヲ「無稅」ニ改ム

|     |                             |   |      |
|-----|-----------------------------|---|------|
| ハノ二 | 鐵接シタルモノニシテ内徑五センチメートルヲ超エサルモノ | 同 | 二、五〇 |
| ハノ三 | 其ノ他                         | 同 | 一、一〇 |

第四百七十一號第二項ヲ左ノ如ク改ム

|   |              |   |     |       |
|---|--------------|---|-----|-------|
| 二 | 條及竿          | 同 | 每百斤 | 一六、〇〇 |
| 甲 | スチームタービン用ノモノ | 同 |     | 七、五五  |
| 乙 | 其ノ他          | 同 |     |       |

第四百八十四號ヲ左ノ如ク改ム

|     |                              |   |    |      |
|-----|------------------------------|---|----|------|
| 四八四 | 家屋、橋梁、船舶、船渠等ノ建設材料(別號ニ掲ケサルモノ) | 同 | 從價 | 一、九〇 |
| 一   | 鐵ノミヲ以テ製シタルモノ(卑金屬ヲ鍍シタルモノヲ含ム)  | 同 |    | 二割五分 |
| 二   | 其ノ他                          | 同 |    |      |

第四百八十五號中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム

關稅定率法中改正法律案委員會ニ於テ議決シタル希望條件

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議及表決 第四項 法律案



時局ノ影響、内地産業及外國貿易ノ現狀等ニ鑑ミ本案以外ニ尙關稅定率法中改正ヲ要スルモノ多  
アリト認ム政府ハ引續キ慎重ナル調査ヲ遂ケ次ノ議會ニ更ニ本法ノ改正案ヲ提出セラレムコトヲ望ム

二月二十四日第一讀會ノ續會ヲ開キ(二十二日延期、二十三日延會)委員長石橋爲之助君ハ委員會ノ經  
過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

本案委員會ノ經過及結果ヲ報告致シマス、本案ヲ提出サレマシタ目的ハ既ニ政府ヨリ説明ガアリマ  
シテ、其一々ノ物品ニ就テノ説明ハ、委シク速記録ニアリマスカラ諸君ノ御覽ヲ願フコトニ致シマシ  
テ其邊ハ省キマス、概シテ申シマスル時局ノ影響ニ依テ内地ノ生産ヲ保護獎勵スルト云フノガ大  
體ノ目的デアリマシテ、原料品ニ屬スルモノニ或ハ無稅トナシ、或ハ内地デ出来ルモノニ就テハ稅率  
ヲ上ゲテ内地ノ製造業ヲ獎勵スルト云フヤウナ譯ニナツテ居ルノデアリマス、ソレデ委員會ニ於テハ  
慎重審査致シマシテ、其結果三箇ノ點ニ向ツテ修正ヲ加ヘマシテ可決致シタノデアリマス、其修正シマ  
シタ箇條ヲ申上ゲマスガ關稅定率法ノ附屬輸入稅表中ノ第四百六十二號ニアリマスル所ノ鐵管、鐵  
接シタルモノニシテ内徑五「センチメートル」ヲ超エザルモノト云フ一ツノモノト、ソレカラ第四百  
七十一號ノ中ノ眞鍮「スチームタービン」ノ羽ニナリマスル所ノ條及竿、ソレカラモウ一ツハ  
四百八十四號ニアリマスル所ノ家屋、橋梁、船舶、船渠等ノ建築材料ニ供スルトコロノ物品、此三ツハ政  
府ノ提案ハ稅率ヲ引上ゲルコトニナツテ居リマス、其引上ゲルノハサウ云フモノヲ製造スル工業ガ漸  
ク興リツ、アツテ、之ヲ獎勵スルノ必要ガアルカラ輸入稅ヲ高メルト云フノ説明デアッタデアリマ  
ス、然ルニ此修正ヲ提案セラレタ御説ニ依リマス、此等ノモノハ原料品ト言ヘバ原料品デアリマス  
ガ、先ヅ半製品ノヤウナモノデアル、サウシテ此輸入稅ヲ高メルガ爲ニ利益スル所ノモノハ極ク少數  
ノ、是ガ製造ニ從事シテ居ル工業ニ得ルノデアツテ、サウシテ其結果ハ此半製品ヲ以テ更ニ製造スル所  
ノ造船業者其他ニ於テハ、高イモノヲ買ハナケレバナラヌト云フ結果ニナルガ故ニ、造船獎勵法ノ改  
正トカ或ハ鐵ノ需用供給トカ云フヤウナ、サウ云フ點カラ見マシテモ、之ヲ引上ゲルコトハ宜シクナ

イト云フ意見ニ依テ、此三ツノモノヲ削ル、即チ現狀維持ノ儘ニシテ置クト云フ修正意見デアッタノデ  
アリマス、サウシテ之ニ對シテハ委員會大多數ガ贊成デアリマシタノデ、此三ツノ點ハ削除ヲ致シマ  
シタ、尤モ之ニ就テハ政府ガ反對意見ヲ述ベラレタノデアリマスガ、採決ノ結果ハ唯今ノ申サユナ  
通りデアリマス、從ツテ私ノ報告ガ濟ミマシタナラバ後トデ政府カラ又此原案維持ノ意見ヲ述ベラ  
ル、カト思ヒマス、又ソレニ對シテ修正意見ヲ述ベラル、方ガアルカモ知レマセヌガ、何レニ致シマシ  
テモ願クバ其利害得失ヲ公平ニ御判斷ノ上デ、御決定アラムコトヲ希望スル次第デアリマス、ソレカ  
ラモウ一ツ修正意見ガ出マシタノハ第六十號中ノ枸橼酸ノコトデアリマスガ、是モ稅率ガ上ガ  
ルデアリマス、是ハ清涼飲料水ノ原料デアリマス故ニ、公衆衛生上カラ斯ウ云フ稅率ヲ上ゲテハイ  
ナイト云フ修正意見ガ出タノデアリマス、併ナガラ一方カラハ此枸橼酸ハ既ニ内地ニ其製造ガ始  
ノデアアルカラ、其内地ノ製造ヲ獎勵スル爲ニ是ハ引上ゲルト云フ意見ガ出マシテ此修正説ハ極メテ  
少數デ消滅致シマシタ、其他ニハ修正ハアリマセヌ、併ナガラ此委員會ノ審査中ニハイロノ意見  
ガ出マシテ、其主ナルモノヲ申シマスレバ「ムスクボルネオール」ト稱スル香料デアリマス、是人造  
龍腦ト人造麝香トヲ混和シタルモノデアリマスガ、其混和セザル人造龍腦ト云フモノニハ二百五十  
圓ノ稅率ガ課シテアルノニ混和サレタル「ムスクボルネオール」ハ僅ニ六十圓ノ課稅ニ過ギナイカ  
ラ、其差ダケハツマリ脫稅ノヤウナ形ニナル、故ニヤハリ是モ國產ヲ獎勵スルノ趣意カラ「ムスクボル  
ネオール」ヲ人造龍腦ト同ジ位ニ引上グル必要ガアラウ、斯ウ云フ意見ガ出マシタ、又此紙ノ關稅ニ付  
キマシテハ内地ノ紙ノ價ガ騰貴致シマシタカラシテ、之ヲ調節スル爲ニ紙ノ輸入關稅ヲ廢スルノ意  
思ガアリヤ否ヤト云フコトノ質問モ、政府ニ向ツテアリマシタ、又其他此「ペン」先ノコトニ就テモ質問  
ガ起リマシタ、イロノコトノ質問モ、政府ニ向ツテアリマシタ、又其他此「ペン」先ノコトニ就テモ質問  
イロノコトノ問題ヲ此處デ論ジマスルト云フト是レ日モ足ラズデアリマスカラ、協議致シマシテ此政  
府案以外ノ物品ニ就テハ唯今手ヲ觸レナイト云フコトニ申合ヲ致シマシタ、サル代リニ尙此政府ノ  
提案以外ニヤハリ今度改正ニナリマスル趣旨カラ申シマスレバ、マダ幾ラモ改正ヲ施サナケレバナ  
ラヌモノガアルノデアリマスカラ、ソレ等ニ對シテハ十分ニ調査ノ上デ政府ガ提案スルコトヲ希望  
スルト云フ精神デ、斯ノ如キ希望條件ヲ滿場一致デ決定致シタノデアリマス、之ヲ讀上ゲマス「關稅定



率法中改正法律案委員會ニ於テ議決シタル希望條件、時局ノ影響内地産業及外國貿易ノ現狀等ニ鑑ミ、本案以外尙關稅定率法中改正ヲ要スルモノ多クアリト認ム政府ハ引續キ慎重ナル調査ヲ遂ゲ次期ノ議會ニ更ニ本法ノ改正案ヲ提出セラレムコトヲ望ム斯ウ云フ希望條件ヲ附ケマシテ、先キニ申シマシタ所ノ三箇ノ點ニ修正ヲ施シタ以外、他ハ何等ノ修正ナク原案ヲ可決致シタ次第デアリマス、此段御報告致シマス

次テ加藤大藏省參政官ハ原案維持ノ演說ヲ爲ス左ノ如シ

本案ニ對シマシテ唯今委員長ヨリ修正意見ノ御報告ガ出マシテゴザイマス、元來本案ヲ提出致シマシタ趣旨ハ、我内地ノ生産發達ヲ期スルガ爲メニ輸出入ノ貿易ヲ調節シテ、サウシテ今日ノ時局ニ應ジヤウト云フコトガ一面ノ趣旨デアリマス、又他ノ一面ニ於キマシテハ、此輸出入物品中ニ種々ノ物ガアリマスケレドモ、我國ノ現狀ニ照シテ見スルト、其稅率ガ同ジ關稅デアッテ極メテ權衡ヲ保ツテ居ラナイ、不權衡ニナツテ居ル物ガアルノデアリマス、其權衡ヲ保タシムルト云フコトガ他ノ一面ノ趣旨デアッタノデアリマス、故ニ當局者ハ此案ヲ議會ニ提出致シマシタナラバ、必ズ全會一致ヲ以テ原案ヲ御贊成下サルコトデアラウト信ジテ居リマシタ、然ルニ唯今ノ如キ修正ガ委員會ニ於テ決定セラレマシタト云フノハ、政府ノ甚ダ遺憾トスル所デアリマス、畢竟政府委員ノ委員會ニ於ケル說明ニ盡サザル所ガアツテ、政府ノ趣旨徹底致サザルノ致ス所デアラウト存ジマス、依テ此機會ニ於テ本案ヲ提出致シマシタ趣旨ヲ一應詳ニ說明致シテ、諸君ノ御賢考ヲ仰ギタイノデアリマス、唯今委員長ヨリ報告ニナリマシタ鐵ノ鐵接管、此問題カラ第一ニ申上ゲマスガ、此鐵ノ鐵接管ナルモノハ家屋杯ニ引キマス電氣ノ電燈管デアリマス、故ニ是ハ將來ニ於テモ其需用ガ極メテ殖エルコト、考ヘテ居ルノデアリマス、所ガ此物品ガ近ク内地ニ於テ外國輸入品ニ劣ラザル所ノ品物ガ出來ルノデアリマス、此品物ガ出來ルト云フコトユナリマシタガ爲メニ、外國品ヲ扱フ所ノ人々ハ、此芽ヲ出シタル製造ヲ壓倒シテ外國品ヲ以テ日本内地ニ供給シヤウト云フ考カラ、百斤原價二十圓位ノ物デアリマス、近ク之ヲ半價ニ引下ゲ十圓ニ引下ゲテ競争シツ、アルト云フ有様デアリマス、之ヲ此儘ニ放任致シマシタナラバ、折角内地デ外國品ニ劣ラザル所ノ品物ガ出來掛タ其製造場ハ、外國品ニ壓セラレテ倒レ

ナケレバナラヌコトニナルノデアリマス、一面カラ御考ニナリマシタナラバ、此目今ノ競争ニ於ケル低廉ナル價格、斯様ナル價格ヲ以テ一般ノ需用ニ供給スルコトハ需用者ノ便トスル所デアルト云フ御考ガ起ルカハ知レマセケレドモ、一旦内地ノ製造場ガ此競争ノ爲メニ壓倒セラレタト云フ曉ニハ外國品ヲ扱フ所ノ商人等ハ今日ヨリ以上ニ引上ゲルト云フコトハ洵ニ明白ナル事デアラウト思フノデアリマス、從ツテ之ヲ現制ノ儘ニ据置キマスト云フコトハ洵ニ國家ノ不利益デアアル、内地生産ノ發展ヲ少クモ阻礙スルモノデアルト云フ考ヲ當局者ハ持ツテ居リマス、諸君、願クハ此點ニ御注目下サイマシテ、ドウゾ原案ニ復舊スルコトニ此點ハ御同意ヲ願ヒタイ、又其次ハ眞鍮ノ條竿デアリマス、眞鍮ノ條竿ハ是ハ從價ニ割リ稅ヲ課シテ居リマシタノデアリマス、即チ普通標準ニ割テゴザイマスカラ百斤七圓五十錢デアリマス、所ガ此法律ヲ制定シタ當時ニ輸入セラレザル所ノ「タービン」用ノ條竿ト云フモノガ、近ク輸入ノ途ガ開ケタノデアリマス、「タービン」用ト申シマスレバ蒸汽ノ發動機關ニ用キマス所ノ眞鍮ノ條竿デアリマス、此眞鍮ノ條竿ハ普通ノ眞鍮ノ條竿トハ異ツテ居ルノデアリマス、是ハ餘程加工ヲ致シタ物デアリマス、從ツテ價值段ガ非常ニ違フノデアリマス、普通ノ眞鍮ノ條竿デアリマスト百斤四十圓内外ノモノデアリマスガ、此「タービン」用ノ條竿ニ至ツテハ百斤百圓以上ニ値ヒスル、即チ四十ト云フ相違ガアルノデアリマス、此四十ト云フ相違ガアルニ拘ラズ、法律不備ノ爲メニ之ニ適用スベキ稅目ガ無キガ爲メニ、普通ノ眞鍮ノ條竿ノ七圓五十錢ノ稅ヲ課シテ居ル、百斤四十圓ノ物ニモ七圓五十錢、百斤一圓以上ノ物ニモ七圓五十錢、斯ウ云フコトニ現在ナツテ居ルノデアリマス、此ノ如キ有様デアリマス、折角内地ニ「タービン」用ノ條竿ノ製造ガ開ケテ參リマシテ、昨今ハ昨年一箇年五箇月ノ間ニ十一萬斤内地デ出來テ居ル、乃チ之ヲ一年平均ニスレバ七萬斤バカリノ生産高デ、其工場ハ然モ三十四萬斤ノ生産能力ヲ持ツテ居ルノデアリマス、デ輸入ガ十三萬斤乃至十萬斤デアリマス、此稅ヲ此儘ニ措キマス、此内地ニ興リ掛ケタ工場ガヤハリ壓倒サレナケレバナラヌト云フコトニナル、加之稅率ノ上ニ於テ百圓ニ値ヒスル物ニモ七圓五十錢、四十圓ニ値ヒスル物ニモ七圓五十錢、斯様ナコトハ甚ダ不權衡極マルノデアリマス、故ニ當局者トシテハ稅率ノ權衡ヲ保タシムル上カラモ是ニハ是非改正ヲ加ヘテ「タービン」用ノ眞鍮ニ適用スル一項目ヲ置カネバナラヌ、又内地生産ノ上カラ申シマスレバ尙更ノ事デアリマス、畢竟是等ノ趣旨ガ委員諸君ノ御耳ニ徹底シナ











高イ、ソレヨリハ幾分カ安イカラ其處ニ買ニ行ク、一箇所シカナイ一工場デアアルカラ代價ヤ其他イロイロノ文句ヲ言ハレテ御隨意次第ニナッテ居ル所謂拂下ヲ願フ形ニナルノデアリマスカラ、需用家ノ迷惑ハ實ニ一方ナラヌモノト御承知ヲ願ヒタイ、斯カル意味ニ於テ吾々ハ必ズシモ之ヲ否決スルノデハナイ、必ズシモ之ガ絶對ニイケナイト云フノデハナイ、日本工業ノ發達ニ連レテ右ノ保護法モ必要デアリマセウ、併ナガラ關稅ノ事ナドハ他ノ物ニ付テモ皆釣合ガアル、一ノモノト雖モ低クスレバ皆釣合ニ依テ動クノデアアル、斯ノ如キ種々ナル釣合ヲ以テ居ルモノデアリマスカラ、第一是ダケヲ増加ナスツテモ決シテ釣合ヲ得ルモノデアリマセヌ、斯カル趣意ニ於テ今警告的希望條件ガ出來マシタ如ク、ドウカ來年度ニ於テハ全體ニ調ヲシテ訂正スベキモノハ訂正シ、増加スベキモノハ増加シ、吾々ハ決シテ必シモ反對ヲ申ス次第デアリマセヌカラ、能ク沈思熟考ノ上御提出アラシムコトヲ希望スル、今日ハ此修正即チ委員長ノ報告通り吾々ハ贊成致シマス、ドウカ諸君ノ公平ナル判斷ニ御願ヲ致スノデアリマス

白石直治君ノ演說

簡單デゴザイマスカラ此席カラ申シマス、私モ此法案ノ委員ノ一人デアリマス、委員長ノ報告通り贊成ノ意思ヲ聲明致ス次第デアリマス、唯一言添ヘマスルノハ、此委員會デ政府ノ説明ガ不十分ナルガ爲ニ結果ニ於テ間違ヲ來シタノデアラウト云フコトヲ唯今ノ加藤參政官ヨリ御親切ナ説明ハ拜聴致シマシタガ、岡崎委員カラ申上ゲマシタ通り、此案ニ付テハ審議ハ朝カラ晩マデ掛リマシテ、政府委員ノ説明即チ御年ハ若イガ神鞭委員ハ頗ル此事ニ付テハ御専門デアッテ、政府ノ意思ノアル所ハ頗ル丁寧ニ私共ノ頭ニ徹底スルヤウニ御説明ニナツタノデアリマス、加藤政府委員ノ唯今ノ御説明モ鮮明デハアリマスガ、兎モ角モ十分二十分間ノ説明デアリマスカラ、私共ノ考デハ此加藤政府委員ノ御説明ヨリハ數十倍明瞭ニ鄭重ニ委員會デ承リマシタ、而シテ加藤參政官ノ申サレタ今日ノ御説明ハ、神鞭委員ノ申サレタ中ノ一小部分デアリマス、故ニ今日ノ御説明ニ依テ私共ノ決意ヲ翻ヘスダケノ材料モ新シイ御説モ何ニモナイノデアリマス、故ニヤハリ委員會デ審議致シマシタ通り、委員長報告通り可決セラレムコトヲ希望致スノデアリマス

相島勘次郎君ノ演說

私ハ岡崎君ガ舉ゲラレタル二點ダケハ同説デアリマスカラ、決ヲ採ッテ戴ク時分ニハソコマデハ同ジデ宜イノデアリマスガ、岡崎君提出ノ修正意見ノ外ニモウ一箇條修正箇條ガアルノデアリマス、私ハ此修正理由ヲ申述ベマスル前ニ加藤政府委員ニ申上ゲタイノデアリマスガ、加藤政府委員ハ政府ノ説明ガドウデアッタトカ委員ガドウデアッタトカ云フヤウナコトヲ申サレマシタケレドモ、ソレハ吾々ノ同志白石君ガ申サレタ通り、神鞭政府委員ノ説明ハ誠ニ懇篤丁寧ヲ極メタノデアリマシテ、神鞭政府委員ハ豫テ此議場ニ於テ長ク國家ノ爲メニ盡サレタコロノ神鞭知常君ノ令息デアルト云フコトヲ聞イテ、神鞭君ノ後アリト私ハ思ッタ位デアリマシテ、此説明ハ吾々ハ最モ満足シテ居リマシテ、決シテ政府ノ意思ガ透徹シナイト云フヤウナコトハ斷ジテナイノデアリマス、私共ハ十分ニ政府ノ意思ヲ聞イタノデアアルケレドモ、今岡崎君ノ申サユウナ理由デ、ドウシテモ是ハ決シテ精製品デハナイ、寧ろ船舶ノ原料品デアアルカラ吾々ハ其原料品ノ高クナルコトハ——材料ノ高クナルコトハ惡ルイカラ岡崎君ノ修正ニ贊成ヲ表シタ次第デアリマス、成程初メカラ之ヲ製造スルモノハ住友デアルト云フコトデアアルガ、初メカラ政府案ニ贊成ヲシテ掛カルヨリモ、反對シ掛カテ居ッテ後ニナツテカラ、ヤハリ此與黨ノ力デ政府案ニ贊成セシムルト云フコトニナル方ガ、成程是ハ住友ニ取ッテハ必ズ其政黨ヲ有難ガルニ相違ナイト思フ、初メカラシテ政府案通りニスルト云フコトデハ面白クナイ、一度ハ斯ウ如何ニモ住友工場ハ困ルヤウナ風ニ新聞ニ出テ、其後ニナツテ與黨ノ力デソレガ政府案通りニナツタト云フト、住友ナルモノハ必ズ恩惠ヲ感ズルダラウト其點ハ思フ、私ノ提出致シマスル此修正ハ、第六十條ノ修正ヲ削ッテ原案ノ通りニ置クト云フノデアリマシテ、是ハ枸櫞酸ト云フト誠ニツマラヌモノデアリマスガ、此稅ヲ大變ニ引上ゲルノデアリマス、之ヲ何故ニ引上ゲルカト云フト、是モ山口縣ニ於テ斯ウ云フモノガ段々出來テ來ルカラシテ、内地ノ生産ヲ保護スルト政府委員ハ仰シヤルケレドモ、私共ガ研究スル所デハ、マダ出來ナイノデアアル、是カラ出來ルカモ知レナイガ、マダ出來テハ居リマセヌ、ツマリ男ノ子ガ生レルカ、女ノ子ガ生レルカ、分ラヌ、分ラヌノニ多分是ハ女ノ子デアラウト云ッテ三月ノ節旬ノ用意ヲスルト同ジデアアル、政府委員ハ山口縣ノ青蜜柑カラ取ルトカ云フ、サウ云フ風ニ多分ナ



ルカモ知ラヌケレドモ今ハ出來ナイ、サウシテ枸橼酸ガ高ケレバ是ニ代ヘルニ酒石酸ヲ以テスルコトガ出來ル、サウスレバ此稅ガ高ケレバ——高イカラト云ツテ直ニ山口縣ノ青蜜柑ガ用キラレル譯デナクテ、ヤハリ今度ハ酒石酸ガ多ク用キラレルカモ知レヌ、而シテ是ハドンナ物ヲ拵ヘルカト云ヘバ飲料水トナツテ夏ノ飲物、此飲物ガ又外國ニ出ル、ツマリ輸出品ノ元ヲ爲スノデアアルカラシテツマラヌ問題ノヤウデモ關係スル所ハ多イノデアリマス、ソレカラ又衛生ノ點カラ言ウテドウデアアルカト云フト、コンナ物ハ何ヲ使ツテモ人ニ分ラヌ、酒石酸ヲ使ハウガ、枸橼酸ヲ使ハウガ、或ハ青蜜柑ヲ使ハウガ分ラヌ、サウシテ多クハ夏ノ飲物デアリマス、サウスレバ國家衛生ノ上ニモナカク、關係ガ多大デアリマス、何デモ我が政府ハ内地ノ産業ヲ保護スルト云ヘバ、非常ニ評判ガ好イヤウニ考ヘテ、何デモ頻リニ内地生産保護々々ト云ヒマスケレドモ、併ナガラ其生産ヲ保護スル爲ニハ其生産保護ノ結果トシテ外國輸出貿易ヲ發達サセル基ヲ爲スモノデアリマスレバ、ソレハ保護シテモ差支アリマセヌケレドモ、唯一局部ノ事業ヲ保護スル爲ニ全體ノ人ガ高イ物ヲ用キナケレバナラヌ、或ハ衛生上重大ナル關係ヲ及ボスヤウナコトヲ、唯人氣取りカノヤウニ無暗ニ一方ノ實業ヲ獎勵スル爲ニ、一般ノ物價ヲ高カラシメルト云フコトハ、是ハ考ヘテ見ナケレバナラヌコトト思ヒマス、又サウ云フモノヲ保護シテ是ガ其關係スル處ハ重大デナクテモ、ソレニ依テ非常ニ勞働者ガ助カル、所謂稅ノ關係ハドウデアツテモソレヲ内地製造スル爲ニ、非常ニ勞働者ガ仕事ヲ得ルヤウナコトデアレバ、又別デアリマスガ、之ヲ保護シヤウガシマス、マイガ、ソレガ爲ニ勞働社會ガドウ云フ様ナ問題デアリマセヌ、要スルニ是ハ保護ヲ加ヘタ所デ非常ニ盛ニナルモノデモ、何デモナイノデアツテ關係ハ衛生上ニモ重大ナルモノデアリマス、又之ニ依テ製造シテ南洋、印度或ハ滿洲又那其他ニ輸出スル品ノ上ニモ關係スルノデアリマス、政府ハ粗製濫造防止ト云フコトヲ言フテ、能ク粗製濫造防止々々ト云ツテ居リマスガ、斯ウ云フ點カラ改正ヲシナケレバ粗製濫造ガ出來ルノデアリマス、粗製濫造ハ必ズシモ機械類ヤソナ物バカリヲ言フノデアリマセヌ、食料品ニシテモ罽羅話カラ鮒ガ出タリ、大ニ飲マウト思ツテ居タモノガ腐ツテ居タリスレバソレガ粗製濫造デ、食物ノ粗製濫造ハ國ノ貿易ヲ阻止スルコト重大デアリマス、ソレデアリマスカラ保護政策ヲ執ル以上ハ、ソレト是トノ關係ハ餘程注意シナケレバナリマセヌ、ソレカラ又今年保護ヲ加ヘテモ來年ニナレバ其保護ヲ止メナケレバナラヌヤウナ關係ヲドウシテモ此保護政策ヲ

執ル以上ハ持ツノデアリマスカラ、吾々委員會ニ於テハ慎重ナル審査ヲ加ヘテ、又來年モ審査ノ上ニ出スベキモノナラ出シタラ宜カウト云フ希望條件ヲ加ヘタノデアリマスカラ、來年出シテハナラヌト云フノデハナイ、サウシテ早ク稅ヲ上ゲテ一地方ノ爲ニ實業獎勵ト云フヤウナコトヲシナイデ、慎重ノ態度ヲ執ル方ガ宜シイ、サウシテ是ハ金高ハ僅カ十萬圓ソコラノモノデアリマスケレドモ、國家ノ衛生其外ニ重大ナル關係ガアルノデアリマス、又斯ウ云フモノガ出ル毎ニ、農商務省ト大藏省トノ議論ノ衝突ガ現ハレテ來ルコトガ能クアリマス、農商務省ニ於テハ何デモ構ハズ内地産業保護トサヘ言ヘバ甚ダ名目ガ宜シイカラシテ、ソレガ結果ハ少シモ構ハヌノデアリマス、又大藏省ニ於テハサウ云フ事ニ付テ聊カ眼ノ明イテ居ル人モアルケレドモ、併ナガラ關稅ガ多ク取レルト云フ様ナコトヲ以テ、自分ノ手柄ノヤウニ考ヘテ居ル役人モ亦アルノデアリマス、ケレドモ農商務省モ大藏省モ同ク内閣デアリマスカラシテ、是ハ主義ヲ統一シテ、而シテ將來ハ斯ウ云フ主義ノ下ニ實業ヲ獎勵シ、斯ウ云フ主義ノ下ニ關稅ヲ改革スルト云フ考ヲ持タナケレバナリマセヌ、唯ダ一局部一局部ヘ唯ダ區々ノ改正ヲシテハ甚ダ困リマスカラシテ、私ハ斯ウ云フコトハ今年ノ儘ニ置イテ、來年能ク考ヘタ上デ御出シニナルコトヲ望ミマス、ツマリ私ノ修正意見ハ岡崎君ノ說ニモウ一箇條加ヘタノデアリマスカラ、ドウゾ滿場ノ御賛成ヲ願ヒマス

田村新吉君ノ演說

簡單デアリマスカラコチラデ……私ハ政府提出案ノ原案ニ賛成スル者デアリマス、元來此度此稅率改正案ヲ提出ニナリマシタ趣旨、意思ノアル所ヲ見マスレバ此際國家ノ産業ヲ發達セシムル爲ニ、成ベク原料ニ付テハ課稅ヲ輕減シタイト云フ趣意ニ過ギヌノデアリマス、ソレハ百千ノ項目中僅ニ稅率ノ高クナルモノハ二點ニ止マルノデモ能ク分ルノデアリマス、其三點ノ物ニ付キマシテモ先キニ政府委員ガ述ベマシタ如ク、一ハ權衡上デアリマス、今一ツノ理由ハ内地ノ産業ヲ發達セシメントスルニ、ソレニ權衡ヲ保タシメントスルノデアリマス、今一ツノ理由ハ内地ノ産業ヲ發達セシメントスルノデアリマス、段々先キカラノ御議論ヲ承リマスルガ、其御議論ニ依レバ日本ハ今後如何ナル政策ヲ執ツテ立ツベキカ、極ツテ居ラヌト云フヤウデアリマス、然ルニ私ガ思フニ、我が日本ハ關稅ニ對シマシ



テハ既ニ主義ガ立ッテ居ルト信ズルノデアリマス、ソレハ即チ保護政策デアリマス、今日ノ世界ノ趨勢ヲ見マスルモ、保護政策ニアラザレバ一國ハ立チマセズ、自由貿易ヲ今日唱へ或ハ保護スベキモノモ保護致シマセヌナラバ、遂ニ其國ノ前途ハ本統ニ發達致シマセズ、私ハ外國ノ例ヲ引クコトハ好ミマセズガ何レノ國ヲ見テモ其事業ノ起ラントスルヤ、其事業ニ對シテ、稅ヲ課シテ之ヲ保護シテ居ルノデゴザイマス、若シ斯様な場合ニ於テ是等ノ僅カナ事業ヲ助クルコトガ宜シクナイト云フコトデアッタナラバ、染料會社ヲ拵ヘルノモ亦如何デアリマセウカ、將來起ルベキ事業ヲ棄テ置イタラドウナリマスカ、國家ノ事業ノ上ヨリ見マスレバ或人ガヤルカラ——例ヘバ私ハ思フニ住友ノ名ガ出タカラ或人ハ反對デアリマセウガ、住友ダラウカ權兵衛デアラウガ八兵衛デアラウガ、ソレ等ノコトハ眼中ニ置クベキデナイ、其產業ガ進ンデ日本ノ助ケニナリ輸入ヲ防遏スルコトニナラバ、成ベク之ヲ保護スルト云フコトハ今日日本ニ定マッテ居ル所ノ方針デアル、其方針ノ下ニ大藏省ハ關稅定率ヲ出サレタモノデアルト私ハ信ズルモノデアリマス、ソレ等ノ趣旨ヲ以テ見マスルニ、是ハ大藏省ニ於テ十分考慮シタモノデアルトコトヲ信ズルノデアル、又斯ウ云フコトヲ思ッテ居ル、尙此他ニ加ヘラルベキモノガ多イ、例ヘバ「デント」ノ屑及粉ト云フガ如キモノモ亦無稅ニセラルベキモノデアルト信ジテ居リマスルガ、此ニ出サレタ所ノ改正案其モノハ、國家ノ爲ニ果シテ害ガアルカ益ガアルカト云フコトヲ裁斷致シマスルト、是ハ確ニ國家ノ上ニ利益アリ國家ヲ益スルモノデアルト云フ外ハナイノデアリマス、故ニ斯様な案ナレバ或ハ他ニマダ加エベキモノガアレバ改メテ出サレタラ宜シイノデアッテ、此度出タ所ノ此改正ノ必要ナルモノハ、原案ノ通り可決セラレルコトガ國家ノ爲ニ最モ有益デアルト考ヘマス

討論茲ニ終局シ議長ハ先ツ相島勘次郎君提出修正案ニ付採決ヲ爲シ院議多數ヲ以テ之ヲ否決ス次テ委員長ノ報告ニ付採決ヲ爲シ少數ノ宣告ヲ爲シタルニ異議ノ申立アリ依テ記名投票ヲ行ヒタルニ九十一名ニ對スル百二十四名ノ多數ヲ以テ委員長ノ報告(修正)ヲ否決シ院議原案ヲ可決セリ引續キ第三讀會ヲ開キ第二讀會決議ノ通本案ヲ可決確定セリ即日貴族院ニ送付ス同院ハ同月二十七日可決奏上シ三月七

日法律第九號ヲ以テ公布セララル

三九 簡易生命保險特別會計法案

簡易生命保險特別會計法

- 第一條 簡易生命保險事業ヲ經營スル爲特別會計ヲ設置シ其ノ歲入ヲ以テ其ノ歲出ニ充ツ
- 第二條 本會計ニ於テハ保險料、積立金ヨリ生スル收入、毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ一般會計ヨリ繰入ルル金額及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ保險金、還付金、事業取扱費其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歲出トス
- 第三條 本會計ニ於ケル歲入總額ノ歲出總額ニ超過スル金額ハ之ヲ積立ツヘシ
- 本會計ノ歲計ニ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スヘシ
- 第四條 政府ハ毎年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ
- 第五條 本會計ノ收入支出及積立金ノ運用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

五年二月十四日本院ニ之ヲ提出ス同月十六日日本案ノ第一讀會ヲ開キ(十五日延會)木下遞信省參政官ハ



左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ曩ニ本院ニ提出ヲ致シマシテ、當時特別委員會ニ繫屬ヲ致シテ居リマスル簡易生命保險法案ニ關聯ヲ致シテ居リマスル法律案デアリマスル、簡易生命保險ハ其收支計算ガ一般ノ會計ノ收支計算ト其趣キヲ異ニ致シテ居リマス爲メニ、爰ニ簡易生命特別會計法ナルモノヲ設置シテ、簡易生命保險ニ關係スル收支ノ計算ヲ明カニ致シタイト考ヘマスル、是レ本案提出ノ理由デアリマスルガ、ドウカ御審議ノ上ニ御協賛アラムコトヲ希望致シマス

次テ委員ノ選舉ハ政府提出簡易生命保險法案ノ委員ニ併セ付託スルニ決ス委員ハ審査ノ末翌十七日原案ヲ可決シ報告書ヲ議長ニ提出シ委員成田榮信君外十名ハ少數者意見書ヲ提出セリ

五月十七日簡易生命保險法案ト一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ該法律案可決ノ後院議第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會、第三讀會ヲ開キ本案ヲ可決確定シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ同月二十八日可決奏上シ七月十日法律第四十三號ヲ以テ公布セラル

(本案議事經過ノ詳細ハ簡易生命保險法案ニ併記セリ)

#### 四〇 證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律案

第一條 租稅其ノ他ノ政府ノ歳入ハ命令ノ定ムル所ニ依リ證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得但シ印紙又ハ郵便切手ヲ以テ納付スヘキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條 前條ノ規定ニ依リ納付シタル證券ニ付支拂ナカリシトキハ命令ヲ以テ定メタル場合ニ限り初ヨリ納付ナカリシモノト看做ス此ノ場合ニ於ケル證券ノ處分ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ規定ニ依リ關稅又ハ噸稅ヲ初ヨリ納付ナカリシモノト看做シテ徵收スル場合ニ於テ之ヲ納

付セサルトキハ内國稅徵收ニ關スル規定ヲ準用ス

第三條 本法ニ依リ證券ヲ受領シタル市町村ハ證券ニ屬スル權利ヲ行使シ現金ヲ國庫ニ送付スル責任アルモノトス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ證券ヲ國庫ニ送付スルコトヲ得

市町村其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ證券金額ノ支拂又ハ償還ヲ受クルコトヲ得サルトキハ其ノ事實ヲ具シ政府ニ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得

前項ノ申出アリタルトキハ政府ハ事實ヲ審査シ市町村ノ責任ヲ免除スルコトヲ得

第四條 本法中市町村ニ關スル規定ハ法令ニ依リ租稅其ノ他ノ政府ノ歳入ヲ徵收シ其ノ徵收金ヲ國庫ニ送付スヘキ責任アル者ニ之ヲ準用ス

#### 附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

五年二月十六日本院ニ之ヲ提出ス同月十八日本案ノ第一讀會ヲ開キ(十七日延會)加藤大藏省參政官ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律案提出ノ理由ヲ是ヨリ申上ゲマス、證券ヲ以テ租稅其他ノ歳入ヲ納付スル件ニ關シマシテハ、從來勅令若クハ省令ニ依ッテ規定セラレタルトコロノモノガアリマシタケレドモ、其歳入ノ範圍モ極メテ狭ク又證券ノ種類モ少イノデアリマス、例シテ申シマスレバ郵便爲替券公債ノ利札、或ハ制限セラレタル小切手ト云フ位ニ止ッテ居リマシタ、而シテ小切手ニ對シマシテハ不渡ノ場合ノ規定等ヲ缺イテ居リマシタガ故ニ、之ヲ廣ク實行スルコトガ出來ズシテ、甚ダ不十分ナ有様ニ置カレテアリマシタノデアリマス、併ナガラ今ヤ經濟界ハ非常ノ發展ヲ致シマシテ、斯ノ如



キ制限ハ今日ノ時期ニ極メテ不適當ナリト政府ハ信ズルノデアリマス、從ッテ此證券ヲ以テ納付スル歳入ノ範圍ヲ擴張致シマシテ、又證券ノ種類ヲ擴張致シマシテ、今日經濟界發達ノ便ニ應ジテ、公衆一般ノ便利ヲ進ムルト云フコトノ考ヲ以テ此案ヲ提出致シタ次第デアリマス、諸君ハ宜シク御審議ノ上御協賛アランコトヲ希望致シマス

次テ委員ノ選舉ハ議長指名(十八名)ニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ翌十九日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末同月二十二日原案ヲ可決シ報告書ヲ議長ニ提出セリ

二月二十四日第一讀會ノ續會ヲ開キ(二十三日延會)委員長鈴木寅彦君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律案ノ委員會ノ經過及結果ヲ御報告ヲ申上マス、此證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スルコトハ、此法律案ニ依テ初メテ行ハレルモノデアリマセヌ、勅令省令訓令等ニ依ッテ是迄既ニ行ハレテ居ッタデアリマスケレドモ、取扱官署ニ制限ガアリ、證券ニ制限ガアリ、又税目ニ制限ガアッタデアリマス、今日發達致シマスル經濟界ノ實狀ニ順應セシムル爲メニハ、之ヲ統一シタル法律ニスル必要ガアルト云フコトデ此案ガ提出サレタデアリマス、質問應答ノ結果取扱銀行ハ特殊銀行及手形交換所加盟銀行、國庫金取扱銀行ヲ以テ之ニ充テタイト云フコトデアリマス、證券ノ種類ハ特殊銀行手形交換所加盟銀行、國庫金取扱銀行ニ宛テタル所持人拂ノ小切手、支拂期ノ到達セテ無記名國債證券ノ利札、政府又ハ宮内省支拂命令及政府ノ支拂請求書郵便爲替等ヲ以テ充テタイト云フコトデアリマス、又小切手ニ付キマシテハ百圓以下ハ支拂保證ヲ要セズ、百圓以上ニ限ッテ支拂保證ヲ要スルト云フコトノ意見デアリマシタ、委員會ニ於キマシテハ滿場一致ヲ以テ本案ヲ可決致シタノデアリマス、唯希望條件ガ一ツアリマス「取扱銀行ヲ定ムルニ當ッテハ成ベク其範圍ヲ擴大シ以テ本法制定ノ精神ヲ貫徹スルニ努ムベシ」ト云フ希望條件デアリマシテ、是亦滿場一致ヲ以テ可決致シマシタ、此段御報告致シマス

別ニ討論ナク院議第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ本案ヲ可決確定シ

即日貴族院ニ送付ス同院ハ同月二十七日可決奏上シ三月七日法律第十號ヲ以テ公布セララル

#### 四一 理化學ヲ研究スル公益法人ノ國庫補助ニ關スル法律案

第一條 産業ノ發達ニ資スル爲理化學ヲ研究シ其ノ成績ノ應用ヲ圖ルコトヲ目的トスル公益法人ノ

一ニ對シ政府ハ本法施行ノ日ヨリ十年ヲ限リ毎年二十五萬圓以内ヲ補助スルコトヲ得

前項補助金ノ總額ハ二百萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條 前條法人ノ業務ハ農商務大臣ノ監督ニ屬ス

農商務大臣ハ前條ノ規定ニ依リ補助ヲ受ケタル法人ノ業務ヲ指揮監督シ之カ爲必要ナル命令又ハ

處分ヲ爲スコトヲ得

#### 附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

五年二月十六日本院ニ之ヲ提出ス同月十八日本案ノ第一讀會ヲ開キ(十七日延會)河野農商務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ニ付テ提出ノ理由ヲ簡單ニ申上ゲマス、工業其他一般ノ産業ノ發展ヲ圖リ國家ノ富力ヲ増進セシトスルニハ、理化學ニ關スル獨創的ノ研究ヲ爲シマシテ、我國人ノ發明能力ヲ發揮セシメテ以テ其智能上ノ生産力ヲ充實セヌケレバナラヌデアリマス、殊ニ近時歐洲戰亂ニ付キマシテ、今後益々軍事材料ノ獨立、工業物資ノ持久、之ヲ畫策スルト云フコトハ最モ緊要ナルコトヲ教ヘマシタデアリマ



ス、ソレデ又理化學研究ノ必要ハ愈々痛切ニ之ヲ覺知セシメマシタノデゴザイマス、然ルニ我國ニ於キ  
マシテハ從來此種ノ機關ニ缺クルトコロゴザイマシテ、誠ニ遺憾トスルトコロデアリマシタ、幸ニ  
今回民間ノ有志ニ於テ公益法人タル理化學研究所ヲ設立シタイト云フ計畫ガゴザイマス、然ルニ此  
事業ハ少ナカラザル資金ヲ要シマス、故ニ民間有志ノ釀金ノミヲ以テハ到底其所期ノ目的ヲ達スル  
コトハ出來マセズノデアリマス、故ニ政府ハ國家事業トシテ之ヲ助成シ國運ノ發展ニ資セントスル  
デゴザイマス、其補助金總額ハ十箇年通ジテ二百萬圓トシテ毎年二十五萬圓以内ヲ支出致シマシテ、民  
間有志ノ釀金ト相俟ッテ必要ナル資金ヲ充實センコトヲ計畫致シマシテ、即チ本案ヲ提出致シマシタ  
次第デゴザイマス、宜シク御審議ノ上御協賛アラムコトヲ切望致シマス

質疑、應答ノ後委員ノ選舉ハ議長指名(十八名)ニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ翌十九日委員長及理  
事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末同月二十二日原案ヲ可決シ報告書ヲ議長ニ提出セリ

二月二十四日第一讀會ノ續會ヲ開キ(二十三日延會)委員長守屋此助君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ  
報告ヲ爲ス

諸君、唯今日程ニ上ッテ居リマスル此理化學ノ研究ニ關スル公益法人ノ國庫補助ニ關スル法律案ハ、現  
内閣ノ政策ノ一トシテ世ノ中ニ迎ヘラレタル所ノ重大ナ議案デアリマス、其故ニ委員會ハ頗ル慎重  
慎議ヲ盡サレタノデアリマス、サウ致シマシテ此理化學研究上ノ事柄ハ、法文第一條ニアリマス通  
リ、物理學並ニ化學ノ研究ヨリ致シテ、生産上ニ之ヲ應用スルト云フ事柄ガ法ノ目的デアルノデアリ  
マス、唯學問ノ技ヲ研究スルニ止マルノデナイ、其方カラ言ヘバ主トハナラナイ、應用ガ主トナ  
ル、是ガ第一ノ政府ノ説明デアリマス、ソレカラ委員諸君一同ノ熱心ニ御調べニナッテ譯合ハ今日獨逸  
ガアノ強大ヲ以テ鳴ッテ居ルノモ此物理學並ニ化學ノ研究ヲ宜ク致シテ是ノ應用ニ巧ミナルヲ以  
テ、半世紀間ニ於テ獨逸ガ今日世界ニ覇ヲ唱ヘテ居ルノデアアル、斯様ナ譯デアルカラ此理化學ノ研究  
ト云フ事柄ノ消長ハ、國ノ消長ニ關スルモノデアルト云フ事ヲ以テ、委員諸君ハ御調べニ相成ッテ之ヲ  
以テ質問致サレ、政府モ其意味ヲ以テ多ク答ヘラレテ居ルノデアリマス、サウ致シマシテ委員諸君ガ

一同ノ議論並ニ意嚮ガ一致イタシテ居ルノハ、帝國政府ガ斯様ナ案ノ提出ノ遅カリシ事ヲ恨ミトスル  
ト云フノガ一ツデアリマス、第二ハ斯様ナ大切ナモノナルニ拘ラズ、規模ガ小サナルコトヲ恨ミトス  
ルト云フノガ、委員一同ノ感ヲ同ジクシ意見ヲ同ジクシタ點デアリマス、此事ニ付テハ委員ノ中ニハ  
此理化學研究所ヲシテ今日ヨリ五年、十分ニ言ヘバ十年前ニ此ノ如キモノガ日本帝國ニ出來テ居ッ  
タナラバ、今日ノ時局、此上下ノ受クル利益幾何ゾヤ、然ル所十年前ハサテ措キ、五年前ニモ出來テナカ  
タ、漸ク今日此案ヲ見タルヲ遲シトスル、恨トスル、併ナガラ出サレザルヨリモ優レリ、斯ウ云フノデ此  
重大ナル案ヲ今政府ノ政策ノ一トシテ、兎ニ角喜デ迎フルト云フ意向ヲ以テ迎ヘラレタノデアリマ  
ス、サウ致シマシテ遲クナッテ理由ハ政府現内閣ハ以前ノ内閣ノ事ニ付テハ答辯ノ限ニアラズ、今ノ内  
閣ニナッテドウ云フ方針ヲ持ツカト云フト、ナルベク民間ヲ致サバ、ルモノヲ政府ガ之ヲ補助スルト云  
フ態度ニ於テ致シタイト云フコトニ考ヘテ居ッテ、所デ長イ歴史ヲ申シマスルト煩雜ニナリマスカラ  
主要ノ點タケテ申上ゲマスガ、大正五年一月二十一日ニナッテ學者並ニ實業家ヨリ建議案ガアッタノデ  
此案トナッテ、其建議者ノ名前ハ、後日此興敗ニ重キ責任ヲ持ッテ居ラル、方デアリマスカラ此ニ一ツ諸  
君ニ御紹介致シテ置キマス、其方ハ、豊川良平君、濹澤榮一君、高松豊吉君、安田善三郎君、近藤廉平君、大  
倉喜八郎君、團琢磨君、渡邊渡君、長井長義君、櫻井錠二君、井上準之助君、中野武營君、諸君ニ是等ノ十二  
人ノ名前ヲ言ウテ置クノハ、此案ノ贊否ヲ決メルトキニ此人ノヲ信用スルカセヌカガ大變ナ關係ガ  
アリマスカラ、諄クアリマスガ申上ゲテ置キマスガ、此方ハ、ガ大正五年一月二十一日前申上ゲタ通り  
ノ金額ヲ出サレテ吾々ガ、一ノ案ヲ拵ヘテ此理化學研究所ヲ設立スルカラドウカ政府モ補助シテ呉レ  
斯ウ云フコトヲ申込マレタノデアアル、ソコデ此方針ヲ以テヤッテ居ッテコロガ、サテサウスレバドウ  
スルカト云フト政府デ八百萬圓ノ計畫ニシタイト云フ、今ノ方ハ、ガ五百萬圓ノ責任ヲ持ッ方ニナン  
ダ、五百萬圓ノ責任ヲ持ッ方ニナンデアアル、斯様ナ今申上ゲタ十二名ノ諸君ガ五百萬圓ノ金ハ吾々ガ  
責任ヲ以テ此ニ釀出シテ一人ノ法人ヲ拵ヘルサウスレバドウカ政府モ相當ノ補助ヲシテ呉レ、斯ウ云  
フコトデアアル、ソレカラ政府デハイロノ調ベタコロガ政府ガ確ニ之ヲ補助シ、又五百萬圓ノ金ヲ  
出シテ今ノ十二人ノ方ハ、責任ヲ以テ出サレルト云フコトニナレバ、宮廷内努ノ内ノ百萬圓ノ下賜ヲ  
拜スル光榮ヲ確ニ有セラレルト云フ見込ガアル、是デ八百萬圓ノ金デアアル、此八百萬圓ヲ以テ此公益



法人ヲ設立スルコトニシタイト云フ斯ウ云フ譯デアアル、デアアルカラ遅クナッタ譯、計畫ガ小サイト仰シヤルガ先ヅ八百萬圓デアアルガ、是レ以上ニシタイト云フコトハ政府モ思ヒマスガ、第一ニ普通ノ事柄ハ金ガ無イト云フコトデアアルガ、金ヲ出スヨリハ日本ノ今日ノ文明ノ程度知識ノ程度デハ、理化學研究ノコトニ付テソレニ從事サレルトコロノ學者技術者、此學者技術家ト云フ者ガドウモ其規模ヲ初メヨリ大ニシテモ其人ヲ得ラレナイ、其人存シテ其政舉ルデ、人ヲ得ナケレバ、尤大ナ金ヲ使ッテモ仕方ナイガ、農商務省ニ於テ工業試驗所ヲ本年ヨリ擴張スルコトニナッテ居ル、此豫算ハ通過致シテ居ル、此方ニモ人ヲ取ラネバナラヌ、金ヨリカ人ノ方ガ先ヅ拂底デアアル、又金モ是レ以上出スト云フ事柄ハチヨット今ノ所デムツカシイガ、是デ政府モ決シテ——決シテ満足シテ居ルノデアアリマセヌガ、ヨリ多ク金モ集メ又是迄ハ斯ウ云フヤウナ學者技術家ト云フ者ガ餘リ世ノ中ニ必要デナカリシタメニ、サウ云フ道ノ學問ヲ修ムル人ガ少ナカタ、ケレドモ今後、斯ウ云フコトガ尊敬ヲ受ケルヤウナ事柄ノ雲行ニナレバ、思フニ人才ガ輩出スルコトデアアラウカラ、サウ遠キ將來ニアラズシテ近キ將來ニ於テ擴張ハ出來ルト思フカラ、ドウカ此案ハ是デ計畫ノ小サイト云フ御不満足モアリマセウガ、ドウカ是デ満足シテ欲シイ、又遅クナリマシタ譯柄ハ左様ナ譯デアアルト云フ事柄ガ政府ノ説明デアアリマシタ、ソコデ委員會デハ之ヲ——ソレダケガ大要ノ問答デアアリマシテ、決議致シマス際ニナッテ國民黨ヨリ出ラレマシタトコロノ委員柏原君ガ、此案ニ對シテハ修正スルノデアアル、併シ委員會デ言フノハ煩雜デアアル、ソレ故ニ立派ナル修正案ヲ本會議ニ於テ提出スルカラ、此意味ヲ此ニ言明シテ置クト云フ御言葉ガアリマシタ、其外ノ委員諸君ハ大ニ是ハ歡迎セラレタ案デアリマスカラ、全會一致ヲ以テ大體ニ賛成ヲスルガ、併シ其賛成ノ決議ヲスル前ニ於テ希望條件是ガ一體近頃流行リモノナンデアアリマシガ、餘リ希望條件ト云フモノヲ出スト云フコトハ、體裁ハ餘リ面白クナイコト、思ヒマスガ、イロイロ審議致シマシタ中ニ希望條件ガ數アリマシタガ、其中ノ最モ良キモノガ此ニ採用可決ニナッテ居リマス、ソレハ斯ウ云フコトナンデス「理化學ニ關スル研究發明ヲ獎勵スヘキ目的ヲ以テ次期議會ニ於テ政府ハ適當ナル法案ヲ提出スルコト」本案第一條ニ規定セル補助金額二百萬圓ハ左ノ用途ニ使用セラレムコトヲ希望ス「一、理化學研究所カ特ニ指定シタル發明ニ關スル懸賞金又ハ發明的考案ノ買収」二、發明獎勵ニ關スル賞與金又ハ補助金」三、發明家ノ表彰及發明獎勵ニ必要ナル支出是ダケ

ノ事柄ヲベ附帶ノ決議ト致シテ決議致シマシテ、サウシテ原案ニ全部賛成スルト云フ決議ニナリマシタ、此段御報告ニ及ビマス

院議第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ鈴木梅四郎君ハ修正動議ヲ提出シ其ノ趣旨ヲ辯明セリ左ノ如シ

諸君、私ハ本案ニ對シマシテ一ノ修正案ヲ提出致シマス、理化學研究所ノ問題ニ付キマシテハ我黨多年ノ主張ト致シマシテ、實ハ大正五年度ノ豫算ノ時ニ於キマシテモ一般ノ財政計畫ハソレノ一査定ヲ致シマシタトキニ、此理化學研究所ノ問題モ併セテ我黨ノ議ニ上ッテ居ッタノデゴザイマス、從ッテ豫算査定案ノ説明ヲ致シマス際ニ、私ハ此處デチヨット諸君ニ御斷リヲ申シテ置イタ前號ノ續キト申シテモ宜シウゴザイマス、理化學ヲ研究スル爲ニ完全ナル研究所ヲ必要トシマスルタメニ、私共ハ本案ヲ以テ最モ姑息ナリ貧弱ナリトスル者デアリマス、修正ノ要點ハ國庫ヨリ一千萬圓ヲ支出シテ此設備費ニ充テ、更ニ二年々研究費トシテ一百萬圓宛ノ補助ヲ與ヘル、斯様ナコトニスルノデアリマス、即チ私ノ修正ニ依リマス設備費ト云フモノガ政府カラ出シマス一千萬圓、ソレニ唯今委員長ノ御報告ニナリマシタ五百萬圓、若シ幸ニ帝室カラ御下賜ヲ戴キマスレバソレヲ合セマシテ一千六百萬圓ノ設備ヲスルコトガ出來ル、斯様ニナリマス、更ニソレニ一千萬圓宛研究費ヲ支出スルコトニナルノデゴザイマスカラシテ、マダ完全圓滿トハ申シマセヌケレドモ、今日世界ノ研究所ニ比較シマシテ餘リ耻シクナイ所ノモノガ出來ルノデアリマス、尤モ米國邊デハ御承知ノ如クニ「ロックフエーライ」ガ唯醫學ダケニ關スル研究所ヲ二千萬圓デ造ッテ居ルノデアリマシテ、彼ノ有名ナル我ガ野口博士ナドハ此研究所デ聲名ヲ擧ゲラレテ居ルノデアリマス、ソレラノ點カラ考ヘテ見マスルトソレデハマダ不十分ト思ヒマスガ、物ニハ順序ガゴザイマスカラシテ、私共ハ此案ヲ實施シタイト思フノデアリマス、斯様ニ致シマスレバ、此研究所ノ研究費ト云フモノハ十分デゴザイマスカラ、官民ヲ問ハズ學派ノ異同ヲ問ハズ、此研究ニ志ノ有ル學者ト云フモノガ自由ニ之ニ這入ッテ研究スルコトガ出來ルト云フ考デゴザイマスガ、目下財政甚ダ裕ナラザル時ニ方ッテ、吾々ガ斯様ナ提議ヲ爲シマスル理由ヲ一通リ申上ゲテ見タイ、御承知ノ通り歐洲大亂ノ結果、是ハ何時終局致シマスルカハ分リマセヌケレドモ、サリナガラ我



ガ帝國ト致シマシテハ此大亂ニ鑑ミテ差向キ國策上非常ノ大決心ヲ有シ大奮闘ヲ要スル問題ガ澤山アル私共ハ此結果ニ鑑ミマシテ第一ニ罷メベキモノハ何デアルト云ヘバ學問ノ獨立デアリマス、次ニハ軍器軍需ノ獨立デアリマス、次ニ財政經濟ノ獨立ニアリマス、此三箇ノ獨立計畫即チ帝國ノ國策ト致シマシテハ是ガ最重要ナル問題デゴザイマシテ、此事ヲ成就セシムルコトニ御同様ニ十分ナル力ヲ盡スニアラザレバ、我が帝國ノ體面ヲ保チ、我が帝國ノ國權ヲ維持スルコトガ出來ヌト私ハ信ジテ居ルデアリマス、學問ノ獨立ト申シマシテモ種々ゴザイマス、今日迄帝國ノ此文明的ノ學問ト云フモノハ、全ク歐米ノ模倣ニ過ギナイデアリマス、眞似ヲ致シテ居ルデアリマス、眞似ヲ既ニ致シテ居ルモノデアリマスカラシテ、其眞物ニ劣ルト云フコトハ勿論、殊ニ總テ數年之ニ遅レルト云フコトハ明白ノ事柄デゴザイマス、ソコデ此學問ノ獨立ヲスルニハドウシタラ宜シイカト申シマス、廢シテ學問ノ獨立ヲ叫バレタコトヲ聞イテ居リマスガ、獨逸語ヲ廢シテ學問ノ獨立ヲ叫バレルノモ其意氣ハ壯ト致シマス、併シ斯様ナルコトデ學問ノ獨立ハ期セラレナイコト、思ヒマス、勿論學問ノ中ニ種々ゴザイマス、或ハ哲學、文學、法律、政治經濟ト云フヤウナ斯様ナ種類ノ學問ハ圖書館廣ク種々ナモノヲ參考致シマス、圖書館ノ内ニ於テ研究モ出來ルノデゴザイマス、ガ、理化學ニ至リマシテハ是ハ只デハ研究ガ出來ナイデアリマス、ドウシテモ此ニ完全ナル所ノ設備ヲ致シマシタル研究所ガナケレバ、是ハ出來ナイノデ、殊ニ理化學ト申シマス、モノハ、御承知ノ通り、近代文明ノ要素デアッテ即チ近代ノ文明ハ、理化學ノ發達ニアルト申シテ宜シイ、殊ニ此歐洲ノ大亂ニ當ッテドウデアリマス、殆ド歐羅巴ノ全國ヲ引受ケ奮闘シテ今日ノ成績ヲ擧ゲテ居ルノハ何ニ因ルカト申シマス、私共ハ獨逸國ノ化學ノ發達シタルタメデア、即チ化學ノ勝利デア、ソコト云フコトヲ私共ハ斷言シテ憚ラヌデアリマス、斯様ニ致シマシテ此理化學ヲ研究スルコト云フコトニ付テハ、ドウシテモ姑息ナ設備ノ小サイ研究所ハ到底駄目ナデアリマス、總テ此理化學ノ原理カラ究メテ、サウシテ之ヲ實地ノ實際ニ應用スルコトヲ研究スルニハ、ドウシテモ完全ナル所ノ理化學研究所ガ必要ト云フ見地カラシテ、學問ノ獨立ヲ圖リマス、タメニハドウシテモ此理化學研究所ヲ完全ニスルト云フ必要ガアルデアリマス、次ニ軍器軍需ノ獨立、是モ我國朝野ノ唱フル所デゴザイマス、ガ、軍器

軍需ノ獨立ハ如何ニシテ得ラレルカ、今日我陸海軍ノ人々ハ軍器ノ自給若クハ獨立ヲ唱ヘテ居ラレマス、殊ニ海軍ノ如キハ軍艦ヲ自分ノ國デ製造スルコトヲ以テ誇トセラレテ居リマス、併シ之ヲ一切外國カラ買入レマシタトキニ較ベマシタナラバ、ソレハ進ンデ居ルニ相違ナイケレドモ、今日自分ノ所デ拵ヘル軍艦ハ果シテドウデア、ルカ、成程出來ル、出來ルガ其物ハ先輩國ノ眞似ヲシテ唯拵ヘルニ過ギナイデア、ル、故ニ甚ダ窮乏セル所ノ財政ノ手許カラ出シテ、折角造ッタ所ノ軍艦モ出來上ル時分ハ時勢遅レニナッテシマッテ、第二流以下ニナルト云フノ現ニアルコトデアリマス、大砲ハ然ラバドウデア、ルカ、軍艦ハ斯様デゴザイマス、ガ、大砲ノ如キハ此間私ハ製鐵所ノ問題ニ付テ、獨逸ガ秘密ニ研究ヲ致シマシテ、此度ノ戰爭デ初メテ分リマシタ「モリ、ブデン」即チ水鉛、斯様ナ事ニ付テ質問致シマシタガ、當局ノ農商務省ニ於テモ御承知ガナイ、製鐵所ニ於テモ御承知ガナイ、唯海軍ニ於テ御研究中ダト云フ御話デア、ル、併シ實際此「モリ、ブデン」ノ產地ト云フモノハ、濠洲ト其次ガ日本ガ一番主ナル產地デア、リマスカ、日本カラ吾々ノ知ラヌ間ニ獨逸デハ此「モリ、ブデン」ヲ持ッテ盛ニ大砲ノ原料ニシテ拵ヘテ他國デ拵ヘルモノヨリハ最モ堅固ナル最モ優秀ナル大砲ヲ拵ヘテ居ッタト斯ウ云フヤウナコトヲ見マシテモ、如何ニ我國ノ此軍器ト云フモノガ理化學ノ研究ノ足ラヌタメニ、憫デア、ルカト云フコトハ、證明ガ出來ルデア、リマス、尙其他ニ潛航艇、是ハ最モ未來ノアリマス、ル所ノ武器デゴザイマス、ガ、此潛航艇モデ、ス、帝國ノ唯今持ッテ居リマス、ル所ノモノハ、即チ時勢遅レニナッテ居、ル、所デ精銳ナル又最新ナルモノヲ拵ヘヤウシテモ我ガ海軍ノ力ニ於テハ出來ヌデア、ル、私ハ或ル海軍ノ道ノ人ニ尋ネタ所ガ、潛航艇ノ如キ深遠ナル學理ヲ應用シテ往クモノニ付テハ、我ガ海軍ニ於テハ未ダ之ニ著手スルコトガ出來ヌデア、ル、即チ此研究ハ出來テ居ラヌト云フコトニ歸著スルデア、リマス、又飛行機飛行船、斯様ナモノニ付キマシテモ今日ハ非常ニ進歩シテ居ル、我ガ帝國ノ有スル所ノモノナドハ、殆ド器具同様ノモノデア、ル、到底實戰ニ耐ヘナイモノデア、ル、所ガ是モナカ、理化學ノ原理ヲ究メテ、サウシテ自ラ之ヲ製造シ自ラ之ヲ改良シテ往クコトノ出來ルカヲ養ハナケレバ、到底出來、ナイ、即チ軍需軍器ノ獨立ト云フコトヲ致シマス、ルニ付キマシテモ、理化學ノ完全ナル所ノ設備ナ、ル研究所ヲ必要トスルコトハ論斷ヲ俟タナイデア、リマス、尙此財政經濟ノ獨立、財政經濟ノ獨立ト申セバ、チヨト迴リ遠ウゴザイマス、ガ、結局國富ノ増進ヲ努ムルト云フコトガ財政經濟ノ獨立ニナル



モノデゴザイマシテ、其國富ノ増進ヲ計ルト云フノハ何ニ依テヤルカ、是亦理化學ノ完全ナル設備ノアル研究所ニ於テ、研究サレタ原理ヲ實際ニ應用スルト云フ手段ヲ執ラナケレバナラヌノデアリマス、今日マデ我國ノ農業工業ガ非常ニ進歩シタト云フテモ是ハヤハリ歐米ノ真似ヲ致シテ居ルノデアリマス、真似ヲ致シテ居ルノデアリマスカラ、其本國ニ及バヌコトハ無論ノ話デアアルノミナラズ、大變ニ後レテシマフト云フコトニナルノデアリマス、現ニ我國ノ最新ノ化學ヲ應用シタ工業ト申シマシテイロ、ゴザイマス、隨分發達シタ工業モアリマスガ、其工場ノ設備並ニ機械一切ノ設備ニ屬スルモノハ、皆外國カラ輸入シテ來ルノデアリマス、帝國內ニ於テ自ラ製造シ得ルモノハ殆ドナイト云ツテモ宜シイ、少シハ出來マスガ併シ重ナルモノハ殆ドナイト申シテ宜シイ様ナリ、外國デ拵ヘテ持ッテ來テ、サウシテ僅ニ工業ヲ營ンデ居ル、斯様ナ貧弱ナ有様デアリマス、所デ人ノ真似ヲシテ工業ノ機械ヲ輸入シテヤツテモ出來ナイコトハアリマセヌガ、眞物ト較ベルト餘程劣ル、是デモ併シ從前ノ通りナ狀況デアレバ後レ馳ナガラモヤツテ行クコトガ出來マスガ、此日露戰争後歐米共ニ日本ノ農工業者ニ對シテハ非常ナ警戒ヲ加ヘテ、我國ノ人々ガ旅行シテ工場ヲ見セタナラバ吾々ノ所ヲ直グニ眞似ラレル、即チ商品ノ販路ニ關係ヲ來スアリマス、日本人ニ工場ヲ見セタナラバ吾々ノ所ヲ直グニ眞似ラレル、即チ商品ノ販路ニ關係ヲ來スカット云フノデ、近年ハ眞似ヲシヤウトシテモソレガ出ナクナツテ居ルノデアリマス、況ヤ歐洲大亂ノ後ニ至リマシタナラバ、此傾向ガ最モ著シクナリマシテ、帝國ハ帝國自ラ學理ヲ發見シ機械ヲ發明シテ自ラ爲スニ非ザレバ、國富ヲ増進スル所ノ商工業ヲ發達セシムルコトモ出來ナイコトニナルノデアリマス、斯様ナ次第ニ致シマシテ學問ノ獨立、軍器軍需品ノ獨立、及ビ財政經濟ノ獨立、此三大國策ヲ遂行スルニ付テ最モ大事ナルモノハ完全ナル研究所デアリマス、以上ハ此問題ニ付テハ金錢ヲ吝ムコトハ出來ヌノデアリマス、即チ今マデ歐米ノ模倣ヲ致シテ居ッタノヲ改メ、我レ自ラ之ヲヤルト云フコトハ出來ヌノガ第一歩デアアルノデアアル、唯今委員長ノ御報告ノ中ニ完全ナルモノヲ拵ヘルトシテモ、人ガ少ナイカラ云々ノ御話モアリマシタガ是ハ、一應ノ道理ハアリマス、サリナガラ是ハ未ダ其要ヲ盡シテ居ラヌト私ハ思フ、今日我國ノ學者ニシテ世界ニ名ヲ揚ゲテ居ル學者ハドウ云フ學者デアアルカト云ヘバ、歐米ノ研究所ニ入ッテ歐米ノ研究所デ研究シタ其成績ガ優良ナル爲メニ名ヲ成シテ居ルノデアリマス、デ我國帝國大學ヲ卒業シ歐米ニ留學シテ歐米ノ完全ナル研究所ニ入ッテ研究シテ歸タ

ノガ博士ニナル、即チ研究所ガ無イ爲メニ我國ノ學者ハ此研究ヲスルコトガ出來ナイ、研究シヤウト思フ者ハ高イ旅費ヲ使ッテ歐米ニ留學スル、デアリマスカラシテ我が國ニ完全ナル化學研究所ヲ拵ヘサヘスレバ、其人無キヲ決シテ憂ヘマセヌ、我國ノ學者ハ最モ其職務ニ忠實ナル學者ガ多イカラ、完全ナル研究所サヘアレバ人無キハ決シテ心配スルコトガナイ、既ニ此學者社會ノ説ヲ聽イテ見テモ、研究所サヘアルナラバ吾々ハ十分腕ヲ磨イテ見セルト申シテ居ル、斯様ナ次第デゴザイマスカラ、私共ハ今日ノ國策トシテ是ヨリ大事ナモノハナイト思フ、此三大國策ノ基礎ヲ築ク研究所デアリマスカラ、何ヲ拵イテモ之ヲ完全ニスルト云フコトハ最モ正シイ論斷トシテ前段ノ如キ提案ヲ致シマスノデアリマス、先年我黨ガ三千萬圓ヲ理化學研究所ニ投ジテ拵ヘタイト云フ動議ヲ出シマシタ際ニ、世間ハ之ヲ以テ甚ダ意外ナ事ト致シタノデアアル、殊ニ現内閣ノ與黨ト云ハル、同志會諸君ノ如キハ、最モ奇異ノ感ヲ懷カレタト見エマシテ、狂氣ジミタ提案デアルト言ハレタ、現ニ尊敬スベキ武富時敏君ノ如キモ狂氣ジミタト云フ批評ヲ下サレタコトハ新聞紙ニ見エテ居ルノデアリマス、然ルニ其後歐洲大亂ノ結果イロ、ナ不都合ヲ見ルニ至ッテ、現内閣ガ此化學研究所ノ設立ニ對シテ、假令貧弱ナガラモ補助金ヲ與ヘラル、此提案ヲ見ルニ至ッタト云フコトハ、私共ハ非常ニ愉快ニ考ヘルノデアリマス、吾々ノ提案ガ其當時ハ狂氣染ミテアッタノデアリマシタケレドモ、今日ハサウデナイ、左様ニ批評サレタ方カラシテ此提案ヲ見ルニ至ッタノデアリマスカラ、私共ハ衷心満足ヲ表シテ居リマス、併シ折角此所マデ御心勞下サツタナラバ、我帝國ノ學問ノ程度ハ果シテ如何ナル點ニ在ルカ、軍器軍需ノ有様ハドウ云フ位地ニ在ルデアラウカ、財政經濟ノ獨立ヲ考ヘタナラバドウ云フ程度ニ在ラウカト云フ大局カラ達觀シテ、此理化學研究所ノ必要ノ程度ヲ今少シ御納得下サイマシタナラバ、斯様ナ貧弱ナル案ニ止リハシナカッタデアラウト思フ、私ハ此所マデ折角オヤリ下サルナラバ、更ニ百尺竿頭一步ヲ進メラレテ、我黨ノ提案致シマス所ノ此設備費ニ一千万圓ヲ政府カラ出シ、更ニ年々一百万圓ヅ、出スト云フ案ニ御同意ヲ願ヒタイノデアリマス、我黨ハ從來此豫算ノ査定杯ニ付テハ最モ嚴シキ査定ヲ加ヘルノデアリマス、是ハ天下ノ評判ニナツテ居ル位デアリマス、サリナガラ國家ノ大計上カラ考ヘマシテハ、大小輕重ノ區別ヲ致シ、最モ大ナルモノ最モ重キモノニ向ッテ金ヲ支出スルコトハ、我黨決シテ惜ムモノデハゴザイマセヌ、即チ化學研究所ノ如キモノハ今日ノ時ニ當ッテ最モ重大ナルモノ、最モ大切ニセネバナラ



スト思ヒマスノデアリマスカラシテ、我黨ノ平常ノ所謂諸君カラ消極論ト云ハレル吾ミトシテ此ノ大ナルトコロノ修正案ヲ提出シタ譯デゴザイマスカラ、滿場ノ諸君モ私ノ唯今申上ゲマシタルコトニ御同意下サルナラバ、滿場一致ヲ以テ私ノ修正案ニ御賛成アラシト希望致シマス

別ニ討論ナク表決ニ及ヒ前川虎造君ハ本案ノ採決ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フヘシトノ動議ヲ提出シタルモ院議之ヲ否決シタリ次テ鈴木梅四郎君提出修正動議ヲ否決シ委員長ノ報告(可決)ヲ採用シ引續キ第三讀會ヲ開キ本案ヲ可決確定セリ即日貴族院ニ送付ス同院ハ同月二十八日可決奏上シ三月七日法律第十六號ヲ以テ公布セラレ

四二 朝鮮ノ生産ニ係ル生果、核子及銅ノ移入税ニ關スル法律案

朝鮮ノ生産ニ係ル物品中生果及核子ニハ從價三割ノ移入税ヲ課シ銅ノ塊及錠ニハ移入税ヲ課セス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

五年二月十七日本院ニ之ヲ提出ス翌十八日本案ノ第一讀會ヲ開キ加藤大藏省參政官ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

朝鮮ノ生産ニ係ル生果核子及銅ノ移入税ニ關スル法律案、此案ノ趣旨ヲ申シマス、朝鮮ノ生産ニ係ル果物類ハ今迄從量税ヲ取ツテ居リマシタノデアリマス、而シテ從量税三割ノ基礎ノモノモアリマシタガ、ソレハハツマリ伊太利ノ「ネーブルス」或ハ亞米利加ノ貴重ナル果物同ジ程度ノ税率ニ置カレテアルノデアリマス、ソコデ極メテ朝鮮ノ果物ニ於キマシテハ税ノ重キコトヲ感ズルノデアリマス、ソコ

デ此度朝鮮ノ果物ハ從價税ノ三割ニ改メマシテ、其過重ナル點ヲ矯メテ均衡ヲ保タシムルノ方針デアリマス、又朝鮮カラ持ツテ參リマスル銅ノ塊及錠是ニハ移入税ヲ課セヌコトニ致シマスル方針、是レ本案ヲ提出致シマシタ理由デアリマス、宜シク御審議ノ上御賛成ヲ願ヒマス

次テ委員ノ選舉ハ議長指名ニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ翌十九日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末同月二十三日表題ヲ「朝鮮ノ生産ニ係ル生果、核子及金屬ノ移入税ニ關スル法律案」ニ改メ原案ニ修正ヲ加ヘ報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

(小字及——ハ委員會修正)

朝鮮ノ生産ニ係ル物品中生果及核子ニハ從價三割ノ移入税ヲ課シ銅ノ塊及錠ニハ移入税ヲ課セス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

翌二十四日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長早川龍介君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

是ハ頗ル簡單ナ案デゴザイマス、最モ簡ニ御報告ヲ致シテ置キマス、委員會ハ前後三回開キマシタ自分ヲ委員長ニ渡邊新太郎君ヲ理事ニ選舉シナリマシタ、第一回ハ役員ノ選舉、第二回ハ質問、第三回目ニ決議ヲ致シマシタ、此決議ニ付キマシテハ山根正次君ヨリ此中ノ銅ト申シマスル銅ヲ修正致シマシテ金屬ト改メタノデアリマス、是ハ全體皆少シモ異議ナク決シタノデゴザイマス、次ニ此生果核子ト申シマスルノハ三割ノ輸入税デゴザイマス、御承知ノ通りニ朝鮮ハ追々内地カラ移リマシテ、サウシテ種々ナ農業ニ力ヲ盡シテ居リマスノデ、從來ノ稅デゴザイマスルト非常ニ高稅デアリマスル爲ニ一向此方ヘ這入ツテ參リマセヌ、又東北地方デハ林檎其他ノ生果物ニ付キマシテハ、若シ朝鮮カラ安ク此生果物が這入ツテ來タ時分ニハ、農業ヲ妨ゲル故ヲ以テ此稅ハ從來ノ通りニ据置キタイト云フ御



論モアリマシタノデ、委員會デハ種々討論審議ヲ盡シマシタ結果、遂ニ唯今申シマシタ銅ノ塊トゴザイマスルノヲ金屬ト改メマシタノデ、其他ハ原案ニ總テ決シマシタノデゴザイマス、洵ニ簡單デ其内容ヲ申上ダレバマダ長クナリマスケレドモ簡單ナ問題デゴザイマスデ、ドウゾ委員會ノ決議通り御賛成アラムコトヲ願ヒマス

院議異議ナク第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通修正議決ヲ爲シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ同月二十七日可決奏上シ三月十六日法律第二十六號ヲ以テ公布セラル

四三 重要物産同業組合法中改正法律案

重要物産同業組合法中左ノ通改正ス

第八條第三項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ必要アルトキハ組合員ニ非サル者ヨリ之ヲ選舉スルコトヲ得

第十條ノ二 前條第一項ノ検査ヲ行フ同業組合及同業組合聯合會ニ在リテハ検査員ヲ置クヘシ

検査員ノ選任及解任ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十條ノ三 同業組合及同業組合聯合會ハ前條ノ検査員ノ服務ニ關スル規程ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十條ノ四 農商務大臣ハ重要輸出品ニ關スル同業組合又ハ同業組合聯合會ノ申請アルトキ又ハ必要ト認ムルトキハ其ノ役員又ハ検査員ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ選任セラレタル役員ノ解任ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ  
重要輸出品ノ種類ハ農商務大臣之ヲ指定ス

第十三條 農商務大臣ハ同業組合又ハ同業組合聯合會ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ業務ノ執行又ハ財産ノ狀況ヲ検査シ經費ノ豫算又ハ其ノ徴收法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十四條中「又ハ定款ノ變更ヲ命スルコトヲ得」ヲ「若ハ定款ノ變更ヲ命シ又ハ同業組合聯合會ヘノ加入若ハ同業組合聯合會ヨリノ脱退ヲ命スルコトヲ得」ニ改ム

第十九條 第四條ノ規定ニ違背シタル者ハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス  
第十九條ノ二 同業組合及同業組合聯合會ノ役員第十三條又ハ第十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違背シタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十九條ノ三 同業組合及同業組合聯合會ノ役員検査員其ノ他事務ニ從事スル者正當ノ理由ナクシテ當該官吏又ハ吏員ノ本法ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ之ヲ妨ケ若ハ之ヲ忌避シタルトキ又ハ職務ノ執行ノ爲ニスル尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十九條ノ四 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ之ヲ準用ス  
第二十條 同業組合又ハ同業組合聯合會ノ證票若ハ検査證ヲ不正ニ使用シタル者、行使ノ目的ヲ以テ證票若ハ検査證ヲ偽造若ハ變造シタル者又ハ偽造若ハ變造ノ證票若ハ検査證ヲ使用シタル者ハ



三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條ノ二 同業組合又ハ同業組合聯合會ノ役員又ハ検査員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十條ノ三 前條第一項ニ掲クル者ニ對シ賄賂ヲ交付提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十條ノ四 第二十條ニ掲クル罪ハ刑法第三條ノ例ニ第二十條ノ二ニ掲クル罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前選任セラレタル検査員ニ付テハ本法施行後一月内ニ其ノ選任ノ認可ヲ申請スヘシ前項ノ期間内ニ認可ノ申請ヲ爲ササルトキハ其ノ期間滿了ノ日申請ニ對シ不認可ノ指令アリタルトキハ其ノ指令ノ日ニ於テ検査員ハ解任セラレタルモノト看做ス

検査員ハ前項解任ノ日迄從前ノ例ニ依リ職務ヲ行フコトヲ得

前三項ノ規定ハ本法ニ依リタル他ノ法律ニ依リ設置シタル組合又ハ聯合會ニ關シ之ヲ準用ス

刑法施行法第二十七條第二號ヲ左ノ如ク改ム

二 削除

五年二月十七日貴族院ニ之ヲ提出ス同院ハ同月二十三日本案ヲ可決シ本院ニ送付ス本院ハ翌二十四日本案ノ第一讀會ヲ開キ河野農商務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

重要物産ノ組合法ニ付マシテ提出ノ理由ヲ述べマス、此重要物産同業組合法ハ明治三十三年ノ制定ニ係リマシテ、爾來實施ヲ致シテ參々ノデアリマス、昨年末ニ依リマスレバ組合ノ數ガ千二十、聯合會ノ數ガ四十六、ソレカラ一年ノ經費ガ約三百萬圓ニ達シテ居リマス、而シテ此各組合聯合會中ニ未ダ成績ノ良好ナラザルモノガ少クゴザイマセヌノデアリマシテ、ソレ故ニ改正ヲ致シテ有力ナル活動ヲ圖ルノ必要ガアルト云フコトハ、既ニ朝野ノ認ムル所トナリマシタガタメニ、曩ニ農商務省ハ此改正案ヲ具シテ地方長官ニ諮問ヲ致シ、又商業會議所ニ諮問ヲ致シ、更ニ又生産調査會ニ諮問ヲ致シマシテ各、其意見ヲ聽キ、爾來引續イテ調査中デゴザイマシタ、偶、歐洲ノ戰亂ニ際シマシテ我が輸出貿易上ニ對シマシテ、好影響ヲ受ケテ、輸出ガ甚ダ増加ヲ致シマシタノデアリマス、此際ニ於テ輸出品ニ對シテ検査ヲ嚴重ニ致シマシテ、サウシテ此粗製濫造ノ取締ヲ致シマセヌケレバナリマセヌト存ジマス、此粗製濫造ノ取締ヲ致シマシテ、サウシテ我が輸出貿易ニ對シマシテ所謂永遠ノ計ヲ立ツルノ必要ヲ感ジマシタノデアリマシテ、茲ニ此改正案ヲ提出致シタ次第デアリマス、其改正ノ要點ヲ申上ゲマスレバ、組合及聯合會ノ機關ヲ精撰ヲ致シマシテ、サウシテ其職務ヲ十分ニ行ハシムルガタメニ監督ノ規定ヲ置キマシタノデアリマス、殊ニ此輸出品ニ對シマシテハ組合聯合會ノ役員及検査員ニ付キマシテハ、其選任及解任ニ特別ナル規定ヲ設ケマシタノデアリマス、其他ハ數年ノ實驗ニ鑑ミマシテ不備ノ點ヲ補ヒマシタノガ、即チ本改正案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、ドウカ御審議ノ上御協贊アラムコトヲ切望致シマス



次テ委員ノ選舉ハ議長指名ニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ翌二十五日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ引續キ審査ノ末同日原案ヲ可決シ報告書ヲ議長ニ提出セリ

翌二十六日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長丸山芳介君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

同業組合法改正案ノ委員會ノ結果ヲ御報告致シマス、昨日委員會ヲ開キマシテ委員長理事ノ互選ヲ濟マシテ引續キ審議ニ掛リマシテ農商務大臣及ビ岡政府委員ノ出席ヲ請ヒマシテ質問應答審議ヲ盡シマシタ結果、多數ヲ以テ原案ニ可決シタノデゴザイマス、茲ニ友常君ヨリ原案ニ反對ノ意見ガアリマシタガ、是ハ概要ハ昔日ト違ヒマシテ、當業者ハ今日ニ至ッテハ粗製濫造ト云フコトハ餘程少ナクナリマシタ場合デアアルカラシテ、斯ノ如キ法案ヲ設クルト却テ外國ニ向ッテ當業者不信用ノ裏書ヲスルヤウナモノデアアルカラト云フヤウナ趣意デ、此案ニ反對スルト云フコトデゴザイマス、併シ贊成者ハ一人モナカッタ譯デゴザイマス、故ニ多數ヲ以テ原案ニ決セラレタコトデゴザイマス、可決致シタノデ此段御報告致シマス

友常毅三郎君ハ本案ニ反對ノ演說ヲ爲シ岡農商務省商工局長ハ之ニ對シ辯明ヲ爲ス

友常毅三郎君ノ演說

私ハ此案ニ絶對ニ反對ヲ表スル者デアリマス、昨日本案ニ關シテ委員會ガゴザイマシテ、政府當局者ト大分長イ質問應答ヲ重ネマシタガ、本員ノ満足スル所ノ答辯ヲ得ナイコトヲ大ニ悲シム次第デゴザイマス、依テ私ハ本案ニ對シテ絶對ニ反對ノ意見ヲ述ベタイト思ヒマス、政府ハ本案ニ對シテ此提出ノ動機ハ歐洲ノ戰亂ニ際シマシテ我國ノ重要品ノ輸出ガ大分増加シテ來タカラシテ、此際從前ノ如ク粗製濫造ガアッタナラバ我國ノ重要貿易品ニ對シテ大ナル害ヲ加ヘルノデアアルカラシテ、取締法ヲ嚴重ニシナケレバナラナイト云フノガ此改正法ノ精神デアルト申シマシタ、政府委員ハ粗製濫造ト云ヒマスケレドモ、粗製濫造ヲシタ所ノ商品ハ、最近四五箇年ニ如何ナル商品ガアッテ、如何ナル國カラシテ我國ノ商品ハ粗製濫造デアルト云フコトヲ苦情ヲ申込シタカ、其例ヲ示シテ貫ヒタイ、所ガ

政府委員ハ之ニ對シテ答フル所ガナイ、私ハ一二ノ例ヲ宜イカラ答ヘテ貫ヒタイト申シタ所ガ、政府委員ハ先ツ支那ニ出ス所ノ時計、即チ時計ト云フモノハ我國ノ粗製デアッテ、實ニ狂ヒ易イノミナラズ持ツコトモ持ツコトハ出來ナイ、長ク持テナイ、即チ破壊シタリ毀ハレタリ破損スル憂ガアル、依テ支那地方カラ苦情ガアルト斯ウ申サレタ、燐寸ニ於テハ輸出先ハ申サレマセヌガ、粗製濫造デアッテ、瑞典等ノ燐寸ニ驅逐サレル憂ガアルト云フコトヲ申シタノデアリマス、是ハ本員ノ親シク實驗ヲシテ居ル商品デアリマシテ、時計ハ今日ハ日本ニ於テハ、瑞西ニモ負ケナイ位ノ此時計ガ出來テ居ルノデアリマス、即チ自然淘汰ノ結果、十年バカリ前ニハ不完全ナル所ノ時計ガアリマシタガ、今日ハ諸君御承知ノ如ク東京ニモ精工舎ト申シテ一千萬圓近クノ資本ヲ費シテ拵ヘテ居ル所ガアリマス、又名古屋ニモ製造所ガアリマシテ、是ハ皆南洋及支那等ニ輸出シマシテ、最近ニ於テ此粗製濫造ト云フ苦情ハ吾々ハ所ノ満足ナル報告ハ往々吾々ガ接スル所デアリマシテ、最近ニ於テ此粗製濫造ト云フ苦情ハ吾々ハ會テ受ケタコトハナイノデアリマス、又燐寸ニ於キマシテハ、印度地方南洋地方ニ參リマスガ、是ハ成程政府委員ノ仰シヤルガ如ク瑞典ノ燐寸ニ驅逐サレル憂ガアリマス、驅逐サレル憂ガアリマスケレドモ、是ハ粗製濫造カラ起ッタコトデナクシテ、即チ吾々ガ最モ尊ブ所ノ此金融機關ノ我國ニ不備ナル點カラシテ起ルコトデアリマス、即チ當局者ノ町田參政官アタリハ、銀行ニ長ク御出デニナッテ親シク御承知ダラウト思ヒマスガ、我國ノ正金銀行アタリ、或ハ臺灣銀行アタリ、此半官半民ノ銀行ハ外國ノ銀行ト大ニ爲替ノ組織ガ違ッテ居リマシテ、外國ノ銀行ハ爲替ノ方法ニ於キマシテハ對人的信用、即チ之ヲ原語デ言ヒマス「ドドラフトマリセプタンス」即チ對人的信用、我國銀行ガ扱フ所ノ爲替ト云フモノハ「ドドラフトベント」即チ對物的信用ト斯ウナッテ居リマス、例ヲ言ヒマスト爰ニ商品ガアリマスト外國アタリノ爲替ハ、是ハ吾々ガ其爲替ニ對シテ裏書ヲシタナラバ、對人的信用デ此商品ガ現金支拂ヲシナクテ個人ノ裏書デ取ルコトガ出來ルノデアアル、我國カラ出ス所ノ燐寸ハ對物的信用デアリマスカラ俗ニ吾々ガ言フ所ノ對物的爲替デアリマス、是ニ金ヲ持ツカ若クハ銀行ノ保證ニアラザレバ其商品ヲ取ルコトガ出來ナイ、是ハ即チ今日ノ燐寸ヲ南洋若クハ印度等ニ輸出スル有様デアリマシテ、即チ全ク金融機關ノ不備ナル點、即チ商業家デ言ヒマス「是ハ武器ノ一大缺點ト言ハザルヲ得ナイ、此ノ如キ理由ノ爲ニ瑞典ノ燐寸ニ驅逐サレルト云フノハ此ノ如キ理由カラ起ルノデアリマ



シテ、決シテ粗製濫造カラ起ル譯デハナイノデゴザイマス、其他ニ未ダアルト仰シヤイマシタガ、是ハ調ベナケレバ分ラヌト云フコトデアリマシテ、ソレデハ粗製濫造ト云フ此不謹慎ナル言葉ハ何處カラ出タノデアアル、何處ノ國カラ斯ウ云フ苦情ヲ持ッテ來タカト云フコトヲ質問致シタ所ガ、政府委員ハ之ニ對シテ答ハナイ、孰レ調ベタ上デト云フコトデ、如何ニモ漫然トシテ此法律ニ對シテ刑罰モ加ヘ即チ體刑モ加ヘル所ノ重大ナル法律デアアルニ拘ラズ、此動機トスル所ハ粗製濫造カラ起ッテ、粗製濫造カラ起ッタナラバ、其粗製濫造ノ商品ハドウ云フ商品デアアルカ、又外國ニ對シテ此粗製濫造ノ商品ガ輸出サレタナラバ、外國カラ苦情ガ出タデアラウ、孰レノ國カラ來テイツ頃ニ來タラウト云フコトヲ聞イテモ、政府委員之ニ對シテ答フルコトヲ知ラズ、實ニ漠然タルコトデアリマシテ、此法ノ精神ニモ悖リハシナイカト思フノデアリマス、曾テ衆議院ニ商法改正ノ時分ニ私法團體ニ對シテ、即チ法人ニアラザル團體ニ對シテ刑罰ヲ加ヘルト云フコトハ不都合デアアルト言ッテ、此衆議院デハ之ヲ否決シタコトガアリマス、然ルニ今度突如トシテ此刑法ヲ——此私法人ニ對シテ體刑ヲ加ヘルト云フコトハ吾々ノ大ニ了解ニ苦シム所デアリマスガ、加之今日ノ貿易ノ狀態ハ此ノ如キ所ノ検査ハ或ル點マデハ必要デゴザイマスガ、之ヲモット嚴格ニスルト云フ所ノ必要ハ孰レニアルカト云フ、此要點ヲ見出スニ苦ムノデアリマス、外國ニモ諸君ノ御承知ノ如ク斯ウ云フ検査所ガアリマスガ、今日ノ傾向ハ漸次此検査ノ嚴密ナルコトハ廢止ニナリマシテ、恰モ検査ガ要ヲナイヤウナ工合ナ風ニナッテ、即チ商業道徳ノ進歩ト云フモノガ現ハレテ來タノデアリマス、我國ニ於キマシテモ即チ三十年三十年前ハ蠶ノ種紙ニ對シテ榮種等ヲ混合シタリ、或ハ榮種バカリノ紙ヲ輸出シタ例ヲ聞イテ居リマスガ、今日ハ絶對ニ此ノ如キ例ハナイノデゴザイマス、即チ商業道徳ノ發達ハ實ニ著シイモノデアアッテ、政府當局者ハ此日本ノ商業道徳ノ發展ト云フコトハ御調ベニナラナイノミナラズ、寧ロ商業道徳ノ廢頽ガアリハシナイカト云フ憂ヲ以テ、此法律ヲ御制定ニナルト云フガ如キハ、即チ時勢ニ逆行スル所ノ法案ト云ハザルヲ得ナイノデゴザイマス、抑此法案ノ動機ハ第二次桂内閣ノ時分ニ於キマシテ、時ノ農商務大臣即チ大浦子爵ガ歐羅巴ニ參リマシテ、歸朝ノトキニ此粗製濫造ノ演説ヲ天下ニ言ヒ現ハシタシタデアリマシテ、到ル所ノ日本ノ商品ハ粗製濫造ニ流レテ、外國デハ非常ニ困ッテ居ルト云フコトヲ申サレタノデアリマス、然ルニ其時分ハ時恰モ條約改正即チ海關稅問題ノ熾シナ時分デアリマシテ、日本デハ

海外ノ人ニ對シテ海關稅問題ヲ大ニ研究シ、非常ニ其困難ナ時機デアリマシタ、然ルニ當局ノ大臣ガ我國ノ商品ハ粗製濫造デアルト云フコトヲ自ラ明言シテ居ッタモノデスカラシテ、此海外カラ我國ニ來テ居リマス所ノ西洋人、即チ神戸或ハ橫濱ニ居ル所ノ西洋人ガ、如何ニモ粗製濫造ノ商品ヲ吾々ガ取扱ッテ居ルガ如ク我國人ニ對シテ思ハレルノハ遺憾デアアル、吾々共眼ガアルカラシテ粗製濫造ノ商品ト云フモノハ、吾々ハ未ダ取扱ッタコトハナイ、吾々ガ取扱ッタモノデ、苦情ヲ言ッテ來タモノハナイト云フコトヲ言ッテ居ッタ、ソレノミナラズ若シ検査以外ノモノデアアルナラバ、如何ニ恐怖ヲ以テ迎ヘルカ分ラナイノダト言ッテ、斯ウ云フコトヲ大浦農商務大臣ガ演説ヲサレ、或ハ嚴密ナル所ノ検査ヲ設クルト云フノハ、絶對ニ廢止シテ貫ハナイト、彼我貿易ニ一大損害ヲ與ヘルモノデアアルカラ、ドウカ此事ハ注意ヲシテ貫ヒタイト云フノガ即チ外交團ノ望ミデアッタノデゴザイマス、唯今申上ゲマスルモ何デゴザイマスガ、其時ニ本員ハ海關稅問題ニ對シマシテハ、桂總理大臣ヨリ依頼ヲ受ケマシテ、外交團ニ交渉シイロ、盡力ヲシテ居ッタ次第デアリマシタガ、其時ニ大浦サシノ粗製濫造ノ問題ガ起リマシタモノデスカラ、其時ニ桂公ニ會ッテ此問題ハ、斯様々々ナコトデアアッテ、取りモ直サズ日本人ハ詐欺的行爲ヲ貿易商品ニ對シテ起スモノデアアルカラ、即チ其詐欺的行爲ヲ政府ガ保證シ裏書スルヤウナコトデアアルカラ、斯ウ云フコトハ大浦農相ニ對シテ言ハナイヤウニシテ貫ヒタイ、寧ロ検査ヲ嚴密ニスルト云フコトハ彼我ノ利益デナイト云フコトヲ申シマシテ、時ノ桂公ハ之ヲ諒トシマシテ、此検査ヲ嚴密ニスルト云フコトハ其時ニ緩ウサレタ次第デアリマス、ソング今日突如トシテ現レタノハ即チ時勢ニ逆行スルトコロノ法案ト云ハザルヲ得ナイノデアリマス、與黨諸君ノ中ニモ町田參政官ノ如キ、片岡直溫氏ノ如キ、或ハ其他金澤仁作君ノ如キ、イロ、實業家ガ少クナイノデゴザイマシテ、是等ノ諸君ハ皆工業等ニ御關係ノ淺クナイ諸君デアリマシテ、果シテ粗製濫造ガアル、嚴密ナル法案ヲ以テ處罰シナケレバ我國ノ貿易ノ發展ヲ阻害ヲナスト云フコトノ御考ガアルヤ否ヤト云フコトヲ私ハ疑フノデアリマス、今日ハ外國ニ於キマシテモ斯ノ如キ組合ガアリマスケレドモ、此組合ハ名バカリ存シテ居リマシテ、検査ト云フモノハ厲行ハシナイデ寧ロ緩ニナッテ、即チ商業道徳ノ發展ト云フコトヲ、之ヲ以テ證明スル次第デアリマス、我國モ未ダ隨分斯ウ云フコトガゴザイマシタガ、最近五六箇年間ハ未ダ曾テ著シイ苦情ハ外國カラ來ナイノデアリマス、然ルニ此法案ヲ起スト云フノハ、取りモ直サズ



我國ノ商工業者ノ粗製濫造ヲ助長スルカノ如ク海外ニ思ハレテ、我國ノ貿易ノ發展上ニ對シテ大ナルトコロノ阻碍ヲ與ヘルト云ハザルヲ得ナイ譯デアリマス、依テ本員ハ本案ニ反對スルノデゴザイマス

岡農商務省商工局長ノ辯明

唯今友常君カラ本案ノ改正ニ關シマシテ反對ノ理由ヲ御述ベニナリマシタ、ソレニ對シマシテ尙ホ本案ノ意ノアル所ヲ一層明カニスルガ爲メニ、簡單ニ同君ノ指摘セラレタトコロニ對シテ説明ヲ致シマス、今友常君ハ粗製濫造ナルモノハ殆ド現在ニアツテハ、我が商工業ノ社會ヨリ其跡ヲ絶ツタガ如キ御話ガアッタノデゴザイマスルガ、是ハ全ク政府ト其見解ヲ異ニ致シテ居ルノデアリマス、大工場ノ發達ト共ニ工場ノ自治ニ依ル検査ガ益、嚴重トナリマシテ、大工場ヨリ出ル産物ニ就キマシテハ追々信用ヲ確保シテ參ツタコトハ之ヲ認ムルノデアリマスルガ、小ナル工場殊ニ手工業ノ工場ヨリ出ルトコロノ品物ハ、今尙ホ不統一不揃、ソレガ爲メニ海外ノ競争場裡ニ立ッテ十分ニマダ日本品タル聲譽ヲ發揚スルコトガ出來ナイノデアリマス、此例ハ實ニ多數アルノデアリマス、即チ時計ノ如キモ大工場ハ信用アル工場ヨリ出ル時計ハ十分ノ聲譽ヲ維持致シテ居リマスルガ、其小ナル工場ヨリ出ルモノハ、未ダ海外ヨリ苦情ヲ免レヌノデアリマス、又莫大小ニ致シマシテモ、或ハ眞田類ニ致シマシテモ、或ハ鐘詰類ニ致シマシテモ、枚舉シ來レバ其數甚ダ尠カラヌノデアリマス、政府ハ是等ノ小工場若クハ手工場ヨリ出ル品物ニ對シテ十分ナル検査ヲ施シ、大工場ノ生産物ト並立ッテ耻ヂザルマデニ精撰シタ品物ヲ海外ニ出スベク、同業者ノ自治ニ依ル検査ヲ一層確的ニ且ツ公平ナラシメンガ爲メニ、検査院ノ制度ニ改正ヲ加ヘントスルノデアリマス、而シテ唯今友常君ハ如何ニモ粗製濫造ヲシタ物ニ對シテ嚴罰ヲ以テスルガ如キ口調御説明ニナリマシタガ、是ハ大ナル見當違ヒデアアルノデアリマス、政府ノ今回制裁ヲ嚴ニ致シマシタノハ、主トシテ検査員ガ往々收賄其他ノ請託ニ依リマシテ、其検査ヲ左右スルガ如キコトガアル、斯クテハ到底検査ノ公平ヲ維持スルコトガ出來マセヌカラシテ、其検査員ニ對スル制裁ヲ嚴重ニ致シタマデデアリマス、斷ジテ粗製濫造ヲシタ者ニ對シテ嚴罰ヲ科スルト云フガ如キコトハ、此法案中ニハ一モ規定ハナイノデアリマス、又友常君ハ海外ニ於ケル検査ハ近時

追々寛大ニナツタ如キ御説ガゴザイマシタガ、海外ノ工業状態ハ我國ト全然其趣キヲ異ニ致シテ居ルノデアリマス、工場ノ自治ニ依ル検査ガ極メテ嚴重ニ行ハレテ居リマスガ爲メニ、必ズシモ商工業者ガ寄り集ツタ同業組合ノ検査ヲサマデ嚴重ニスルコトヲ要セナイ、時トシテハ同業組合ソレ自身ノ必要モナイ位デアアルノデアリマス、現ニ歐米諸國ニアツテハ同業組合ノ検査ナルモノ、例ガ甚ダ少キヲ以テ見ルモ、尙ホ大工場ノ自治的検査ガ頗ル確的公平ニ行ハレ、ソレニ依ツテ商品ノ聲譽ヲ維持シテ居ルコトヲ徵證スルニ足ルト考ヘルノデアリマス、之ヲ要スルニ唯今友常君ノ御指摘ニナリマシタ點ハ、或ハ事實ニ反シテ居ル點モアリ、或ハ遺憾ナガラ政府ト見込ヲ異ニ致シテ居ル點モアルノデアリマス、茲ニ同君ノ御述ベニナリマシタ點ニ就テ、更ニ政府ノ所見ヲ明カニ致シテ置キマス

質疑、應答ノ後院議第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會、第三讀會ヲ開キ委員長報告ノ通本案ヲ可決確定セリ即日裁可ヲ奉請シ同時ニ其ノ旨ヲ貴族院ニ通知ス三月七日法律第十五號ヲ以テ公布セラル

四四 明治四十年法律第十一號中改正法律案

明治四十年法律第十一號中左ノ通改正ス

第四條ノ二 前條ノ療養所ノ長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被救護者ニ對シ必要ナル懲戒又ハ檢束ヲ加フルコトヲ得

第七條中「沖繩縣及」ヲ削ル

五年二月十七日貴族院ニ之ヲ提出ス同院ハ同月二十三日本案ヲ可決シ本院ニ送付ス本院ハ翌二十四日本案ノ第一讀會ヲ開キ藤澤內務省參政官ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ



本案ハ至極簡單ナ案デゴザイマスガ、明治四十年法律第十一號中ノ第四條ノ次ニ第四條ノ二ノ一條ヲ設ケマシテ、癲癩養所長ニ感化院長ト同シヤウナ具合ニ其秩序維持ノ必要上、懲戒及檢束ノ權力ヲ與ヘントスルモノデゴザイマス、斯様ニ致シマセヌケレバ此多クノ病人ヲ集メテ置キマシテ、ナカナカ其秩序ヲ維持スルト云フコトハ困難デゴザイマスルカラシテ、ヤハリ檢束、懲戒、是等ノ方法ヲ用キタイト思フノデゴザイマス、ソレカラ第七條ノ改正ハ是ハ申上ゲルマデモゴザイマセヌ、沖繩縣ニ既ニ府縣別ヲ實施致シテ居リマシテ、既ニ他府縣ト同様ニ取扱ッテ居リマスルカラシテ、法文ノ整理上此「沖繩縣及」ノ數字ヲ除クト云フコトニ致シタイノデアリマス、他ハ委員會デ申上ゲマス

次テ委員ノ選舉ハ議長指名ニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ翌二十五日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ引續キ審査ノ末同日原案ヲ可決シ報告書ヲ議長ニ提出セリ

二月二十七日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長山根正次君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

明治四十年法律第十一號中第四條ノ二ニ「前條ノ療養所ノ長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被救護者ニ對シ必要ナル懲戒又ハ檢束ヲ加フルコトヲ得」第七條中「沖繩縣及」ヲ削ル、此政府提出貴族院カラ廻付ニナツタ所ノ此案ニ付キマシテ、委員會ヲ開キマシタ、委員長理事ノ互選ヲ行ヒ、不肖ガ委員長ニナリマシタガ、直ニ議事ヲ開キマシタ、本案ニ付テハ政府當局者ヨリ説明ガアリマシタ、ソレハ癲癩養所ノ目的ト云フモノハ、病症ノ顯著ナルモノニ對シテ、サウシテ頼ル所ノナイ者ヲ病院ニ容レテ、サウシテ一面ニハ患者ノ治療ヲシ、一方ニハ又是等ノ人ガ嬉々トシテ、此處ニ一生ヲ送ルヤウニスル所ノ療養所デアリマス、然ルニ是等ノ患者ノ中ニ不逞無頼ノ徒ガアリマシテ、種々要求ヲ逞シウシ、遂ニハ職員ニ抗拒シテ、或ハ暴行ヲ加ヘ、サウ云フモノガ——刑罰ニ觸レルモノガ、此患者ノ中ニ出ルノデアリマス、是等ニ對シマシテ當局ニ向ッテ——官憲ニ向ッテ之ヲ監獄ナラ監獄ニ入レルト云フコトヲ要求スルトサウ云フモノハドウモ入レテハ困ルト云ッテ官憲ノ方カラ斷ハラレル、サウ云フコトカラシテ、今度此法律ヲ出サレテ懲戒ヲ加ヘルコトニ對シテハ、療養所ノ長ガ命令ノ定ムル所ニ依ッテヤルト云フコトニ、相成ラネバナラヌト云フコトニナツタノデアリマス、嘗テ豫算委員會ニ於ケル本員ノ質問ニ於

テ、司法當局者ニ尋タル時ニハサウ云フ癲癩患者ガ罪ヲ犯シタ時ニ於テ、監獄ヘ入レル所ガアルカト云ッタラバ、監獄ニ其用意ガアル筈ダト云フコトヲ答ヘマシタ、ケレドモ——懇談中ニ聽クニ、司法次官ヨリ内務次官ニ向ッテ實ハ入レル所ガナイカラ、斯ウ云フ者ヲ療養所デ取締ラシテ吳レト云フ依頼ガアツタノデアリマス、サウシテ少シ御待チニナラナケレバ、ドレダケ惡イ者ガ居ルカ分ラナイ、ソレデ此療養所ガ出來マシテモ、隨分澤山ノサウ云フ無頼ノ徒ガアリマシテ困ッテ居ルノデアリマス、カラ此案ハ委員會ニ於テ全會一致ヲ以テ決シテ居ルノデアリマス、本會ニ於テモドウカ之ニ御賛成アラシコトヲ、サウシテ第七條中ニハ沖繩縣ヲ削ルトアツタノハ、此法律ガ出タ時ニハマデ沖繩縣ハ特別ナ扱ニナツテ居ルノデアリマシタ、今日ハ他ノ府縣ト同様デアリマス、カラ、之ヲ削ルコトニモドウカ御賛成ヲ願ヒタイノデアリマス

院議異議ナク第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ本案ヲ可決確定セリ即日裁可ヲ奉請シ同時ニ其ノ旨ヲ貴族院ニ通知ス三月十一日法律第二十一號ヲ以テ公布セラル

四五 國籍法中改正法律案

國籍法中左ノ通改正ス

(小字ハ貴族院修正)

第十八條 日本人カ外國人ノ妻ト爲リ夫ノ國籍ヲ取得シタルトキハ日本ノ國籍ヲ失フ

第二十條ノ二 外國ニ於テ生レタルニ因リテ其國ノ國籍ヲ取得シタル日本人カ其國ニ住所ヲ有スルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ノ離脱ヲ爲スコトヲ得

前項ノ許可ノ申請ハ國籍ノ離脱ヲ爲ス者カ十五年未滿ナルトキハ法定代理人ヨリ之ヲ爲シ滿十五年以上ノ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ法定代理人ノ同意ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ要ス

繼父、繼母、嫡母又ハ後見人カ前項ノ申請又ハ同意ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス



國籍ノ離脱ヲ爲シタル者ハ日本ノ國籍ヲ失フ

第二十四條中「前五條」ヲ「前六條」ニ「前七條」ヲ「前七條」ニ改ム  
第二十六條中「第二十條」ノ下ニ「第二十條ノ二」ヲ加フ

前項ノ許可ノ申請ハ第二十條ノ二ノ規定ニ依リテ日本ノ國籍ヲ失ハタル者カ十五年未滿ナルトキハ日本ノ國籍ノ離脱ノ際其者ノ屬セシ家ニ在ル父、父之ヲ爲スコト能ハサルトキハ母、母之ヲ爲スコト能ハサルトキハ祖父、祖父之ヲ爲スコト能ハサルトキハ祖母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

五年二月七日貴族院ニ之ヲ提出ス同院ハ同月二十五日本案ヲ修正議決シ本院ニ送付ス本院ハ同日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ヲ開キ藤澤內務省參政官ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

國籍法中改正法律案提出ノ趣旨ヲ申上ゲマス、國籍法ニ關シテ出生地主義ヲ執リマスル、外國ニ於テ生ジマシタル所ノ日本人ノ子ハ、出生ト同時ニ其國ノ國籍ヲ取得スルコトハ既ニ諸君ノ御承知ノ通りデゴザイマス、既ニ然ラバ其子ハ當然ニ重國籍者トシテ世ニ立タンケレバナラスノデアリマス、而モ此趨勢カラ累年増加ノ傾向ヲ有ッテ居ルデアリマス、既ニ斯ノ如キ事實デアリマスレバ、其者ガ公ノ上ニ於テ又私ノ上ニ於テ、非常ナル不便ヲ有ッテ居ルト云フコトモ亦此ニ申上ゲマスルマデモゴザリマセヌ、然ルニ現行ノ國籍法ニ於キマシテハ、之ニ處スルノ規定ヲ缺如致シテ居リマス、サレバ國籍法ノ第二十條ノ次ニ第二十條ノ二ノ一條ヲ設ケマシテ、一定ノ條件ノ下ニ國籍離脱ノ途ヲ認メントスルノデアリマス、是ガ本案提出ノ主タル目的デアリマス、ソレト共ニ第十八條ヲ改正セントスルハ日本ノ女ガ外國人ト婚姻ヲ致シマスレバ、ソレト同時ニ我國ノ國籍ヲ喪失スルノデアリマス、所ガ

英領加奈陀ノ如キニ至リマシテハ、縱令婚姻ガアリマシテモ其女ガ加奈陀ニ入國致シマセヌケレバ、其國ノ籍ヲ取得スルコトガ出來ナイノデアリマス、サウ致シマスト云フト婚姻ト共ニ一方ニ於テハ日本ノ國籍ヲ失ヒ、サウシテ夫ノ國籍ヲ得ルコトガ出來ナイト云フ、即チ宙ブラリンノ人間ガ茲ニ出來ルノデアリマス、之ヲ救ハンガ爲ニ第十八條ヲ改正セントスルノデアリマス、ソレカラ本案ニ對シテ貴族院ノ僅カナ修正ガアリマスガ、是ハ十五年未滿ノ子ガ我國ノ國籍ヲ恢復セントスル場合ニ於ケル手續ノ規定デアリマス、此他ヲ申上ゲマシタナラバイロ、申上ゲベキ事柄ガゴザイマスケレドモ、是ハ委員會ニ於テ申上ゲマス、尙一言附加ヘテ置キタイコトハ、先般即チ過日國籍法ニ關スル當議院ノ建議案ガ提出サレテアリマス、サウシテ通過シテゴザリマス、其建議案ニ是ハ適應致シマスルトコロノ案デアリマス、ドウカ御協賛ヲ願ヒマス

質疑、應答ノ後委員ノ選舉ハ議長指名ニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ翌二十六日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ引續キ審査ノ末同日原案ヲ可決シ報告書ヲ議長ニ提出セリ

翌二十七日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長森田小六郎君ハ委員會ノ結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

本案ハ無籍者並ニ重國籍者ノ發生ヲ防クガ爲ニ、政府ヨリ提案サレタモノデアリマシテ、委員會ニ於キマシテハ滿場一致ヲ以テ可決ヲ致シマシタ、此段御報告致シマス

院議異議ナク第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ本案(貴族院ノ修正)ヲ可決確定セリ即日裁可ヲ奉請シ同時ニ其ノ旨ヲ貴族院ニ通知ス三月十六日法律第二十七號ヲ以テ公布セラル



### 第二目 本院提出法律案

#### 一 軍人恩給法中改正法律案

軍人恩給法中左ノ通改正ス

第十八條中「及北海道移住ノ際定規ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒」ヲ削ル  
同條ニ左ノ一號ヲ加フ

八 北海道ニ移住ノ際定規ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒ニシテ從軍シ若クハ屯田兵村監視又ハ屯田兵部隊附トナリ軍隊ノ常務ニ服シタルトキハ其日數

明治四十四年法律第五十九號附則第二項、第三項及第五項乃至第八項ヲ削リ左ノ二項ヲ加フ

明治四十四年四月一日以前現役ヲ離レ現ニ退職恩給、免除恩給、增加恩給又ハ扶助料ヲ受ケ又ハ受ク

ヘキ權利ヲ有スル者ニ給スヘキ恩給金額ハ總テ本法ノ規定ニ依ル

陸軍武官傷痍扶助死亡ノ者祭葬並其ノ家族扶助概則、海軍退隱令又ハ陸軍武官恩給令ニ依リ扶助料、退隱料又ハ恩給ヲ受クル者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法規定ノ金額ヲ給ス

#### 附 則

本法ハ大正六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條第八號ハ本法施行前ニ現役ヲ離レタル者ニモ之ヲ適用シ本法施行ノ日ヨリ本法規定ノ恩給ヲ給ス

#### 二 軍人恩給法中改正法律案

軍人恩給法中左ノ通改正ス

明治四十四年法律第五十九號附則第二項、第三項及第五項乃至第八項ヲ削リ左ノ二項ヲ加フ

明治四十四年四月一日以前現役ヲ離レ現ニ退職恩給、免除恩給、增加恩給又ハ扶助料ヲ受ケ又ハ受ク

ヘキ權利ヲ有スル者ニ給スヘキ恩給金額ハ總テ本法ノ規定ニ依ル

陸軍武官傷痍扶助及死亡ノ者祭葬並其ノ家族扶助概則、海軍退隱令又ハ陸軍武官恩給令ニ依リ扶助料、退隱料又ハ恩給ヲ受クル者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法規定ノ金額ヲ給ス

#### 附 則

本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

#### 三 軍人恩給法中改正法律案

(法文ハ前號ト同一ニシテ單ニ施行期日ヲ大正六年四月一日ト爲シタルモノナルニ依リ之ヲ略ス)

以上三案ハ大正四年十二月一日(一)高木正年君外十名(二)木津太郎平君外二名(三)柏原文太郎君外一名之ヲ提出ス同月八日順次三案ノ第一讀會ヲ開キ(七日延會)提出者高木正年君及木津太郎平君ハ各其ノ趣旨ヲ辯明シ(三)案提出者柏原文太郎君ハ高木正年君外十名提出案(二)ト其ノ内容同一ナルニ依リ趣旨辯明ヲ省略スル旨ヲ述フ

(一)高木正年君ノ趣旨辯明

此法律案ハ每期議會ニ提出セラレツ、アル法案デアルノデアリマス、殊ニ本年夏期ノ議會ニ於キマ



シテハ、本議會ヲ通過シテ居ルノデアリマス、唯前議會ノ案ト異リマス點ハ、施行期日ガ前議會ノ案ハ命令ニ委セルト云フコトデアッタノヲ、今回ハ大正六年ヨリ之ヲ施行スルコトニ改メタノガ、變テ居ルダケデアリマス、既ニ前議會ニ於テ通過シタル法案ナルガ故ニ、殊更此理由ヲ詳説スル必要ハナイト考ヘマスカラ、總テ自分ニ於テハ説明ヲ略シタイト思フノデアリマス、唯一言此案ニ向ッテ特ニ政府及議會ニ於ケル諸君ノ御考慮ヲ喚ビタイト考ヘマス點ハ、外デハナイノデアリマス、我邦ノ國防中心ハ孰レノ點ニ在リヤト考ヘ來リマス、現在ノ所謂現役ナルモノハ、歩兵ニ於テハ其二分ノ一ハ所謂新募兵デアアルノデアリマシテ、未ダ訓練ヲ經ザル兵デアアルノデアリマス、特科兵ニ於テモ三分ノ一ハ歩兵ノ一年兵ト同ジク、未ダ十分ニ兵事教育ヲ終ッタモノトハ言ハレナイノデアリマス、是等ノ部分ヲ取除キマシタ其他ノ兵數ヲ數ヘ來リマスルト、一朝有事ノ秋ニ於テノ國防ハ如何ニスルカト云フト、是非トモ豫備後備ノ部隊ニ向ッテ動員ヲ施行セネバ、國防上ノ目的ヲ達スルコトガ出來ナイ状態ニアルコトハ、殊更ニ私ガ申上ゲルマデモ無イコトデアリマス、是ニ於テ近來在郷軍人ノ上ニ付テ、深キ深キ注意ト、其状態ノ上ニ付キマシテモ、國家ガ之ニ向ッテ特ニ考慮ヲ煩ハシツ、アルト云フコトハ、國防ノ中心軍人在郷軍人ノ上ニ在リト謂ハネバナラヌノデアリマス、此ノ如ク觀察シ來リマスル所ニ於テ國家ガ與フル所ノ恩典ノ上ニ付テ、所謂等差ヲ設ケテ一部ニ厚クシテ一部ニ輕シト云フガ如キハ、縱令軍人其人ニアツテハ、其士氣ノ上ニ毫モ變ルコトナシト信ズベキ所ナルモ、之ヲ國家ノ上ヨリ對シテ、之ヲ以テ是等ノ軍人ヲ俟ツト云フコトハ、頗ル不公平ナル待遇ナリト觀察セネバナラヌノデアリマス、此點ニ於テ私共ハ寧ロ二師團ノ増設以上ニ、在郷軍人ノ待遇ノ上ヲ均一ニシテ、國家ノ恩典ヲシテ等シク其惠ニ賴ラシムルト云フコトハ、所謂舉國皆兵ノ上ニ於テ、最モ必要ナル點デアアルト私ハ考慮スルノデアリマス、就テハ財源ノ點ニ於テモ一言シナケレバナラヌノデアリマス、前議會ニ於テハ是等ノ點ニ考慮シテ、政府ハ財政整理ノ上ニ於テ軍人恩給法ノ改正ニ要スル費用ノ繰合セヲ爲サンガタメニ、特ニ命令ニ施行期日ヲ委カシタノデアリマス、然レドモ過去ノ議會ノ方ハ、本議會ニ未ダ政府ガ提出スルニ至ラヌノデアリマス、是ニ於テ私共ハ自ら進ンデ此法案ノ施行期日ヲ定メテ、政府ヲシテ是非共之ヲ實行セシメナケレバナラヌト云フ考デアリマス、併ナガラ物ニハ順序アリ、多少ノ歲月ヲ要スベキモノト考ヘルノデアリマス、故ニ假スニ一年ヲ以テシテ、大正六年ヨリ此法ノ實行

ヲ是非共爲サンコトヲ切望スルガタメニ、當議會ノ始メニ於テ此法案ヲ提出シタ次第デアリマス、願クハドウゾ前回ニモ通過シテ居ル案デアリマスカラ、諸君ニ於テモ全會一致ヲ以テ御通過アラントヲ、深ク私ハ希望シテ止マヌノデアリマス

(二) 木津太郎平君ノ趣旨辯明

唯今前提出者高木正年君ヨリ提出セラレマシタトコロノ改正案ト同一ノ案デアリマス、其案ノ内容第三十六議會ニ於キマシテノ經過等ニ於キマシテハ、ハ私ハ茲ニ重テ其内容等ヲ申上ゲマスコトハ省略致シマス、唯施行期日ノ異ナルダケデアリマス、是ハ唯今高木君ヨリノ説明ニ依リマスルト、調査時日ヲ與ヘムガタメニ大正六年トスルト云フコトデアリマシタガ、私共ノ出シマシタ案ハ大正五年四月一日ト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、此軍人恩給法中改正法律案ノ出シマシタノハ、確力第三十一議會以來ノ事柄デアリマスノデ、第三十六議會ニナツテ始メテ現ハレタ問題デハナイノデアリマス、デアリマスカラ財政ノ許ス限リハ、一年ナリトモ早ク是ガ實施ヲ見タイト云フ趣旨カラ致シマシテ、吾々ハ大正五年四月一日カラ之ヲ實施スルト云フコトニ致シマシタ次第デアリマス、尙詳細ノコトハ委員會ニ於キマシテ説明ヲ致シマスガ、願ハクハ高木君ノ案同様諸君ノ御賛成ヲ得タイト思ヒマス

次テ(一)案ハ議長指名(十八名)ノ委員ニ、(二)及(三)案ハ順次前委員ニ併セ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ翌九日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末五年一月二十九日三案ヲ併合シテ修正議決ヲ爲シ報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

軍人恩給法中左ノ通改正ス

第十條第一項中「軍人前條ニ該當スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキノ現」ヲ「第六條ノ規定ニ



依ル」ニ改メ同項第一號中「戰鬪」ノ下ニ「又ハ之ニ準スヘキ公務」ヲ加フ  
第十四條第一號中「戰鬪」ノ下ニ「又ハ之ニ準スヘキ公務」ヲ加フ  
第十五條中「前條ニ該當スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ」ヲ「現役ヲ離レ」ニ改ム  
第十八條第七號中「及北海道移住ノ際定規ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒」ヲ削ル  
同條ニ左ノ一號ヲ加フ

八 北海道ニ移住ノ際定規ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒ニシテ從軍シ若クハ屯田兵村監視又ハ屯田兵部隊附トナリ軍隊ノ常務ニ服シタルトキハ其日數  
第二十七條第一號中「戰鬪」ノ下ニ「若クハ之ニ準スヘキ公務」ヲ加フ

附 則

本法ハ大正六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
第十八條ノ改正規定ハ本法施行前ニ現役ヲ離レタル者及現役中若ハ現役ヲ離レタル後死歿シタル者ニモ之ヲ適用シ本法施行ノ日ヨリ本法規定ノ恩給金額ヲ給ス  
本法施行ノ際現ニ退職恩給、免除恩給、增加恩給又ハ扶助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ權利ヲ有スル者ニシテ本法規定ノ恩給金額ヲ受ケサル者ニハ本法施行ノ日ヨリ本法規定ノ恩給金額ヲ給ス  
陸軍武官傷痍扶助及死亡ノ者祭葬並其ノ家族扶助概則、海軍退隱令又ハ陸軍武官恩給令ニ依リ扶助料、退隱料又ハ恩給ヲ受クル者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ本法規定ノ金額ヲ給ス

前三項ニ依リ扶助料ヲ受クル者權利消滅シタル場合ニ於テ其ノ遺族ニ給スヘキ扶助料ノ金額ハ總テ本法ノ規定ニ依ル  
第四項ニ依リ本法規定ノ恩給金額ヲ受クル者ノ遺族ニ給スヘキ扶助料金額ハ本法ノ規定ニ依ル

五年二月八日三案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長村松龜一郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

諸君、軍人恩給法中ノ改正法律案ノ三案ニ對シマシテ委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告致シマス、三ツノ案ハ殆ド同一ノ案デアリマシテ、唯施行期限ガ一ツ違ッテ居リマス、一ツハ大正六年四月一日ヨリ施行スト云フノガ二案、ソレカラ一案ハ大正五年四月一日ヨリ施行スルト云フノガ一ツ、ソレカラ高木正年君カラ提出セラレマシタ案ノ中デハ屯田兵ノコトガ——他ノ二案ト違ッテ屯田兵ノコトガ入ッテ居リマス、ソレダケ入ッテ居リマシテ後ノ二案ト大抵同一ニナッテ居リマス、ソレデ此委員會ヲ開キマシタ、其委員會ニ於キマシテ陸海軍ノ政府委員ガ出席セラレマシタガ、未ダ具體的ニ確定シタモノデハナイガ、陸海軍省ニ於テモ是レノ改正ヲ希望シテ居ッテ、其希望ヲ文書ニ綴ッテ、丁度法案ノ體裁ヲ成シタモノガアル、是ハマダ成案ニナッテ居ルモノデハナイガ、斯ウ云フヤウナ意見ヲ有ッテ居ルト云フノデ、此案ヲ委員ノ方ニ貫ヒ受ケマシタモノガアルノデス、サウ致シマスルト丁度四ツノ案ニナリマスノデスカラ、之ヲ統一シテ一ツノ案ニ之ヲ纏メルト云フコトノ必要ヲ生ジマシタタメニ、委員會ニ於キマシテハ其十八名ノ委員中ヨリ更ニ九名ノ特別委員ヲ選ビマシテ、特別委員ニ於テイロノ審查ヲ致シテ一ツノ案ヲ作ルコトニ致シマシタ、陸海軍省ノ方デ綴ラレタトコロノ案ニ依リマスルト、少シ各員ノモノト違ヒマシテ、名譽進級ノ者ヲ此中ニ含メテアッタノデアリマス、所ガ特別委員會ニ於キマシテハソレヲ入レルコトヲシナイ方ガ宜イト云フコトデ、其事ヲ削リマシテ、更ニ其特別委員會デ於キマシタ問題ハ、軍人恩給法中ノ第十條第一項ノ第一號、ソレカラ第十四條中ノ賑恤金ニ



關シマスルトコロ、ソレカラ第二十七條此中ニ「戰闘ノ爲メ」ト云フコトガアルノデゴザイマスルガ  
 「戰闘ノ爲メ」ト云フコト「公務ノ爲」ト云フコト區別シテアル、即チ戰闘ノ爲メ戰死シ、又ハ負傷シタル  
 者ノ救助ノ方法ト公務ノ爲ニ死傷シタル者ノ手當ノ方法ガ大變ナ差額ガアルノデアリマス、特別委員  
 會ニ於キマシテハ、成程「公務ノ爲」ト云フコト「戰闘ノ爲」ト云フコトノ間ニハ多少ノ區別アルト云  
 フコトハ致方ガナイガ、併シ縱令公務ノ爲ト雖モ戰闘ニ準ズベキモノガアルノデアアル、例ヲ舉ゲテ見  
 マスルト飛行機若クハ潜水艇ニ於テ死傷シタル者ノ如キ、若クハ前年青森縣下ニ於テ起リマシタ雪  
 中行軍ノ際、天候ト戰ッテ死傷シタルモノ、如キ、現ニ生存シテ廢兵トナッテ居リマスル其人ヲ見ル  
 ニ、全ク兩足ノ無イ人或ハ兩手ノ無イ人、甚シキニ至ッテハ兩足兩手共ニ無イト云フヤウナ人ガアル  
 ノデアアル、斯ノ如キモノヲ唯公務ト云フダケニ之ヲシテ戰闘ト區別スルト云フコトハ、ドウモ其理由  
 ガ無イノデアアルカラ、戰闘ノ爲メト云フコト「戰闘」ト下ニ「又ハ之ニ準ズベキ公務ノ爲メ」ト云  
 フコトヲ入レテ、斯ノ如キ廢兵死傷者ヲ救フコトガ必要デアルト云フコト、其事ヲ入レルコトニ特別  
 委員會デ致シタルデアリス、ソレハ第十條第十四條第二十七條ノ三箇條中ニ「戰闘」ト云フ下ニ「又  
 ハ之ニ準ズベキ公務」ト云フ文字ヲ入レルコトニ致シマシタ、ソレカラ施行期限ニ付キマシテハ、大正  
 五年ト云フコト六年ト云フコトガアリマスガ、大正五年ト申シマスレバ、間モナイコトデアリマシテ、到  
 底是ハサウ云フ法律ヲ作リマシモ不可能デアルト云フ考ヨリ、大正六年四月一日ヨリト云フコトニ  
 致シマシタルデス、ソレカラ高木君ノ御提出ニナリマシタ案ノ中ニ此屯田兵ノコトガアルノデス、是  
 ハ從來屢々議會ニ請願ガアッタモノダサウデアリマス、ツマリ屯田兵村ノ監視又ハ屯田兵部隊付ト云  
 フガ如キモノニナッテ、軍隊ノ常務ニ服シタルモノハ、ヤハリ此服務ノ期間ヲ恩給年期中ニ加算スル  
 ト云フコトデアリマス、是等ノ條項ニ依テ一ノ案ヲ作り、ソレカラ附則ハ是ガ最モ問題ニナルノデア  
 リマスガ、現行法ニ據リマスルト明治四十四年四月一日以前ノ人ニハ、此恩給法ノ恩典ニ浴スル譯ニ往カ  
 ナイコトニナッテ居リマス、ソレガ即チ今度各案ノ提出セラレマシタ所以デ、前議會ニ於テ本院ヲ通過致シ  
 マシタルモノレデアッテ、即チ其區別ヲ取ッテ明治四十四年四月一日以前ノ人デモ軍人恩給法中ノ恩惠ニ浴  
 セシメル、即チ前後ニ依テ恩惠ニ厚薄ヲ置カナイ、斯ウ云フノガ即チ此提出ノ精神ニナッテ居リマスカ  
 ラ、其附則ヲヤハリ其通りニ改メマシタ、以上申シ述ベマシタコトハ諸君ノ御手許ニ迴ッテ居リマスル通

リノ案デゴザイマス、之ニ付キマシテ政府ハドウ云フ意見デアアルカト申シマスルト、此「戰闘」ト下ニ「又  
 ハ之ニ準ズベキ公務」ト云フコトヲ加ヘテハ、法ノ解釋上殆ド實行ガムツカシイ、如何ナルモノガ之ニ  
 準ズベキ公務デアアルカト云フコトハナカク、容易ニ之ヲ實行スルニ困難デアルト云フコトデアリマシ  
 タ、トコロガ委員會ニ於テハ先刻申述ベマシタ通りノ事柄ヲ、特ニ此本會ニ於ケル速記ノ上ニ明記シ  
 テ、サウシテ如何ナルモノガ「又ハ之ニ準ズベキ公務」デアアルカ、サウ云フコトノ類例ヲ此處ニ示シテ  
 置ケバ、解釋上敢テ差支ナイモノデアアルト斯ウ認メテ、政府ノサウ云フ反對ガアルニ拘ラズ、唯今御報告  
 致シタ通りニ致シタルデアリマス、實ニ之ニ付テ適當ナ文字ヲ頻リニ考ヘマシタノデアリマスガ、ド  
 ウモ今ノ事ヲ言ヒ現ハスベキ具體的ニ之ヲ列舉致シマシタナラ免ニ角、列舉シナイノデ一ニ音ニシテ此  
 意味ヲ言ヒ現ハスベキ文字ハ、ドウモ適當ノ文字ヲ如何ニモ見出シ兼ネタノデアリマス、已ムヲ得ズ、之  
 ニ準ズベキ公務」ト云フ文字ヲ加ヘテ、サウシテ其意味ハ飛行機或ハ潜水艇若クハ雪中行軍ノ如キ場合  
 ニ、天候ト戰ッテ負傷シタル死傷シタルト云フ如キモノハ、總テ之ニ準ズベキ公務デアルト云フコトヲ速記  
 録ノ上ニ明記シテ其標準ヲ示シテ置ク、斯ウ云フコトニ委員會ハ決シマシタ、ソレカラ屯田兵ノコト  
 ニ付キマシテハ、是バカリナラバ五六名ノ人ダサウデアリマシテ、金額モ甚ダ輕少ナモノデアアルカラ、政  
 府ハ別ニ之ニ對シテ異議ハ言ハスト云フコトデアリマシタ、併シ是レバカリ改正スルト云フコトナ  
 ラバサウデアリマセウガ、牽耕シテ居ルノデアリマスカラ、議案全體ニ對シテハ反對ヲ表シテ居リマ  
 ス、ソレカラ最モ其反對ヲ表シタルハ附則中ノ改正、明治四十四年四月一日以前ノ人ニモ、此軍人恩給  
 法ノ恩惠ニ浴セシムルト云フコトハ、其金額ガ凡ソ三百萬圓前後ノモノデアッテ、ナカク、大金デ今  
 日ノ財政上之ヲ承諾スル——贊成スルト云フコトハ、財政ノ上カラ甚ダ困難デアアル、新舊ニ依テ恩惠ヲ  
 異ニスルト云フコトハ甚ダ面白クナイカラ、此改正ノ主義ニハ贊成ヲ表スルケレドモ、財政上實施ノ出  
 來ヌモノデアアルカラドウシテモ承諾スル譯ニイカナイ、贊成スル譯ニイカナイ、斯ウ云フ理由ヲ以テ反對ノ  
 意思ヲ表示サレタノデアリマス、併ナガラ委員會ニ於テハ假令政府ノ右様ノ反對アルニ拘ラズ、如何  
 様ニカ此金額ヲ求メテ、サウシテヤハリ新舊同一ノ恩惠ニ浴セシムルコトガ甚ダ、相當ナコトデア  
 カラ、是非此法律ヲ唯今御報告シタ通りニ決定シタイ、斯ウ云フノデ、委員會ニ於キマシテハ政府ノ反對  
 ガアルニ拘ラズ、全會一致ヲ以テ可決致シマシタルデアリス、ドウカ本會ニ於キマシテモ、十分御討議ノ



上ニ御賛成アラムコトヲ願ヒマス、委員會ノ經過ハ概略右ノ通りデアリマス  
別ニ討論ナク院議ニ案共ニ第二讀會ヲ開クニ決ス

越エテ同月十日三案ヲ一括シテ其ノ第二讀會ヲ開キ高木正年君外十名提出案ヲ議題ト爲シ野村嘉六君  
ハ同君提出修正案ニ付趣旨ヲ辯明セリ

(野村嘉六君提出修正案)

軍人恩給法中左ノ通改正ス

第十條第一項中「軍人前條ニ該當スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキノ現」ヲ「第六條ノ規定ニ  
依ル」ニ、同項第一號中「戰鬪ノ爲メ」ヲ「戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因リ」ニ改ム  
第十四條第一號中「戰鬪ノ爲メ」ヲ「戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因リ」ニ改ム  
第十五條中「前條ニ該當スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ」ヲ「現役ヲ離レ」ニ改ム  
第十八條第七號中「及北海道移住ノ際定規ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒」ヲ削ル  
同條ニ左ノ一號ヲ加フ

八 北海道ニ移住ノ際定規ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒ニシテ從軍シ若クハ屯田兵村監視又ハ  
屯田兵部隊附トナリ軍隊ノ常務ニ服シタルトキハ其日數

第二十七條第一號ヲ左ノ如ク改ム

一 戰死シ又ハ戰鬪若クハ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍ノ爲メ死歿シタルトキ  
第二十七條ノ二 第十條、第十四條及前條ノ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍ニ關シテハ勅令ノ定ム

ル所ニ依ル

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條ノ改正規定ハ本法施行前ニ現役ヲ離レタル者及現役中又ハ現役ヲ離レタル後死歿シタル者  
ニモ之ヲ適用シ本法施行ノ日ヨリ本法規定ノ恩給金額ヲ給ス

前項ノ規定ニ依リ扶助料ヲ受クル者權利消滅シタル場合ニ於テ轉給ヲ受クヘキ者ニ給スヘキ扶助料  
ノ金額ハ本法ニ依ル

本法施行ノ際現ニ退職恩給、免除恩給、增加恩給又ハ扶助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ權利ヲ有スル者ニシ  
テ本法規定ノ恩給金額ヲ受ケサル者ニハ各人ノ受ケ又ハ受クヘキ金額ニ該金額ト本法規定ノ金額ト  
ノ差額五分ノ一ヲ本法施行ノ日ヨリ毎年遞次増額併給シ本法規定ノ金額ニ達セシム

陸軍武官傷痍扶助及死亡ノ者祭葬並其ノ家族扶助概則、海軍退隱令又ハ陸軍武官恩給令ニ依リ扶助  
料、退隱料又ハ恩給ヲ受クル者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ現ニ各人ノ受クル金額ニ該金額ト  
本法規定ノ金額トノ差額五分ノ一ヲ本法施行ノ日ヨリ毎年遞次増額併給シ本法規定ノ金額ニ達セシ  
ム

前二項ノ規定ニ依リ扶助料ヲ受クル者權利消滅シタル場合ニ於テ轉給ヲ受クヘキ者ニ給スヘキ扶助  
料ノ金額ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第五項ノ規定ニ依リ本法規定ノ恩給金額ヲ受クル者ノ遺族ニ給スヘキ扶助料金額ニ付テハ第五項ノ



野村嘉六君ノ趣旨辯明

私ガ修正ヲ致シマスノハ二ツノ理由ニ基クノデアリマス第一ハ法文ノ體裁順序文字ノ使用方法ニ於テ修正ヲ致シマスノト第二ハ此案ノ内容實質ニ付テ修正ヲ致スノデアリマス内容實質ヲ修正致シマス以上ハ從テ法文ノ修正ハ當然付イテ廻ハルコトデアリマス本法中第十條第一項中ニ「軍人前條ニ該當スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキノ現」ヲ第六條ノ規定ニ依ル」ト改メマシテソレカラ同項第一號中「戰闘」ノ下ニ「又ハ之ニ準スヘキ公務」ヲ加フトアルノヲ戰闘ノタメヲ「戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務」ヲ加フトアルノヲ戰闘ノタメヲ「戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務ニ依ル」ニ改ムルノデアリマス第十四條第一號中モヤハリ「戰闘」ノ下ニ「又ハ之ニ準スヘキ公務」ヲ加フトアルノヲ戰闘ノタメヲ「戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務ニ依ル」ニ改ムルノデアリマスソレカラ第二十七條第一號ヲ左記ノ如ク改ムルノデアリマス「一戰死シ又ハ戰闘若クハ戰闘ニ準スヘキ公務ニ因リ傷痍ノ爲メ病歿シタルトキ」ト此中デ茲ニ戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務ト云フ動詞ヲ戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務ト改メタノデアリマスソレカラ戰闘ノタメトアル爲トハ「ト云フ此代名詞ヲ「戰闘」ト云フ普通名詞ニ改メタノデアリマス」ト改メタノデアリマス是ハ何ノ爲デアルカト云フ動詞ヲ戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務ニ因ルト改ム、則チ「タメ」ト云フ動詞ヲ「因ル」ト云フ動詞ニ致シマシテ又ト云フ代名詞ヲ戰闘ト云フ普通名詞ニ改メタノデアリマス是ハ何ノ爲デアルカト云フト同一ノ法律中ニハ同ジ文字ヲ使ヒタイト云フノデアリマス統一ヲ圖ッタノデアリマスソレカラ又「タメ」ト云フ字ヲ「因ル」ト改メマシタノハ是ハ法文ニ始終使ヒマス所ノ語呂ヲ滑カニスルタメニ使ッタノデアリマス更ニ第二十七條ニ一項設ケマシテ「第十條第十四條及前條戰闘ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル」斯ウ云フ新シイ條項ヲ設ケタノデアリマス是ハ一昨日村松委員長カラ戰闘ニ準スヘキ公務ニ於ケル傷痍ノ範圍ガ明確ニナラヌ委員會ハ此點ヲ明確ニスルタメニ或ハ飛行機カラ落チテ傷痍ヲ受ケタ人又ハ潛航艇ニ乗ッテ傷痍ヲ受ケタ人或ハ雪中行軍ニ往テ傷痍ヲ受ケタヤウナ人ニシテ委員會デハ列記事項ヲ列ベ立テマシタガ其事ハ勅令ニ讓ルト云フ話ニナッタノデアリマス故ニ村松委員長ノ委員會ニ於テ述ベラレタル經過ヲ本員ハ茲ニ明確

ニスルタメニ勅令ノ定ムル所ニ依ルト云フ一條ヲ加ヘタ譯デアリマス是カラハ内容ニ關スル修正ニ屬スルノデアリマス「本法ハ大正六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス」トアルノヲ「本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」ニ修正致シタノデアリマス内容ノ修正ノ理由ト法文ノ修正ノ事項ヲ申上ゲテ後ニ簡單ニ別項トシテ申上ゲル考デアリマス此項目中ニ二項ノ次ニ更ニ一項ヲ加ヘマシテ「前項ノ規定ニ依リ扶助料ヲ受クル者權利消滅シタル場合ニ於テ轉給ヲ受クヘキ者ニ給スヘキ扶助料ノ金額ハ本法ニ依ル」ト云フ新ラシキ項目ヲ設ケタイノデアリマス此十八條ノ規定ハ是ハ北海道ノ屯田兵ニ關スル規定デアリマスカラシテ稍々他ノ恩給トハ性質ヲ異ニシテ居リマスソレデアアルカラソレニ伴フ所ノ事項ヲ明確ニスルタメニ本項ヲ設ケタノデアリマスソレカラ次ノ項目ノ「本法規定ノ恩給金額ヲ受ケサル者ニハ本法施行ノ日ヨリ本法規定ノ恩給金額ヲ給ス」トアル「本法施行ノ日ヨリ本法規定ノ恩給金額ヲ給ス」トアルト考ヘマスカラシテ此削リタル跡ニ「各人ノ受ケ又ハ受クヘキ金額ニ該金額ト本法規定ノ金額アルト考ヘマスカラシテ此削リタル跡ニ「各人ノ受ケ又ハ受クヘキ金額ニ該金額ト本法規定ノ金額ト願フタノデアリマス」次ノ條項モ同條ト同ジクヤハリ「本法施行ノ日ヨリ本法規定ノ金額ヲ給ス」トアルヲ削リ其跡ニ「現ニ各人ノ受クル金額ニ該金額ト本法規定ノ金額トノ差額五分ノ一ヲ本法施行ノ日ヨリ毎年遞次増額併給シ本法規定ノ金額ニ達セシム」ト斯ウ改メタイノデアリマス從ッテ「前項ニ依リ扶助料ヲ受クル者權利消滅シタル場合ニ於テ其遺族ニ給スヘキ扶助料ノ金額ハ總テ本法ノ規定ニ依ル」トアルヲ削リ「前二項ノ規定ニ依リ扶助料ヲ受クル者權利消滅シタル場合ニ於テ轉給ヲ受クヘキ者ニ給スヘキ扶助料ノ金額ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス」ト斯ウ致シマシテ次ギノ項ニ於テハ「第五項ノ規定ニ依リ本法規定ノ恩給金額ヲ受クル者ノ遺族ニ給スヘキ扶助料金額ニ付テハ第五項ノ規定ヲ準用ス」ト改メ、則チ原案ノ第四項トアル「四」ノ字ヲ削リ「ノ規定」ノ三字ヲ加ヘ、後段「本法ノ規定ニ依ル」ヲ削ルノデアリマス第一文字ノ修正ニ付テノ理由ハ再ビ申上ゲマセヌ、此内容ノ修正ニ付テ一言申上ゲタイノデアリマス明治四十四年四月一日カラ施行サレマシタ所ノ軍人恩給法ハ其前ニ恩給ヲ受クル所ノ者ニハ特典ガ及ベヌコトニナツテ居ルノデアリマスソコデ前ニ受クル者ト後ニ受クル者ト同ジク功勞ノアルニ拘ラズ金額ニ差等ヲ設クルノハ不都合デアルト云フ理



由ノ下ニ、屢々本院ニ請願其他ノ方法ヲ以テ是ガ統一公平ヲ保ツコトニ努メラレタノデアリマス、本案提出ノ理由モ亦是ト同一デアリマスガ、私ハ此場合ニ於キマシテ二ツノ理由ガアルト信ズルノデアリマス、ソレハ單ニ明治四十四年四月一日以前ノ恩給者ト以後ノ恩給者ト金額ノ相違、即チ不公平ヲ公平ナラシムルト云フ所ノ趣旨ト、今一ツハ恩給金額其物デハトモ今日ノ生活状態ヲ維持スルコトノ出來ナイト云フ二ツノ理由ニ基イテ居ルノデアアルト信ジマス、第一ノ理由タル單ニ不公平論、即チ前キノト違フテ居ル、金額ガ少ナイカラト云フダケノ理由ニ付キマシテハ強イテ公平ニセヨト申シマスナラバ、四十四年以後ノ金額ヲ引下ゲレバ公平ヲ保ツコトニナルト云フ議論ガ出ルカモ知レマセヌ、サリナガラ一旦既ニ恩給トシテ増加ノ恩典ニ浴セサセタモノヲ、今更引下グト云フコトハ道理上許スコトデナイノデアリマス、ソレデアリマスカラシテ同ジク恩給ノ増加ト云フコトハ必要デアリマス、論旨ハ主ニ公平ヲ缺クト云フノガ主ニナツテ居ルノデアリマス、之ニ付テ實例ヲ申上ゲマスト云フト、例ヘテ見マスト云フト、陸軍大將ノ恩給ハ千八百圓カラ二千九百七十圓マデ、アリマス、ソレカラ四十四年ノ三月マデハ陸軍大將ノ恩給ハ千五百圓カラ二千六百餘圓デアリマシタ、斯ノ如キ大將側ニ於キマシテハ多大ノ恩給金ヲ貰フテ居ルノデアアルカラシテ、此人等ハ今恩給ガ無ケレバ困ル、改正シナケレバ困ルト云フ理由ノ下ニ此改正ヲ迫ラレルノデハナクシテ、法ノ均一ヲ保ツト云フ上ニ於テ、此改正ヲ望マレルモノデアラウト信ズルノデアリマス、二千六百圓カラノ金デアアルト云フト、普通文官ノ高等官三等ノ人ノ日々勤メテ居ル所ノ俸給ニ該當スルノデアアル、此恩給ハ御承知ノ通り遊ンデ居テ貰フノデアアルカラシテ誠ニ好都合ニナツテ居ル、此上ニマダ増加シナケレバナラヌト云フトハ、其人ノ地位身分ヲ維持スル意味ヨリハ法ノ公平ヲ保ツト云フ意味ニ於テ成立タモノデアラウト思フノデアアル、第二ハ——此レトハ違ヒ即チ兵卒デアアル、是ハ氣ノ毒デアアル、兵卒ハドレ程デアアルト申シマスルニ、恩給増加ガ入りマシテ漸ク一年ニ七十圓デアアル、御承知ノ通りニ恩給増加ハ負傷ノ時デナケレバ貰フコトハ出來ナイノデアアル、而モ其負傷ハ簡易ノ負傷デナクシテ、手ヲ一本無クスルカ、足ヲ一本無クスルカ、兎モ角モ普通ノ仕事ニ從事スルコトノ出來ナイ廢疾者デナケレバ受クルコトハ出來ナイノデアアル、斯ノ如キ者ニ向ッテ僅ニ年額六十圓ヤ七十圓ノ些々タル金、デドウシテ生活ヲ維持シテ行カレルデアアリマセウカ、私ハ是等兵卒並ニ下士以下ノ人ニ對シテハ、多大ノ同情ヲ有ッテ

居ルノデアリマス、私ノ眞ニ増給ヲ要スルノハ此點デアアルノデアアル、此點ニ付キマシテハ私トシテハ委員長ノ報告以上ニマダウント殖ヤシテヤリタイ考デアアル、先日林毅陸君ハ恩給法以外ニ於テ相當ナル法律ヲ拵ヘテ、一萬五六千餘アル廢兵ヲ救済スルト云フ所ノ法案ヲ提出サレタノデアリマス、私モ此案ハ頗ル良イ案デアラウト信ジテ居ル次第デアアル、以上ノ次第概要申シマスルト云フト、二ツノ理由ニ基イテ恩給ノ増加ヲ請求スルコトニナツテ居ルノデアアル、所ガ委員會ノ經過ハ御承知ノ通りニ政府ハ今日財源ガ無イト云フノデアリマス、之ヲ實行スルニハソレナラバドレダケノ金ガ要ルト斯ウ申シマスルト、二百二十萬ノ金ガ要ルサウデアリマス、今日ノ政府ノ財政状態デドウシテモサウ云フ多額ナ金ガ出來ナイト云フコトデアアルノデアリマス、ソレナラバ見ス、政府ノ反對ヲ受ケ、之ヲ貴族院ヘ送ッテ或ハ萬ニ通過スルカモ知レマセヌケレドモ、財源ノ無イト云フコトヲ明示シテ政府ガ反對スル以上ハ、私ハ十中ノ九マデハ貴族院ニ於テ通過ハセスト思フノデアリマス、萬一ソレデアリマシタナラバ實ニ此下士卒、遺族ヤ廢兵ヤニ對シテ氣ノ毒デアアル、其所ニ於キマシテ本員ハ此緩和策ヲ圖ル爲メニ此修正案ヲ提出シタノデアリマス、此修正案ハ三百萬圓ヲ一年ニ六十萬圓宛殖ヤシテ行クノデアアル、サウ致シマスルト云フト、五箇年目ニハ三百萬圓ニ達スルノデアリマス、金額ハ少ナイガ政府ノ意見ヲ聞キマスルト云フト、年々六十萬圓程ナラバ何トカ都合シテサウシテ是等憐ムベキ所ノ者ニ對シテ此法ヲ實行スルト云フトデアアルノデアリマス、私ハ此點ニ付キマシテ政府ノ意見ヲ聞クト云フト、政府ハ大正六年カラ此修正案ヲ實行シテサウシテ五箇年目ニハ全額ニ達シサセルト云フトデアリマスカラシテ、原案ノ如ク通過スレバ宜イガ、十中九マデモ通過セヌ所ノ案ヲ提ゲテ聞フヨリモ、寧ロ政府ノ同意シテ正確ナリト信ズル實行ノ出來得ベキ案ニ依ッテ、サウシテ幾分ナリトモ彼等下級軍人ニ對シテ安心ヲ與ヘタ方ガ、私ハ議員ノ職責デアラウト斯ウ信ズルノデアリマス、故ニ本案ヲ提出シタ次第デアリマス、恐ラク政府當局者モ本會ニ於テ本員ノ修正シマシタ意思ニ基イテノ御聲明ガアルコト、信ズルノデアリマス

柏原文太郎君及高木正年君ハ質疑ヲ爲シ武富大藏大臣之ニ應答シ別ニ討論ナク表決ニ及ヒ議長ハ先ツ野村嘉六君提出修正案ヲ表決ニ付ス院議全會一致ヲ可決シ引續キ第三讀會ヲ開キ第二讀會決議ノ通



本案ヲ修正議決セリ而シテ(一)及(三)兩案ニ關シテハ以上ノ決議ノ結果其ノ議決ヲ要セサル旨議長之ヲ宣告セリ即日本案ヲ貴族院ニ送付シタルモ同院ノ議決ヲ經ルニ至ラサリキ

四 地租條例中改正法律案

地租條例中左ノ通改正ス

第一條第一項中「田畑地價百分ノ四箇五」ヲ「田畑地價百分ノ四箇」ニ改ム  
同條第二項中「田畑地價百分ノ三箇二」ヲ「田畑地價百分ノ三箇」ニ改ム

附 則

本法ハ大正五年度分ヨリ之ヲ施行ス

四年十二月一日中山梅治郎君外二名之ヲ提出ス同月八日本案ノ第一讀會ヲ開キ(七日延會)提出者(藤井善助君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

地租條例中改正法律案ノ理由ヲ申述ベマス、本案ハ屢當議場ニ現ハレマシテ、其都度説明ガ繰返ヘサレテ居ルノデアリマスカラ、此處ニ詳細ナル説明ヲ致シマスコトヲ避ケマシテ、私ハ最モ簡單ニ茲ニ重ネテ提案ヲ致シマシタ趣旨ヲ辯明致シマス、本案ハ現行地租條例中第一條第一項ニ於テ「田畑ノ地價百分ノ四箇五」トアリマスノヲ「百分ノ四箇」ニ改メ、同條第二項ニ於キマシテ「田畑地價百分ノ三箇二」トアリマスノヲ「百分ノ三箇」ニ改メ、何レモ大正五年度分ヨリ實施シタイト云フノガ本案ノ趣旨デゴザイマス、本案ハ前々議會ニ於キマシテモ、前議會ニ於キマシテモ是ト同一ノ案ガ提出サレタノデアリマス、前々議會ニ於キマシテハ、未ダ審議ニナラズシテ議會ガ解散トナリ、前議會ニ於キマシテ

ハ委員ニ付託サレマシテ他ノ是ト同様ノ案ト共ニ委員會ヲ開クコト數回デアリマシタガ、決議ニ至ラズシテ會期ガ終了致シタ次第デアリマス、併ナガラ本案ノ必要ヲ今ニ於テ少シモ減退セザルノミナラズ、而モ寧ロ却テ其急要ニ迫マラレツ、アルノデゴザイマス、御承知ノ通り近年米價ガ非常ニ低落ヲ致シマシタガタメニ、我國ノ最モ多數ノ生産ヲ致シマス所ノ農民ハ、殊ニ疲弊困憊其極ニ陥リ、農村ノ衰頹萎靡ノ状態ハ洵ニ言フニ忍ビザルモノガアルノデゴザイマス、曩ニ是ガ救濟ノ一端トシテ、米價調節ノ應急策ガ施サレマシタケレドモ、其方法ノ宜シキヲ得マセズシテ其實效ノ奏セザリシコトハ、諸君御承知ノ通りデゴザイマス、此時ニ於テハ此農民ノ苦痛ヲ救ヒ、此農民ノ負擔ヲ輕減致シマス上ニ於キマシテ、此地租ヲ輕減致シマスコトハ、最モ適切ナ方法デアアルト確信ヲスルノデゴザイマス、政府ニ於キマシテモ所謂民力休養ノ第一著手トシテ、國民ニ對スル公約ヲ實行セラル、トコロノ誠意ヲ表示セラレ、此案ノ實行ニ至ラムコトヲ同意サレムコトヲ望ムノデゴザイマス、殊ニ本年ハ、我國家無上ノ御大典ヲ舉行サレマシタ時ニ方リマシテ、古來御即位ノ大禮ヲ舉ゲサセラル、場合ニ方リマシテ、普ク國民ニ賦役ヲ免除シテ、仁政ヲ施サル、トコロノ嘉例モ往々アルノデゴザイマスカラ、此場合ニ於テ一大仁政ヲ施サレテ、此農民ヲ苦痛ヨリ救フト云フコトニ至リマスルヤウニ、本案ノ實行ニ至ランコトヲ切望スル次第デゴザイマス、願クバ滿場ノ諸君ニ於キマシテモ、一致ヲ以テ御贊同下サレテ、本案ノ速ニ可決確定サル、コトニ至ランコトヲ希望致シマス

次テ本案ハ議長指名(十八名)ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ翌九日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ニ著手シタルモ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

五 營業稅法廢止法律案

營業稅法ハ之ヲ廢止ス

附 則

本法ハ大正五年五月一日ヨリ之ヲ施



四年十二月一日高木益太郎君外二名之ヲ提出ス 同月八日本案ノ第一讀會ヲ開キ(七日延會) 提出者(高木益太郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

營業稅廢止ノ理由ハ屢當壇上ニ於テ訴ヘタトコロデアリマスカラ、茲ニ三四分間大體ダケヲ申上グルニ止メテ置キタイノデアリマス、所得稅ノ以外ニ國民ノ一部階級ノミニ負擔セシムル所ノ營業稅ハ、惡稅中ノ最大惡稅デアツテ、營業上損失ヲ被ツタ場合ニ於テモ、之ヲ負擔セシムルノデアリマス、稅ハ收入ニ賦課スベキモノデアアルノニ、收入ノナイ場合ニ於テ負擔セシムルトコロノ惡稅デアリマスカラ、租稅ノ根本原則ニ反スルモノデアアル、從ツテ立憲ノ今日、是ガ存在ヲ認ムベキモノデアハナイ、又課稅標準及其徵收ノ方法モ共ニ煩瑣デアツテ、慘忍酷薄ヲ極メ、是ガ爲ニ營業上ノ秘密ヲ發イテ、商工業ヲシテ萎靡衰頹ヲセシムルトコロノモノデアリマス、又廣ク商工業者以外ヲ見テモ、國民全體ノ生活費ヲバ過重セシムルトコロノモノデアリマス、本案ハ一日モ早ク之ヲ實行ヲシテ、營業稅廢止ヲ求ムル次第デアリマス、唯茲ニ財源ガドウデアアルカ、斯ウ云フ御論ガアルカモ存ジマセヌガ、是ハ何レ國民黨ノ豫算委員ヲ代表スル人カラ豫算討議ノ際ニ國民黨ノ大正五年度豫算ノ削減意見ヲ述ベル際ニ委シク申上ゲルノデアリマスガ、大體ニ於テ今日ノ政府ノ施設ノ上ニ、官僚主義形式主義ト云フモノガ甚クアツテ、根本ニ此政治ノ改良ヲ叫バナケレバナラヌ必要ノアルト云フコトハ、何人モ認メテ居ルトコロデアアル、既ニ根本的ニ此改革ヲスル必要ガアルト云フコトハ、爭ハレヌ以上ハ、政府ノ歳出ガドノ位デアアルカト云フコトヲ見ルト云フコト、昨日先輩ノ武富時敏君ガ大藏大臣トシテノ御演說ヲ伺フト、大正五年度ノ歳出ハ五億五千三百萬圓デアアルト云フコトヲ仰セニナツタノデアリマス、併ナガラ吾々ハ此帝國議會ニ來テ、イツモ大藏大臣ノ説明ヲ聞イテ疑フノハ、此國家財政ノ大體ヲ話スト云フコトノ御說デアアルニモ拘ラズ、單ニ一般會計ノミヲ示シテ、特別會計ト云フモノニ就テ説明シテナイ、國民ノ出スト云フ點、國家ノ歳出ト云フ點カラ言ヘバ、一般會計デアラウト、特別會計デアラウト、唯政府ノ出スト云フ點、斗ガ違フダケデアツテ、國家ガ之ヲ費消スルト云フ點ニ於テハ、同様デアアル、然ルニ大藏大臣ハ此五億五千三百萬ナドト云フ一般會計ダケヲ國民ニ知ラセテ、特別會計總額ヲ知ラ

セナイ、是ハ國民ノ誤解ヲ招ク基デアアル、日本ノ歳出ハ五億五千三百萬位デアラウカト、專門家デナイ以上ハ往々誤解ヲ招クノデアアル、ソコデ唯今大藏省ニ行ツテ、一般會計ト特別會計ト總額ハドノ位デアアルカト質問シタ所ガ、十二億四千八百三十四萬三千六百三十五圓デアアル、斯ウ云フ回答ニ接シタデハ、日本ノヤウナ貧乏ノ國ガ、毎年々々十二億内外ノ金ト云フモノヲ出シテ居ルト云フコトハ、疑ヒハナイ、勿論此内ニ一般會計ト重複スルモノガアルカラ、純歳出ハドノ位デアアルカト云フコトヲ聞イタ所ガ、大藏省ハマダソレニ對シテハ答辯ガ出來ナイ、何レ調査ノ上差上ゲマセウト言フノデアアル、吾々ノ方デモ算盤ヲ執ツテ一般會計特別會計ヲ合セテ見タイト思ツテ居ルガ、昨日豫算案ヲ貫ツタダケデアリマスカラ、此合計額ヲ調べル邊ガナイノデアリマス、何レ此額ト云フモノハ、九億内外デアアルト云フコトハ疑ヒナイト思フ、國民黨ガ大正四年度ノ豫算ニ就テ一般會計特別會計ヲ勘定シテ見ルト云フアラウト考ヘル、サウスレバ先ヅ大體カラ見渡シテ今日ノ政治ノヤリ方ト云フモノハ、何レヲ見テモト、純歳出ガ九億圓以上ニナツテ居ルトデアアル、本年度ニ於テモ多分八億九千萬カ、或ハ九億萬圓位デアラウト考ヘル、サウスレバ先ヅ大體カラ見渡シテ今日ノ政治ノヤリ方ト云フモノハ、何レヲ見テモ形式主義官僚主義バカリデアアル本當ニ此政府ノ九億萬圓ノ歳出ガ國民全體ノ爲ニナツテ居ルカドウデアアルカ、勿論吾々ト雖モ眞ニ國家ノ發展ノ爲ニナルト云フコトデアアレバ、幾ラ租稅ヲ負擔シテモ決シテ之ヲ辭ム譯デハナイ、併ナガラ若シ形式ニ走ツタリ、官僚主義ニ走ツテ、無駄ナコトガ澤山アルト云フコトデアッタナラバ、之ニ向ツテハ十分ニ改正ヲ望マナケレバナラヌト云フコトハ當然ナル次第デアアル、ソコデ此九億ノ歳出ノ中ニ於テ一割無駄ナコトヲ廢スルト云フト、ドノ位ノ金ガ出ルカト云ヘバ、九千萬圓出ル、然ラバ三十分ノ一ハ幾ラデアアルカト言ヘバ三千萬圓、三千萬ノ金ガアレバ營業稅ノ全廢モ出來ル、通行稅ノ廢止モ出來ル、地租ノ輕減モ出來ル、ソレガ出來ルカ出來ヌカト云フ算數ニ就テノ細イ所ハ何レ豫算委員會ノ總會又ハ分科ノ會デ論ズルノデアアルガ、大體ドウデアアルカ今日ノ政治ノ組織ハ根本的改良シナケレバナラヌト云フ方針ヲ持ツタナラバ、三十分ノ一ノ儉約ガ出來ルカ出來ヌカト云フ問題ニナルノデアアル、サウシテ之ヲ無駄ニスルノデアナイ、國本ヲ培養シ民力ヲ休養シテ、大ニ此國家經濟ヲ養フト云フ方面ニ向ケヤウト云フノデアリマスカラ、即チ一粒萬倍ノ策デアラ、此策ヲ唯陸軍ヤ海軍ノ擴張ヲ夢ミテ此陸軍海軍ノ費用ノ土臺ヲ造ル民力ヲナゼ休養セヌカト云フコトガ吾々ガ政府ニ對シテ要求スルトコロノ眼目デアアル、先刻モ陸軍省ノ參政官ガ出ラレテ説



明サレタガ、唯陸軍ヤ海軍ノ比較バカリヲ見テ、國民ノ負擔力ノ國際的關係ヲ一向調ベテ居ラヌ、今日ハ總テ此世界ノ大勢カラ割出シテ來ナケレバナラヌ、負擔力ノ國際關係ハドウデアアルカ、今國ノ存亡ヲ賭シテ戰フ所ノ英吉利ガ、アノ戰ヲヤツテ居ルニ拘ラズ、營業稅ヲ課シテ居ルカ、成程所得稅ハ増シマシタ、御承知ノ通り所得稅ハ半額以上モ増額ヲシタケレドモ、是ハ所得ガアツテ取ルノデアアルカラ當然デアアル、營業稅ハ所得ガ無クトモ取ルノデアアル、英吉利ノ彼ノ富シタル國ニ於テ其國家存亡ヲ爭フ場合ニ於テスラ營業稅ナルモノハ、英吉利ニ於テハ課シテハ居ラヌデハナイカ、然ラバ敵ノ獨逸ノ普魯西ハドウデアアルカト云フト、國稅ノ營業稅ハ今日ニ於テモ無イデハナイカ、彼ノ聯合國ニ攻メラレテ今日倒レルカ明日倒レルカト云フトコロノ普魯西ニ於テスラ國稅ノ營業稅ガ無イデハナイカ、然ルニ我國ハドウデアアルカ、非常特別稅ヲ永久稅ニセラレテ、サウシテ國家興隆ノ基礎タルトコロノ商工業者ガ非常ナル苦シミヲヤツテ居ルト云フトハ、如何ニモ同情ニ値スルコトデアアルト吾々ハ信ズルノデアアリマス、又佛蘭西ハドウデアアルカ、佛蘭西ハ所得稅ト云フモノハ無イデハナイカ、然ルニ日本ノミ國際的ノ研究ヲシナイデ、サウシテ國民ノ負擔バカリ重クシテ誅求バカリ重ネラレルト云フトデアアッタナラバ、ドウシテ日本ノ商業工業ヲ世界ニ發展スルコトガ出來ルデアアリマセウカ、是ハ私ハ疑モナイ事柄デアアルト信ズルノデアアリマス、ソコデ今日ハ洵ニ悅ブベキ時代デアアリマシテ、前迄ノ議會デゴザイマスレバ大藏大臣ハ官僚出身ノ大臣デアッタ、而モ此官僚出身ノ大臣ハ大藏省ノ屬僚時代ニ、自分デ營業稅法ヲ立案シテ、サウシテ此前ノ前ノ戰爭時代以來、今日マデ此營業稅法ニ依ツテ國民カラ稅ヲ誅求シテ來タ人ナデアアル、其人ニ向ツテ前非後悔ヲシテ此營業稅ヲ廢止シロト云フトコトヲ追ルノハ、些カ難キヲ責ムルヤウナ感ヲ持ツ、然ルニ今日ノ大藏大臣ハサウ云フヤウナル歷史的ノ事情ハ全ク無イ——無イノミナラズ、嘗テ我國民黨ニ在ッテ吾々ニ向ツテ營業稅ノ廢止ハ民力休養ノタメニ必要デアアルト云フト唱ヘラレタ、而モ此壇上ニ於テ、第三十一議會ニ武富時敏君ガ營業稅廢止提案ノ說明者トシテ演說ヲセラレタ、何ト仰セニナツテ居ルカト云フト、「大正三年度カラ直チニ營業稅ノ二千六百萬圓ト通行稅ノ四百有餘萬圓ヲ廢止シテ、政府ノ財政ニ於テ何等差支ナイト云フトコトヲ吾々ハ確信スルノデアアリマス」ト斯ウ議事録ニ特筆大書セラレテ居ルガ如クニ、此壇上ニ於テ仰シヤッタ言葉ト云フトモノハ、七千萬ノ國民悉ク記憶シテ居ルノデアアリマス、ソレ故ニ吾々

ガ丁度此壇上デ此ノ案ニ就テ申上グルノハ、武富君ヲ代表シテ、サウシテ此營業稅廢止ノ提案ノ理由ヲ說明スルノト同様ナ次第デアアルト信ズル、唯今藤井君ノ仰セノ如ク、本年ハ十一月十日ヲ以テ我々天皇陛下ハ曠古未曾有ノ御即位ノ御盛典ヲ舉ゲサセ給ヒシノデアアリマス、洵ニ億兆欽仰シテ、日夜赤誠ヲ捧ゲテ奉祝ヲシテ居ルノデアアリマス、獄中ニ居ルトコロノ罪人スラ恩赦ノ仁惠ヲ蒙ツテ居ルノデアアリマス、此陛下ノ御仁惠ガ四海ニ光被シテ洵ニ國民全體ガ悅ンデ居ル場合ニ於テ、帝國議會ハ良民ニ對シテ、而モ國家興隆ノ基礎タル活動ヲスル國民ニ對シテ、此ノ千載一遇ノ時機ニ於テ多年國民ノ苦痛ニ泣ケル最大惡稅ヲ廢止スルト云フトハ、陛下御仁惠ノ御趣意ニモ適ヒ奉ルトコロノ國家ニ忠ナル所以デアアルト信ズルノデアアリマスカラ、此處ニ此案ヲ提出シテ諸君ノ協贊ヲ求ムル次第デアリマス

次テ本案ハ前號中山梅治郎君外二名提出地租條例中改正法律案ノ委員ニ付託スルニ決シタルモ委員ハ審査ニ著手スルニ至ラサリキ

### 六 會計監查士法案

#### 會計監查士法

##### 第一章 會計監查士ノ職務及資格

- 第一條 會計監查士ハ當事者ノ囑託ヲ受ケ又ハ官廳ノ命ニ依リ左ニ掲グル業務ヲ執行スルモノトス
  - 一 會計事務ノ監查
  - 二 財產狀態ノ檢査
  - 三 財產目錄、貸借對照表、損益計算書其ノ他計算ニ關スル書類ノ調査及證明
  - 四 計算ニ關スル爭議ノ鑑定及仲裁



五 定款及企業目論見書ノ起草

六 會計組織ノ立案

七 不在者ノ財産、無能力者ノ財産、相續財産及破産財團ノ管理

第二條 會計監查士タラムトスル者ハ左ニ掲クル資格ヲ具備スルコトヲ要ス

一 帝國臣民ニシテ三十歳以上ノ男子タルコト

二 三箇年以上會計監查士ノ事務所ニ在テ第一條ニ掲クル業務ヲ見習ヒタルコト

三 經濟學、財政學、會計學、統計學、憲法、民法、商法、破産法、民事訴訟法、非訟事件手續法、租税ニ關スル法規、保險業、銀行業、無盡業、及信託業ニ關スル法規ノ十二科目ニ就キ大學卒業ト同一程度ヲ

以テ執行スル會計監查士試験ニ合格セルコト

四 高等官、貴族院議員、衆議院議員及學識經驗アル者ノ中ヨリ任命スル委員ヲ以テ組織セル會計

監查士證衡委員會ヨリ推薦セラルルコト

第三條 會計監查士試験及會計監查士證衡委員會ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 左ニ掲クル者ハ會計監查士タルコトヲ得ス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者

三 禁治產者及準禁治產者

四 懲戒ノ處分ニ依リ免官又ハ免職セラレタル者ニシテ免官又ハ免職後三年ヲ經過セサル者

第五條 會計監查士ハ報酬アル公務ヲ兼ヌルコトヲ得ス但シ貴族院議員、衆議院議員、府縣會議員ト

爲リ又ハ官廳ヨリ特ニ命セラレタル職務ヲ執行スルハ此ノ限ニ在ラス

會計監查士ハ他ノ職業ヲ營ミ又ハ會社ノ代表者若ハ使用人ト爲ルコトヲ得ス但シ農商務大臣ノ許

可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二章 會計監查士名簿

第六條 會計監查士ハ會計監查士名簿ニ登録セラルルコトヲ要ス

第七條 會計監查士名簿ハ農商務省ニ之ヲ備フ

第八條 會計監查士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ請求書ヲ提出スヘシ

登録請求書ニハ第二條、第四條、第五條ノ事項ニ關スル證明書ヲ添付スヘシ

第九條 會計監查士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ登録手数料トシテ金百圓ヲ納付スヘシ

第十條 登録ニ關スル規定ハ農商務大臣之ヲ定ム

第三章 會計監查士ノ權利義務

第十一條 會計監查士ハ正當ノ事由アルニ非サレハ當事者ノ囑託又ハ官廳ノ命ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條 會計監查士ハ利害ノ關係ヲ有スル事業ノ會計事務ヲ監查シ又ハ之ヲ證明スルコトヲ得ス

第十三條 會計監查士其ノ職務ノ執行ニ關シ囑託人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ會計監查士ノ故意

又ハ過失ニ因リテ生シタルトキハ之ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第十四條 會計監查士ノ職務ノ執行ニ對シテハ刑法中公務員ニ關スル規定ヲ適用ス



第十五條 會計監查士ハ囑託人ヨリ報酬及旅費ヲ受ク

第四章 會計監查士協會

第十六條 會計監查士協會ヲ設立セムトスルトキハ其ノ規約ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ其ノ規約ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十七條 會計監查士協會ヲ解散シタルトキハ之ヲ農商務大臣ニ届出ヘシ

第五章 懲戒

第十八條 會計監查士職務上ノ義務ニ違反シタルトキ又ハ品位ヲ失墜スヘキ行爲アリタルトキハ之ヲ懲戒ニ付ス

第十九條 懲戒ハ左ノ四種トス

一 譴責

二 千圓以下ノ過料

三 一年以下ノ業務ノ停止

四 除名

第二十條 懲戒ハ農商務大臣之ヲ執行ス但シ會計監查士協會ニ屬スル者ノ懲戒ハ其ノ議決ヲ經タル後之ヲ執行スルモノトス

附則

左ニ掲クル者ニシテ本法施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ會計監查士名簿ニ登録ヲ請フトキハ第二條第二

號及第三號ノ資格ヲ要セスシテ會計監查士タルコトヲ得

一 本法公布ノ日ヨリ六箇月以前事務所ヲ設ケ會計事務ノ監査、検査、調査及證明ニ關スル業務ヲ執行セル者

二 五年以上引續キ資本金五十萬圓以上ノ會社ニ在リテ會計主任ノ業務ヲ執リタル者

三 五年以上引續キ資本金百萬圓以上ノ銀行ニ在リテ支配人又ハ支店長ノ業務ヲ執リタル者

四 五年以上判事、検事又ハ辯護士タリシ者

五 五年以上保險業又ハ銀行業ノ監督ニ關スル高等官タリシ者

七 會計士法案

會計士法

第一章 會計士ノ職務

第一條 會計士ハ當事者及利害關係人ノ囑託ヲ受ケ又ハ官廳ノ命ニ依リ事業ノ經營及會計ニ關スル事項ノ調査、整理、検査、監査及證明並爭議ノ鑑定、和解及仲裁ノ職務ヲ執行スルモノトス

第二章 會計士ノ資格

第二條 會計士タラムトスル者ハ左ニ掲クル資格ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一 日本臣民ニシテ民法上ノ能力ヲ有スル成年以上ノ男子タルコト
- 二 會計士試験ニ合格シタルコト

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議及表決 第四項 法律案



三 會計士詮衡委員會ノ詮衡ヲ經タルコト

第三條 會計士試験及詮衡ニ關スル規定ハ農商務大臣之ヲ定ム

第四條 左ニ掲クル者ハ會計士タルコトヲ得ス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者

三 懲戒ノ處分ニ依リ免官若ハ免職セラレタル者又ハ辯護士法ニ依リ除名セラレタル者ニシテ免官免職又ハ除名後三年ヲ經過セサル者

第五條 會計士ハ報酬アル公務ヲ兼ヌルコトヲ得ス但シ帝國議會議員、市府縣會議員ト爲リ又ハ官廳ヨリ特ニ命セラレタル職務ヲ行フハ此ノ限ニ在ラス

會計士ハ他ノ職業若ハ營業ヲ營ミ又ハ會社ノ代表者ト爲ルコトヲ得ス但シ農商務大臣ノ許可ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 本法ノ規定ニ依リ會計士タル者ノ外ハ何人ト雖會計士ノ稱號ヲ用フルコトヲ得ス

第三章 會計士名簿

第七條 會計士ハ會計士名簿ニ登録セララルコトヲ要ス

第八條 會計士名簿ニ關スル規定ハ農商務大臣之ヲ定ム

第四章 會計士ノ權利義務

第九條 會計士ハ正當ノ事由アルニ非サレハ當事者及利害關係人ノ囑託又ハ官廳ノ命ヲ拒ムコトヲ

得ス

第十條 會計士ハ其ノ職務ヲ執行スルニ必要ナル一切ノ帳簿書類等ヲ提供セシメ臨時所要ノ書類計

表ヲ作成セシメ又ハ實地臨檢ヲ爲スコトヲ得

第十一條 會計士ノ職務執行ニ關スル一般ノ規定ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十二條 會計士其ノ職務ノ執行ニ關シ囑託人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ會計士ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ生シタルトキハ之ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第十三條 會計士ハ利害ノ關係ヲ有スル事業ノ經營及會計事項ヲ監査シ又ハ之ヲ證明スルコトヲ得

第十四條 會計士職務上ニ關シ罪ヲ犯シタル場合ハ刑法ノ重キニ依テ處斷ス

第五章 會計士協會

第十五條 會計士ハ便宜各地ニ會計士協會ヲ設立スルモノトス

第十六條 會計士協會ニ關スル規定ハ農商務大臣之ヲ定ム

第六章 懲戒

第十七條 會計士職務上ノ義務ニ違反シタルトキ又ハ品位ヲ失墜スヘキ行爲アリタルトキハ懲戒ニ付ス

第十八條 懲戒ハ左ノ四種トス

一 譴責



二 千圓以下ノ過料

三 三年以下ノ業務停止

四 除名

第十九條 懲戒ハ農商務大臣之ヲ行フ

右兩案ハ(六)四年十二月二日相島勘次郎君外一名(七)同月六日加藤彰廉君外三名之ヲ提出ス同月十一日順次兩案ノ第一讀會ヲ開キ提出者高木益太郎君及加藤彰廉君ハ各其ノ趣旨ヲ辯明セリ

(六)高木益太郎君ノ趣旨辯明

本案ハ一般經濟界ノ安寧ヲ保チ、産業ノ發達ヲ増進スルノ目的ヲ提出致シマシタ、近來此銀行會社ニシテ失態ヲ演ズルモノ多ク、昨日マデ立派ナ看板ヲ掛ケ預金ヲ吸集シタル銀行ガ、今日ハ支拂停止ノ状態ニ陥ツテ、數萬ノ取引先ニ損害ヲ加ヘ、慘害ヲ流ス事實ハ頻々トシテ吾々ノ耳目ニ觸ル、ノデアリマス、斯ノ如キノ失態ハ我國國民經濟ニ惡影響ヲ生ジ、我實業ノ發達ヲ阻害スルコト甚シイノデアリマス、然ルニ一般ノ人ガ銀行會社ノ財政状態ヲ調査スルノハ甚ダ困難ノ事ニ屬シマス、依テ茲ニ會計監査士ヲ設ケテ、政府ニ於テ專門知識經驗ヲ有シ、獨立不羈ノ地位ニアル者ヲ公認シテ銀行會社ノ會計状態ヲ監査シ、且ツ之ヲ公認セシムルノ必要ヲ感ジマス、若シ一時ニ一般ノ商社會社ニ之ヲ實行スルノガ困難デアレバ、少クモ銀行並ニ政府ノ補助ヲ受クルトコロノ會社ニハ、至急之ヲ實行シタイノデアリマス、又追々ハ當ニ商社會社ニ止メズ、赤十字社濟生會愛國婦人會、本願寺等ノ如キ、廣ク寄附ヲ募ル法人團體ニ對シテモ、特志者ガ金ヲ寄附シタキリデ、其後ニ會計ノ監督ヲスル方法ノ備ハラナイモノニモ、之ヲ及ボシタイト云フ精神デアリマス、而シテ是ハ地方官廳ニ於テ寄附募集ノ許可條件中ニ加ヘテ、必ず會計監査士ノ檢査ヲ要スルト云フコトヲ命令スルコトニ致シマスレバ、實行ガ出來ルコト、存ジマス、本條ハ我黨ガ國民經濟保護ノ政策トシテ、屢、本議會ニ提案シタノデアリマス、然ルニ

政府ハ一向閉却ヲシテ、何等今日マデ政策ノ上ニ現レナイ、甚ダ遺憾トスルトコロデアリマス、幸ニモ今回財政經濟ノコトニ於テ、有名ナル加藤彰廉、小林丑三郎、奥村七郎、石橋爲之助ノ四君カラ會計士法案ト云フモノガ出マシテ、吾々ハ甚ダ之ヲ悦ブノデアリマス、私ノ方ニハ會計監査士ト云フ監査ノ文字ヲ使ヒマシタノハ、調査シ監督スルト云フ意味ガ監査ト云フ文字ヲ使ッタノデ、名前ハドウデモ宜シイノデアリマス、十分本案ニ付テハ修正ヲ加ヘマシテ、我黨ガ提案ノ趣旨ヲ貫徹セラレムコトヲ偏ニ希望致シマス

(七)加藤彰廉君ノ趣旨辯明

本案ノ趣旨ハ、第十日程ノ會計監査士法案ト同一ナル趣意、デゴザイマシテ、其内容モ亦大同小異ノモノデゴザイマス、此法案ノ今日必要ナルコトハ、唯今高木君ヨリ明細ニ御演說ニナリマシタカラ、私ハ最早之ヲ繰返ス必要ハナイト存ジマス、併ナガラ此案ノ今日實業界ニ於テ最モ緊要ナル事デアルト云フコトハ、私ハ疑ハナイノデアリマス、今日ノ實業界ニ付キマシテ、一般ノ者ハ稍、不安ヲ懷イテ居ルノデアリマス、即チ投資者ト云フ者ハ今日ノ如ク複雑ナル實業界ニ於テハ、如何ニ其會計ガ取扱ハレテ居ルカト云フコトハ、容易ニ知ルコトガ出來ナイノデアリマス、從ツテ投資ヲスルニ就テハ餘程不安ヲ懷イテ居ルノデアリマス、此不安ヲ除ク爲ニ、茲ニ專門ノ會計檢査ノヤウナ者ヲ置クト云フコトハ實ニ今日ノ時態ニ於テ、事業ヲ發達セシムル上ニ於テ最モ必要ナルコト、信ジテ居ルノデアリマス、ソレ故私ハ既ニ高木君ヨリ御提出ニナツテ居リマスケレドモ、更ニ提出シタ所以デゴザイマス、ドウカ御賛成アラントコトヲ希望致シマス

次テ(六)案ハ議長指名ノ委員ニ、(七)案ハ前委員ニ併セ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ同月十三日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末五年一月三十一日兩案ヲ併合シテ表題ヲ「會計士法案」ニ改メ修正議決ヲ爲シ報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)



會計士法

第一章 會計士ノ職務

第一條 會計士ハ當事者及利害關係人ノ囑託ヲ受ケ又ハ官廳ノ命ニ依リ會計ニ關スル事項ノ監査整理、鑑定、證明、和解、仲裁等ノ職務ヲ執行スルモノトス

第二章 會計士ノ資格

第二條 會計士タラムトスル者ハ左ニ掲クル資格ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一 帝國臣民ニシテ民法上ノ能力ヲ有スル三十歳以上ノ男子タルコト
- 二 會計士試験ニ合格シタルコト
- 三 高等官、帝國議會議員及學識經驗アル者ノ中ヨリ任命セラレタル委員ヲ以テ組織セル會計士  
詮衡委員會ノ詮衡ヲ經タルコト

第三條 會計士試験及詮衡ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 左ニ掲クル者ハ會計士タルコトヲ得ス

- 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
  - 二 破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者
  - 三 懲戒ノ處分ニ依リ免官若ハ免職セラレタル者又ハ辯護士法ニ依リ除名セラレタル者
- 第五條 會計士ハ報酬アル公務ヲ兼ヌルコトヲ得ス但シ帝國議會議員、府縣郡市町村會議員ト爲リ又ハ官廳ヨリ特ニ命セラレタル職務ヲ行フハ此ノ限ニ在ラス

會計士ハ他ノ職業若ハ營業ヲ營ミ又ハ會社ノ代表者若ハ使用人ト爲ルコトヲ得ス但シ農商務大臣ノ許可ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三章 會計士名簿

第六條 何人ト雖會計士名簿ニ登録セラルルニ非サレハ會計士ノ名稱ヲ用キ又ハ職務ヲ執行スルコトヲ得ス

第七條 會計士名簿並登録ニ關スル規定ハ農商務大臣之ヲ定ム

第四章 會計士ノ權利義務

第八條 會計士ハ正當ノ事由アルニ非サレハ當事者及利害關係人ノ囑託又ハ官廳ノ命ヲ拒ムコトヲ得ス

第九條 會計士ハ利害ノ關係ヲ有スル事業ノ經營及會計事項ノ監査又ハ證明ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 會計士其ノ職務ノ執行ニ關シ囑託人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ會計士ノ故意又ハ過失ニ因リテ生シタルトキハ之ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第十一條 會計士ノ職務ノ執行ニ對シテハ刑法中公務員ニ關スル規定ヲ適用ス

第十二條 會計士ハ囑託人ヨリ報酬及旅費ヲ受ク

第五章 會計士協會

第十三條 會計士ハ便宜各地ニ會計士協會ヲ設立スルモノトス

第十四條 會計士協會ニ關スル規定ハ農商務大臣之ヲ定ム



第六章 懲戒

第十五條 會計士職務上ノ義務ニ違反シタルトキ又ハ品位ヲ失墜スヘキ行爲アリタルトキハ懲戒ニ付ス

第十六條 懲戒ハ左ノ四種トス

- 一 譴責
- 二 千圓以下ノ過料
- 三 三年以下ノ業務停止
- 四 除名

第十七條 懲戒ハ會計士詮衡委員會之ヲ行フ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

二月三日兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長川井爲已君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

此會計監查士法案、會計士法案、此二ツハ一絡ニシテ御報告申ス積リデゴザイマス、即チ會計士法案ハ會計監查士法案ハ相島勘次郎君、高木益太郎君、此外御提出デゴザイマシタ、會計士法案ハ加藤彰廉君、小林丑三郎君、外二名ノ御提出デ、此案ハ實業界ニ於キマシテハ非常ニ目下必要ト云フ場合デゴザイマスルニ付キマシテハ、委員會ハ屢々會合ヲ致シ、特ニ特別委員ヲ設ケ尙慎重ニ審査ヲ致シマシ

タ、又政府關係ノ委員ニモ出張ヲ請ヒ交渉ヲ重ネタコトデゴザイマスカラ、種々ノ法案ヲ集メマシテ即チ御手許ニ差上ゲテゴザイマスル法案ニ確定致シマシテ、委員會ハ全會一致ヲ以テ通過ヲ致シタコトデゴザイマス、就キマシテハ議會ニ於キマシテモ全會一致ヲ以テ通過アラムコトヲ希望致シマ

次テ木村平右衛門君ハ委員長ノ報告ヲ補足シ岡農商務省商工局長ハ兩案ニ反對ノ演說ヲ爲ス  
木村平右衛門君ノ補足報告

本員ハ此案ノ成立セラレマシテ、一日モ早く實施セラレムコトヲ熱心ニ希望スル一人デアリマス、委員會ニ於キマシテハ速記録ヲ止メマシタノデ、本會ニ於テ本員ナドノ主張スル所ヲ一層精密ニ申上ゲル必要ガアリマスカラ登壇致シマシタノデアリマス、此案ニ付キマシテハ政府ハ事重大ナルヲ以テ、尙慎重審議ヲ要スルト言ハルノデアリマスガ、慎重審議モ程度ノアルモノデアリマシテ、本員ノ聽ク所ニ依リマスレバ、政府ガ此案ノ調査ニ著手サレタノハ、前年日本醬油株式會社及日本製糖株式會社ナドガ、相次イデ破産ヲ致シマシタ、其時ニ時ノ英國大使故「マゴドナルド」君ガ又株主ノ一人デアリマシテ、數千圓ノ損失ヲサレタノデアアル、氏ハ大ニ激昂シタル結果、我國ニ會計士制度ノナキコトヲ痛ク非難サレタノデアリマス、斯ノ如キコトヲ動機トシテ政府ガ調査ニ著手サレタノデアリマシテ、出來マシタノガ即チ御手許ヘ差上ゲテアリマスル所ノ農商務省公許會計士制度調査書ノ中ノ、明治四十二年十一月ニ出來タ公許會計士制度調査書デアリマス、此調査書ノ三十四頁ニ我國ニ公許會計士制度ヲ設置スルノ必要及百十頁ノ續論ニハ何ガ爲ニ計士ヲ置カナクテハナラヌカト云フコトヲ論ジ盡シテ居ルノデアリマス、即チ會計士ノ必要缺クベカラザルコトヲ此時ニ於テ而モ痛切ニ感ジテ揚言サレテ居リマス、然ルニ六年ヲ經過シタル今日ニ於テ、尙慎重審議ヲ要スルト言ハルノハ、餘リニ慎重ニ過ギルコト、本員ハ信ズルノデアリマス、尙又昨年ノ臨時議會ニ於キマシテハ、特別委員會ニ於キマシテ委員ノ一人ヨリ政府ニ此案ヲ次ノ通常議會ニ於テ政府案トシテ提出セラレムコトヲ希望シタ、政府ハ之ニ對シテ承認ヲ與ヘラレマシタカラ、委員會ハ採決ヲ執ラズシテ此案ヲ保留シタ



ノデアリマス、然ルニ今以テ慎重審議ヲ要スルト言ハレルノデアリマス、本員ハ政府ハ此案ニ付  
 キマシテハ最早十分ナル調査ヲ遂ゲラレテ居ルコト、信ジマス、果シテ表言セラレル如クデア  
 ルトスレバ、是レ出來ザルニアラズシテ爲サバナルナリト云フコトヲ言ヘルカト思ヒマス、尙本案ニ付  
 キマシテ政府ノ御心配ヲセラレテ居ル箇條ハ、大體ニ於テ二ツデアリマス、其第一ハ本案ハ囑託  
 的ノ機關デアアル、強制的ノ機關デハナイカラシテ、我國ノ如キ秘密性ノ國民性ニ於テハ本案ヲ制定ス  
 ルトモ、即チ會計士ヲ設クルトモ之ニ委囑スル者ガ無カラウ、第二ハ會計士ハ深ク秘密ノ鍵ヲ握ルモ  
 ノデアアルカラシテ、専門的智識ヲ要スルト同時ニ、意思ノ強固デ且人格ノ高キ者デナケレバナラヌ、斯  
 ノ如キ人ヲ得ルコトハ頗ル困難デアアル、豫メ此二ツデアリマス、先ヅ第一ノ秘密主義云々ト言ハレマ  
 スルガ、此ノ如キ國民性ハ時勢ト場合、即チ必要ニ依ッテ種々ニ變化スルモノデアリマシテ、昔ハ我國  
 ニ於キマシテモ金ノ貸借ナドハ最モ嚴重ニ且最モ秘密ニ行ハレタモノデアアル、然ルニ今日ハ登記所ニ  
 或ハ公正書ニ公開サレテ居ル、他ニモ斯ノ如キ事ガ幾ラモ例ガアルノデアリマス、縱シ又我事業界ニ  
 於キマシテ多少ノ秘密主義ノ迹ガアルニ致シマシテモ、本來株式會社ノ如キ一般公衆ノ金ヲ集メタ  
 ルモノハ、須ラク公開主義デナケレバナラヌノデアアル、成ルベクダケ公開主義デナケレバナラヌノデ  
 アル、畢竟秘密主義ガ行ハレ、バコソ其間ニ種々ノ不正ガ醸サレルノデアリマスカラ、是ガ監督ノ任ニ  
 アルトコロノ政府トシテハ、努メテ公開主義ニ導ク方法ヲ講ゼナケレバナラヌノデアアル、尙又囑託ス  
 ル者ガナイ云々ト言ハレマス、最モ早我國ニ於ケル事業家及個人經營者及ビ諸々ノ財團法人ナド  
 ノ當事者ハ、政府ガ心配サレルヨリモヨリ以上ニ頭ガ進ンデ居ルト本員ハ信ズル、即チ自ラノ責任ト  
 云フコトヲ最モ能ク解シテ居ルモノト本員ハ思フノデアリマス、先ヅ株式會社ニ於キマシテモ其取  
 締役ノ監督ニ最モ困難ヲ感ズル點ハ、社員ノ不正デアルトカ、或ハ經費ノ濫費ト云フコトデアリマス  
 ルガ、斯ノ如キ點ニ於テ取締ガ全然與リ知ラザル事デアツテモ、萬一會社ガ損失ヲシタナラバ其責任ト  
 云フモノハ悉ク取締役ニ歸スルノデアリマス、ソレデアリマスカラシテ取締役トシテハ、監査役  
 ノ嚴重ナル監査ヲ希望スルノガ、苟モ正義ナル取締役デアル以上ハ當然デアアルノデアアル、監査役ノ嚴  
 重ナル監査ハ或意味ニ於テ取締役ノ責任ヲ完ウスルトコロノ大ナル援助トナルモノデアリマス、然  
 ルニ現今ノ監査役ハドウカ、其責任ヲ完ウシテ居ル者ハ洵ニ少ナイノデアアル、ソレデアリマスカラ

シテ取締役トシテハ此監督ノ困難ヲ減ズルト同時ニ、會社ノ信用ヲ社會ニ高メル爲ノ目的ニ依ッテ、會  
 計士ガ出來タナラバ喜ンデ之ヲ用キナケレバナラヌデアアル、又監査役ニ致シマシテモ自己ノ株主ニ  
 對スル義務、及ビ商法ノ規定ニ於ケルトコロノ嚴重ナル責任ヲ知ラヌ者ハ、無イノデアリマスカラシ  
 テ、自ラ其責任ヲ盡スコトガ足ラヌト信ジタナラバ、苟モ正義ナル監査役デアル以上ハ、會計士ガ出來  
 タラ用キナケレバナラヌノデアアル、又個人ノ經營ニ於キマシテモ其經營ノ規模大ナレバ大ナル程、ソ  
 レダケ其主人公ト云フ者ガ社會カラ歡迎サレルモノデアアル、即チ種々ノ公共的事業ナドニ引出サレ  
 テ居リマスカラシテ、事實ニ於テハ自己ノ營業ヲ完全ニ監督スル暇ノアル者ハ洵ニ少ナイノデア  
 ル、尙又取締役ガ自己ノ會社ノ營業ヲ監督スルヨリモ自己ノ財產ヲ自己ガ監督スルト云フコトノ點  
 ニ付テハ、頗ル困難ナル事情ノアルモノデアリマスカラシテ、個人經營者ニ於キマシテモ會計士ガ出  
 來タナラバ、必ズ喜ンデ之ヲ用キナケレバナラヌノデアアル、尙又辯護士ガ破産管財人ニナリマシタ場  
 合、司法官ガ同シ事ヲ取扱ヒマシタル場合ニ於テモ、専門的智識アルトコロノ會計士ヲ清算其他ノ事務  
 ニ用キルト云フコトハ、最モ便利デ且至當ナル事デアリマス、而シテ唯今申述ベマシタルコトハ、當事者  
 ノ誠意ノアル場合デモ、尙且囑託者ノアルト云フコトヲ申上ゲタノデアリマス、會計士ガナクテ  
 ナラヌ、會計士ニ待タネバナラヌ場合ノアルト云フコトヲ御一考ヲ願ヒタイノデアアル、ソレハ取締役  
 又ハ監査役ノ惡意ノ場合デアアル、即チ不正ノ經營ヲ爲シタル場合デアリマシテ、斯ノ如キ場合ニ於テ  
 株主ガ之ヲ發見シテ、商法ニ於ケル規定ヲ應用シテ之ニ嚴重ナル制裁ヲ加ヘルカ、又ハ會社ノ衰頹ヲ  
 恢復セムト企ツルトキニハ、時既ニ遅クシテ病既ニ膏肓ニ入ッテ復收拾スベカラザル立場ニ在ルコト  
 ガ多イノデアアル、現ニ北濱銀行ノ如キ、又日本興業株式會社ノ如キモ此一例デアリマス、尙又日露戰爭  
 以後ニ於キマシテ、我國ニ企業ノ熱ガ發達シテ、其出來マシタル株式會社ノ數ト云フモノハ、實ニ非常  
 ナルモノデアアル、ソレガ十年ヲ經過シタル今日ニ於テドノ位現存シテ居ルカ、社會ヨリ存在ヲ認メラ  
 レテ、居ルトコロノ株式會社ハ幾ラアルカ、此事ニ付キマシテハ統計的ノ調査ガアリマセヌノデ詳シ  
 イ事ハ申上兼ネマス、先ヅ多クノ人ノ想像ニ依リマス、殆ド十分ノ一カニデアラウト云フノデ  
 アル、後ノ十分ノ八ナリ十分ノ九ナリト云フモノハ、破産ヲ爲シテシマッタカ、或ハ又殆ド破産ニ近イト  
 コロノ状態ニアルモノデアアル、斯ノ如ク一般公衆ノ金ヲ集メタルトコロノ銀行又ハ會社ノ破綻ハ、其



害ノ及ブトコロハ實ニ非常ナルモノデアリマシテ、強盜竊盜ノ横行スル比デハナイノデアアル、或ハ一家ヲ離散シ人ヲ狂人ナラシメ、或ハ人ヲ往々ニシテ殺スノデアアル、一銀行會社ノ破綻ハ五百人乃至數千人ニ及ブトコトガアルノデアアル、更ニ恐ルベキハ、斯ノ如キ事ノ我國民性ニ及ボストコロノ影響デアリマス、今日我國ニ於テ、都會ニ住居致シマシテ株式會社ノ内容ナドヲ十分ナル調査ヲ爲シ、アル人デモ、尙且此株式會社ニ資産ヲ投ズルト云フコトハ、頗ル危險視サレテ居ルノデアアリマスカラ、況ヤ地方ニ住テ調査ノ不十分ナル人、ガ株式會社ニ投資ヲシタナラバ、其中八九ハ失敗ニ終ルノデアアル、是ガタメニ眞面目ナル資産家ガ、眞面目ナル資産家ハ、縱令國家ノ爲メデアアル、或ハ又地方ノ産業ノ發達ノ爲メデアアルト云フコトヲ知リナガラニシテ、尙株式會社ニ投資スルコトヲ避ケテ、公債ノ如キ安全ナルモノニ投資スル傾ガアルノデアアル、所謂個人主義ヲ發揮スルノデアアル、傾クノデアアリマス、斯ノ如クシテ將來トテモ繼續スルナラバ、遂ニハ我ガ國民性ヨリ企業的人格ヲ去ツテ、國力ガ増加致シマシテモ、所謂主トシテ債權國ニナリ終ルノデアアル、主トシテ債權國タル所ノ佛蘭西ト企業ノ盛ナルトコロノ英國ト、何レガ國力ニ於テ國ノ財政ニ於テ強味ガアルカト云フコトハ、今回ノ歐洲戰爭ノ結果ニ依テ明カデアリマス、而シテ主トシテ債權國デアルトコロノ佛蘭西ニハ會計士ノ制度ガナク、企業ノ盛ナルトコロノ英國及米國ハ驚クベキ多數ノ優良ナル會計士ガアルニ見マシテモ、此二者ノ間ニ離ル可カラザル關係ガアルト云フコトハ、明カデアアル、抑、斯ノ如ク事業界ニ於ケルトコロノ危險ヲ一掃シテ、健全ニ誠實ニ事業ヲ經營セシメ、以テ資産家ヲシテ安心シテ資産ヲ投ゼシメ、以テ我國ノ産業ノ發達ヲ圖ルニハ、會計士制度即チ全ク利害關係ヲ離レタルトコロノ監査制度、即チ會計士制度ヲ設ケルヨリ外ニ道ハナイト本員ハ、信ズルノデアアル、尙又人ヲ得ルコトニ付テ困難デアルト言ハレマスガ、此點ニ付キマシテハ、委員會ニ於テ高木益太郎君ハ、我國七千萬人ノ中一會計士ヲ得ルコトガ出來ナイト云フコトガ言ヘヤウカ、此一語ヲ以テ盡キテ居ルノデアアル、本員ト雖モ英國ノ如キ二百五十年來ノ歴史ヲ有ツテ發達シ來リタル英國ノ會計士協會ノ如キモノガ、今直ニ我國ニ現出スルトハ思ハヌノデアアル、併ナガラ英國ニ於テモ一萬人以上、米國ニ於テモ四十八州ノ中會計士ノ制度ノナイノハ僅カニ九州デアアル、其他獨逸ニ於テモ伊太利ニ於テモ、凡ソ文明國ト稱スル國ニシテ此制度無キモノナク、且ツ完全ニ運用サレテ居ルノデアアリマスカラ、獨リ我國ニ於テノミ人ヲ得ルコトガ出

來スト云フコトハ言ヘヌノデアアル、斯ノ如クデアリマスカラ政府ノ御心配セラル、トコロハ悉ク杞憂ニ屬スルコト、存ジマスカラ、滿場一致ヲ以テ本案ヲ可決セラレムコトヲ希望致シマス

岡農商務省商工局長ノ演說

唯今議題トナツテ居リマスル會計士法案ニ付テ、此際政府ノ意見ヲ述ベマス、政府ハ本案ノ可決ニ至ラザルコトヲ望ミマス、其理由ヲ簡單ニ述ベマス、我國ニ於テハ既ニ商法ノ規定ヲ以テ監査役制度ガ認めラレテ居ルノデアリマス、此監査役ガ十分ノ效能ヲ發揮シテ居ルカ若クハ不十分デアアルカト云フコトニ付テハ、各説ガアラウト存ジマスガ、サテ其上ニ今此會計士ヲ設ケタトコロデ、果シテ會計銀行其他ノ會社ガ、自己ノ監査役ガアルニ拘ラズ、ソレヲ差措テ會計士ノ監査ヲ求ムルガ如キコトガアルデアラウカドウデアラウカ、此點ニ付テ政府ハ未ダ確乎タル信念ヲ持テ居ラヌノデアアリマス、又若シ此監査役ガ未ダ其效能ニ於テ十分ナラズトスレバ、問題ハ商法ノ問題トナルノデアアリマス、監査役ノ制度其モノニ付テ今後大ニ攻究ヲ凝サナケレバナラヌト思フノデアアリマス、其他尙此制度ヲ實施致シマスニ付キマシテハ、單ニ各國ノ制度ヲ參酌シテ法律ヲ拵ヘルニ止ラズ、ソレヲ拵ヘタ以上ハ實地實業家ガソレヲ利用スルヤ否ヤ、實業家ノ見地ヨリシテ此制度ヲドウ見ルカト云フガ如キニ付テハ、汎ク實地家ノ意見ヲ徵スル必要モアラウト存ジマス、政府ハ提案者ノ目的トセラル、トコロノ一切ノ會計士制度ノ整理整頓ト云フコトニ付テハ、十分ニ同意ヲ表スルモノデアアリマス、併ナガラ其手段トシテ此會計士ヲ立ツベキヤ否ヤト云フコトニ付テハ、未ダ確信ヲ持ツテ居ラヌ、此理由ヲ以テ今後モ尙政府ハ十分ニ調査ヲ進メ、成ルベク早キ機會ニ於テ其考ヲ極メル積リデハゴザイマスガ此場合ニ於テ本案ニ對シテハ直ニ同意ヲ表スルコトノ出來ナイノハ甚ダ遺憾トスルトコロデアリマス

院議第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通修正議決ヲ爲シ之ヲ確定セリ即日貴族院ニ送付シタルモ同院ノ議決ヲ經ルニ至ラサリキ

八 未成年者飲酒禁止法案



未成年者飲酒禁止法

第一條 營業上酒類ヲ供給スル者ハ未成年者ニ酒類ヲ飲用セシメ又ハ其ノ自用ニ供スルコトヲ知リテ販賣若ハ給與スルコトヲ得ス

第二條 前條ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

附則

本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

四年十二月九日根本正君之ヲ提出ス同月十六日本案ノ第一讀會ヲ開キ(十四日延會)提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ諸君ガ能ク御了解ノ問題デアリマスカラシテ簡略ニ説明ヲ致シマス、全體此未成年者禁酒法案ノ提出セラレマシタ理由ハ、明治三十二年二月ニ於キマシテ、國民教育ニ就テ授業料ヲ全廢ラヌルト云フ建議案ガ、本議場ニ於テ通過シ、又同年ノ十月十九日其結果法律第七號ヲ以テ、小學校國庫補助法案ト云フモノガ、通過サレマシタ、其結果今日政府ハ年々二百萬圓ヅ、全國ノ國民教育ノタメニ依ツテ厚薄ガアリマシタケレドモ、此三十二年ノ法律第七號發布以來、貧富ノ別ナク皆我日本帝國ノ子弟ハ小學校ニ授業料ヲ出サズシテ教育セラルルヤウニナッタ譯デアリマス、即チ其結果英吉利ニ於キマシテモ、千九百一年ニ於テ此兒童ニ就テ禁酒法ガ行ハレ、亞米利加ニ於テハ國法デアリマセヌケレドモ、四十八州ノ中殆ド其半分ト云フモノハ、此教育ノタメニ、其他職工總テノ未成年者ニ對シテ法律ヲ以テ禁ジテ居ルコトデアリマス、故ニ國民教育ノ費用ガ即チ帝國ノ費用ヲ以テスルト云フコトガ原則デアリマスケレドモ、未ダ國庫ヨリハ僅ニ二百萬圓デアツテ全國ノ小學校ノ費用ハ八千萬圓

デアル譯デアリマス、斯ノ如ク地方稅ニシマシテモ亦國費ニシマシテモ、兎ニモ角ニモ法律ノ結果此子弟ト云フモノハ租稅ヲ以テ教育サレルコトガ原則デアリマス、尤モ東京市ノ如キ大阪神戸ト云フヤウナ市ニ於テハ、此法律ヲ完全ニ守ラズシテ、文部省ノ認可ヲ得テ變則ニ尋常小學校ヨリ二十錢或ハ三十錢ヲ徵收シテ居リマスケレドモ、是ハ唯其當時ノコトデアツテ、是ハ法律ニ基クトコロノ問題デアリマセヌ、斯ノ如ク教育ト云フモノヲ國家ガ費用ヲ以テ教育スル以上ニハ、ヤハリ文明國ニアルトコロノ英吉利ノ如ク、又亞米利加ノ如ク子弟ヲシテ満足ニ教育ヲセシムルト云フノガ本旨デアリマス、就キマシテハ即チ未成年者ガ酒ヲ飲ムト云フコトハ、ソレヨリシテ此害ヲ受クルトコロノモノガ少ナイコトデアリマセヌ、殊ニ諸君ガ御承知ノ通り近年ハ不良少年ト云フ者ガ多クナツテ居ル、昨日ノ新聞ニモ十九歳ニナルトコロノ青年ガ、實ニ驚クベキトコロノ罪惡ヲ犯シタト云フコトガアリマス、是ハ何ノ結果デアルカト云ヘバ、即チ此酒ヲ賣ルト云フコトガ明治以前ノヤウニ暖簾ヲ掛ケテ醬油樽ニ腰ヲ掛ケテ居ル様ナ譯テナクシテ、今日ハ何バ、何バト云フテ停留場ノ角ニハ、必ズ酒屋ガアツテ、サウシテ未成年者ヲ毒害スルトコロノ結果ガ實ニ重大ナル關係ヲ我帝國ニ及ボスコトデアリマス、ソレ故ニ此未成年者ヲシテ禁酒セシムルト云フコトハ、即チ國家ノ精神的ニ於キマシテモ、亦教育上ニ關係シマシテモ、亦第一經濟上ニ關係シマシテモ、是ハ法律ヲ以テ禁ズルト云フコトハ當然ノコトデアリマス、幸ニシテ諸君ノ御贊成ヲ以テ明治四十一年ヨリ昨年マデハ滿場一致ヲ以テ、此本會ハ通過シマシタケレドモ、貴族院ニ於テ未ダ之ヲ通過スル域ニ至リマセヌ、故ニ度々御氣ノ毒デアリマスケレドモ、本年モ此本案ヲ出シタ理由デアリマス、諸君、此酒ノ爲ニ未成年者ガ卒業スベキトコロノ學校ヲ卒業セズ、使フベカラザルトコロノ金ヲ費シタコトニ就テノ其害ノ及ブトコロ大ナルモノデアル、諸君ノ御承知ノ通り數年前ノコトデアリマスケレドモ、帝國大學ヲ卒業シテ明日ハ既ニ卒業證書ヲ貰フト云フトコロノ立派ナ人ガ、上野華壇ニ於テ酒ヲ飲ンデ、其人ガ青山ノ彼ノ善光寺ノ井戸ヘ入ッタナド、云フヤウナ事モ、即チ是ハ酒ノ結果デアリマス、斯ノ如ク實ニ其兩親ヲシテ心配サセルノミナラズ、諸君、此租稅ヲ以テ國費ヲ出シテ置クトコロノ帝國大學、或ハ其他中學校等ニ於テ、サウ云フ結果ノ生徒ヲ出スナラバ、即チ是ハ國ヲ害スルトコロノモノデアリマス、デアリマスルカラシテ此未成年者禁酒法案ト云フモノハ、實ニ國家ノ根本ヲ立ツルトコロノ最モ



必要ナモノト私ハ信ズル者デアリマス、此ニ終ニ臨ンデ、昨年私ガ露西亞ノ國ニ於キマシテノ禁酒ノコトガ如何ニ關係ラシテ居ルカ、政府ニ於テハ是ノ調査ヲシテアルカト云フコトヲ質問致シマシタ、所ガ政府ノ答辯ハ調査ノ結果マダ能ク分ラヌト云フヤウナ此處ニ極ク簡單ナル答辯デアリマシタガ、其以來私ガ能ク此露西亞ノ禁酒ニ就キマシテ調査ヲシテ見マスルト、實ニ非常ナル好イ結果ト云フモノヲ露西亞ノ帝國ニ現ハシタモノデアリマス、故ニ之ヲ一言諸君ニ御參考ニ申上ゲタイト思ヒマス、第一ニ露國ニ於キマシテ禁酒ヲシタ結果ト云フモノハ、道德ヲ高メタルコトガ非常ナモノデアリマス、是ハ實ニ唯私ガ言フニアラズシテ、責任アルトコロノ調査デ、即チ此露國ニ「クールスク」ト云フ市ガアリマス、其縣知事ガ公然ト調べマシタトコロノ報告ヲ見マスルト、昨年ノ七月禁酒法ノ前、即チ法律ガ出ナイトコロノ前ノ犯罪人ト云フモノハ、一箇月間ニ千六百七十件アッタサウデアリマス、トコロガ本年七月ノ調査ニ據リマスルト、八百八十件ニ減ジタ、即チ殆ド十分ノ一ニ減ジタト云フコトニナツテ居リマス、ノミナラズ又其外ニ「タンボフ」市ト云フ所ガアル、此裁判所ノ取調ヲ調査シテ見マスルト、此禁酒法發布ノ日ヨリ三箇月間ノ「タンボフ」市ノ地方裁判所ノ刑事犯罪ノ數ト云フモノガ八百六十四件デアアル、之ヲ昨年禁酒法ノ日同時間ニ比較シテ見マスルト、刑事犯罪ト云フモノハ千三百五十六件デアアル、最モ著シキコトヲ此知事ガ報告シテ居リマス、ハ「ニユージニ」ノウゴロド」ト云フ所デアリマス、此處ニ於テ禁酒發布後一箇月間ノ竊盜ノ數ガ九割減ジタト云フコトデアリマス、實ニ驚クベキモノデアリマセヌカ、何人ガ全體此犯罪ヲ犯スヤト云フナラバ金ガ無クナルカラ犯罪ヲ犯スノデアアル、金ガ無クナルト云フノハ、何ヲ以テ無クナルカト云フト、即チ此酒ヲ飲ムカラデアアル、酒ヲ飲ンダタメニ其給料ト云フモノヲ家ヘ持ツテ往ツテ妻子ニ渡スコトガ出來ナイ結果、即チ申サバ酒ニ使ツテシマッタカラ已ムヲ得ズ竊盜ヲスル、泥棒ヲスル、甚シキニ至ツテハ賄賂ヲ取ルト云フコトニナルノデアアル、故ニ此實例ヲ見マスルト云フト、九割減ジタト云フコトハ實ニ驚クベキトコロノ道德ノ問題ニ關係スルトコロデアリマス、又露國ノ首府タル「ベトログラード」ニ近キ處ニ東北地方病院ト云フモノガアリマス、是ハ最モ確實ナル調べデアリマシテ、此病院長ノ報告ニ據リマスルト、是迄ニ多クノ患者ガアッタケレドモ、其過半數ハ皆酒飲ノ結果デアアル、禁酒法ガ發布サレテカラハ實ニ驚クベキホド此病人ノ數ガ減ツタト云フコトデゴザイマス、是ガ即チ此道德上ニ關係シマシテ

モ、精神上ニ關係シマシテモ、非常ニ良イ結果ヲ來タシタト云フコトハ露國ノ知事ノ報告ニ明カナルコトデアリマス、又次ニハ第二ニ健康上デアアル、健康上ニ付キマシテヤハリ此「ニユージニ」ノウゴロド」ト云フ處ノ衛生ヲ調べテ見マスルト、七割ノ病人ガ減ジタ、即チ千人病人ガアッタモノガ、三百人ニナツタト云フコトデアリマス、露國皇室ノ所謂侍醫「テモフエツ」ト云フ博士ノ調べヲ見マシテモ、此度ノ歐羅巴ノ戰爭中ニ東西ノ軍隊中精神病ト云フモノガ僅カニ一萬人ニ付テ二人ホカナイ、若シモ日露戰爭ノ時分ニ精神病ノ者ガ幾人アッタカト云フト、千人ニ付テ二人アッタ、サウシテ見マスルト實ニ十倍ノ減ジガアリマス、日露戰爭ノ時分ニハ酒ヲ飲ムタメニ精神病者ハ千人ニ二人デアッタ、此度露西亞ニ於テ禁酒法ヲ行ツテカラ一萬人ニ就テ二人ニ減ジタト云フコトハ、實ニ驚クベキトコロノ好イ結果ヲ來シテ居ルノデアリマス、又ソレノミナラズ、鐵道管理局ニ於ケルトコロノ正確ナル調べモアル、其鐵道ノ醫員ノ調べニ據リマスルト、千九百十年ヨリ十四年七月、即チ我明治四十四年カラ大正三年マデノ即チ四箇年ノ間ノ鐵道院ノ病院ニ入院シタ者ハ八百五人アル、是ハ大概皆酒ノタメデアルト云フコトデアリマス、今日ニ至リマシテハ、鐵道院ノ病院ニ入院スル者ハ殆ド一人モナイ位ニナツテ居ルノデアリマス、ノミナラズ此禁酒法ノ行ハレナイ時分ニハ、鐵道ノ鐵軌ニ往ツテ自殺スル者ガ澤山アッタ、過ル一年有半ノ中ニハ一人モ莫斯科ノ鐵道ノ管理局ニ於テハ、轢死シタ者ガナイト云フコトハ明カナツタ、是皆酒ヲ飲マナイトコロノ好イ結果デアアルコトヲ證明スル、第三ニハ火事デアアル、是ガ即チ一箇月間ニ「ハクトルスク」ト云フ所ノ縣知事ノ調べニ據レバ、禁酒前ニハ非常ニアッタガ禁酒後ニナツテハ一箇月ニ二十八件ニナツタ、禁酒シナイ時分ニハ百九十六件アッタ、即チ五倍ノ數ヲ減ジタ譯デアリマス、實ニ其他之ヲ能ク調べテ見マスルト云フト、ツマリ十年目ニ一軒焼ケタモノガ、五十年目ニ漸ク一軒焼ケルト云フ比較ガ立ツ是皆酒ヲ飲マナイ結果デアリマス、第四ニ於キマシテハ自殺デアリマス、自カラ死スルモノデアリマス、是モヤハリ露西亞ノ「ベトログラード」市ノ調査ニ據リマスルト、御承知ノ通り此「ベテログラード」ノ傍ニ「ネヴァ」川ト云フ大キナ川ガアリマス、アノ川、或ハ其他ノ川、毎年一、二ハナイ毎日身ヲ投ズル者ガ幾人アルカト云フト、平均一日十二人アッタノデアリマス、平均十二人アッタガ、酒ヲ禁ジテカラハ八十三日間ニ一人シカナイト云フコトニナツタ、シテ見マスルト即チ一日十二人アッタモノガ、八十三日間ニ一人デアリマスカラ、其結果ト云フモノハ九百九



十六人トナルベキモノノ自殺ガ唯一人デ濟ムト云フコトニナツタ、實ニ非常ナル進歩發展ヲ來シタ譯デアリマス、又國民ノ勞働是ガ最モ經濟的ノ大問題デアリマス、是モ「ニュージニ」ノウゴロト云フ處ノ縣廳ノ調ベヲ見マスルト、禁酒スル前ノ勞働力ト云フモノハ即チ百五十人デ、仕事ト云フモノヲセシケレバ此家ガ建タナイ、トコロガ禁酒ヲシテカラ百人ノ人夫ガ出來ル、シテ見マスルト五割好イ働ガ出來ル、例ヘバ酒ヲ飲ム人デアッタラ十五時間働カナケレバ出來ナイコトヲ、酒ヲ飲マヌ人ナラバ十時間デ出來ルト云フ結果ガ現ハレタノデアリマス、即チ禁酒國ハ金ガ出來ルト云フコトニナル、酒ヲ飲ムモノハ亡ブ、即チ支那ノ聖人モ言ッタコトモアリマス、後世酒ヲ以テ其國ヲ亡ス者アリト申サレマシタ、即チ今日何故ニ亞米利加ニアノ通り金ガアルカト言ヘバ、即チ「ドライ、タウン」ウエット、タウン「ト」言ッテ「ドライ、タウン」ハ酒ヲ飲マス、ウエット、タウン「ハ酒ヲ飲ムト云フコトデアアル、デアリマスカラ世界萬國ノ中デ、今日禁酒ノ行ハレテ居ルノハ亞米利加ガ第一デアリマス、故ニ金力モ亦其他ノ生産力モ亞米利加ノ右ニ出ヅルモノハナイ、故ニ日本ノ貿易ハ三分ノ一ト云フモノハ、歐羅巴ヨリハ亞米利加ガ吾々ノ得意デアリマス、其原因ハ酒ヲ飲マナイカラ金ガ溜マル、金ガ溜マルカラ物ヲ買フコトガ出來ルノデアアル、故ニ此勞働問題ト云フコトニ付テハ、禁酒ノ效大ナルモノデアリマスカラ、ドウカ諸君ハ此事ニ付テ大ニ御熟考ヲ願ヒタイノデアリマス、斯ノ如キ大ナル問題ヲ私ガ政府ニ質問シテモ、其政府タルモノハ向フニハ大使モ住ッテ居ル、總領事モ領事モ住ッテ居リマス、又近頃ニナツテハ貿易官ト云フモノモ住ッテ居ルケレドモ、今日ニ至ルマデ一ノ調査モナクテ取調ガ出來マセヌト云フノハ、實ニ私ハ歎息シナクテハナラヌ、トコロガ英吉利デハドウデアリマセウカ、諸君茲ニ一言申上ゲタイ、此英吉利ノ本年二月二十日ノ英吉利ノ大藏大臣「ロイドジョージ」ガ英國ノ帝國議會ニ於テ演説ヲサレマシタ、其中ノ一節ニ斯ウ云フコトヲ言ッテ居ル「私ハ近頃露國ノ俊傑大藏大臣「バルク」氏ト話シテ致シマシタトキニ、私ハ「バルク」氏ニ向ッテ露國禁酒會ノ結果ハ如何デゴザイマスカト問ヒマシタ、「バルク」氏ノ答ニ「露國禁酒會ノ結果ハ國民ノ勞働力ハ三割以上五割高マリマシタ」ト斯ウ言ッタ、是ハ即チ英吉利ノ「ロイドジョージ」氏ガ露國ノ大藏大臣ノ「バルク」氏ニ問フタ所ノ事デアツテ、諸君多クハ例ノ倫敦「タイムズ」ヲ御讀ミニナツテ御承知デアリマセウ、此三割以上五割増シタト云フコトハ、即チ責任アル所ノ英吉利ノ大藏大臣ト露國ノ大藏大臣ト問答デアリマスカラ、是ハ

決シテ打消スコトハ出來ナイノデアアル、斯ノ如キ大問題ニ對シテ我日本帝國ノ大藏大臣、又陸軍大臣、海軍大臣ハ此答辯書ニ辯明ヲシテ、マダ調査ガ出來マセヌト云フノハ、即チ國家ノ經濟ヲ思ハザルノ甚シキモノデアルト私ハ斷言スルノデアアル、終リニ臨ムデ今一言申上ゲタイ、此露國ノ貯金デアリマス、諸君、貯金ト云フモノハ、最モ大切デアアル、貯金即チ剩餘金ガアッタレバコソ、我國モ青島ニモ打勝ツコトガ出來タノデアアル、此露國ガ禁酒ヲシテカラ貯金ノ増加ハ著シイモノデアツテ、本年六月一箇月ノ分ヲ一例トシテ申上ゲマスルナラバ、國立貯金銀行ニ預ケシモノガ五千五百萬留デアアル、六月三十日マデニ、此貯蓄銀行ノ積立金ハイクラモアルカ、諸君御判斷ガ出來マスカ、實ニ巨額ナルモノデアリマス、二百十三億四千七百萬留ノ巨額ニ達シテ居ルノデアリマス、是ハ正ニ露國大藏大臣ノ公布セラレタモノデアアル、此禁酒令ガ發布サレマシタ以前ハドレダケアッタカト云フト、其貯金ハ二百億圓ニ伸ビナイノデアアル、故ニ酒ヲ飲ム時分ノ貯金ハ二百億圓ニ達シナカッタ、酒ヲ禁ジテ一年有半ノ中ニ二百十三億圓ト云フモノハ、實ニ非常ナル増加ヲ致シタコトデアリマス、斯ノ如ク増進シマシタノハ即チ此禁酒ノ結果デアアル、デ此結果ト云フモノガ能ク露國ノ人民ニ互ッテ、先達露國ノ人民ハ此戰爭即チ戰爭ガ平和克復ニナツテモ、禁酒ダケハヤハリ續ケルヤウニシタイト云ッテ露國ノ 皇帝陛下ニ請願ヲ致シマシタ、其請願ノ大意ヲ申シマスナラバ、陛下ノ勅語ニ依テ酒ヲ飲ミマセヌカラ初メテ人生ノ樂ミヲ覺ヘマシタ、何卒、皇帝陛下ヨ此樂ミノ續クヤウニ永久酒類ヲ販賣セザルヤウ請願致シマス」ト云フ願デアアル、此請願ニ對シテ露國 皇帝陛下ノ御答ハドウデアッタカト云フト、斯ウデアアル、諸君御聽ヲ願ヒタイ「國民ノ禁酒ハ國家ノ勢力ト繁榮トヲ確立スル唯一ノ基礎ナリ」トノ勅語ガアッタ譯デアリマス、斯ノ如ク我鄰邦露西亞ガ酒ヲ禁ジタ故ニ非常ナル道德上ニモ、又努力ノ上ニモ、亦教育ノ上ニモ、實ニ重大ナル進歩發展ヲ來シタ譯デアリマス、況ヤ我日本帝國ニ於テハ、此未成年者即チ酒ヲ飲ムベカラザル人ニ對シテ酒ヲ飲マセナイト云フ法律ハ當然デアアル、若シ是ガ明治以前デアツテ學校ノ費用ガ諸君ノ租稅デナクテ、教育シテ居ッタ時分ナラバ、ソレハ如何デモ宜シイケレドモ、若シ私ノ子供ガ愚物ニ出來、私ノ子供ガ惡黨ニ出來マシタラバ、直ニ諸君ノ損害ニナルノデアリマス、故ニ法律ヲ以テ之ヲ取締リ、我日本帝國ヲシテ、實ニ列強ニ優ル所ノモノトスルニハ、第一ニ我國民タル所ノ後來此帝國ヲ荷ハシムル所ノ未成年者ヲシテ、此禁酒ノ法ヲ實行セシムハ實ニ當然ノ事ト信ジマス、ドウ



カ十分ノ御詮議ヲ以テ可決アラムコトヲ希望致シマス

(參照略)

伊東知也君及佐々木安五郎君ハ本案ニ反對ノ演說ヲ爲シ根本正君ハ趣旨辯明ノ補足ヲ爲ス

伊東知也君ノ演說

私ハ本案ヲ以テ委員會ニ付託スルノ要無シ、直ニ此席ニ於テ否決スルコトヲ主張スル一人デアリマス、私ハ政友會ト共ニ今日國務ノ大體ニ付キマシテハ、友黨トシテ相助合テ進ンデ居ルモノデアリマスガ、斯ノ如キ愚劣ナル案ヲ委員會其他ニ付シテ、時日ヲ長引カセルト云フコトハ、國務ノ滯滞ヲ來シ、私ハ見逃スコトハ出來ナイト思フ、根本君ノ殆ト十數年ニ互リマシテ熱誠ナル御趣意ハ分リマシタガ、其趣意タルヤ殆ト道徳ト法律トヲ混淆シテ、何ガ何ダカ譯ガ分ラヌヤウナ問題デアルト私ハ考ヘマス、苟モ我日本帝國ノ臣民ハ酒ヲ飲ンデ酔拂ッテドウスウト云フコトハ無イノデアリマス、根本君ハ盛ニ露西亞ノ例ヲ引カレマシタガ今ヤ、根本君ハ露西亞ノ酔拂ヒノ状態ヲ知ラヌカラデアラウト私ハ思フノデアリマス、私ハ殆ト十年前以前露西亞西伯利亞地方ニ二年モ居リマシテ、彼等ノ酒ヲ飲ム状態、彼等ノ酔拂ノ状態ヲ見テ居ルカラ、我日本帝國ノ臣民ト同格ニナラヌト云フコトヲ明カニ知ッテ居ル者デアアル、彼等ハ「オートツカ」ト云フ非常ニ強烈ナ酒ヲ飲ム、サウシテ兵隊ノ如キ日曜ニナレバ、盛ニ自分ノ身モ知ラズ飲ンデシマッテ、酔拂ッテ寒ノ中往來ノ溝板ヲ枕ニシテ寝テ居ッテ、遂ニソレガ爲メニ凍死スル者ガ澤山アリマス、諸君、我日本帝國ノ臣民ニシテ、一人トシテ斯ウ云フコトヲスル者ガアリセウカ、而已ナラズ畏クモ我 天皇陛下ヲ首メト致シマシテ 皇太子殿下或ハ 皇孫殿下デモドナタデモ 皇祖皇宗ノ靈ヲ祭ラセ賜フ所ノ神様ニ神酒ヲ捧ゲナイ者ガアルデアリマセウカ、サウシテ御杯ヲ頂戴シテ始メテ、是ニ於テカ我國體ノ神聖ナル理由我國體ノ尊嚴ナルコトハ茲ニ闡明スルノデアリマス、況ヤ下勞働者ノ輩ニ至ッテハ或ハ夏ハ夕顏棚ノ親ミ、冬ハ家ヘ歸ッテ爐ノ側デ胡坐ヲ搔イテ一杯ヤルト云フコトハ、無上ノ樂ミデアアル、濁酒ノ一杯モ飲ンデサウシテ大ニ終日ノ疲レタ所ヲ慰藉シ、夫婦相酌デ以テ一杯傾ケタナラバ、以前ノ疲勞ハ皆ナ忘レテシマフ、ソレヲ禁止スル、今根本君ノ言ハレタ所ハ、未成年者

ノ禁酒法案ニアラズシテ、寧ロ日本國民全體酒ヲ飲ンデイカヌト云フヤナ議論ニ聽エタ、況ヤ日本國民未成年者ト云フモノハ、ソノナニ酒ヲ飲ムト云フモノデハナイ、十六七ノ小僧ニソノナニ酒ヲ飲ム、酔拂ノ爺ガ御前一杯飲ムト云フモノカ、飲ムハシナイ、其位ノ節制ハ我ガ日本國民トシテアルノデアアル、何モ法律ヲ設ケテ斯ノナコトヲスル必要ハナイ、是マデ何年モ何年モ衆議院ダケハ通過シタノデアアルガ、ドウデス諸君、何時モ貴族院ニ行ッテ委員會ニモ付託サレズシテ否決サレルデハナイカ、寧ロ斯ウ云フ議案ヲ貴族院ニ送ルト云フコトハ、衆議院ノ恥辱ト思フノデアリマス、未成年者ナドニ酒ヲ飲ムト云フテモ飲ムハシナイ、吾々爺ガ幾ラ飲ンダカラト云ッテ、其方ニ關係ガナイノニ、國民ガ酒ヲ飲ンデハイカヌト云フヤウナコトヲ云ウテ、殆ト未成年者禁酒法案ニ名ヲ藉ッテ、日本國民全體ニ禁酒ヲ強ユルヤウナモノデアリマス、所ガ諸君ドウデアリス、最モ適例ガアルデアリマセウカ、此間御覽ニナッタデアリマセウ、去ル四日觀艦式ノ日デアリマス、片山國嘉ト云フ博士ガアル、サウシテ其人ガ平常ハ禁酒——絶對的禁酒論者デアッテ、法醫學カラ判斷シテ、酒ヲ飲ムト云フコトハ直ニ犯罪ヲ構成スルト云フヤウニ常ニ唱ヘテ居ルサウデス、所ガ其人ガドウデス、私モ一緒ニ金剛艦ニ乗ッテ居タ、サウシテ「ランチ」ガ二ツ著イタ、酒ヲ飲マナイ人ナラバ御宴會場ニ行ク必要ハナイダラウト思フ、所ガ宴會ニ行クト云フコトデ「ランチ」ラ大急ギデ降りテ此方「ランチ」カラ此方「ランチ」ヘ移ルト云フ時分ニドウデス、ドウブントハマッテシマッタ、サウシテ此金モトルノビカ、大禮服ヲ著テ、マルデ濡鼠ノヤウニナッテ、水兵ノ機敏ナル働ニ依ッテ二人程掛ッテ上ゲヤウトシタガ、ナカ、上ラヌ、私モ見ルニ見兼ネテ襟髪ヲ握ンデ手傳ッテ引上ゲタ、ソレカラ勅任官ノ白イ編笠帽ヲカナグリ捨テルト、マルデスコ秃ノ大坊主、海坊主ガ海カラ上ッタト云フヤナ有様デアッタノデアリマス、鈴木萬次郎君ガ側ニ居ッテ介抱シテ居タ、鈴木君ガ脊ヲ擦ッテ介抱シタコトヲ知ッテ居ル、私ハ襟髪ヲ握ッテ引上ゲ、鈴木君ガ擦ッテ潮水カ何カラ吐出シテ居タ、諸君、此ノ禁酒論者——絶對的ノ禁酒論者ガ何ノ爲ニ宴會ニ慌テフタメイテ大急ギデ宴會場ニ行ク必要ガアルカ、酒ヲ飲マナイナラバ謹デソノナニ處ニ行カズニ、サト別仕立ノ「ランチ」デモ履ッテ陸ニ歸ッタ宜カラウ、口デハ禁酒ヲ唱ヘテ居リナガラ、何カ卑シイ根性ヲ以テ、サウシテ宴會場ニ行カウトスルカラ、サウ云フ天罰ヲ蒙ル、私ハ常ニ酒ヲ飲ムモノデアル、幾ラ飲ンデモ酔拂ッタコトハナイ、今モ食堂デ三合飲ンデ來タ、決シテソノナコトデ酔拂ッテ亂レ



ルヤウナ日本國民デハナイ、苟モ此議政壇上ニ於テ、斯ノ如キ神聖ナル議場ニ於テ、愚ニモ付カナイ議案ヲ提出シテ、貴族院ニ送ツテ、貴族院デ耻ヲ搔クヤウナ議案ハ私ハ此處デ打止メテ、委員會ナゾニ付託シナイデ止メルコトヲ希望スル、政友會ノ諸君ニ對シテハ、實ニ今國務ノ進行上手ヲ携ヘテヤツテ居ルガ、斯ウ云フコトハ大體カラ見テ私ハ見通スコトガ出來ヌコトデアルト思フカラ、此案ハコ、デ否決シテ、今後餘リ斯ウ云フツマラヌコトヲ御ヤリニナラヌヤウ根本君ニ勸告シタイ、我ガ日本ハ豐葦原瑞穂ノ國デ、米ノ汁「ソップ」——酒ト云フモノハ貴ムモノデアアル、其酒ニ依ッテ日本國民ノ生命ガ活動スルノデアアル、國內ノ血ガ漲ルノデアリマス、酒ヲ止メタラマルデ日本ハ暗闇デアアル、酒ヲ飲ンデモ亂ニ至ラズト云フ程度ニヤレバ何ノ差支モナイノデアアル、願クハ斯ウ云フ案ハ委員會ニ付託シナイデ、此處ニ御止メニナランコトヲ希望致シマス、反對論ヲ述ベマス

根本正君ノ趣旨辯明補足

諸君、日本ノ青年ハ酒ヲ飲ンデ失敗スルヤウナ氣遣ハナイト云フコトヲ唯今御述ベニナリマシタ、是ニ付テ私ハ私ノ説明ガ足りマセヌカラ、一應申上ゲテ置キマス、私ハ簡單ニ説明ヲ致シマス、先年遞信次官小松謙次郎君ノ處ニ入りマシタトコロノ竊盜ハ、未成年者デアッタノヲ承知シナイカト云フコトヲ申ス、是ハ即チ警視廳ノ調ニ據リマスト云フト、酒ヲ飲ンダトコロノ結果デアルト云フコトハ明カデアリマス、其竊盜人ハ最初ハ竊盜デシマ、ハウト思フタガ、酒ヲ飲ンデ心ガ大キクナッタト云フコトハ即チ強盜ニナツテ、刃ヲ以テ遞信次官小松謙次郎ヲ傷ケタノ、何ノ爲デアルカ、是ガ爲ニ裁判所ノ費用ガ幾ラ要ツタカ知リマセヌガ、是ガ爲ニ國費ヲ幾ラ使ツタカ知リマセヌガ、斯ノ如ク此國家ヲ顧ミナイトコロノ者ガ、此神聖ナル議場ニアルト云フコトハ、私ハ甚ダ國家ノ爲ニ憂フルノデアアル、是デソコハ宜シイ、今一言是非共此處ニ説明致シテ置キタイコトガアル、ソレハデス、私ハ同情ニ堪ヘナイ、唯今ノ辯士ノ御息子サンハドウ云フ御子サンガ御出來ニナルカ知レマセヌケレドモ、我ガ帝國議會ニ於テ酒ヲ飲ンダ御方ハ、ドウ云フ風ナ結果ノ御病氣デ御亡クナリナサツタカ、或ハ公權ヲ他日失ツタ御方ガ幾人アルカ、之ヲ調査シテ見ルト、皆酒ノ爲デアルト云フコトヲ私ニ茲ニ斷言スル、特ニ只今御演說中、片山博士ノコトヲ御述ベニナツタガ、誠ニ唯今辯士ノ御方ハ氣ノ毒ニ思フ、此御宴會ニ上ルノハ酒

ヲ飲ム爲ニ上ツタノデハナイノデアリマス、決シテ酒ノミヲ本ニ上ルノデハナイ、即チ 天皇陛下ノ御大典ヲ祝スル爲ニ上ツタノデ、物ヲ食ヒ飲ミニ上ルノデハナイ、唯今ノ辯士ハ酒ヲ飲ミ飯ヲ食フカ、西洋料理ヲ食フノガ目的デアアルヤウニ言フガ、御大典ト云フモノハサウ云フモノデハナイ、此片山醫學博士ハ即チ忠君愛國ノ人デアツテ、御大典ヲ祝スル爲デ決シテ酒ヲ飲ムノ見込デハナイノデアリマス、又此御方ガ生憎海ニ這入ツタト云フコトハ、アノ御方ハ目ガ誠ニ近眼デアアルノデアアル、決シテ酒ヲ飲ム爲ニ急イダナント云フコトハ、實ニ誠ニ御恥カシイアノ御辯士ノ心ノ底ハドウデアアル、此酒ヲ以テ昔亞米利加ノ土人ハ燒酎一升ノ爲ニ土地百萬石ヲ取換ヘタト云フガ、御辯士ハ私ガ燒酎一升ヤツタナラバ、金ノ十萬圓モ下サルデアラウト思フ、諸君、此問題ハ決シテ唯今ノ反對論ノヤウニ愚弄サルベキモノデハナイ、日本帝國百年ノ大計ヲ定メルトコロノ大問題デアリマスカラシテ、滿場一致ヲ以テ御贊成ヲ願ヒマス

佐々木安五郎君ノ演說

未成年者禁酒法案ニ就テ、根本代議士ガ年々熱心ナル御提案ヲナサレルト云フコトニ付テハ、謹ンデ敬意ヲ表シテ置キマス、併ナガラ承レバ根本代議士其人ハ宗教家ノ中デモ耶蘇ヲ御信ジナサル、此禁酒ト云フヤウナコトハ宗教若クハ道德ノ力ヲ以テ、人々自ラ戒メルト云フコトガ本體デアラウト思フ、之ヲ一國ノ法律ニ訴ヘテ而シテ後之ヲ禁ズルト云フコトニナリマシタトコロガ、其法律ナルモノガ行ハレザル場合ニ於テハ、其法ハ徒法空文ニ屬スルモノデアアル、殷鑑遠カラズ未成年ノ禁煙法ト云フモノハ設ケラレテ居ルケレドモ、今日未成年禁煙ナルモノハ果シテ實行サレテ居ルカドウカト云フコトヲ、實地ニ付テ取調べテ見マスルト、禁煙ノ法律ハ出來テ居ルケレドモ、法律ハ徒法空文デアツテ行ハレテ居ラヌノデアアル、ソレニ再ビ又斯ウ云フ禁酒法案ト云フモノヲ出シタトコロガ、行ハレナイト云フコトニナレバ、數々法ヲ設ケテ法ノ威嚴ヲ損スルト云フコトノ過チガ出來テ來ルノデアアル、法ノ威嚴ヲ保タムト欲スルナラバ、行ハレルヤウナ法ヲ拵ヘルガ宜カラウ、根本君ガソレ程熱心デアラナラバ、根本君其人ガ宗教ノ力ニ依ッテ——宗教ノ力ヲ推擴メテ耶蘇ノ力ヲ推擴メテ、飲酒ガ惡イト云フコトヲ己レ自ラ考ヘルヤウニナサレタ方ガ、根本君ノ爲デアラウト考ヘルノデアアル、然ルニ



モ拘ラズ、年々歳々此議場ノ此忙シイ中ニ持ッテ來テ、斯ノ如キ案ヲ出シテ、貴族院マデ行ッテハ葬ラレ、貴族院マデ行ッテハ葬ラレト云フコトハ、衆議院ノ體面ニモ關スルトコロノ大問題ダト私ハ考ヘルノデアアル、根本君ハイロノ酒ヲ飲ム國ノコトヲ言ハレマシタガ、私ハ禁酒ノ國ノコトヲ言ッテ見マセウ、暹羅ハ禁酒シテ居ル、而シテ暹羅ノ國ハ亡國デアアル、印度ノ「マホメダン」ハ禁酒シテ居ル、而シテ此「マホメダン」ハ英國ノ屬領トナッテシマッテ居ル、支那ニ於テモ飲中ノ八仙ト云フテ、李太白ガ天子呼ビ來レドモ船ニ上ラズト言ッタ時分ハ、唐ノ玄宗皇帝ノ時代デ非常ニ隆々タル國運デアッタガ、今日ハ酒ヲ飲マヌヤウニナッタカラ、云フヤウニ衰亡シテ居ル譯デアアル、酒ヲ飲ムト飲マヌトドッチガ宜イカト云フト、酒ヲ飲ンダ時代ノ方ガ強イ、何時デモ興ッテ居ルノデアアル、現ニ唯今デモ私ノ友人伊東君ハ酒ヲ飲ンデ居ルケレドモ、極ク明瞭ニ演説ノ趣意ガ分ッタガ、酒ヲ飲マヌ根本君ノ演説ハ能ク要領ガ分ラヌ、酒ヲ飲ム者ガ演説ガ分ラヌヤウニナッテ、飲マザル者ガ明瞭デアアルナラバ、根本君ノ演説ガ非常ニ明瞭デアリサウデアアルガ、酒ヲ飲ム人以上ニ飛ンダリ跳ネタリナサル、唯今モ伊東君ガ言ッタヤウニ、片山國嘉ト云フ人ノ今度ノ御大典ニ於テノ失態ハドウカト云フト、觀艦式ノ時ハアノ失態ヲ片山禁酒博士一人ガヤッタ「上戸本性下戸ハ却ッテドロケン」トナッテ居ル——「水ニ酔フテ禁酒博士ハ海ニ落チ、酒ヲ飲ンデハ相濟マヌカラ、水ヲ飲ンデ水ニ酔ッタニ違ヒナイ——水ニ酔フテ禁酒博士ハ海ニ落チ、酒ヲ飲ム者ガ却テ嚴肅ノ態度ヲ執ッテ、酒ヲ飲マザル者ガ却テ不體裁ヲ醸シタ、之ヲ以テモ酒ヲ飲ム飲マヌト云フコトハ其者ノ自分ノ考ニアルノデアアル、必ズシモ酒ヲ飲ム者ガ惡イト云フモノデハナイ、況ヤ大嘗祭ニハ黒酒白酒ノ酒ヲ以テ一番大嘗會ノ主ナル典例トシテ居ル、又日本ノ國體ニ適フテ居ルモノト思フ、斯様ニ貴族院デ葬ムラレルコトガ明カデアッテ、此法律ガ縱シ成功シタトコロガ禁煙法ト同ジコトデ、決シテ實行ノ出來ナイモノデアアル、實行ノ出來ザルモノヲ數、拵ヘルト云フコトハ、法ノ威嚴ヲ潰スニ過ギナイ、私ハ之ヲ委員會ニ廻ハサズニ、此場合ニ於テ否決サレムコトヲ希望シテ置キマス

次テ山口俊一君ハ本案ハ議長指名ノ委員ニ付託スヘシトノ動議ヲ提出シ院議之ヲ可決シ議長ハ即日委員ヲ指名ス委員ハ翌十七日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末同月二十二日表題ヲ「未成年者飲酒取

締ニ關スル法律案」ニ改メ原案ニ修正ヲ加ヘ報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

(小字及——ハ委員會修正)

未成年者飲酒禁止法

第一條 營業上酒類ヲ供給スル者ハ未成年者ニ

酒類ヲ飲用セシムルコトヲ得ス但シ祭事又ハ儀式ノ酒類ヲ飲用セシムルコトヲ知リ

爲ニスル場合ハ此ノ限ニ在ラス  
テ販賣若ハ給與スルコトヲ得ス

第二條 前條ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

附則

本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

五年一月二十二日第一讀會ノ續會ヲ開キ(四年十二月二十六日及二十七日ノ兩回延會)委員長高山眞平君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

御報告致シマス、未成年者飲酒禁止法ノ特別委員會ハ三回ホド開會致シマシタ、審議ノ結果法律ノ名稱及ビ第一條ニ修正ヲ加ヘマシテ、全會一致ヲ以テ之ヲ可決致シマシタ、此名稱ハ未成年者飲酒禁止法トアリマスケレドモ、元來本法ハ未成年者ニ酒ヲ飲用セシムル營業者ヲ處罰スル規定デアリマシテ、未成年者自體ヲ罰スルモノデハナイノデアリマス、從ヒマシテ未成年者飲酒禁止法ト云フ名稱ハ適當デナイト委員會ニ於テ認メマシテ「未成年者飲酒取締ニ關スル法律」ト修正致シタノデアリマス、第一條營業上酒類ヲ供給スル者ハ未成年者ニ酒類ヲ飲用セシメ又ハ其自用ニ供スルコトヲ知リテ販賣若ハ供給スルコトヲ得ス」トアリマスルノヲ「第一條營業上飲食物ヲ供給スル者ハ未成年者ニ酒類ヲ含有スル飲料ヲ飲用セシムルコトヲ得ス但シ祭事又ハ儀式ノ爲ニスル場合ハ此限ニ在ラス」ト



修正致シマス、其理由ハ第一本法ニハ單ニ酒類ヲ供給スル者トアリマシテ、酒ノ範圍ガ明瞭デアリマセヌ所カラ致シマシテ、是マデ貴族院ニ於テ甘酒ハ如何ニナルカト云フヤウナ質問ノ起ツタコトモアルヤウデアリマス、斯様ナ疑ヲ惹ク嫌ガアリマス故ニ、委員會ニ於テハ酒類ヲ含有スル飲料ト修正致シマシタ、デ「アルコト」ヲ含ムモノハ總テ是レガ此ノ取締ヲ受ケル範圍内タルコトヲ明確ニ致シタノデアリマス、第二「營業上酒類ヲ供給スル者」トアリマス、ヨ「營業上飲食物ヲ供給スル者」ト修正致シマシタ、是ハ酒類ナル文字ハ極メテ漠然タルモノデアリマシテ、既ニ本法ニ於テ酒類ヲ含有スル飲料ト明確ニ規定致シマシタ上ハ、此酒類ナル文字ヲ使用スル必要ハアリマセヌト、一面ニハ本法ノ適用ヲ受クベキモノヲ明ニ此ニ規定スルコトニ致シタノデアリマス、即チ營業上飲食物ヲ供給スル者ハト致シマシタルガ爲メニ、料理屋、飲食店、貸座敷、待合、遊船宿、宿屋業、酒屋ト云フヤウナ飲食物ヲ販賣給與致シマスル營業者ガ、未成年者ニ酒ヲ飲用セシメタル場合ニ限ツテ處罰セラルルコトニ致シマシテ、家庭其他ニ於テ飲用セシメマスルノニハ何等此制裁ヲ受クルモノデナイコトヲ明カニ致シタノデアリマス、ソレカラ第三「祭事又ハ儀式ノ爲ニスル場合」ハ此限ニ在ラストノ但書ヲ追加致シマシタ、是レハ冠婚葬祭等ノ場合ハ如何ニナルカト云フ議論ガ、是マデ貴族院ニ於テモ起ツタヤウデアリマス、是レハ我國舊來ノ習慣美風ヲ保持スル上カラ考ヘマシテ、至極ノ議論デアルト認メマシタカラ致シマシテ、此但書ヲ追加シテ之レヲ明カニナラシメタデアリマス、ソレカラ第四ニ原案ニハ「其自用ニ供スルコトヲ知リテ販賣若ハ給與スルコトヲ得ス」トアリマス、ルガ、一體營業者ガ此未成年者ノ飲用ニ供セラル、モノデアアルヤ否ヤト云フコトヲ識別スルコトハ、殆ド是ハ不可能ノコト、思ハレマス、且ツ政府委員ノ御答ニ依テ見マシテモ、斯ノ如キコトハ取締上甚ダ困難デアルト云フコトデアリマス、故ニ此ノ未成年者ニ飲用セシメマシタル者ノミヲ處罰スルト云フ規定ニ變更ヲ致シタノデアリマス、委員會ニ於キマシテ修正致シマシタル理由ハ以上ノ如クデアリマシテ、要シマスルニ酒ノ定義ヲ明確ニ致シマシタルコト、處罰ヲ受ケル場合ヲ營業者ガ未成年者ニ飲用セシメタル時ニ限ルコトヲ一層明確ナラシメマシタルコト、ソレカラ冠婚葬祭等古來行ハレ來リマシタ諸儀式ノ際、酒ヲ用ユルハ何等差支ハナイト云フ規定ヲ新設致シマシタ、大體本修正ノ如キデアッタナラバ、政府當局ニ於キマシテモ、取締上何等差支ナイト云フコトデアリマシタ、以上御報告致シマス

野村嘉六君ハ本案ニ反對根本正君ハ委員長ノ報告(修正)ニ贊成ノ演説ヲ爲ス左ノ如シ

野村嘉六君ノ演説

簡單ニ反對ノ理由ヲ述ベマス、此法案ハ他ノ是ト同一性質ヲ有シテ居ル立法ノ立テ方ト違ッテ居ルノト、一ハ又修正ニハナリマシタケレドモ、性質ハヤハリ未成年者禁酒法ニ屬スルノデアリマス、此法律ニ依リマス、ト云フト、單ニ營業者ダケガ罰セラル、コトニナツテ居ル、サウシテ法ノ精神ハドチラカト申シマス、ト云フト、即チ酒ヲ飲ム未成年者ヲ減ズル意味ニ屬スルノデアアル、所ガ其未成年者ノ方ガ一向制裁ヲ受ケズニ居ッテ、サウシテ營業者ノミガ制裁ヲ受ケルヤウナコトデアリマシタナラバ、毫モ本法ノ性質ヲ貫徹スルコトガ出來ナイ、苟モ法律ヲ拵ヘテサウシテ禁酒ノ目的ヲ達スルニハ、先ヅ飲ム其者ニ對シテノ制裁ヲ附セナケレバナラヌノデアリマス、立法ノ趣旨ハ當然本人ヲ懲ラシメ他ヲ警戒スルノガ原則デアリマス、所ガ是デハ未成年者ハ飲ミ放題飲ンデ差支ナイコトニナツテ居ル、之ヲ今他ノ同一性質ノ未成年者喫煙禁止法案ト對照致シマス、性質ハ同ジコトデア單ニ法律ガ違フト信ズルノデアリマス、唯酒トサウシテ煙草ト相違ガアルノミデアアル、同法ノ第一條ニハ「未成年者ハ煙草ヲ喫スルコトヲ得ス」第二條ニハ「前條ニ違反シタル者アルトキハ行政ノ處分ヲ以テ喫煙ノ爲ニ所持スル煙草及器具ヲ沒收ス」此法律ニ依リマス、明カニ第一條ニハ未成年者ニ喫煙サセテハナラヌト云フコトヲ定メテアリマシテ、第二條ニ於テ是ガ制裁ヲ附シテアルノデアリマス、所ガ今ノ此未成年者飲酒禁止法ニ於キマシテハ、未成年者ニ對シテハ毫モ制裁ガ無いノデアリマス、故ニ私ハ此罰シ方ハ主タル目的者ヲ罰セズ却ッテ目的以下ノ者ヲ罰スルトコロノ不公平ヲ來スト信ズルノデアリマス、一體未成年者其者ガ禁酒スル場合ガアルカドウダカト斯ウ申シマス、日本ハ家族制度デアリマス、カラシテ、酒ヲ飲ム場合ハ多クハ家族團欒ノ裡ニヤルノデアアル、サウシテ其家族ハ戸主ナリ又ハ家長ナリガ之ニ對スル制裁權ヲ持ッテ居リマス、カラシテ、自分ノ愛スル未成年者ニ對シテ酒ヲ飲メト勸ムル場合ハ私ハナイト思フ、假リニアアルナラバ、己ムヲ得ナイ必要ノ場合ト信ズル、ソレデアリマス、カラシテ若シ未成年者ガ酒ヲ飲ム場合ヲ豫定シマシタナラバ、此處デ申上ゲルノモ穩カデナイカモ知レマセヌガ、未成年ノ藝者ガ客ニ強ラレテ飲ム場合位デアラウト思フ、サリナガラ是ハ此法案ニ



ハ營業上酒類ヲ供給スルモノト、斯ウ書イテアリマスカラシテ客ノ方ハ營業上酒類ヲ供給スル人ニ當リマセヌカラシテ罰スルコトガ出來ナイコトニナル、サウ致シマスト法律ヲ拵ヘテサウシテ殊更ニ制裁ヲ附スル所ノ必要ガナイト信ズルノデアリマス、尤モ提出者ノ根本君ハ外國ノ例ヲ御引キニナツテ縷々御述ベ、ニナリマシタガ、是ハ總テニ對シテ禁酒スル時ノ效果デアラウト思フ、所謂成年者未成年者全體ニ對シテノ禁酒法案デアッタナラバ、或ハ根本君ノ仰シヤル通りノ效力ガ舉ルカ知ラス、今ノハサウデナクシテ僅ナ範圍ニ限ツテ、サウシテ又此法律ガ其範圍ニ至ツテ狭クシテ居ルヤウナ始末デアリマスカラ、態々斯ノ如キコトニ法律ヲ拵ヘルト云フコトハ不當ト信ズル、ソレデナクテモ繁文縟禮ト云ウテ居ルノニ、益、私ハ繁文縟禮ノ弊ヲ重ヌルモノデアルト思フノデアリマス、又此儀式ノ程度アリマス、要スルニ斯ノ如キコトハ法律ヲ以テ規定スベキモノデナク、根本君ノヤウナ宗教上ノ所謂趣味ノ御方ハ宗教ノ力カ、但ハ教育ノ力ニ依テ、サウシテ此未成年者ノ自然ノ感化力ヲ及ボサレタ方ガ却ツテ十年一日ノ如ク此案ヲ御出シニナリヨリハ、私ハ結果ニ於テ大ナル效果ガアルト斯ウ信ズルノデアリマス、故ニ私ハ本案ニ對シテ反對スル次第デアリマス

根本正君ノ演說

唯今野村嘉六君ハ本案ノ趣旨ハ殆ド御賛成デ、其事ハ教育又ハ宗教ノ點ニ於テ取締ヲシテ、法律ニハ及ブマイト云フ御反對ノ意味デアリマシタガ、本案ニ付キマシテハ前會ニ於キマシテ詳細ニ申上ゲテ置キマシタカラシテ、今日ハ極ク簡單ニ一言唯今ノ反對ニ就テ御答ヲシテ置キタイト思フノデアリマス、既ニ此教育ト云フコトガ個人的ニ非ズシテ、我ガ帝國デハ法律ヲ以テ租稅トシテ國稅デ二百萬圓以上、地方稅デ八千萬圓、斯ノ如ク此教育ト云フモノニ費用ヲ個人ニ、即チ道德トカ宗教トカ云フヤウナ點ニ依ラズシテ、今日ハ國家的ニ教育スルヤウニナツタモノデアリマスカラシテ、之ヲ取締ルノハ決シテ此宗教ニ任セルトカ、或ハ教育ニ任セルトカ云フ制度ハ、ソレハ王政御一新以前ノ御議論ナラバ至極御尤デアリマス、又各國ニ於キマシテモ此案ハ亞米利加ニ於キマシテハ三十年前、英吉利ニ於キマシテハ千九百一年、僅カ十五、六年間ノ間ノ法律デアリマス、故ニ唯今ノ御反對演說ニ付キ

マシテハ私ハ之ヲ意トスルコトハ勿論出來マセヌ、此處ニ一言申上ゲテ置キタイノハ、此案ハ前會ニ於キマシテ御反對ノ御方ガアリマシタガ、未成年者喫煙禁止法ト云フモノハアルガ、是ガ實行ヲスルコトガ出來ナイ、デアルカラシテ是モ法律ニナツテモ實行スルコトガドウデアラウカト云フ御懸念ガアリマシタガ、此事ニ付テ一言辯明シテ置キタイト思フノデアリマス、是ハ内務省ノ警保局長ノ取調ベタ結果デアリマス、未成年者喫煙禁止法ノ成立シマシタノハ明治三十三年デアル、ソレヨリ大正三年度マデ、此未成年者喫煙禁止法ノ取締ヲ受ケタトコロノ青年ハ幾人アルカト云フト、六十二萬五千六十五人アルノデアリマス、其中大正三年度一箇年ダケデモ七萬四千九百七十七人、平均一箇年四萬二千三百七十五人アルノデアリマス、シテ見マスルト此反對理由トシテ未成年者喫煙禁止法ガ行ハレナイカラ、是モ法律トナツテモ行フコトガ出來マイト云フコトハ、是ハドウモ理由ニナラヌト云フコトハ明カデアリマス、又今一ツ御反對ノ理由トシテハ、未成年者ニ法律ヲ犯ス者ハナイ、デアアルカラシテ斯ノ如キ法律ヲ拵ヘルニハ及バヌト云フヤウナ御演說モアリマシタガ、是ハ司法省ノ統計ヲ詳細ニ取調ベテ見マスルト云フト、未成年者ニシテ犯罪セル此司法省最近ノ調査、大正二年度ニ於テ其犯罪ノ人數ト云フモノハ一箇年ニ八千九百六十八人アル、全體ノ犯罪即チ國民ノ犯罪ノ千人ニ付テ一人七分ト云フコトニナツテ居ル殆ド千人犯罪者ガアルトキニハ成年者——未成年者ガ二人宛實際ニ罪ヲ犯シテ居ルノデアリマス、其罪名ハ騷擾罪或ハ放火罪、往來妨害罪、飲料水ニ關スル罪ト云フ様ナモノガ各、二割以上ニナツテ居ルノデアアル、又未成年者ノ初メテ罪ヲ犯シタ者ハ其中ニ七千人アリマス、之ヲ男女ニ區別シテ見マスルト男ガ六千三百四十五人、女ガ六百六十四人、又此罪ノ種類繁罪即チ累ネテ罪ヲ犯シタ者ハ幾ラアルカト云フト、未成年者ノ中ニ千九百五十九人アル、男ガ其中千八百六十一人、女ガ九十八人、又此罪質ニ依ツテ取調ベテ見マスルト、國家及公ノ秩序ニ對スル罪ガ二千五百三人、又人ニ對スル犯罪ガ五百六十九人、財產ニ對スル罪ガ五千八百九十六人、斯ウ云フ風ニ未成年者ニシテ法罪ヲ犯シテ居ル者ガ多クアリマス、是ハ何ヨリ起ツテ居ルカト云ツテ、尙詳細ニ取調ベテ見マスルト皆此酒デアリマス、酒ヲ飲ンデ行クベカラザル所ニ行キ、遂ニ父兄ヨリ送ラレル所ノ學資モ無クナツテ、遂ニ已ムヲ得ズ良心ニ曲ツタ事ヲシタトコロノ結果ガ、即チ斯クノ如ク千人ニ付テ二人ト云フトコロノ犯罪ヲ出シタコト、云フノガ明ニ分ツテ居ルノデアリマス、又唯今野村君ノ



御演說中ニデス、飲ム者ヲ罰シナイデ、飲マセル此營業者ノ方ヲ罰スルト云フコトハ洵ニ不都合デア  
 ル是ハ其通りデアツテ、本員モ先年來野村君ノ如キ法律ヲ提出シタ譯デアリマス、然ルニ貴族院ニ  
 於キマシテ之ニ反對スルトコロノ理由、又衆議院ノ委員會ニ於テ反對スル理由、政府委員ニ於テ  
 之ヲ賛成スルノニハ、斯ウ云フ風デナケレバナラヌ、又委員ノ諸君モ斯ウ云フ風デナケレバナラヌト  
 云フトコロノ結果カラシテ、斯クノ如ク修正サレタ譯デアリマス、又此法案ハ英吉利ノ千九百一年  
 ニ出來マシタ未成年者法案ニ依リマス、ヤハリ英吉利デハ此度ノ修正ノ通り、此飲ンダトコロノ  
 未成年者ヲ罰セズシテ、サウシテ賣ルトコロノ者ヲ罰スルト云フコトハ、諸君ノ御手許ニ廻ッテ居ルト  
 コロノ英吉利ノ法案ニ詳細ニ分ッテ居リマス、亞米利加ノ如キヤハリ野村君ノ御說ノ如ク、是ハ飲  
 ム者ヲ罰シテ居リマス、殊ニ亞米利加ノ如キハ、例ヘバ「カリホルニヤ」州ノ如キノ法律ヲ見マス  
 ルト、滿十八年以下ノ幼者ニ酒類ヲ販賣シ又ハ給與シタ者並ニ滿十八年以下ノ幼者ヲ來客トシテ出  
 入セシメタル飲酒店料理店ノ店主ハ失行罪トシテ之ヲ處分シ二百圓以上六百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 ト云フコトニナッテ居ル、又此本案ニ對シテモヤハリ罰則ガ出來テ居リマス、是ハ英吉利ニ於キマシ  
 テハ、我が衆議院ニ於キマシテ委員會ニ於テ此度可決セラレタ所ノ法案ノ如ク、亞米利加ニ於キマシ  
 テハ唯今野村君ノ御意見ノ如ク、ヤハリ各國ニ於キマシテ一様ニナッテ居リマセヌデ、二様ニナッテ居  
 ルノデアリマス、我國ニ於キマシテ斯ノ如ク衆議院ニ於キマシテハ明治四十一年ヨリ始終通過致シ  
 マスルケレドモ、貴族院ニ於テ之ヲ反對スル理由ハ、此度ノ如ク修正ヲシタナラバ、貴族院ニ於テモ是  
 ガ通過スルノデアラウト云フトコロノ委員諸君ノ御意見、又政府委員ニ於テモ其邊ノ御意見ヲ漏ラ  
 サレタ故ニ、斯ク修正ニナリマシタ所デ此案ハ英吉利——我國ノ最モ親シイトコロノ英吉利ノ未成  
 年者禁酒法案ニ倣ハレタトコロヲ以テ委員會ハ可決サレマシタカラシテ、何卒滿場一致委員長ノ報  
 告通り御賛成アラントコトヲ、國家ノタメニ謹ンデ願ヒマス

九 兵役税法案

他ニ討論ナク表決ニ及ヒ院議第二讀會ヲ開カサルニ決シタリ

兵役税法

第一條 帝國臣民ニシテ徵兵適齡ニ當リ陸海軍ノ現役ニ服セサル男子ハ本法ニ依リ兵役稅ヲ納ムル  
 義務ヲ有ス

前項ニ該當スル者戸主ニ非サルトキハ戸主ヲ以テ納稅義務者トス

第二條 兵役稅ハ徵兵適齡ニ達シタル年ノ翌年ヨリ起算シ七年間左ノ年稅額ニ依リ之ヲ納付スヘシ

一 兵役稅義務者カ所得稅法ニ依ル三種所得ニ對シ納稅ノ義務ヲ有スル者ナルトキハ三種所  
 得金額ニ對シ 千分ノ二十

二 兵役稅義務者カ所得稅法第三種所得ニ對スル納稅義務者ニ非スシテ市町村制ニ依ル公民ナル  
 トキ 五圓

三 兵役稅義務者カ所得稅法第三種所得ニ對スル納稅義務者ニ非スシテ市町村制ニ依ル公民ニ非  
 サルトキ 三圓

第三條 徵集ヲ延期又ハ猶豫セラレタル者ハ延期又ハ猶豫セラレタル年ノ翌年ヨリ起算シ七年間兵  
 役稅ヲ納ムヘシ

第四條 現役ニ服スル者入營前其ノ役ヲ免除セラレタルトキハ其ノ翌年ヨリ起算シ七年間兵役稅ヲ  
 納ムヘシ

第五條 教育召集ニ應シタル補充兵及六週間現役兵ニ服役シタル者ハ其ノ召集又ハ服役ノ年ノ翌年  
 ヨリ起算シ七年間兵役稅ヲ納ムヘシ但シ其ノ稅額ハ第二條所定額ノ二分ノ一トス



第六條 現役ニ服スル者入營後三箇月ニ滿タスシテ其ノ役ヲ免除セラレタルトキハ其ノ翌年ヨリ起算シ七年間兵役稅ヲ納ムヘシ但シ其ノ稅額ハ第二條所定額ノ二分ノ一トス

第七條 現役ニ服シタル者又ハ教育召集ニ應シタル者ニシテ故意ニ現役免除者ハ召集解除ノ事故ヲ生セシメタル者ハ其ノ翌年ヨリ起算シ七年間兵役稅ヲ納ムヘシ

第八條 左ノ各項ニ該當スル者ハ兵役稅ヲ免除ス

一 第五條及第六條ニ該當スル者ニシテ入營後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ現役ヲ免除セラレ又ハ召集ヲ解除セラレタル者

二 一戸内二人以上ノ現役相當者アル場合ニ於テ其ノ中一人現ニ現役ニ服スルトキハ其ノ他ノ者

三 徵兵令第十九條若ハ第二十二條ニ依リ兵役ヲ免除セラレタル者

四 兵役稅義務者ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召集ヲ受ケタルトキ但シ既納ノ兵役稅ハ之ヲ還付セ

第九條 徵集ヲ延期又ハ猶豫セラレタル者ニシテ其ノ事故止ミ現役ニ服スルトキハ既納ノ兵役稅ヲ還付ス

前項ニ依リ兵役稅還付後三箇月以内ニ於テ現役ヲ免除セラレタル者ニハ第六條ノ規定ヲ準用ス

第十條 北海道廳府縣市區町村ハ兵役稅ニ對シ附加稅ヲ課スルコトヲ得ス

附 則

本法ハ大正五年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

一〇 癱兵、戰病死者遺族、軍人家族救護法案

癱兵、戰病死者遺族、軍人家族救護法

第一條 本法ニ於テ癱兵トハ戰鬪其ノ他公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ軍人恩給法ニ依リ増加

恩給ヲ受クル者、戰病死者遺族トハ戰時ノ際戰死シ又ハ從軍中戰鬪其ノ他公務ノ爲傷痍若ハ疾病ニ

因リ死歿シタル陸海軍人、軍屬、其ノ他之ニ準スヘキ者ノ配偶者、直系親族又ハ兄弟姉妹ニシテ其ノ

死歿ノ時ヨリ引續キ之ト同一戸籍内ニアル者、軍人家族トハ現役ニ服スル陸海軍人及豫備役後備役

ノ勤務演習又ハ戰時若ハ事變ニ際シテ召集セラレタル陸海軍人ノ配偶者、直系親族又ハ兄弟姉妹ニ

シテ召集以前ヨリ引續キ之ト同一戸籍内ニ在ル者ヲ謂フ

第二條 癱兵、戰病死者遺族及軍人家族ニシテ救護ヲ要スルモノハ本法ニ依リ軍事救護金ヲ給ス但シ

他ノ法令ニ依リ給與ヲ受クル權利ヲ有スル者ハ其ノ給與ヲ受クルモ尙救護ヲ要スル場合ニ限ル

第三條 軍事救護金ハ國庫ノ負擔トス

第四條 軍事救護金ノ給與ハ一家ノ生計維持ヲ限度トシテ一時又ハ定期ニ之ヲ支給ス但シ其ノ資格

及支給金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ府縣知事之ヲ決定ス

第五條 救護事務ヲ掌ラシムル爲市東京市、京都市、大阪市ニ於テハ區區町村ニ軍事救護委員ヲ置ク

軍事救護委員ハ其ノ勤務ニ相當スル報酬ヲ受ク

前項ノ報酬ハ國庫ノ支辨トス



第六條 軍事救護委員ハ其ノ區域内ニ住所ヲ有スル者ニシテ第二條ノ救護ヲ要スル者及其ノ生計其ノ他ノ情况ヲ審査シ之ヲ市町村長ニ申告スヘシ

市町村長前項ノ申告ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ府縣知事ニ申達スヘシ

府縣知事前項ノ申達ヲ受ケタルトキハ申達書到達ノ日ヨリ十四日以内ニ決定ヲ爲スヘシ

第七條 救護ヲ要スル事情急迫ナル場合ニ於テハ市町村長ハ假處分ヲ以テ軍事救護金ノ救與ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ市町村長ハ市町村費ヲ以テ一時之ヲ繰替ヘ支辨スヘシ

第八條 市町村長前條ノ假處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ府縣知事ニ申告シ其ノ決定ヲ求ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣知事給與ヲ爲スヘカラサルモノト決定シタルトキハ市町村長ハ其ノ假處分ヲ取消スヘシ但シ既ニ支辨シタル給與金ハ國庫ノ負擔トス

第九條 第四條及第八條第一項ニ依ル決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十條 軍事救護ヲ目的トスル私立團體ニシテ成績優良ナリト認ムルモノニ對シテハ軍事救護金中ヨリ補助金ヲ下附スルコトヲ得

第十一條 補助金ヲ下附スヘキ者及其ノ補助金額ハ内務大臣、大藏大臣、陸軍大臣及海軍大臣合議ノ上之ヲ定ム

第十二條 北海道、沖繩縣其ノ他市町村制ヲ施行セサル地ニハ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

右兩案ハ四年十二月二十二日矢島八郎君外十六名之ヲ提出ス同月二十六日兩案ヲ一括シテ其ノ第一讀會ヲ開キ提出者矢島八郎君及林毅陸君ハ順次左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

(九) 矢島八郎君ノ趣旨辯明

本案ニ付キマシテハ、不肖提出者ヲ代表致シマシテ説明ヲ致シマス、勿論簡單ニ要ヲ摘ミマシテ申上ゲマスルガ、御承知ノ通り甚ダ説明ノ下手ナ人物デゴザイマスカラシテ、御聽キ苦シクモ暫時御忍ビテ願ヒマス、本員等ハ茲ニ兵役稅法案並ニ癩兵、戰病死者遺族、軍人家族救護法案ヲ提出致シマシタ、此中兵役稅法案ハ御承知ノ通り本年ノ臨時議會ニ提出致シマシタガ、會期ノ短カッタガ爲ニ、委員會ノ經過ヲ本會議ニ報告スルノ運ビニ至ラヌデ、會期ガ終了致シタノデゴザイマス、因テ再ビ本會議ニ提出シタ次第デゴザイマス、同法案提出ノ理由ニ付キマシテハ、既ニ前議會ニ於テ本員ガ説明致シマシタ如ク、其根本ノ理由ハ一方ニハ國民皆兵ノ主義ヲ貫徹致シマシテ、一般ニ尙武ノ思想ヲ涵養致シマシテ、以テ忠君愛國ノ精神ヲ益、鞏固ナラシムルト共ニ、國民義務負擔ノ不公平ヲ減少シテ、徵兵忌避ノ弊害ヲ矯正シ、他方ニハ現役兵卒及在郷軍人ノ待遇ヲ改善シテ、之ニ相當ノ後援ヲ與ヘ又過去ノ戰事ニ於ケル癩兵若クハ戰病死者等ノ遺族ヲ現在ノ憐ムベキ境遇ヨリ救出シ、之ニ依ッテ現役及在郷軍人ノ士氣ヲ鼓舞シ、併セテ弱者ニ對スル社會政策上ノ要求ニ應ゼントスルニアリマス、而シテ本同ハ別ニ兵役稅法案ノ附帶ト致シマシテ、救濟法案ヲ同時ニ提出致シマシタ、全ク是ハ關聯致シタ問題デアリマス、同案ハ前臨時議會ニ於テ全會一致ヲ以テ本院ヲ通過致シマシタ、軍人家族癩兵戰病死者遺族救護ニ關スル建議案ト略シ、其趣旨ヲ同ジウスルモノデアリマシテ、先ヅ國家焦眉ノ急ニ迫ラレテ居ル所ノ癩兵戰死者及之ニ準ズベキ傷病死者遺族並ニ現役兵ノ家族ノ救護ヲ目的トスルモノデアリマスガ、本案ノ性質ハ兵役稅ノ歲入ヲ特別會計トナサズシテ、一般會計ニ屬セシムル以上ハ、兵役稅ノ歲入ハ必ズ先ヅ此等ノ救護費ニ充當スベキコトヲ明確ニ定ムル必要ガアルコトヲ信ジマス



併ナガラ兵役税ノ歳入全部ハ、悉ク此救護費ニ投ズルト云フ趣旨デハ勿論ナイノデアリマス、兵役税法案ニ掲ゲアルガ如ク、其歳入ハ實施後七箇年マデハ年々増加シテ、七箇年後ニ至ッテ初メテ豫定ノ總稅額ヲ得ラル、ノデアリマスカラ、其間收入ノ増加ニ伴ウテ逐次ニ現役兵卒ノ増加、善行アル兵卒ニ對スル滿期退營資金、在郷軍人分會基金補助等ニ及バントスルノデアリマス、此救護法案ニ付キマシテ提出者ノ一人タル林毅陸君ヨリモ一層詳シク御説明ガアル筈デゴザイマス、尙本案ニ付テ申上ゲテ置キタイコトハ、陸軍一部當局ノ説ニ依リマス、兵役稅ヲ兵役免除者ヨリ徵收スルコトニナレバ、之ニ依リテ服役義務ト相殺スルコトニナッテ、兵役服務者ノ名譽ガ無クナッテシマイハセヌカト云フコトデシタガ、本員等ハ是ハ大ナル誤リデアルト信ズル、何トナレバ兵役義務者ハ精神上肉體上殆ド絶大ノ犠牲ヲ拂フモノデアアルカラシテ、如何ナル義務モ之ニ優ルモノハナイ、如何ナル物質上ノ代償モ之ヲ償ヒ得ルモノデナイノデアリマス、加之兵役ニハ血肉稅ノ外ニ經濟上ノ義務ヲモ少カラズ負擔シテ居ルノデアリマス、故ニ本員等ノ精神ニハ、兵役服務者ノ此血肉稅以外ノ經濟上ノ負擔ニ對スル幾部分ヲ、免役者カラ自ラ進ンデ納稅セシメテ、以テ兵役ニ關スル國民奉公ノ一端ヲ盡サシメタイト云フニアリマスカラ、決シテ斯カル納稅ノタメニ、崇高ナル兵役服務者ノ義務若クハ名譽ガ相殺サレテ、消失スルヤウナ疑點ハ、少モ起ラナイト信ジマス、又一部當局者ノ言ニ依リマス、兵役ニ服スル者ハ身體ノ健康、規律心ノ養成、實素ノ美風等種種々軍隊ニ於テ利益ヲ得ルカラ、此點ヨリ免除者ニ課稅スルハ理由ナキコトデアルト云フノデアリマシタ、是ハ申サバ水掛論ニ過ギナイノデアリマス、何トナレバ入營者中ニハ成程右ノヤウナ利益ヲ得ルコトハ、勿論デアリマスガ、又此ノ反對ニ酒ヲ飲ムコト、又ハ花柳ノ巷ニ出入スルヤウナコトヲモ覺エテ、却テ入營前ヨリ健康ヲ害スル者モアルノデアリマス、遺憾ナガラ左様ナ實例ガアリマス、又規律ヲ犯シテ軍事若クハ刑事上ノ犯罪者トナル者モゴザイマス、又質素ドコロカ却テ都會ノ華美ノ風習ニ浸潤スル者モアリマス、此等ハ各人各箇ニ異ナル所デ、必シモ之ヲ以テ一般服役者ノ利益トモ亦損失トモ一概ニ斷定スルコトハ出來ナイノデアリマス、更ニ又一部ノ當局者ハ、本稅ハ歐羅巴小弱國ニバカリ行ハレテ居ルカラ、日本モ之ニ倣フト云フコトハ如何ナモノデアアルカト云フコトヲ申サレテ居リマスガ、諸外國ノ例ハ必シモ我帝國ガ之ニ倣フト云フ必要ハナイト信ジマスル、ケレドモ其説明ガ聊カ事實ト符合シマセヌコトガアリマスカラ、一言

申上ゲマスルガ、現今デハ歐羅巴デハ奧太利、露西亞、伊太利等ノ強國ニ於テ實施シテ居ルト申スコトデアリマス、其他強國ニ於テ英國、米國、二箇國ハ御承知ノ如ク徵兵令ヲ布カレテアリマセヌカラ、本稅ノナイノハ勿論デアリマス、佛蘭西國ガ本稅ヲ廢止シタト云フコトデアリマスガ、其佛蘭西ハ本稅其モノニ反對シタノデハナクシテ、人口減縮ノ問題等ニ依テ廢止スルコトガ起因ニナッタト申スコトデアリマス、又獨逸ハ先年來政府殊ニ獨逸國陸軍省ニ於テハ、頻ニ本稅ノ成立ヲ希望致シマシタト云フコトデアリマスガ、一部ノ議員ニ於キマシテ、今日我陸軍一部ニ於キマシテ唱ヘラレマスヤウナ、服役者ノ名譽ガドウデアラウ斯ウデアラウト云フノデ、遂ニ反對シタタメ未ダ其成立ヲ見ルニ至ラヌト云フコトヲ承ッテ居リマス、以上述ベマシタ所ニ依テ見マス、陸軍一部ノ當局ノ説ハ悉ク其理由ノナイモノト考ヘラレマス、些々タルコトニ杞憂ヲ持タレルニ出ヅルモノデアラウカト信ズルノデアリマス、此本稅ニ付キマシテハ軍人中ニ多數ノ贊成者モアルコトハ、諸君モ御存知ノコトハ、考ヘラレマス、右ノ如キ疑點ハ一部當局者一箇ノ御考ニ出デタモノト思ヒマスガ、唯些々タル點ニ御懸念ニナルコトニ止マッテ居ルコトハ、確信致スノデアリマス、是ハ陸軍當局ニ於キマシテモ、餘程親切可憐ニ社會ノ真相ヲ穿ッテ御調べニナルコトヲ希望致シマス、同ジ政府デモ大藏省ハ、先年來是モ諸君ノ御耳ニ入テ居ルコトデアリマスガ、此兵役稅ヲ起サナケレバナラヌト云フコトデ、多大ノ力ヲ盡サレテ調査シテアル趣デアリマス、ソレ故ニ私ハ聊カ自分ノ卑見ヲ茲ニ差加ヘテ置キマス、終リニ臨ミマシテ一言申上ゲタイコトハ、前臨時議會ニモ申上ゲマシタ通り、本案ハ全ク政略トカ黨略トカ云フコトハ毫モナイコトデアリマシテ、本員等ガ熱誠ノ餘リ提出致シマシタ次第デアリマスカラ、苟モ帝國將來ノコトヲ慮リ、下級軍人廢兵及救濟ヲ要スベキ軍人遺族家族ニ御同情ヲ下サイマシテ滿場ノ諸君ノ此場合御贊成ヲ得マシテ、全會一致ヲ以テ本院ヲ通過セラレムコトヲ希望シテ止マヌノデゴザイマス

(一〇) 林毅陸君ノ趣旨辯明

私ハ此廢兵、戰病死者遺族軍人家族救護法案ノ提出者ノ一人ト致シマシテ、極ク概略ノ説明ヲ致シタイト思ヒマス、デ此廢兵遺族及軍人家族救護ノコトニ付テハ、本年ノ夏ノ臨時議會ニ於キマシテ建議案ヲ提出シ、諸君ノ御贊成ニ依リマシテ滿場一致可決致シタコトガアルノデアリマス、即チ本年ノ六



月九日ノ本議會ニ於キマシテ、其趣意ノ建議案ガ可決ニナッタノデアリマス、其趣意ヲ再ビ承繼ギマシテ、其場合ニ於テハ唯建議案ヲ提出シタノデアリマスケレドモ、更ニ其後ノ研究ノ結果ニ因リ、吾々ノ間ニ於キマシテ具體的ニ救護ノ方法ヲ調査致シマシテ、斯ウ云フ方法ガアルナラバ必ズ適當デアラウト云フ見込ノ著キマシタ所カラ、此ニ此法案ヲ提出スルニ至ッタ次第デゴザイマス、此案ノ趣意トスル所ハ、多クヲ申サズトモ諸君ノ既ニ御了解ノ事デアラウト存ジマス、此前建議案ヲ提出致シマシタ場合ニ、其建議案ノ中ニ廢兵又遺族又出征軍人ノ家族、是等ノ甚ダ哀ムベキ所ノ者ガ多イノデアリマスカラ、之ニ相當ノ救護ノ途ヲ盡サナイト實ニ憂フベキ結果ヲ生ズルカモ知レナイト云フ所カラ、斯ウ云フ文句ガ其時ノ建議案ノ中ニ用キラレテ居ルノデアリマス、即チ「若シ新ニ相當ノ方法ヲ講シ適切ナル救護ノ途ヲ樹ツルニ非スムハ或ハ兵役ヲ忌ミ軍事ヲ咀ヒ遂ニ護國ノ根本精神ニ憂フヘキ影響ヲ及ホスノ虞ナシトセス」斯ウ云フ趣意ヲ政府ニ向ヒ、速ニ相當ノ救護方法ヲ調査シ而シテ適當ノ案ヲ提出セラレンコトヲ望ンデ置キマシタノデアリマス、是ハ本年六月ノコトデアリマス、爾來政府ハ他ノ事ニ御忙シイヤウデアリマスガ、吾々ノ研究ノ結果、茲ニ斯ウ云フ案ヲ提出シタ次第デアリマス、此廢兵遺族等ニ付キマシテハ、本年ノ夏以後吾々ノ調査シタ所ニ依リマスケレドモ、精シイコトハ表ヲ作リマシテ此速記録ノ終リニ附ケテ貫ツテ、私ノ説明ハ略スル積リデアリマスガ、概略ヲ申セバ遺族廢兵兩方ヲ合シマシテ、十萬六千八百四十四人ト云フ數ガ出テ居ルノデアリマス、是ハ軍人後援會ノ調査トソレカラ他ノ最モ信用スベキ調査ヲ合セマシテ、其均平ヲ取リタル數デアリマス、假ニ大體十一萬ノ遺族及廢兵ガアルト見レバ間違ガナイト思フノデアリマス、而シテ其中ニ救護ヲ必要トスルト云フ者ヲ調べテ見マスケレト云フコトハ、約三萬人アルノデアリマス、此三萬人ニ向テ相當ノ救護ヲ與ヘタ、其金額ハ年額ニ於テ幾ラト云フコトハ、此救護法案ニ於テハ定メタノデアリマセズ、ソレハ財政ニ此財源ノ模様ニモ依リマスケレト云フコトハ、事情モ研究シナケレバナラヌ譯デアリマスケレト云フコトハ、今日ニ於キマシテモ或ハ廢兵或ハ遺族等ノ洵ニ同情スベキ人々ニ對シマシテ、各種ノ慈善團體或ハ軍人後援會、愛國婦人會或ハ町村ニ於テハ、イロ／＼ノ團體ガアルヤウデアリマス、斯ウ云フ各種ノ團體カラ救護シテ居ルノハ實際デアリマスケレドモ、併ナガラ其金額タルヤ甚ダ輕微ナルモノ

デアリマシテ、遺族ニ對シテハ一年ニ平均一人三圓二十錢八厘ニシカナツテ居ラナイ、又廢兵ニ付キマシテハ是等私立ノ團體ヨリ與ヘマスケレトコロノ救助ノ金額ト云フモノハ、一人ニ割リマシテ一年ニ僅ニ一圓四十錢九厘ニシカナツテ居ラヌ、洵ニ各種團體ヨリ與ヘラレテ居ル救助ト云フモノハ、言フニ足ラヌ瑣々タルモノデアアル、之ニ對シテ國家ヨリ與ヘテ居ルモノハ如何デアアルカト申シマス、是モ細カニ申シマセヌデ何レ此表ニ添ヘテ置ク積リデアリマスガ、孤兒扶助料ガ平均ニ四十一圓二錢寡婦デアアルナラバ平均一人ガ四十圓五十一錢等、其他イロ／＼アリマス、是ハ更ニ此表ニ就テ御覽ヲ願フコトニ致シマシテ精シクハ申シマセヌ、兎ニ角ニ一月ニ割レバ僅ナ金額ニナルノデアリマシテ、國家ヨリ與ヘテ居ル恩給或ハ扶助料ノ如キ、勿論不十分ヲ極メテ居ルノデアリマス、而シテ各種ノ慈善團體ヨリノ扶助ハ勿論言フニ足テヌ、ドウシテモ是等以外ニ於テ具體的ニ適當ノ方法ヲ求メネバナラヌト斯ク吾々ハ考ヘルノデアリマス、此表ノ終リニモ添ヘテ置キマシタガ、特ニ諸君ニ御覽ヲ願ヒタイノデアリマス、獨逸ニ於テノ例ト比較シマスケレト、最モ其差ガ甚ダシイノデアリマス、獨逸ハ此遺族ノ家族ノ人數ニ依リマシテ、五人ナラバ五人、三人ナラバ三人、其數ニ應ジテ金額ガ増シテ居ルノデアリマス、日本デハ唯一人ダケ寡婦ナラバ寡婦、孤兒ナラバ孤兒、其一人ガ而モ僅少ナル金ヲ貰ヒマスルノデアリマス、獨逸デハ之ニ反シテ孤兒、寡婦並ニ兩親ガ生遺ツテ居ルト致シマスルナラバ、ソレ等ノ者ガ一人々々皆貰フ、若シ遺族ガ五名ノ人數ヨリ成ルトコロノ家庭デアリマシタナラバ、其五名ガ皆ソレ／＼貰フノデアリマス、例ヘバ日本ナラバ此卒ノ寡婦ハ僅ニ一年ニ四十二圓バカリ貰フト云フモノガ、獨逸デハ其家族ガ假ニ五名デアッタトスルナラバ五百六十三圓ヲ貰フコトニナリマス、日本ハ幾ラ家族ガアリマシテモ、唯四十二圓ダケデアツテ往カネバナラヌノデアリマス、獨逸デハ家族ノ多イ場合ニハソレダケノ金額ヲ増ス、洵ニ完全ナル扶助ノ仕組ニナツテ居ルノデアリマス、ソレ等ヲ對比シテ考ヘマスケレト、如何ニモ我國ノ制度ノ不完全ナルコトヲ一層痛切ニ感ゼザルヲ得ナイ、申スマデモナク或ハ廢兵或ハ遺族、是等ハ國家ノ干城トナリ國家ノ爲ニ最モ全イ義務ヲ盡シテ其犧牲トナリマシテ、不幸ナル境遇ニ陥ツテ居ルノデアリマス、普通ノ民間ノ會社等ニ於キマシテモ、會社ノ傭人ガ或ハ從業中ニ負傷ヲシタトカ、或ハ生命ヲ失フタトカ云フ場合ニハ、之ニ手當ヲ爲シ、或ハ其負傷者ノ家族ヲ救助スル、或ハ生命ヲ失ヒマシタ場合ニハ、其遺族ヲ救助シテヤルト云フコトヲ、會



社ニ於キマシテモソレハ設備ヲシテ居ルモノガアル位デアリマス、我國ニ於テハ其設備ハ未ダ十分發達ハシテ居ラヌヤウデアリマスケレドモ、我國ニ於テスラモ會社ニ依ッテハ其邊ノ途ヲ十分盡シテ居ル所ガアル程デアル、此民間ノ私ノ事業ニ從事シテ居ル者デスラモ、ソレ程ニ或ハ負傷シ或ハ生命ヲ失ッタ者ニ對スル救助ノ設備ヲ講究セラレテ居リマスルノニ、國家ノ爲ノ犠牲トナリ、國家ノ爲ニ最大ノ義務ヲ盡シテ、其爲ニ或ハ負傷シ或ハ生命ヲ失ッタト云フ者ノ遺族是ガ安心シテ行クコトノ出來ナイ、非常ニ憫ムベキ、非常ニ同情スベキトコロノ悲惨ナル境遇ニ拋棄セラレテ居ルト云フコトハ、洵ニ國家トシテ相濟マナイコトデアラウト思フデアリマス、單ニ人道ノ上ヨリ見テ、サウ云フコトガ甚ダ相濟マナイト云フコトバカリデハナイ、實際國家ノ根本ノ基礎ヲ養フ上ニ於キマシテモ、即チ先程申シマシタ本年ノ夏ノ建議案ニアリマシタル護國ノ根本ノ精神ヲ養フト云フ精神カラ考ヘマシテ、餘程是ハ注意ヲ拂ハナケレバナラヌ問題デアラウト思フデアリマス、現ニ廢兵ナドノ如キ極メテ悲惨ナル境遇ニ居リマスル者ハ、往々ニシテ種々ノコトヲ聞クノデアリマス、私此席ニ於テ之ヲ云フコトヲ甚ダ不本意ト致ス者デアリマスケレドモ、或軍人ノ御方ガ演習ノ際ニ、廢兵ガ兵卒ニ藥ヲ賣リニ來テ悔話ヲシテ居ル、其悔話ヲ段々横デ聞イテ居ルト云フト、君達兵隊ニナッテイロ、ヤッテ居ルケレドモ、モウ好イ加減ニヤッテ置ケト斯ウ云フ言葉ヲ漏ラシタ、幾ラ骨ヲ折ッタトコロデ、國家ノタメニ忠君愛國トカト云フテ骨ヲ折ッタトコロデ、結局何ニナル、俺達ノヤウニ斯ウ云フ不具者ニナッテイロ、モ出ルナイ、乞食同然ノ狀況デ苦マナケレバナラヌデアアル、餘リ本氣ニナッテヤッタトコロガ仕方ガナイ、君達モ好イ加減ニヤッテ置ケト斯ウ云フコトヲ其廢兵ガ兵卒ニ話ヲシタト云フト、或將校ノ軍人ガ聞カレマシテ非常ニ嘆息サレタ、斯ウ云フ状態デハ非常ナル結果ヲ生ズルカモ知レヌト云フコトヲヤッテ居ル人ガアルト云フコトヲ承ッテ居リマス、是ハ日本人ノ氣質ト致シ、如何ニ苦シウテモ、如何ニ悲惨ナル境遇ニ居リマシテモ、ヤハリ軍人ノ流レデアアル、餘リニ見苦シイ見ットモナイヤウナ泣言ハ言ハナイ、齒ヲ喰縛ッテデモ居ル譯デアリマセウケレドモ、ヤハリ不圖スレバサウ云フ嘆聲ヲ漏サザルヲ得ナイ、馬鹿ヲシイ話ダカラ君達ハ好イ加減ニシテ置ケト、是ハ自カラ發シ來タルトコ

ロノ嘆聲デアラウト思フノデアリマシテ、是ガ斯ク一人バカリデハナイ、二人デハナイ、多クノ廢兵又ハ廢兵ノ悲惨ナル境遇ヲ見テ居ル人、遺族ノ悲惨ナル境遇ヲ見テ居ル人、其人ノ胸ノ中ニ自カラ起リ來ルダラウト思フ、ツマラヌ話デアアル、實ニサウ云フ感ジガ若シ起ルト云フトデアリマスルナラバ、實際此國ヲ護ル護國ノ精神ノ根本ニ容易ナラザル影響ヲ及ボスト云フ氣遣ガ確ニアルノデアリマス、私ハ我國ノ忠君愛國ノ精神、此精神ガ根本ニ於テ動搖ヲ來スト云フトハ信ジマセヌ、サウ云フ薄弱ナルモノデアアルトハ思ヒマセヌケレドモ、併ナガラ所謂未ダ雨降ラザルニ窓ヲ繕ウテ置クト云フコトハ、經世家ノ心スベキトコロデアラウト思フノデアリマス、隨分軍人ノ死シタル人ノ記念碑ヲ造リマシテ、其功勞ヲ表彰シ、同時ニ忠君愛國ノ精神ヲ獎勵スルト云フト、記念碑ナドヲ各所ニ設ケラレテ銅像ナドガ建ッテ居ルノデアリマスケレドモ、此憐ムベキ廢兵——此憐ムベキ廢兵、自分ノ生活ニ困ッテ居ルト云フ廢兵、或ハ遺族ノ憫レナル者、是等ガ國家ノ忘恩ノ活キタル記念碑トシテ、全國各所ニ居ルノデアリマス、如何ニ將軍名將ノ銅像ヲ建テ、其功ヲ表彰シ、ソレニ依ッテ忠君愛國ノ精神ヲ獎勵スルト云フヤウナコトヲ致シテモ、活キタル記念碑——活キタル人間ノ記念碑ガ國家ノ忘恩ヲ各所デ廣告シテ歩クト云フトニナリマシタナラバ、其獎勵何等ノ役ニモ立ツ譯ハナイ、故ニ私ハ此國家ノ活キタル忘恩ノ記念碑ト廢兵ガナッテ、悲惨ナル境遇ニ際會シテ居ルト云フトハ見ルニ忍ビナイ、國家ノ爲ニ甚ダ見ルニ忍ビナイコトデアリマシテ、之ヲ永ク其儘ニ拋棄シテ置キマシタナラバ容易ナラザルコトニナルノデアリマスルカラ、十分諸君ニ於カレマシテモ此點ニ御同情ヲ寄セラレテ、此案ノ成立ニ御賛成アラムコトヲ希望スルノデアリマス、此處ニ御參考トシテ表ヲ添ヘテアリマスルカラ、之ヲ併セテ此處ヘ御添ヘテ願ヒマス

(參照略)

質疑、應答ノ後兩案ハ議長指名(十八名)ノ同一委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ翌二十七日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末五年二月十九日兩案孰レモ原案ニ修正ヲ加ヘ(九)案ハ表題ヲ「壯丁稅法案」ニ改メ報告書ヲ議長ニ提出セリ



壯丁税法

第一條 帝國臣民ニシテ常備兵役ニ服セサル男子ハ本法ニ依リ壯丁税ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 壯丁税ハ左ノ税率ニ依リ徵兵適齡ニ達シタル翌年ヨリ七年間之ヲ賦課ス

- 一 前三年間 定額税 第三種所得税額ノ百分ノ二十
- 二 後四年間 定額税 第三種所得税額ノ百分ノ十

第三條 比例税ノ課税標準ト爲スヘキ第三種所得税額ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ算定ス

- 一 戸主カ納税義務者ナル場合ニ於テハ本人ノ納ムル第三種所得税ノ全額ニ依ル
- 二 家族カ納税義務者ナル場合ニ於テハ本人ノ納ムル第三種所得税ノ全額ト戸主ノ納ムル第三種所得税ノ半額トヲ合算シタルモノニ依ル

三 家族二人以上同時ニ納税義務者ナルトキハ前號ノ規定ニ依リ課税標準ニ算入スヘキ戸主ノ納ムル第三種所得税ノ半額ハ納税義務者ノ數ニ之ヲ平分ス

四 戸主ト家族トカ同時ニ納税義務者ナルトキハ戸主ノ納ムル第三種所得税ノ半額ハ前二號ノ規定ニ拘ラス課税標準ニ之ヲ算入セス

前項ノ第三種所得税額ハ其ノ年一月一日現在ノ前年分ノ税額ニ依ル

第四條 左ニ掲クル者ニハ服役又ハ召集解除ノ翌年ヨリ起算シ六年間第二條第二號ノ税率ニ依リ壯丁税ヲ賦課ス

一 教育召集ニ應シタル者

二 陸軍六週間現役ニ服シ現ニ官公立小學校ノ教職ニ在ル者

第五條 左ニ掲クル者ニハ徵兵適齡ニ達シタル翌年ヨリ起算シ七年ニ達セサルトキハ其ノ殘期間第二條第二號ノ税率ニ依リ壯丁税ヲ賦課ス但シ徵兵適齡以前ヨリ志願ニ依リ又ハ徵集ヲ延期若ハ猶豫セラレタル後兵籍ニ入りタル者ニ在リテハ其ノ服役ノ翌年ヨリ起算ス

一 現役中補充兵役若ハ國民兵役ニ編入セラレ又ハ兵役ヲ免セラレタル者

二 第二十一條ニ掲クル者ニシテ兵籍ヲ離レ又ハ前號ニ該當スル者

前項ノ殘期間ハ補充兵役又ハ國民兵役ニ編入セラレ若ハ兵役ヲ免除セラレ又ハ兵籍ヲ離レ若ハ現役ニ服セサルコトノ確定シタル年ヲ算入セス

第六條 現役ニ服スル者入營スルコトナク國民兵役ニ編入セラレ若ハ兵役ヲ免除セラレタルトキハ其ノ編入若ハ免除ノ翌年ヨリ起算シ第二條ノ規定ニ從ヒ七年間壯丁税ヲ賦課ス

第七條 現役ニ服セスシテ補充兵役ニ編入セラレタル者又ハ徵集ヲ延期若ハ猶豫セラレタル者ハ現役ニ服セサルコト又ハ教育召集ニ應セサルコト確定スルニ至リタル年迄壯丁税ノ徵收ヲ猶豫シ其ノ翌年ヨリ起算シ第二條ノ規定ニ從ヒ七年間壯丁税ヲ賦課ス

第八條 現役中又ハ豫備役兵ニシテ部隊編入中公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ其ノ役ヲ免セラレタル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ壯丁税ヲ課セス

第九條 納税義務者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ爾後ノ納期ニ屬スル分ヨリ壯丁税ヲ課セス



一 戰時又ハ事變ニ際シ召集ニ應シタルトキ  
二 死亡シタルトキ

三 無期又ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ處セラレタルモノナルトキ  
第十條 納稅義務者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ壯丁稅ヲ免除ス

一 廢疾不具ノ爲職業ニ從事スル能ハサルトキ  
二 貧民トシテ公共ノ救助ヲ受クルトキ

三 補充兵ニシテ部隊編入中公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ其ノ役ヲ免セラレタルトキ  
四 豫備役中國民兵役ニ編入セラレ又ハ兵役ヲ免セラレタル者

第十一條 納稅義務アル者ハ納稅義務發生ノ年一月中ニ其ノ本籍地及兵役關係ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ戸主ニ非サル者ハ戸主ノ氏名及住所ヲモ併セテ申告スヘシ

納稅義務者又ハ其ノ戸主第三種所得稅納稅義務者ナルトキハ前項ノ外毎年一月中ニ第三條第二項ノ規定ニ依ル所得稅額及比例稅ノ課稅標準算定ニ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スヘシ

第十二條 第八條第九條及第十條ニ該當スルトキハ納稅義務者又ハ其ノ戸主家族ハ其ノ旨ヲ政府ニ申告スヘシ

第十三條 政府ハ定額稅ニ付テハ納稅義務發生ノ年四月中ニ納稅義務アルコトヲ決定シ比例稅ニ付テハ毎年四月中ニ其ノ課稅標準ヲ決定シ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十四條 納稅義務者前條ノ決定ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ

事由ヲ具シ政府ニ申出テ其ノ審査ヲ求ムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セズ

第十五條 前條ノ請求アリタルトキハ審査委員會ヲ開キ其ノ諮問ヲ經テ政府之ヲ決定シ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十六條 審査委員會ノ組織及會議ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
前條ノ決定ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十七條 壯丁稅ハ年額ヲ二分シ左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス  
第一期 其ノ年七月一日ヨリ三十一日限  
第二期 翌年一月一日ヨリ三十一日限

第十八條 納稅義務者家族ナル場合ニ於テハ戸主ハ壯丁稅ノ納付ニ付連帶シテ其ノ責ニ任ス  
第十九條 壯丁稅ハ納定義務者ノ住所地ヲ以テ納稅地トシ住所ナキトキハ居所地ヲ以テ納稅地トス但シ住所地以外ニ在ル納稅義務者ハ申告シテ居所地ニ於テ納稅スルコトヲ得

本法施行地内ニ住所又ハ居所ナキ者ハ納稅地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキトキハ本籍地ヲ以テ納稅地トス

第二十條 納稅義務者納稅地ニ現住セサルトキハ壯丁稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ

第二十一條 陸海軍ノ將校、同相當官、准士官、見習士官、同相當官、下士、候補生及兵籍ニ編入セラレタ



ル學生、生徒ニハ其ノ在籍中本法ヲ適用セス但シ第五條ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス  
第二十二條 徴兵事務ヲ掌ル官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ事務ニ關スル事項ヲ收稅官廳ニ報告スヘシ

第二十三條 第十一條ノ申告ヲ爲サス又ハ虛偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

第二十四條 壯丁稅ヲ逋脱シタル者ハ其ノ逋脱金高三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五條 第二十條ノ申告ヲ爲ササル者ハ五圓以下ノ科料ニ處ス

第二十六條 北海道府縣市區町村其ノ他ノ公共團體ハ壯丁稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ本法施行ノ年以後徴兵適齡ト爲リタル壯丁及本法施行ノ年ニ於テ現ニ徵收ヲ延期又ハ猶豫セラレタル者ヨリ之ヲ適用ス

本法ハ徴兵令ヲ施行セサル地方ニハ之ヲ施行セス但シ本法施行地内ニ本籍ヲ有スル者ハ本法施行地外ニ在ルモ仍本法ヲ適用ス

(委員會報告書)(一〇)

癩兵、戰病死者遺族、軍人家族救護法案中左ノ通修正ス

第十一條中「其ノ補助金額ハ内務大臣、大藏大臣、陸軍大臣及海軍大臣合議ノ上之ヲ定ム」ヲ「其ノ補助金額ノ決定ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」ニ改ム

二月二十四日兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ(二十二日及二十三日ノ兩回延會)委員長矢島八郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

兵役稅法案並ニ癩兵戰病死者遺族軍人家族救護法案ノ委員會ノ經過及結果ヲ御報告致シマス、暫時御清聽ヲ煩ハシマス、兩法案ノ提出ハ客歲十二月二十二日デゴザイマシテ、二十六日ニ本會議ニ上リマシテ以來委員會ニ付託サレ、爾來委員會ヲ開キマス、コト七回、委員出席スルモ國務大臣ノ出席ノ無イタメ會議ヲ延期シタコトガ二回、委員中特別調査委員ヲ設ケマシテ本案ヲ審議熟慮スルタメニ此會ヲ開キマシタコトガ六回、ソレハ正式ノ會議デアリマス、其間ニ特ニ審査ヲ重ネマシタコトモ數回アリマシタ、遂ニ二月十九日ヲ以テマシテ委員會ヲ終了致シマシタ、此委員會ニ於テ審議致シマスニ付テハ政府委員ノ出席モ請ヒマシタ、又委員會ヲ開キマシタ後ニ更ニ小委員會ヲ設ケマシテ審議致シマシテ、其結果一ノ修正案ヲ作リマシタノデゴザイマス、之ヲ委員會ノ議ニ付シマシテ修正案ハ全會一致ヲ以テ可決致シマシタノデゴザイマス、ソレハ諸君ノ御手許ニ差上ゲテ置キマシタ、是ヨリ原案ト修正案トヲ對照致シマシテ、修正ノ理由ヲ簡單ニ申上ゲヤウト存ジマス、先ヅ兵役稅法案ニ付テ申上ゲマスガ、此兵役稅法案ハ名稱ヲ壯丁稅ト云フコトニ改メマシタ、其理由ハ後ニ申上ゲマスガ、陸軍政府委員ノ説明ニ依リマス、兵役稅ト云フ名稱ハ舊代人料ト同一ノ感ヲ抱ケ場合アルカラシテ、ドウモ是ハ少シ考ヘナケレバナラヌト云フ意思ヲ常ニ持ッテ居ラレマシタ、壯丁稅ト致シマシタナラバ或ハ其嫌ヒガナイヤウニ相成ラウカト云フ意味ヲ持タレマシタ、大ニ此點ニ付キマシテハ委員會デモ審議ヲ重ネマシタノデゴザイマス、本稅ガ國民皆兵ノ主義ヲ貫徹シマス上ニ付テ、兵役稅ト云ヒマス方ガ最モ當ヲ得テ名實相當ルモノニ考ヘマシタレドモ、先ヅ以テ當路者ノ希望ヲ容レマス方ガ宜カラウト云フノデ壯丁稅ト改メマシタ、次ニ修正ノ第一條ハ原案デハ「現役ニ服セサル男子」ト規定シテアリマスケレドモ之ヲ「常備兵役ニ服セサル男子」ト改メマシタ、其譯ハ兵役稅ノ納期期間ヲ七箇年ト致シマシタ、此七箇年トシマシタノハ常備兵ダケハ即チ現役三年、豫備役四箇年四箇月ヲ基礎ト致シマシテ割出シマシタノデゴザイマス、本條モ常備兵ト改メマシタ方ガ妥當デアラウト云フ



考ヨリ此ニ至リマシタノデゴザイマス、又原案ニ於テハ總テ戸主ヲ以テ納稅ノ義務者ト致シマシタ  
 ノデゴザイマスガ、修正案デハ之ヲ削除致シマシテ、御手許ニ廻シマシタ如キモノニ致シマシタ、其理  
 由ハ本人ニ納稅ノ義務ヲ負ハシタ方ガ適當デアラウ、本人ガ戸主ニ非ザレバ其戸主ハ納稅ノ聯帶ノ  
 責任ヲ持ツト云フコトニ相成リマシタナラバ、徵收ニ於テモ差支アルマイト云フノデスウ云フコト  
 ニ致シマシタ、第二條ノ稅率ヲ改メマシタノハ、目下ノ狀勢ニ於テハ成ルベク納稅者ノ負擔ヲ輕ク致  
 シタ方ガ適當デアラウ、此結果ハ原案カラ見マスト頗ル總收額ハ減少致シマスケレドモ、斯様ナ考ヨリ  
 改メマシタ、同條モ前三年ト後四年トニ依リ稅率ノ區別ヲ致シマシタノハ、一方兵役服務者ノ現役服役  
 間ト豫備役間トノ豫備役間トノ對照ニ於テ、此區別ヲ致シマシタ方ガ宜カラウ、是モツマリ徵稅ヲ成ル  
 ベク減ズルト云フ方針カラ斯ウ云フ風ニ改メマシタ、又同條中兵役稅ヲ全部ニ課スルコトニ致シマ  
 シタノデゴザイマス、是ハ貧富其他ノ如何ニ拘ラズ、總テ徵稅ヲ成ルベク減ジマスタメニ率ヲ非常ニ  
 安ク致シマシタ、即チ御手許ニアリマス通りニ修正ニナリマシタ、第三條ハ比例稅ノ標準、是ハ第三條  
 ノ所得稅ノ算定法ニ付キマシテ、其納稅義務者ノ戸主ナルヤ否ヤ、又一家内ニ二人以上納稅者アリヤ  
 否ヤヲ斟酌シテ規定シタノデアリマス、少シ錯雜ニナツテ居リマスガサウ云フ譯デアリマス、第四條ハ  
 第五條ニ相當シマス、但シ其稅率及納稅期間ヲ少シク修正シタマデノコトデアリマス、第五條第一號  
 ハ第六條ノ期間ヲ削除シタノデアリマス、又第二號ハ兵卒以外ノ軍籍ニアリマスモノニ當嵌メル規  
 定デアリマス、第六條ハ原案ノ第四條ニ相當スルモノデアリマス、第七條ハ補充兵及徵集延期者クハ  
 猶豫者ノ納稅ノ起算點ヲ明瞭ナラシメルメニ、第二條ト分離シテ別ニ規定シタルモノデアリマス、即  
 チ、原案第三條ノ規定ト原案第一條中ニ包含セラレタル教育召集ヲナサル補充兵ノコトヲ併セテ  
 別條トシテ記載シタモノデアリマス、第八條ハ原案第八條第一號ニ相當スル規定デアリマス、但シ兵  
 役納稅義務者其範圍ヲ常備兵トストアリマス、其結果豫備兵ノコトヲ加ヘタルモノデアリマス、第  
 九條第一號ハ原案ノ第八條第四條ニ相當シ、第二號ハ新ニ加ヘタルモノデアリマス、第十條第一  
 號第二號ハ原案第八條第三號ニ相當スルモノニシテ、唯其範圍ヲ一層具體的ニ規定シタマデノコト  
 デゴザイマス、同條第三號ハ原案第八條第一號中ニ包含シテ規定セラレタルモノデアリマス、同條第四  
 號ハ第一條ノ例外トシテ規定シタモノデアリマス、第十一條以下第二十六條マデハ徵收稅ノ手續デ

アリマシテ、原案デハ命令ノ記載ニ委ネル積リデアリマシタノヲ、更ニ此法文ニ掲ゲル方ガ最モ明瞭  
 デ宜カラウト云フコトニ相成リマシテ、斯様ナコトニナリマシタ、第二十七條ハ原案ノ第十條ニ相當  
 致シマスモノデアリマス、附則ノ施行期限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトニ改メマシタ、又附則トシテ  
 本法ノ施行範圍ヲ新ニ規定致シマシタノデゴザイマス、是デ兵役稅法案ノ修正ノ要領ハ終リマシタ、次  
 ニ救護法案ノ方デゴザイマスガ、此方ハ唯僅ニ修正ヲ加ヘタマデノコトデアリマシテ、他ハ原案ノ  
 儘デゴザイマス、第十一條末尾ニ各大臣ノ名ヲ列記シテ居リマスガ、ソレヲ改メマシテ「其補助金額ノ  
 決定ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」斯ウ云フコトニ致シマシタ、其外修正ハ致シマセヌデゴザ  
 イマシタ、以上ヲ以テ修正ノ成文ハ概略申述ベマシタ次第デゴザイマス、是ヨリ本案ニ對スル政府委  
 員ノ意思ノアルトコロヲ併セテ御報告致シマス、先ヅ大藏省ノ方カラ申シマス、大藏省トシテハ本  
 案ニ對シテ終始同情ヲ持ツテ居ラレマシタ、委員會ニモ參加致サレマシテ其意ノ在ル所モ質問シ、十分  
 ニ大藏省ノ意ノ在ル所ヲ聽クコトヲ得マシタ、ソコデ陸軍省ノ方ニ相成リマス、此兵役稅法案ト云  
 フモノハ、兵役稅ヲ納ムル者ガ金錢ヲ以テ此兵役義務ヲ償フト云フ感情ヲ持ツト云フト、兵役ノ爲メ  
 ニ非常ナ損失ヲ來ス譯デアアル爲メニ、士氣ヲ失墜スル虞ガアル、是等ノ事ハ從前ノ代人料トノ區別ヲ  
 了解セラレザル誤解デアリマシテ、此兵役ノ名譽ガ僅ニ租稅ヲ納ムルコトニ依テ傷ケラレ、又士氣ガ  
 衰ヘルト云フ杞憂ヲ懷カレルト云フ譯デアリマス、吾々委員會ノ方カラ之ヲ見マスト、陸軍當局者ガ  
 兵役ノ名譽ヲ斯ノ通りニ考ヘマスト云フコトハ、軍事當局者自身ガ此兵役ノ名譽ヲ却テ輕ク考ヘテ  
 居ルヤウニ見ユノルデアリマス、殊ニ現時現役兵卒ノ給料ノ如キ、明治初年ニ制定レタモノヲ以テ、今  
 ニ其儘ニ相成ツテ居ルト云フ有様デアリマス、又現役兵召集豫後備兵又家族中自活シ能ハザル貧窮者  
 ノ多イコト、又諸君モ昨今恐ラク御心配下サル所ノ廢兵並ニ戰病者ノ遺族、是等ノ者ガ寒サニ苦シミ  
 飢ニ泣クト云フ窮困ノ有様デアアルニモ拘ラズ、未ダニ適當ノ救護ヲ加ヘルト云フコトガ無イノデア  
 リマス、是ハ最モ焦眉ノ急ト深ク御互ニ感ズル所ノモノデアリマス、是等ノ事ハ軍事當局者トシテ進  
 シテ御提案アツテ然ルベシト吾々ハ常ニ信ジテ居ルニ拘ラズ、未ダ當局者トシテ其御決心ノ無イノヲ  
 遺憾トスル意味ニ於テ、兵役稅制定ノ法律案ガ、此議會ニモ今年デ二年續イテ出マシヤウナ有様ニナ  
 テ居ル、加フルニ廢兵其他救護ヲ要スル者ノ法案建議案ガ昨年モ出マシテ、滿場一致ヲ以テ可決サ



レ、又本年モ此兵役税法案ト共ニ此ニ提出サレタ次第デアリマス、目下我國ノ財政状態ト致シマシテハ、際限ナク是レニ應ズルト云フ財源ノ無イト云フコトハ御考ニナツテモ居リマセウガ、一面ニハ是等ノ事ヲ考ヘ合セテ見マスルト、兵役税ノ如キモノヲ起シテ、兵ニ出ル者ノ爲ニ兵ニ出テヌ者ガ適當ナル幾分ナリトモ義務ヲ盡スト云フコトハ當然デアアルノミナラズ、此税源ニ依テ目下甚ダ遺憾ナガラ大藏財政ノ窮乏ノ上ニ甚ダ便利ヲ得ルコトニモ相成ルノデアリマスカラ、尙以テ御奮發アツテ、此案ハ申スマデモナク陸軍當局者ハ、雙手ヲ擧ゲテ御贊成ニ相成ツテ宜カラウト思フノデアリマス、陸軍當局者ノ杞憂セラル、如キ憂ハ毫モ無イト吾々ハ信ズルコトハ、嘗テモ諸君ト共ニ研究シマシタ通り、徴兵制度ヲ施カレマシテカラ此日本國ノ壯丁ハ些カ苦情ヲ唱ヘズ、又如何ナル困難ヲモ忍ンデ現役ニ服シテ居リマスナレドモ、其實其家庭ニ立入ツテ見レバ、如何ナル貧乏者デモ御承知ノ通り入營スル爲ニ相應ノ費用ヲ要スルコトニ相成ルノデアリマス、入營ノ支度、入營スル祝意ヲ表スルト云フヤウナ事柄ニ付テモ、總テ費用ガ掛ル、又入營シタ以上ハ如何ナル困難者デモ、子ノ爲メトシテ父ノ心配兄ノ心配、輕カラザル苦勞ヲ其間ニセネバナラヌ、乃チ月々ノ送金、又隊カラ出マスレバ又祝意ヲ表スル爲メニ同ジク金ガ掛リマス、ソレデ一人ノ人間ガ兵役ニ就イタ後ハ其一家ノ不自由ハ輕カラヌ譯デアリマス、ソレニ對照シテ兵ニ出ナイ者ノ利益ハ亦至大ナモノデアリマス、ソレ故ニ年々此議會ニ、地方カラ兵役税相當ノ請願ノ出マス意思モ即チソコニ在ルノデアリマス、多クハ兵ニ出ル者出ナイ者ノ關係ノ非常ニ差ノアルコトヲ慨嘆シテ、出ナイ者ガ是非相當ナ税金ヲ納メテ幾分ノ義務ヲ盡シ、併セテ兵ニ出ル人ヲ慰メタイ、サモナケレバ國民トシテ相濟マヌト云フ意思ニ外ナラヌノハ、洵ニ尤モ千萬ノ事デアリマス、決シテ此課税ノ爲メニ國民ニ不平ヲ懷ク者ハ一人モアルマイト思ヒマス、吾々不肖ナガラモ國民ト相計ツテ、最モ是ガ名譽アル適當ナル納稅方法デアルト云フコトヲ事實ニ見ルコトヲ努メナクテハナラヌト思ヒマス、又非常ニ苦シマヌデモサウ云フ結果ヲ見ルコトハ、難クナイト思ヒマス、ソコデ代人料制定ノ當時ニ懲リマシテ、此稅ヲ起スノハ代人料デアルト云フ觀念ヲ持タセルト云フコトハ、軍事上非常ナ不利益デアアル、士氣ヲ阻喪スルト云フ軍事當局ハ御話ハ、一應御尤デアリマスケレドモ、洵ニ是モ淺薄ナル御考ト存ジマス、唯今申上ゲル通りノ次第デアリマスカラ、納稅者自身ガ進ンデヤルコトデアリマシテ、其上ニ十七箇年四箇月ノ任務ニ服スル者ニ對シ、更ニ此兵役ニ關係シ

ナイデ抽籤デ除カレタ者ガ、少シモ此兵役ノ義務ヲ負ハスト云フコトニ相成リ、經濟ノ上カラモ亦一家ノ經營ノ上カラモ、其差ハ申上ゲルマデモナイ譯デアリマス、唯軍事當局ノ仰シヤル通り兵役ハ實ニ最大名譽ノコトデアアル、斯ウ云フ御話デアアル、最大名譽ト云フ下ニ總テヲ押込シマツテ、經濟上ノコトハ少シモ御構ヒガナイト云フ軍事當局ノ御思想ノヤウニ信ゼラレマス、唯武士道名譽ト云フヤウナコト一點張りデ、其内情ヲ能ク穿ツテ御考ヘナサラヌト、將來非常ナル悔ヲ遺スコトニ相成ラウト存ジマス、由來兵役税ニ付キマシテハ私共聽クトコロニ依リマス、陸軍等デモ決シテ御ヤリナサリタクナイトハ信ゼヌノデアリマス、既ニ陸軍省デハ此案ヲ作ツテ大藏省ニ廻付サレ、大藏省ハ徵稅ノ困難ノ爲メニ是ハ同意ハ出來ヌト云フ、又其後ニナツテ大藏省デモヤツテ見ヤウト云フ勇氣ヲ出シタコトガアル、其時ハ陸軍省デ又應ジナカッタト云フ經歷モアルサウデアリマス、何シロ時運ノ然ラシムルトコロ、此邊デ大ニ奮發ヲ致シマシテ、何トカ此解決ヲ著ケヌケレバナラヌト云フ場合ニ差迫ッテ居ルモノト存ジマス、既ニ軍人ノ間ヲ見マスルト個人々々トシテハ頗ル御贊成ノ聲モ聞エマスルノデアリマスケレドモ、當局者ト致シマスルト前ニ申上ゲルヤウナ御案ジナサルニ及バナイコトヲ御案ジナサルト云フ上カラ見マスルト、御尤デアリマスケレドモ、徒ラニ杞憂ヲ抱イテ此解決ヲ付ケヌト云フコトハドウシテモナラヌモノト信ジマスカラシテ、遂ニ此ニ此議題ニ上ツタ譯ナンデアリマス、當局者ハ此案ヲ迎ヘルガ如ク迎ヘザルガ如ク、贊セザルガ如ク贊スルガ如キノ今言明ニナツテ居リマスル、此意ノアル所ヲ深く了解サレマシテ、此度ハ是非御奮發ニナツテ、本員ノ委員會ノ報告ニ御同意セラレンコトヲ切ニ希望致スノデアリマス、精シイコトハ澤山申上ゲタク存ジマスルナレドモ、私ノ唯今ノ位地トシテハ不肖ナガラ委員長ト云フ場合デ、此御報告ヲ致シマスル譯デアリマスカラ、極メテ委員會ニ現ハレタトコロノ大體ノ意ノアルトコロヲ此ニ陳述致シマスルノデアリマス、詳細ノトコロハ委員會ノ速記録ニ依テ、既ニ諸君ハ御了解ニナツテ居ルコト、存ジマスカラ精シクハ申シマセヌ、唯遺憾千萬ナノハ、陸軍當局ハ吾々カラ思ヒマスルト、民間ノ情況ガ親シク御了知ニナツテ居ラヌヤウナ有様デアアル、其點ヲ深く吾々ハ慨歎致シマスルノデアリマス、此人民ノ代表者、吾々ハ常ニ此軍隊ノ下ニ接シ、民間ト交ツテ此辛勞ヲ盡ク嘗メテ居ル者デアリマスカラシテ、事情ハナカク、切ナルコトヲ感ジテ居リマス、何卒此案ヲシテ輕々ニ看過セラレズ、委員會報告通滿場ノ諸君ガ御贊同下サイ



マシテ、此ニ決定セラレ、ヤウ切ニ希望致シマス、今日下士以下ノ狀況又現役兵ノ狀況ハ、慘狀實ニ見ルニ忍ビナイ有様デアリマス、此點ハ尙一層切ナルヲ感ズルデアリマス、何分御賛同ヲ偏ニ希望致シマス

川崎克君ハ(九)案ハ之ヲ延期スヘシトノ動議ヲ提出シ其ノ趣旨ヲ辯明シ樋口秀雄君ハ委員長ノ報告ニ賛成ノ演説ヲ爲シ次テ小橋藻三衛君ハ政府ニ對シ希望ヲ述ヘ高田松平君ハ川崎克君ノ動議ニ賛成ノ演説ヲ爲ス

川崎克君ノ演説

極メテ簡單デアリマスカラ此席デ申述ベマス、私ハ本案ハ對シテ、本案ハ延期スベキモノナリト云フ意見ヲ持ッテ居リマス、此案ノ裏ニハ軍人恩給及廢兵遺族救助ニ關スル事柄ガアルデアリマス、此事柄ニ對シテハ私共ハ同情シ相當ノ考慮ヲ拂ッテ居ルモノデアリマス、又此事自身ニ付テハ財源ハ他ニ攻究スベキ餘地アリト信ジテ居ル者デアリマス、唯此問題ヲ實行スルガ爲メニ此ノ如キ財源ニ依ラナケレバナラヌト云フ理由ハナイデアリマス、私ハ事件ト財源トハ引離シテ研究シタイト云フ意見ヲ持ッテ居ル者デアリマス、此最初出マシタ案ニ依リマスレバ、兵役稅ト云フコトニナッテ居ッタノガ壯丁稅ト云フ名前ニ變ヘラレタデアリマスガ、唯今委員長ノ報告ニ依リマシテモ兵役義務ニ代フルニ納稅義務ヲ以テスルト云フ、即チ代價の意味ニ於テ稅ヲ徵收スルト云フコトガ報告ノ中ニ明カニ述ベラレテ居ッタデアリマス、私ハ此意味ヲ以テ本稅ノ目的トシテ其宜シキヲ得テ居ルモノデナイト思フデアリマス、斯ノ如キ兵役義務ヲ金錢ヲ以テ之ヲ代ユルト云フコトソレ自身ガ甚ダ武士道人心ノ上ニ及ボス影響奈何ト云ウコトヲ痛切ニ感ズルデアリマス、私ハ斯ウ云フ意味ニ於テ本案ハ國民ノ士氣ニ關係スルコト重大ナリト云フ疑ヲ持ッテ居リマスカラ、尙慎重ニ審議ノ上デ本案ヲ決シタイ、殊ニ此案件ノ中ニモ疑問トスル點ハ多々アリマスガ、主トシテ私共ノ疑問トスル點ハ兵役ノ義務ハ云フマデモナク國家有事ノ場合ニ於テノ義務デアアル、此義務アルニ拘ラズ、戰時及ビ時變ニ際シテ兵役義務ヲ免レタル者ガ納稅ヲ爲シテ其後ニ徵收ヲ受ケタル場合ニハ二重ノ負擔ヲ負ハナケレバナ

ラスト云フ論結ニ陥ルデアアル、斯ノ如キコトハ甚ダ……誤解デアアリマセヌ明カニ書イテアル、第九條ヲ御覽ナイ、斯ノ如キ疑問ガ多々アリマス是ハ餘程考慮ヲ用ユベキ問題ト考ヘマスルニ依ッテ、本案ハ之ヲ延期スルコトニ願ヒタイ、殊ニ斯ノ如キ案ハ「バルカン」半島ニ於テノミ行ハレ、有力ナル一等国ニ於テ行ハレテ居ナイ、其一等國ニ行ハレテ居ナイコトヲ認ムルト云フガ如キ事ヲ我國ニ於テ行フ必要アリヤ否ヤト云フコトヲ疑フデアアル、斯ノ如キ意味ニ於テ本案ハ延期サレンコトヲ希望スルデアリマス

樋口秀雄君ノ演説

私ハ此兩法案特別委員ト致シマシテ、又此兩法案ニ對シテ熱心ナル賛成者ト致シマシテ、茲ニ原案賛成ノ意見ヲ述ベテ見タイト思フデアリマス、唯今委員長ノ御報告ノ中ニモアリマシタデアリマスガ、其後私ノ敬愛シマスル川崎君カラ唯今遺憾ナガラ反對ノ説ガ出テ居ルデアリマス、然ルニ其川崎君ノ御論旨ノ要點ニ、此兩法案提出ノ意味ヲ誤解サレタ點ガ甚ダ多イコトヲ私ハ深ク遺憾トスルモデアリマス、第一川崎君ハ委員長ノ報告ヲ如何ニ御聽取ニナリマシタカ、此兵役稅改メテ壯丁稅ト名付ケマシタトコロノ稅ガ、兵役ヲ免レタ者ニ對シテ兵役ノ義務ノ代リニ課スル稅ト云フヤウニ誤解ニナッテ居ラレマス、併ナガラ此案ヲ能ク御覽ニナレバ明白デアリマスルガ、又此提出者ノ趣意カラ申シマシテモ、決シテサウ云フ意味デハナイデアリマス、是ハ陸軍當局ニ於テモ稍、此誤解ガアッタデアリマスカラ、次ニ陸軍ニ於ケル反對意見ニ對シテ私ガ反駁ヲ試ミル際ニ併セテ申上ゲマス、第二ニ川崎君ハ此廢兵救護若クハ軍人ノ遺族救護ト云フヤウナコトニ對シテハ、極メテ必要ニ御認メニナッテ曩キニハ此窮乏セル財政ノ中カラ、年々二百萬圓餘ヲ要シマスルトコロノ軍人恩給法ノ改正ニモ御賛成ニナッテ御一人デアラセラレマスガ、斯ノ如キ軍人恩給ヲ増額致スト云フヤウナ改正案ノ必要ガアルナラバ、尙更廢兵並ニ軍人ノ遺族救護ノ必要ハアルデアリマス、併ナガラ此必要アルガタメニ此兵役稅法ガ現ハレタデアリ、是ハ偶然ニ起ッタ結果デアリマス、而シテ御承知ノ通り陸軍ニ於テハ頻リニ兵役稅——壯丁稅ガ陸軍ノ士氣ニ影響スルト云フコトヲ杞憂ナサルヤウデアリマスガ、抑、此案ノ提出セラレマシタル理由ハ、御承知ノ如ク既ニ三年デアリマス、サウシテ年々幾千人ノ請願書



ガ議會ニ現ハレマシテ、彼等ハ子ヲ持ツタル親トシテ、サウシテ國民トシテ——其子ガ國民ノ一人トシテ現役ニ服シ國家ノ爲ニ最高ノ義務ヲ盡スコト能ハザルヲ遺憾ト致シマシテ、セメテハ自分ノ私財ノ一部ヲ以テ是等國家ノ爲ニ盡シテ居リマスル現役軍人其他ニ對シテ、後顧ノ憂ナカラシメンガ爲ニ徵稅ヲシテ貫ヒタイト云フ特志ノ希望ニ出デタノデゴザイマス、決シテ遺族救護等ノ財源ノ爲メニ、此兵役稅法案ト云フモノガ生レタノデナイ、其理由ノ下ニ生レ來ッタコロノ兵役稅法案ガ、偶、此癩兵其他ノ救助ニ至大ナル便利ガアリマスカラ、併セテ之ヲ提出シタ次第アルノデアリマス、ソレカラ又川崎君ハ此案ガ非常ナ重大案件ナルガ故ニ延期ノ意見デアルト云フ說デアル、此點ハ一應尤デアリマスガ併ナガラ川崎君ハ此議會ニ於キマシテ昨年未ニ追ッテ政府ガ何千萬圓ト云フ追加豫算ヲ昨夜議案ヲ廻シテ本日委員會ヲ開イテ即決セントシタトキニ、贊成ヲサレマシタル與黨ノ一人トシテ、何レガ重大デアアルカラ御考ヲ願ヒタイノデアアル、重大案件ナレバト提出以來五十日ヲ過ギマシテ、而モ大藏部内ニ於テハ、マダ意見ガ一致サレマセヌガ、攻究スルトコロガアッタト云フコトヲ聞キ、其多年經驗サレタル批評ヲ聞イタ上ニ、始メ提出サレマシタ——遺憾ナガラ不完全ナ案トハマルデ一變致シマシテ、委員等ガ日夜寢食ヲ忘レテ慎重審議シタモノデアリマスカラ、彼ノ豫算案ノ議決ト同様ニ見ラレテハ困ルノデアアル、遙ニ鄭重ナル審議ヲ盡シタ積リデアリマス、獨リ陸軍當局ガ此案ニ對シテ最モ反對ヲ致サレマスルガ、何故ニ士氣ニ關係スルト云フコトデアリマス、何故ニ士氣ニ關係スルカト申シマスルト、先刻川崎君モ不幸ニシテ誤解サレマシタ通り、彼ノ代人稅ナルモノト同一ニ考ヘラレテ居ルコトガ其根據ヲナシテ居ルヤウニ私ハ思フ、即チ佛國ニ於キマシテハ千八百年代ニ始メテ代人稅ヲ徵收シタコトガアル、後ニ日本ニ於テモ代人稅ナルモノヲ或僅カナ期間ニ於テ徵收シタコトガアルノデアリマス、サウシテ其結果ガ士氣ノ振興ノ上ニ由々シキ結果ヲ招クト云フコトヲ憂ヘラレテ之ヲ廢止ニナッテ居リマスルガ、今回ノ此兵役稅法ト其代人稅ノ觀念トガ一緒ニナッテ居リマスルガ爲ニ、兵役ノ義務ヲ盡スカ若クハ除クカト一ツノ問題デアアルカノ如ク考ヘラレマシテ、此爲メニ兵役ト云フモノニ對スル觀念ヲ薄弱ナラシムルト云フノガ、陸軍省ノ御心配ノ最モ重要ナル點デアリヤウデアリマス、然ルニ此陸軍當局者ノ見解ニ付キマシテハ、私共ハ極端ナル反對意見ヲ持ッテ居リマス、御承知ノ通り昔ノ時代ニ於キマシテハ東西共ニ此兵役ニ服スル者、即チ軍人ナルモノハ特別

ノ階級ヲナシテ居リマシタ、此軍人階級ナルモノガ特權ヲ有ッテ居リマシタ爲ニ、一種ノ權利トナッテ居タノデアリマス、各人ガ此軍人階級ナルモノ、特權ヲ認メテ之ヲ權利ト認メタ時代ガアリマスケレドモ、今ヤ斯ノ如キ時代トハ變ッテ居ル、此兵役ヲ以テ權利ナリト認メマシタヤウナ思想ガ、既ニ歐羅巴ニ於ケル封建制度ノ瓦解ト共ニ過去ニ舊思想デアリマス、サウシテ陸軍省ニ於テハ、陸軍教育部ニ於テドウ云フ風ニ兵ヲ御教育ニナルカト云フト、軍人兵役ト云フノヲ國民最高ノ義務デアアル、最高ノ名譽デアルト云フヤウニ教育サレテ居ル、軍人ノ教育ノ本旨ト致シマシテハ素ヨリ爾クアッテ然ルベキモノト私共ハ思フ、即チ教育ナルモノハ一種ノ理想ノ下ニ人ヲ導クノデアリマスカラ、軍人ノ理想ト致シマシテ然カアルベキモノデアアル、軍人ハ國家ノ干城デアアル、サウシテ最高ノ義務ヲ盡シ最高ノ名譽アルモノデアルト云フ風ニ教ヘルノガ、是ハ教育者トシテ當然デアリマス、陸軍ノ教育部ガ此方針ヲ執ラレルコトハ私共更ニ反對ハナイ、併ナガラ事實ハ如何デアリマス、事實ハ最後ノ決定ヲ與ヘルトコロノ最モ強イ材料デアリマス、私共ハ遺憾ナガラ此日本ノ上下一體ニ於キマシテ、各壯丁ガ自ラ進ンデ最高ノ義務ニ就キ最高ノ名譽ニ就クト云フ觀念ヲ有ッテ、恰モ古昔ノ「スバルタ」ノ軍人ガ戰場ニ向ッタ如キ意氣ヲ以テ、此徵集ニ應ズルト云フコトハ遺憾ナガラ信ズルコトガ出來ナイノデアリマス、素ヨリ全國皆兵ノ主義カラ申シマシテモ、或ハ尙武國トシテ誇ッテ居リマス吾々日本人ト致シマシテ、全國ノ壯丁ガ皆喜ンデ兵役ニ就クト申シタイノデアアル、是ハ私ノ希望トシテハサウデアリマテ、而モ學習院ヲ卒業シタ所ノ軍人ノ壯丁ニシテ徵兵忌避者ヲ續出セシムルト云フコトハ、陸軍當局ト雖モ敢テ之ヲ否定スルコトハ出來ヌト私ハ思フ、此生キタル事實ヲ陸軍ハ如何ニ御覽ニナルカ、陸軍教育部ノ方針トシテハ尤モデアアルガ、斯ノ如ク年々徵兵忌避者ガ遺憾ナガラ出ル、而モ知識階級ニ多ク、又最高名譽最高義務ト任ジテ居ラレル軍人ノ家庭ノ中カラ、而モ最高級ノ將校ノ家庭カラ斯ノ如キ者ガ續出スルノデアリマス、此生キタル事實ニ對シテ陸軍當局ハ之ヲ如何ニ御考ニナルカ、自分ノ方ハ教育上ノ方針カラ最高ノ義務最高ノ名譽デアルト教ヘル、兵ニハ教ヘル、將ト兵トハ違フカモ知レヌガ、卒ニ對シテハ斯ノ如ク教ヘルガ、而モ己ノ最高級ノ軍人ノ家庭カラ忌避者ヲ出シテ居ッテ知ラヌ顔ノ半兵衛トハ酷イデハナイカト思フ、斯カル生ケル事實ヲ認メナガラ何故ニ陸軍ハ此一方ニ於



テ熱誠國ヲ憂フル國民ガ己ノ男子ガ己ノ家庭ニ於ケル壯丁ガ國家ノタメニ此血稅ヲ納ムルコトノ義務ヲ果サナイノヲ遺憾トシテ、セメテハ其私財ヲ擲テ軍人ノタメニ後援者トナラント希望シテ出ル所ノモノニ向ッテ、士氣ヲ頹廢サセル原因トナルトハ何タル論斷デアリマス、寧ロ私ハ陸軍士氣ノ頹廢ノ本ハ他ニアルト思フ、即チ斯ノ如キ遺憾ナガラ生ケル事實ガ多々アルニモ拘ラズ、之ヲ陸軍當局ハ眼ヲ蔽フテ自カラ其實ヲ隱蔽シテ、サウシテ軍人ハ最高ノ義務デアアル、最高ノ名譽デアルト云フコトヲ云ッテ澄シ返ッテ居ラレル、此名ノ下ニ於テ陸軍ノ士氣ハ頹廢スルノデアルト思フ、殊ニ諸君ガ眼前ニ御覽ニナッテ居ル事實ガアル、今回此議會ニ於テ諸君ノ御協贊ニ依テ通過シタ軍人恩給法ノ改正ハ如何デアリマス、此恩給法改正ニ依リマシテ年々國庫カラ約三百二十萬圓カラノ餘分ノ金ヲ支出シナケレバナラヌト云フ状態デアアル、其中將校ノ即チ勅任官及奏任官ニ與ヘマスル所ノ將校ノ恩給ノ増額ニ依テ要シマスル所ノ金ハ約九十八萬圓デアリマス、サウシテ判任以下ノ下士卒ニ對シマスルモノガ殆ド二百三十萬圓ヲ要スルノデアリマス、其人員ヲ申シマスルト下士卒ノ分ガ七萬三千餘人デアアル、而モ將校ニ取ッテ見マスレバ勅任及奏任官ノ軍人ノ恩給増額ニ依ッテ、國家ガ費消スベキ金ハ九十八萬餘圓デアリマス、一人平均三百餘圓宛ニ當ッテ居ル、而モ最高級ノ恩給ヲ受クル豫後備軍人、即チ大將ハ今回ノ増額ニ依テ五百圓宛年々國庫カラ恩給ヲ増額サレル、既ニ三千餘圓ヲ取ッテ居ッテ、内ニ後顧ノ憂ナキ所ノ大將ガ、此恩給法ノ改正ニ依テ一人當リ五百圓以上ノモノヲ支給サレテ居ル、サウシテ之ニ反シテ此卒等ニ參リマスレバ殆ド比較ニナラヌノデアリマス、然ルニ此恩給法ハ忽チ此議會ヲ通過シテ居ル、大藏當局ハ頻リニ財政ノ窮乏ヲ訴フルニモ拘ラズ、年々斯ノ如キ多額ノ金ヲ吐出サナケレバナラヌ、而モ二千九百六十四人ニ對シテ九十八萬圓ト云フガ如キ、吾々カラ見レバ殆ド冗費デアアルガ如キ多額ノ費用ヲ、將校達ニ恩給ノ増額ノタメニ拂ッテ居ルノデアアル、之ヲ層ク容レラレタ所ノ諸君ガ、人員ニ致シマスルト殆ド七千三百人バカリ、サウシテ之ヲ救助致シマスルニ付テモ六十萬位ノ金ヲ要スルニ過ギナイ所ノ廢兵軍人遺族ノ救助ニ向ッテハ、此同情ヲ惜ムニ至ッテハ、輕重本末ヲ顛倒シタ議論ト思フ、而モ此軍人恩給法ヲ通過セシムルニ當リマシテ不可思議ナル事實ガアル、即チ彼ノ豫備ノ將校ガ或ル將官ノ所ニ本部ガ設ケラレテ、サウシテ此増額ニ依テ得ラレル所ノ幾分ノ資本ヲ蓄積シテ運動費ト名付ケ、盛ニ數多ノ人ヲ散ラシテ院内外ニ運動シ、院内ニ於テモ此委員會ニ

委員ノ出席缺席如何、贊否如何、辯論如何ト云フコトヲ一々軍隊式ニ本部ニ報告セシメタト云フ事實ヲ聞イテ居ル、果シテ事實ハ如何デアリマスカ、此下士卒ノ如キ憫ムベキ所ノモノガ救助ヲ國家ニ求メ、恩給ノ増額ヲ望マル、ナラバ吾々ハ悦ンデ迎ヘタイト思フノデアアルガ、其運動者タルモノガ最モ生活ニ困難ヲ感ゼザル所ノ將校連、而モ上級ノ將校デアリマシテ、サウシテ多大ノ金ヲ散シテ運動ヲ試ミルト云フニ至ッテハ、士氣ノ頹廢此ニ至ッテ極マレリト信ジマス、國民ガ至誠ニ基イテ願ヒ出ヅル所ノ稅ヲ取ッテ此兵役稅ハ壯丁稅トナリマシタケレドモ、至誠國ヲ思フ一片ヨリ、自分ノ壯丁ガ國家ニ對シテ血稅ノ義務ニ服セザルガタメニ、私財ヲ擲ッテ現役軍人其他ノモノ、後顧ノ憂ヲ防ガントスルモノト、斯ノ如ク運動ニ狂奔シテ恩給ヲ受ケルト云フモノ、說ヲ容レルト、ドチラガ社會ニ影響ガアルカト御考ニナルカ、私ハ遺憾ニ思フ、陸軍當局ノ所謂士氣ノ消長ト云フコトハ、吾々ハ本末顛倒ノ議論ト思フ、強イ者ノ訴ハ聽ク、弱イ者ノ訴ハ棄テ、顧ミズト云フコトハ沙汰ノ限リデアリマセヌカ、併ナガラ斯クハ申シマスルモノ、實ハ陸軍ト雖モ此廢兵ノ救助ニ對シテハ意ガナイ所デアリマシ、熱心ニ希望シテ居ルト云フコトヲ言明シテ居リマス、然ラバ廢兵ヤ遺族救護ノタメニドウ云フ方法デ金ヲ出ダセルカト云フト、サア金ハナイ財源ノコトハ是ハ大藏當局ノ責任ダト云フ、成程各省ニ分掌事務ガアリマスカラ一樣ニハ參リマセヌガ、陸軍大臣モ國務大臣デアアル、内閣ノ班ニ列シテ居ル國務大臣デアアル以上ハ、國務大臣トシテ國民ニ訴ヘテ、一層ナル注意ヲ拂ッテ然ルベキモノデアアル、私共カラ見レバ一方ニハ無駄ノ費用ガアル、殊ニ將校ニ對スル恩給ノ増額等ヲ大藏省ニ迫リナガラ、他方ニ於テ此廢兵遺族救護等ノ問題ヲ其後ニスルト云フコトハ、實ニ私ノ氣ニ喰ハナイ、甚ダ是非辨別ガナイコト、思フ、若シ一年九十八萬圓ノ金ヲ投ジテ僅カニ二千九百六十四人ノ將校ニ恩給ヲ増額シ得ルナラバ、寧ロ之ヲ廢シテ之ニ代フルニ廢兵軍人遺族ノ救護ニ何故ニ向ケナイノデアアルカ、又ソレノミナラズ陸軍省ハ此問題ニ對スル御見解ハ先刻申述ベマシタヤウニ間違ッタル御考ヘ古代武士ガ特別ノ階級ニアッタ當時ニアリマシタ所ノ、兵役ハ權利ト云フ觀念ヲ以テ來テ之ヲ今日ニ擬セント致シマスルガ、事實ハ即チ然ラズ、時勢ハ變ジ人ノ思想モ變ジテ、而シテ事實ハ全ク之ニ反シテ兵役ヲ以テ寧ロ血稅ト稱シ、動モスレバ忌ミ嫌ハントスルヤウナ弊風ガ多少ナリトモ現ハレテ居ルト云フ此遺憾ナ現況ニ對シマシテ、一方ニハ救護ヲ講ジ他方ニ於テハ唯今申述ベマシタヤウナ廢兵ト遺族ノ救護ヲ致スト同時



ニ、他方ニ於テ國民ノ誠心誠意願出タ所ノ——一種ノ義勇奉公ノ誠心カラ出タ所ノ納金、即チ壯丁稅ナリ兵役稅ナリ名目ハ私ノ論ズル所ニアラズ、是ニ依テ相當ノ途ヲ開イテ之ヲ大藏當局ヲシテ議會ニ提出セシム、其實行ヲ圖ツテコソ始メテ責任アル國務大臣ノ務メデアラウト思フ、軍人ノ恩給ハヨコセ、廢兵ノモ其次ニハヨコセ、ケレドモ其金ハソチラデ工夫セヨト云フコトハ、是ハ忠實ナル大臣トシテ甚ダ遺憾ニ思フ點デアリマス、而モ病氣ノ爲メトハ云ヒナガラ、委員會ガ開カレマシテ以來陸軍大臣ハ遂ニ一日ダモ御出席ハナイ、サウシテ明日ハ會フ明後日ハ會フト云フヤウナ風ニ、種々ノ事故ノ下ニ遂ニ陸軍大臣カラ責任アル御答辯ヲ聞クコトヲ得ナカッタノハ甚ダ遺憾デアリマス、併シ最近ニ於テハ陸軍トシテハ此案ニハ贊成ガ出來カネルト云フ意見ニ確定シテ居ルヤウデアリマス、而モ士氣阻喪ト云フコトノ本末顛倒ノ議論タルコトハ先刻私ノ申述ベタ通りデアリマスカラ、陸軍ノ反對說ハ私共ハ到底之ヲ認ムルコトハ出來ナイ、其有意義ヲ認ムルコトハ出來ナイ、寧ロ逆サマニ壯丁稅ナルモノヲ課スルコトニ依テ、徵兵義務ノ觀念ヲ多少ナリトモ多クセシムルコトガ出來、又一方ニハ是ニ依テ憫ムベキ軍人ノ遺族其他ノ者ニ對シテ救助シ得ルナラバ、茲ニ二ツナガラ救助ノ途ニ適ッタ處ノ最モ良イ方法トシテ、私共ハ此案ヲ作成シタノデアリマスガ、現内閣ニ於テハ曩ニハ恩給問題ヲ、其後ニハ種々ナル問題奈古浦丸ノ救濟トカ或ハ步入會社ノ救恤金トカ、或ハ屯田兵ノ救濟トカ、比較的憫レナ人ノ救濟ニ對シテ多大ノ費用ヲ支出スルコトハ、前代稀ニ見ル處ノ案デアッテ、私共之ニ對シテ讚辭ヲ呈スルニ吝カナラヌノデアリマス、獨リ怪ム此廢兵救護等ノ案ニ向ッテ絶好ノ資源ヲ給スベキ案ニ對シテ、政府ハ之ニ反對スルトハ何事デアリマス、現内閣ハ頻リニ社會政策ヲ標榜シテ居ル、サウシテ簡易保險ナドモ社會政策ト仰シヤル、成程社會政策ノ一部ノ香ヒハスル、鰥屋ノ門ヲ通ッタカ申サウナ香ヒハスル、併シ之ヲシモ社會政策ナリトシテ極力此實行ニ努ムル程社會政策ニ熱心ナル政府ガ、何故ニ斯ノ如キ廢兵ノ救助或ハ軍人遺族ノ救濟トカ云フヤウナ、一層強イ意味ノ社會政策ノ事業ニ吝ナルカ、私ハ深ク怪シンデ居ル者デアリマス、而シテ此社會政策ノ實行ト云フ問題ノ外ニ尙政府ガ此案ニ對シテ反對シマスルトコロノ一ノ理由ガアリマス、是ハ一部ハ大藏省ノ意見デアリマス、即チ先刻トナタカラ——川崎君カラモ御述ベニナッタカモ知レマセヌガ、此稅法トシテハ此案ハマダ攻究ノ餘地ガアル、不完全ト云フヤウナ御話ガアリマス、成程稅法トシテ課稅ノ原則ヲ理想的ニ

適用スル上ニハ、此法案ニ於テ多少ノ遺憾ハアルカモ知レマセヌ、併ナガラ此初メ提出セラレタ案ト今回修正セラレタル案トノ間ニハ殆ド天淵月鼈ノ差ガアル、サウシテ此或ル部分ニ於テ御杞憂ニナッテ居ルヤウデアリマス、例ヘバ所得稅ヲ有スル者ガ三人四人ノ壯丁ヲ有ッテ居ッタ時ニハ、非常ノ課稅ヲ負ハナケレバナラヌト云フ御憂慮ガアルヤウデアリマス、併ナガラ是ハ實際杞憂デアリマス、即チ此稅法ニ於テハ一家族中ニ一人以上ノ壯丁稅義務者ガアリマス時ニハ、戶主ガ壯丁デナクシテ戶主デアッタ時ニハ、其戶主ノ所得稅ノ半額ヲ五人ナラ五人ガ分ケテ、五分ノ一宛銘々ニ就テ稅トシテ納ムルノデアリマスカラ、非常ノ少額ナ稅デアリマス、曾テ獨逸ニ於キマシテモ「ビスマルク」ガ此案ヲ提出致シタ時ニ、人頭稅ノヤウナ形ニ於テ、一人二十馬克ト云フヤウナ案デアッタ、二十馬克即チ十圓デアリマス、此案ニ於キマシテハ一度ニ取ラヌ代リニ二圓ツ、三年、アト一圓宛四箇年、合セテ十圓取ッタノデアリマス、此七箇年間ニ十圓徵收スルト云フコトハ、日本ノ現狀ニ於キマシテモ亦如何ナル壯丁ト雖モ、既ニ壯丁トシテ兵役ニ應ズルカ否ヤノ瀬戸ニ來ッテ居ルヤウナ壯丁トシマスレバ如何ニ柔弱意氣地ノナイ人デモ一箇年ノ間ニ二圓、之ヲ月ニ割レバ約十八錢位ノ所得ノナイ者ハナイ、之ヲ以テ自分等ガ兵役ニ出ル代リニ、初メテ自分ノ真心ヲ以テ國家ニ盡シ、併セテ此現役軍人ノ後援ヲ爲サントスル彼等ノ美舉ニ出ヅルモノナリトセバ、斯ノ如キ稅ヲ徵收スルコトハ、決シテ不合理デモナケレバ、又陸軍當局ノ憂慮スル如キ心配ハ更ニナイト思フ、成程此兩法案ヲ之ヲ部分的ニ考ヘマシテ、一方ノ案ニ付テハ極メテ必要デアルガ、一方ニハ考慮ヲ要スルト云フ御意見モ一應御尤モデアリマスガ、既ニ述ベマシタ通りノ事情デ、尙此處デ述ベルコトヲ許サレザル事情ガアリマシテ、陸軍ニ於キマシテハ、如何ニ諸君ガ講究シテ出サレテモ、此案ヲ到底容レルコトハ飽マデ承諾シナイカモ知レマセヌ、一年待ッテモ容レズ、二年待ッテモ容レズ、如何ニ考慮ヲ盡シテモ同ジナリトセバ、切メテ此案ヲ衆議院ニ於キマシテ全會一致ヲ以テ通過セシメテ、此國民ノ意思ノアルトコロヲ知ラシメ、之ヲ再ビ三度ビスルニ於テハ陸軍ヲシテ遂ニ反省シテ、己レニ反ッテ下級軍人ニ厚クシテ上級軍人ニ薄クスルガ如キ改善ノ途ニ著カシムルコトガ出來ルカト思フノデアリマス、旁、此陸軍省ノ誤ッタル考ニ對シテ反省ヲ促スタメニ、サウシテ此國費多端ノ際ニ於テ恩給其他ノ救恤ノ爲メニ要スル資金ノ大ナル際ニ於テ、國民ガ熱誠ヲ籠メテ自ら進ンデ納メントスル所ノ兵役稅ナルモノヲ徵收スルト云フコトニ、全會一致ノ



御賛同ヲ願ヒタイ次第デアリマス  
小橋藻三衛君ノ希望

簡單ニ當席カラ政府ニ對シテ希望ヲ述ベタイノデアリマス、此二法案ハ委員付託トナリマシテ以來  
二箇月ニ互リテ、會ヲ開クコト幾十回デアリマス、或ハ公式ニ當局ト交渉シ、或ハ非公式ニ折衝シタノ  
デアリマス、所ガ最初ハ反對デアリシ政府ガ漸次賛成ノ意思ヲ表シタノデアリマス、而シテ恩給案ガ  
通過スルヤ俄然トシテ態度ヲ一變シテ不賛成ノ態度ヲ表シタノデアリマス、全ク我々ハ陸軍當局ノ  
軍略ニ掛タト云フ形ニナツテ居ルノデアリマス、誠ニ遺憾ナ結果デアリマス、ガ、政府ハ如何ナ  
ル御考デアリマスルカ、現在ノ如キ此生存競争ノ劇烈トナリマシテ、一家揃テ努力ヲ盡シテ働イテモ  
尙生活ニ窮スル時代ニ、其最モ活動ノ中心人物ガ國家最高義務ニ服シテ、其家族ハ資産ガアレバ別段  
アリマス、資産ノナイ多數ノ其家族殊ニ之ガ廢兵トナリ或ハ戰死致シタ遺族ノ窮狀ハ著ルニ衣ナク  
食フニ食ナク、鄰保ハ又之ヲ救済スルト云フコトニ於テ餘力ノ乏シイト云フ現象ハ、比々之ヲ見ル  
デアリマス、然ルニ一方上級將校ハ如何デアルカ、出ルニ騎馬輕車アリ、入ッテハ大宰ノ美味アリ、此  
如キ狀態ヲ此憐ムベキ遺族ガ之ヲ見テ如何ニ感ジマスカ、彼等ハ幸カ不幸カ教育ノ程度低ク其力微ニ  
シテ、最高幹部ニ於テハ斯様ナ問題ヲ考慮シテ居リマシテモ、之ヲ口外シ若クハ運動ニ現ハスコトハ  
能クシナイノデアリマス、若シ彼等ガ一旦自己ノ位置ヲ自覺スルニ於テハ如何デアリマセウ、社會ノ  
根柢組織、國家ノ根柢組織ニ於テ確ニ非常ナル動搖ヲ來スト云フ不幸ヲ見ルノデアリマス、實ニ是ハ  
國家社會ノ上ヨリ見テモ人道ノ上ヨリ見テモ由々シキ問題デアルガ故ニ、壯丁稅ト云フガ如キモノヲ  
設ケテ就役スル者ト就役セザル者トナルベク其義務ノ接近ヲ圖リ、一方ハ又之ヲ利用シテ憐ムベキ廢  
兵及遺族ヲ救護スルト云フコトハ、最モ是ハ必要ナルコトデアリマス、國民總テガ兵トナリ國民總テ  
ガ國ノ爲ニ努力スルト云フ上ニ於テ非常ニ必要ナル案デアルト考ヘルノデアリマス、元來斯ノ如キ  
モノハ衆議院ノ提出ヲ待ツマデモナク、當局者ガ自ラ發案サルベキ性質ノモノデアラウト考ヘテ居  
リマス、然ルニ當局デ是ニ賛成デアルガ如キ態度ヲ執ラレテ、恩給案ヲ通過スルヤ忽チ反對ノ態度ヲ  
示サレタニ付テハ、又或ハ之ヲ解シテ斯ウ云フモノモアリマス、最初ノ不同意ハ漸次了解ヲセラレテ

同意ヲセラレタノデアアル、然ルニ陸軍當局以外ノ或者ガ是ヲシテ此ノ如ク立至ラシメル壓力ヲ加ヘ  
タノデアルト云フ風説ガ傳ハツテ居ルノデアアル、果シテ然ラバ我國今日ノ政治界ニ於ケル最モ忌ムベ  
キ缺陷ヲ、遺憾ナク此問題ニ於テ暴露シタト申シテ宜シイノデアリマス、政治家ノ要ハ國民ヲ理解  
スルニアリ、國民ノ心理狀態ヲ理解スルニアリ、軍隊ハ號令ヲ以テ動カスコトガ出來マスガ、國民ノ心  
理狀態ハ號令ヲ以テ動カスコトハ出來ナイ、政治家ノ要ハ國民ヲ理解シ、國民ノ心理狀態ヲ理解シ  
テ、而シテ之ヲ政治ノ上ニ運用スルコトニ依ツテ、國民ヲ指導シ國民ヲ振興セシメテ、初メテ上下一致ノ  
行動ヲ爲スコトガ出來ルノデアアル、然ルニ當局陸軍ハ國民ノ心理狀態ヲ理解セズシテ因ハレタル固陋  
ナル意見ニ依ツテ此案ニ反對サレルト云フコトハ、國家ノ爲ニ深ク考慮シテ其態度ヲ改メラレシコト  
ヲ切望シテ、本案ニ付テ一言致シテ置キマス

高田耘平君ノ演説

チヨットナカ〜重大ナル問題ト本員ハ思ヒマス、イロ〜調ベテ見マシタ、ソコデ先程樋口君  
ノ御演説ノ通り、成程委員會ハ七回開キ二十五日トカ期間ハ置イタカノ如クデアリマシテ、樋口君ノ  
言フガ如ク全然此内容ハ修正サレタ、殆ド修正案ガ提出サレタノデアアルガ、吾々ハ此案ハ成程委員諸  
君ダケハ研究シタカモ知レヌケレドモ議員トスレバ此三百萬圓近クノ新稅ヲ起スニ於テ、之ヲ決定  
スルコトハ甚ダ(發言者多ク聽取スル能ハス)此三百萬圓ト云フコト、三百萬圓ト云フコトガ間違ッテ  
居レバ取消シマス、併ナガラ是ハ(此時發言者多ク聽取スル能ハス)併ナガラ最初ノ案ニハ千萬圓以  
上ニナルト云フコトガ書イテアル、先程三百萬圓ト云フコトハ私ハ委員長ニチヨット聞イタコトガア  
ル、間違ッテ居レバ取消シマス、併ナガラ四十萬圓デハイカヌト思フ、兎モ角モ此案ニ付キマシテハ新  
稅ヲ起ス場合ニ於テ輕卒ニ決議スルコトハ早計ニ失スルト思ヒマス、殊ニ又樋口君ノ説ノ如キモノ  
ハ、ツマリ軍人ノ名譽心ヲ殊更ニ毀損スル如キ傾キガアル、成程樋口君ハツマリ今日徵兵忌避ノ現象  
ガアルト云フ一斑ノミヲ見テサウ言ハレルガ、眞面目ナル國民ハ確ニ元ト同様ニ名譽最上ノ名譽ニ  
就クト云フコトヲ今尙信ジテ居ルノデアアル、ソレガ僅カナ金錢ノ爲メニ、ソレト同様ナル權利ヲ得ラ  
ル、ヤウニ免役者ガナルト云フコトハ、確ニ國民一般ノ士氣ヲ阻喪セシムル所ノ大ナル問題デアアル



ト私ハ信ジマス、故ニ私ハ川崎君ノ説ニ賛成デス、滿場ノ諸君モ此新稅ヲ起ス大問題ハ、輕々ニ二時間  
ヤ三時間ヲ以テ決定スルト云フコトハ、甚ダ國民ニ對シテ相濟マヌ話デアアル、大體ニ於テ吾々ノ意見  
ガ少數ラシク見エマスルケレドモ、併ナガラ是ハ甚ダ誤ッテ居ル、切ニ委員諸君モ悔悟シテ吾々ノ案ニ  
賛成センコトヲ希望致シマス

質疑、應答ノ後先ツ(九)案ニ關シ川崎君提出延期ノ動議ヲ先決問題トシテ表決ニ付ス院議之ヲ否決シ  
テ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會第三讀會ヲ開キ委員長報告ノ通修正議決ヲ爲シ之ヲ確定セリ  
次テ(一〇)案ハ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通修正  
議決ヲ爲シ之ヲ確定セリ即日兩案ヲ貴族院ニ送付シタルモ同院ノ議決ヲ經ルニ至ラザリキ

一一 家祿賞典祿處分ニ關スル法律案

第一條 明治三十年法律第五十號家祿賞典祿處分法第一條及第二條ノ給與ヲ受ケムトスル者ハ其ノ  
理由及證據ヲ具シ地方廳ヲ經由シテ大藏大臣ニ願出ツヘシ但シ大正五年十二月三十一日迄ニ願出  
サルトキハ本法ノ給與ヲ受クルコトヲ得ス

第二條 前條ノ願出ニ對シ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ指令到達ノ日ヨリ六箇  
月以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三條 明治三十年法律第五十號家祿賞典祿處分法ニ依リ願出ヲ爲シタル者ニシテ明治四十二年法  
律第二十一號第二條ノ期限内ニ出訴セサル者ハ本法施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ行政裁判所ニ出訴  
スルコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一二 沒祿處分ヲ受ケタル者ニ對スル家祿賞典祿處分ニ關スル法律案

第一條 明治三年九月十日太政官布告藩制施行ヨリ同九年八月太政官第百八號布告實施迄ノ間ニ於  
テ國事ニ關スル犯罪ノ爲家祿賞典祿ヲ沒收セラレタル者及其ノ家名承繼人ニシテ明治二十七年法  
律第二十號施行ノ際其ノ沒收セラレタル當時ノ祿高ニ對スル全部ノ給與ヲ受ケサル者若ハ相當額  
ノ給與ニ不足アル者ハ明治三十年法律第五十號家祿賞典祿處分法ヲ準用シ同法ニ依リ發行スル公  
債證書ヲ以テ之ヲ給與ス

第二條 前條ノ給與ヲ受ケムトスル者ハ本法施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ其ノ理由及證據ヲ具シ地方  
廳ヲ經由シテ大藏大臣ニ願出ツヘシ

第三條 前條ノ願出ニ對シ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ指令ヲ受取リタル日ヨ  
リ六箇月以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四條 明治二十七年法律第二十號ニ依リ給與處分ヲ受ケタル者ニシテ明治三十年法律第五十號家  
祿賞典祿處分法第四條ノ願出ヲ爲シ其ノ處分ニ對シ明治四十二年法律第二十一號ニ依リ行政裁判  
所ニ出訴シ其ノ訴訟繼續中ノモノハ本法第三條ニ依リ出訴シタルモノト看做ス

附則

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議及表決 第四項 法律案



右兩案ハ四年十二月二十三日原田十衛君外十八名之ヲ提出ス五年一月二十七日兩案ヲ一括シテ其ノ第一讀會ヲ開キ(二十二日延期)提出者(室木彌次郎君)ハ左ノ如ク兩案ノ趣旨ヲ辯明セリ

私ハ唯今議題ニナリマシタル法律案ノ理由ヲ說明致スノデアリマス、先ヅ第一ニ此家祿賞典祿處分ニ關スル法律案ノ方ヨリ申上ゲタイト思ヒマス、御承知ノ通りニ明治三十年十一月ニ家祿賞典祿處分法ト云フ法律ガ出テ居リマス、此法律ハドウ云フ内容ヲ有シテ居ルモノデアアルカト云フコトヲ調べテ見マスルト、嚮ニ明治九年太政官布告第八號及同第五十二號ニ依リマシテ、一般士族ニ對シマシテハ明治四年七月二十四日ノ太政官布告デアアルトカ、其他賞典祿取調書トカ云フモノ、ニ基キマシテ調査致シマシタ祿高ニ應ジテ、金祿公債證書ヲ給與シタルデアリマス、所ガ此給與ヲ受ケル資格ノアリマス人々ノ中ニ、其當時給與ヲ受ケナカッタ者ガアル、全部又ハ一部ノ給與ヲ受ケナカッタ人ガアル、且又ハ其當時ニ此祿高調査ノ基本トナツテ居リマシタル明治四年ノ太政官布告賞典祿取調書ト云フモノニ、其祿高取調ノ基準トナツテ居ッタモノニ、錯誤ガアリマシタ結果、自分ノ本當ノ祿高ニ配合シタル金祿公債證書ヲ給付ヲ受ケルコトガ出來ナカッタ人ガアリマス、是等ノ人々ニ對シテ其給與未濟額ヲ公債證書ヲ以テ給與スルト云フノガ、此明治三十年法律第五十號デアアルノデアリマス、而シテ此明治三十年法律第五十號ニ依リマス、此公債證書ノ給與ヲ受ケルニハ、此法律ノ施行セラレマシテカラ一年以内ニ、地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ願出ヲセヨト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、所ガ此給與ヲ受ケル——請求權ヲ有シテ居ル人々ノ中ニハ、其當時或ハ樺太或ハ滿韓地方トカ其他ノ地方ニ居住シテ居ル、或ハ又他ノ種々ノ事情ノ爲ニ知ラズ識ラズ此出願期限ヲ失シタト云フ様ナ人ガアルノデアリマス、是等ノ出願期限ヲ失シタ人ヲ救済スルニハ、ドウシテモ此一年以内ト云フ出願期限ヲ延期スルヨリシヤウガ無いノデアリマス、此意味ニ於キマシテ私共ガ此出願期限ヲ本年ノ十二月三十一日マデ延期スルト云フ必要ヲ認メマシテ、此案ヲ提出シタルデアリマス、是ガ家祿賞典祿

處分ニ關スル法律案ノ大體ノ理由デアリマス、ソレカラ次ニ沒祿處分ヲ受ケタル者ニ對スル家祿賞典祿處分ニ關スル法律案ノ理由ヲ申述ベルコトニ致シマス、唯今申上ゲマシタヤウニ一般士族ニ對シテハ、明治九年ノ太政官布告第八號杯ニ依リマシテ、金祿公債證書ヲ給付セラレタノデアリマス、此藩制施行後カラシテ明治九年ノ此太政官布告ガ實施セラレマスマデ、間ニ於キマシテ、國事ニ關スル犯罪ニ依テ處分ヲ受ケ、其家祿ヲ沒收セラレ、除族處分ヲ受ケタル人ガアルノデアリマス、是等ノ人々ニ對シテハ固ヨリ何等ノ給付ガ無カッタノデアリマス、所ガ明治二十二年ニ至リマシテ大赦ノ恩命ガ下リマシテ、同時ニ此除族處分ヲ取消スト云フコトニナツタノデアリマス、デアリマスルカラシテ其後明治二十七年ノ法律第二十號ニ依リマシテ、是等ノ人々ニ對シテハ家祿ヲ復シテ一般士族ト同様ニ、明治九年ノ太政官布告第八號ニ基イテ金祿公債證書ヲ給與スルト云フ法律ガ出タノデアリマス、斯様ナ次第デアリマシテ、一タビ國事犯ニ依テ除族處分ヲ受ケマシタ者デモ、一旦大赦ノ恩典ニ浴シマシテ除族處分ヲ取消サレマシテ復祿致シマシタル以上ハ、嘗テ除族處分ヲ受ケナカッタ同一ノ結果ニ歸スルノデアリマスカラ、是等ノ人々ニ對シテ他ノ一般士族ト同一ノ取扱ヲスルト云フノガ當然デアリマス、デアリマスカラシテ是等ノ除族處分ヲ取消サレマシタル人々ガ、明治二十七年ノ法律第二十號ニ基キマス給與處分ニ錯誤ガアリマシテ、全部又ハ一部ノ給與ヲ受ケルコトガ出來ナカッタ場合ニハ、他ノ一般士族ト同様ニ、嚮ニ出マシタ所ノ、明治三十年ノ法律第五十號ノ家祿賞典祿處分法ニ依リマシテ、其救済ヲ受ケルコトガ出來ルト云フヤウニセネバナラヌノデアリマス、私共ハ斯様ナ考ヲ持ツテ居ルノデアリマスガ、不幸ニシテ昨年四月行政裁判所ニ於テ、或家祿返還請求訴訟事件ニ於テ、明治二十七年法律第二十號ノ給與處分ニ對スル錯誤ハ、明治三十年法律第五十號ノ救済ヲ受クベキモノデナイト云フ判決ガ下ッタノデアリマス、而シテ其判決ガ確定シタルデアリマス、此判決ノ是非ハ兎モ角モト致シマシテ、斯様ナ判決ガアリマシタル以上ハ、ドウシテモ新ニ法律ヲ設ケテ之ヲ救済スルヨリ外ニ途ガナイノデアリマス、デアリマスカラ已ムヲ得ズ、私共ハ此唯今提出致シマシタ法律案ニ依リマシテ、嚮ニ除族處分ヲ受ケテモソレガ家祿ガ復セラレマシタナラバ、他ノ一般士族ト同様ニ、ヤハリ此明治三十年法律第五十號ノ適用ヲ受ケ、其法律ノ救済ヲ受ケルト云フノガ當然デアラウト云フノデ、此案ヲ提出シタル次第デアリマス、デ、此二ツノ法律案ノ大體ノ理由ハ唯今申上ゲタヤウ



ナ次第デアリマス、尙若シ此案ガ委員ニ付託セラレマシテ審議セラレルヤウナ場合ニハ、尙詳細理由ヲ申上ゲタイト思ヒマス、私共ノ考デハ此二ツノ法案ハ、孰レモ公平ナモノデ條理ニ適ツタモノト信ジマス故ニ、諸君ニ於カレマシテモ何卒御賛成アラシコトヲ切望致シマス

次テ兩案ハ議長指名ノ同一委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ翌二十八日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末同月三十一日兩案ヲ可決シ報告書ヲ議長ニ提出セリ

二月三日兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ續會ヲ開キ(二月一日延會)委員長豊増龍次郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

家祿賞典祿處分ニ關スル法律案並ニ沒祿者ニ對スル家祿賞典祿處分ニ關スル法律案、此兩案ノ委員會ノ結果並ニ經過ヲ御報告致シマス、此二案ハ何レモ各派ノ議員ニ依ッテ提出セラレタル案デアリマシテ委員會ニ於キマシテハ政府ノ不同意アツタル外、委員ト致シマシテハ贊成意見ガアツタノミデ、一人ノ反對意見モ無カッタデアリマス、從ッテ兩案トモ全會一致ヲ以テ可決致シタノデアリマス、先ヅ家祿賞典祿處分ニ關スル法律案ノ顛末カラ簡單ニ申上ゲマス、本案ハ明治九年太政官第百八號布告並ニ他ノ之ニ牽連シアル布告ニ依リテ、給與セラレマシタル金祿公債ノ給與高ニ對シテ錯誤ガアツテ之ガ給與ヲ受ケズ、又給與不足ノ者ニ對シテ明治三十年法律第五十號及明治四十年法律第二十號ヲ以テ是ガ救濟ノ途ヲ開カレタノデアリマス、當時樺太若クハ滿韓地方ニ散在シ又ハ其他ノ事情ニ依テ其手續ヲ爲スコトガ出來ナカッタ者ニ對スル救濟ノ趣旨ヲ以テ發案セラレタルモノデアリマス、之ニ對シテ政府ガ同意セラレナイト云フ意見ノ要領ハ、既ニ是等ノ人ニ對シテ一旦救濟ノ途ヲ開イタノデアルカラ、再ビ本案ノ如キ法律ヲ設ケテ之ヲ救濟スルノ必要ヲ認メナイ、此ノ如キハ寧ロ法律ノ威信ニ關スルト云フデアリマス、尙實際上ヨリシテモ從來其理由ノアル者ハ大部分既ニ其手續ヲ了シタノデアリマシテ、殘ル者ハ僅カデアラウト思ハレル、加之從來ノ當局ニ於ケル審査ノ手續ト云フモノハ至ッテ鄭重ナ調査ヲシテ居ルノデアリマシテ、殆ド遺漏ナイノデアアル、而シテ其結果希望ヲ達シタ者ハ殆ド千人ニ一人ト云フ位ナ數ニナツテ居ル、加之此手續ヲ爲スガ爲ニハ救濟ヲ受クル者ハ固ヨリ國

ニ於テモ尠ナカラヌ費用ヲ要スルノデアアル、從ッテ實際上ノ效果ハ格別大シタモノデハナイノデアアル、故ニ本案ノ成立ニハ不同意デアルト斯ウ云フノガ政府ノ大體ノ意見デアリマス、デ委員ノ贊成意見ト致シマシテハ、元來明治三十年法律第五十號制定ノ當時ハ、政府ニ於テ當時此法律ニ依テ救濟ヲ受クベキ者ハ、全國ヲ通ジテ凡ソ一千萬圓ノ金額ヲ要スルノデアルト云フノデ一千萬圓ノ豫定ヲシタノデアリマス、然ルニ大藏當局ノ調査ノ結果、之ガ給與ヲスベキモノト決シタノハ僅ニ三十萬圓以内ニ止ッタノデアアル、尙行政訴訟ヲ許サレマシタ結果、大藏省ノ此處分ハ不當デアルト云フコトガ決シテ、判決ノ結果前後給與サレタモノガ二百萬圓内外デアアル、サウ致シマスルト云フト、尙殘ル七八百萬圓ト云フ金額ト云フモノハ、國家ガ之ヲ支拂ヘ支拂フテ宜シイト云フ數ニナツテ居ルノデアアル、以テ如何ニ此曩ニ調査シタ所ノ調査ガ粗漏デアリ、且又其手續ニ漏レタ者ガ多イト云フコトガ推知サレルノデアアル、政府ノ方デハ大藏省ノ調査ノ大變鄭重ナ手續ヲ盡シタト言ハレルケレドモ、決シテサウデナカッタト云フコトハ、現ニ其調査ニ基ク給與金ハ三十萬圓以内デアッタニ拘ラズ、行政訴訟ノ結果給與スベキモノト極ツタモノガ二百萬圓ニ達シタ、尙又此判決未濟ノモノモ澤山アルノデアリマシテ、尙此以上ノ額ニ達スルノデアラウト思ハレル、サウスレデハ大藏省ノ調査ト云フモノガ甚ダ粗漏デアッタト云フコトハ十分是デ分ルノデアリマス、尙一旦救濟シタ者ニ對シテ、更ニ此案ノ如キ法律ヲ制定スルト云フコトハ、法ノ威信ニ關スルト云フコトデアリマスケレドモ、此ノ如キ事例ハ維新以來敢テ珍ラシクナイ、幾多モアル、苟モ事情ノ如何ニ依リ又沿革ノ如何ニ依テハ、成ルベク此ノ如キ恩典ヲ給與セシムルガ爲ニ、此ノ如キ法律ヲ制定スルト云フノガ、寧ロ國トシテ爲スベキ當然ノ責務デアルト云フノ意見デアリマス、此意見ニ對シマシテハ別ニ一人ノ反對者モナク、前申シ上ゲマシタ通りニ、全會一致ヲ以テ可決シタノデアリマス、次ニ沒祿處分ヲ受ケタル者ニ對スル家祿賞典祿處分ニ關スル法律案ノ委員會ノ顛末ハ、元來本案ハ明治三年九月十日太政官布告藩制施行ヨリ同九年八月太政官第百八號布告實施マデノ間ニ於テ、國事ニ關スル犯罪ノ爲メ家祿賞典祿ヲ沒收セラレタル者、及ビ其ノ家名承繼人ニシテ、明治二十七年法律第二十號施行ノ際、其沒收セラレタル當時ノ祿高ニ對スル全部ノ給與ヲ受ケタルモ、若クハ相當額ノ給與ニ不足アル者ハ、明治三十年法律第五十號家祿賞典祿處分法ヲ準用シ同法ニ依リ發行スル公債證書ヲ以テ之ヲ給與スト云フノガ、案ノ大體デアリマス、元來右



申上ゲマシタル國事犯者ハ明治二十二年ノ大赦ニ依リマシテ、除族處分ノ取消ヲ受ケタノデアリマ  
 ス、次デ明治二十七年法律第二十號ノ制定ニ依テ他ノ土族ト同ジク、明治九年八月太政官布告第百八  
 號ノ布告ニ依リ、金祿公債ト同一ノ額ヲ以テ金額ノ給與ヲ受ケタノデアリマス、然ルニ一般ノ土族ニ  
 對シマシテハ、明治九年ノ太政官第百八號布告ニ依リ給與ニ錯誤ガアリ、其給與ヲ受ケズ若クハ給與  
 ノ不足アッタ者ニ對シテハ、明治二十年法律第五十號並明治四十二年法律第二十一號ノ救濟方法ガア  
 ルニ拘ハラズ、獨リ彼ノ國事犯者ニ對シテハ、全ク此救濟方法ガナイノデアアル、是ハ所謂法律ノ不備デ  
 アルト云フノガ、本案提出ノ趣旨デアリマス、之ニ對シマシテモ政府ハ同ジク不同意デアリマシタ  
 ガ、其不同意ノ意見ナルスノハ、明治二十七年法律第二十號ナルモノハ、除族者ニ對スル一時金給與ノ  
 趣旨デアツテ、敢テ復祿セシムルト云フ主旨デハナカッタノデアアル、既ニ除族者ニ對シテ復祿セシムル  
 ト云フ旨主デナカッタ致シマスレバ、此除族者ヲ他ノ國事犯者ト同一ノ待遇ヲ爲スコトガ出來ナイ  
 ノガ當然デアルト、斯ウ云フノガ政府ノ意見デアリマス、併ナガラ委員ノ贊成意見ハ全然之ニ反シマ  
 シテ、明治二十七年ノ法律第二十號ナルモノハ、元來此除族者ガ帝國議會ニ對シテ復祿ヲシテ貰ヒタ  
 イト云フノ請願ガ出マシタ結果制定セラレタル法律案デアアル、此二十七年ノ二十號ノ法律其ノモノ  
 ハ、即チ復祿ノ主旨デアアル、斯ウ解釋シテ居ル、サスレバ一般土族ト此除族ヲ受ケタニ拘ハラズ、大赦ノ  
 恩命ニ浴シテ所謂除族處分ヲ取消サレタル土族トノ間ニ、區別ヲ置クノ理由ガナイ、加之若シ此法律  
 ノ制定ヲ見マセスト明治九年ノ太政官第百八號布告ノ實施ノ前後ニ依リマシテ、同ジ同一ノ大赦ヲ  
 受ケタ國事犯者ニ對シテ待遇ヲ異ニスルト云フ不公平ヲ來ス、即チ此法律ノ實施以前ノ除族者ニ對  
 シテハ、右ノ如ク明治三十年法律第五十號ノ救濟ヲ受ケズ、明治四十年法律第二十一號ノ救濟ヲ受ケ  
 ナイニ拘ハラズ、其以後ノ國事犯者ガ同ジ救濟ヲ受ケルト云フノデアリマス、カラ、同一ノ國事犯ニ對  
 シ待遇ヲ異ニスルト云フヤウナ結果ヲ生ズル、況ンヤ此法律ガ施行セラレタニ致シマシテモ、結局其  
 恩典ニ浴スルモノハ、全國總ジテ僅カニ三千萬圓内外ノ金額ニ過ギナイト云フノデアリマス、カラ、財  
 政上ノ點カラ見マシテモ、毫モ政府ニ於テ迷惑ヲ感ズルノデナイノデアアルト云フ主旨デアリマス、此  
 意見ニ對シマシテモ同ジク全會一致、一人ノ反對者ガ無カッタノデアリマス、右様ノ次第デアリマス、カ  
 ラ、此兩案共ニ本院ニ於テモ滿場一致御贊成アラントヲ希望致シマス

神野大藏省理財局長ハ兩案ニ反對、川原茂輔君ハ贊成ノ演說ヲ爲ス

神野大藏省理財局長ノ演說

唯今議題トナツテ居リマスル家祿賞典祿處分ニ關スル法律案、並沒祿ニ對スル家祿賞典祿處分ニ關スル  
 法律案ノ此兩案共ニ政府ハ其成立セザランコトヲ希望致シマス、既ニ法律ガ適當ト認メタル期間ヲ  
 定メマシテ、其出願期限ガ既ニ終了致シテ居リマスニモ拘ハラズ、二十年ニ垂ントスル今日ニ至リマシ  
 テ、更ニ新ニ其出願期限ヲ設ケントスルガ如キ、又帝國議會ガ適當認メテ法律案ヲ提出セラレマシ  
 テ、其法律案ガ成リ立チマシテ、其法律ニ定メタル行政訴訟提起期間ト云フモノガ既ニ終了シテ居リマ  
 スニモ拘ハラズ、數年ヲ經タル今日又新ニ其期間ヲ設ケントスルガ如キハ、特別ノ重大ナル理由ガ無クテ  
 ハナラズト信ジマスル、元來本問題ノ如キハ、利害關係者ニ取リマシテ、鋭敏ニ感覺ヲ與ヘルモノデア  
 ルノデアリマス、ソレデアリマスカラ出願スルニ理由アリト信ズル人ハ、此法律ガ發布セラレタルト  
 同時ニ皆出願シタルモノト認メテ大ナル過チハナイト信ジマス、偶、少數ノ其期限ヲ逸シタル人ガア  
 ルトシマシテモ、是ハ其人ノ過失デアルト謂ハナケレバナラスノデアリマス、然ルニ是ガ爲ニ法律ヲ制  
 定致シマシテ、之ヲ救濟スルト云フコトハ、誠ニ際限ノナイコトデアリマシテ、法律ノ威信ニモ關シ、又  
 過失者ヲ保護スルト云フヤウナ結果ニナツテ、其當ヲ得ナイモノト信ジマス、今日迄ノ成績ノ一  
 端ヲ申上ゲマスルト、明治二十年法律第五十號ニ依リマシテ出願致シタル者ガ十一萬六千七百  
 六十三件、其中採用セラレタルモノガ百八件デアリマス、給與セラレタル金額ガ二十七萬四千二百九十  
 一圓デアリマス、此人員ガ三千九百六人、一人當リ金九十五圓バカリデアリマス、又明治四十二年法律  
 第四十一號ニ依リマシテ、行政訴訟ヲ提起シマシタル件數ガ五百六十五件、其中今日迄ニ終結ヲ致シ  
 マシタノガ二百七十三件、其中一部若クハ全部原告タ勝訴ニ歸シタモノガ十七デアリマス、此金額ガ  
 百三十八萬七千九百九十七圓、此人員ガ五千九百四十人、一人當リガ二百二十三圓バカリニナリマス、事  
 實ハ此ノ如クデアリマシテ、本問題ニ關シテ國ニ於キマシテモ少ナカラズ費用ヲ要シマス、又本人  
 ニ於キマシテモ少ナカラズ費用ヲ要スルノデアリマス、其費用ヲ要シテ希望ヲ達シタル人ハ、洵ニ少  
 ナウゴザイマシテ、三十年法律第五十號ニ依ツテ出願致シタル人ハ、僅カ千人ニ一人採用サレテ居ルノ



デアリマス、又行政訴訟ヲ提起シテ勝訴シタ人ハ百人ニ三人バカリノ割合ニナリ居ルノデアリマス、此ノ如キ狀況デアリマスカラ、幸ニシテ希望ヲ達シテモ殆ド收支相償ハナイヤウナ狀況ニナリ居ル人ガ事實澤山アルノデアリマス、況ンヤ其目的ヲ達シナカッタ云フヤウナ人ハ、費用ヲ費シテ何等得ル所ナクシテ終ッタク云フヤウナ人ガ、寧ロ大多數デアアルノデアリマス、此ノ如ク本問題ノ如キハ耳當リガ洵ニ結構ナヤウニ聞エマスガ、實際ノ實益ト云フモノハ甚ダ少ナイト存ズルノデアリマス、以上ノ理由ニ依リマシテ本案ハ否決セラレンコトヲ希望致シマス、又沒祿處分ニ對スル家祿賞典處分ニ關スル法律案是ハ明治三十年法律第五十號ハ、藩制施行以後金祿公債證書發行條例施行當時マデ、引續イテ祿ヲ有シテ居ッタ人ニ對スル救濟法デアリマス、而シテ明治二十七年法律第二十號ハ、其藩政施行以後金祿公債證書發行條例實施當時ノ間ハ、家祿賞典祿ヲ沒收セラレタル人ニ對スル救濟法案デアリマス、即チ一ハ其間ニ家祿賞典祿ヲ持ッテ居ッタ人ニ對スル救濟法案デアリマシテ、二十七年法律第二十號ハ、其間家祿賞典祿ヲ失ッタ人ニ對スル救濟法デアリマス、至ク其性質ノ違ッテ居ルモデアリマス、此明治二十七年法律第二十號ハ、藩制施行以後金祿公債條例マデノ間ニ、家祿賞典祿ヲ沒收セラレタル人ガ、大赦ノ恩命ヲ蒙ッテ除籍處分ノ取消ヲ受ケタト云フコトハ事實デアリマス、ソレノ結果ト云フ譯デハナクシテ、其者ニ對シテ特別ニ一時恩典トシテ給與金ヲ賜ハルト云フノガ此明治二十七年法律第二十號ノ精神デアリマス、明治二十七年法律第二十號ハ、是ガ爲メニ以前ノ家祿賞典祿ヲ復舊シタト云フ法律ノ效力ハ持ッテ居リマセス、ソレハ此法律名稱ニ依ッテモ明デアリマス、即チ法律第二十號ハ、國事ニ關スル犯罪者ニ特別給與金支給方ト斯ウアルノデアリマス、又其法律ノ條文ニ依ッテモ明デアリマシテ、金祿公債證書額ニ相當スル金額ヲ一時國庫ヨリ支出シテ之ヲ給スト書イテアルノデアリマス、其性質ハ先ニ沒收セラレタル家祿賞典祿ヲ復祿セラレタト云フ法律ノ效力果ヲ有ッテ居ルモノデハナイノデアリマス、此ノ如ク明治二十七年法律第二十號ニ依ッテ受ケマシタル給與金ト云フモノハ、洵ニ一時ノ恩賜金デアリマシテ、其當時限リ既ニ事柄ハ結了シテシマッテ居ルノデアリマス、然ルニ一方ニ於テ祿ヲ持ッテ居ッタ人ニ對スル救濟法案ヲ、祿ノナイ人ニ對スル救濟法案ト混同シテ、一ヲ以テ他ヲ準用シヤウト云フコトハ、洵ニ變テコナコト、ナルト存ジマス、其性質ノ相異ナルモノヲ混同シテ、明治三十年法律第五十號ヲ準據シマシテ、權利トシテ之ヲ請求シ、權利

トシテ行政訴訟ニ於テ之ヲ争フノ救濟ヲ與ヘントスル法案ハ、洵ニ當ヲ得ナイモノト信ズルモノデアリマスカラ、本案モ又否決セラレンコトヲ希望致シマス

川原茂輔君ノ演説

諸君、此家祿賞典處分法案外一件ニ對シマシテ、委員長ノ報告即チ原案ニ賛成スル者デアリマス、本會場ニ於テハ別段御反對モナイヤウニ考ヘテ居リマスノデ、此處デ長シク申上ゲルコトハ止メマス、委細ハ委員會ニ於テ一通リ提案ノ趣旨モ辯明シテ置キマシタカラ、大體ハ速記録ニ於テ御諒承アラシコトヲ希望致シマス、唯政府委員トシテ委員會並ニ唯今長シク御反對ガアリマシタカラ、ソレニ向ッテ一ニ私ノ意見ヲ申上ゲテ、諸君ノ御判斷ヲ乞ヒタイト思フノデアリマス、本案ノ成立致シマスル即チ明治三十年ノ法律第五十號ノ制定ニナリマシタル沿革ハ、此中ニ當時ノ委員ノ人モ御出ニナリ、其當時ノ政府委員タリシ濱口君ノ如キ人モ出席ニナリ、御承知ノコトハ、存ジマスルガ、三十年ノ一月ニ此法案ヲ提出致シマシタノハ、即チ此議員提出案ヨリ成ッタノデアリマス、其時ノ政府ハ大藏大臣トシテハ松方伯、大藏次官トシテハ田尻君ガ反對ハシナイケレドモ、取調ガ不十分デアルカラ本年ハ引込メテ貫ヒタイト云フ位ノ説明デアッタノデアリマス、而シテ此問題ノコトニ付テハ年々歳々議院ニ請願、若クハ建議等ヲ以テ現ハレマスルコトハ一再ナラズ、如何ニモ計算ノ基礎ニ於テ錯誤ガアルニ依テ、之ヲ國家トシテ其不足金額ト云フモノハ支拂ハネバナラヌト云フコトヲ、政府モ認メ議院モ認メタ結果ガ、即チ此三十年法律第五十號ノ制定ニナリマシタ大體ノコトデアリマス、其時金額ハ無限ニ應ズル譯ニハイカナナイガ、凡ソ金額ト云フモノハ、一千萬圓トスルカ若クハ、一千万圓ニ上セルト云フコトヲ段々委員會ニ於テ協議ノ結果凡ソ一千万圓アッタナラバ求メニ應ズルコトガ出來ルデアラウト云フコトヨリ、此法案ハ成立シテ、一定ノ期間ヲ立テ、即チ政府ニ於テハ之ヲ調査シ、不許可ノモノニ對シテ行政裁判所ニ訴ラスルト云フ順序ニナッタノデアリマス、而シテ其金額ハ先キニ述べマシタ通り政府ニ於テハ非常ニ鄭重ノ手續ヲ經タガ如ク仰シヤルケレドモ、政府ニ於テ直ニ許可セラレタモノハ僅々三十萬足ラズ、ソレヲ行政裁判所ニ訴ヘマシタ結果ガ今日マデ原告ノ勝訴トナッテ居ルモノヲ、彼此通計シテ凡ソ二百萬圓然ラバ先キニ凡ソ一千万圓ノ金額ヲ支出シテ、全國各藩



ノ士族ニ對シ不足額ヲ救済シテヤラウト云フ其數字ヨリ考ヘレバ、マダ國家ハ七八百萬圓確カニ支拂フベキ所ノ數字ガ殘ツテ居ルノデアリマス、ソコデ今回吾々ガ法案ヲ出シマシタノハ、即チ之ノ一ヲ大正五年十二月マデニ延期ヲシテ、サウシテ大藏省ニ於テハ尙之ヲ周密ニ調査ヲ致シ、若シ大藏省ガ不許可ノ場合ニ於テハ、更ニ行政裁判所ニ訴ヘル途ヲ開キタイト云フノガ即チ本案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、然ルニ政府委員ノ御反對ニナルトコロノ要旨ハ、一度期限ヲ定メタモノヲ再ビ其期限ヲ延長スルト云フコトハ特別ノ理由ガ無クテハナラス、法ノ威信ニ關係ヲ來スト云フコトノ御議論デアリマシテ、其立論ノ趣意トシテハ然ルベキコトカトモ存ジマスルケレドモ、然ラバ他ノ事柄ニ於テ一度期限ヲ制定シタモノヲ、再ビ延長シタトコロノ類例ハ有ルカ無イカ、幾ツモ此ノ如キ類例ハアルノデアリマス、最近政府ガ提出セラレムトスルトコロノ臺灣ノ六三問題ハドウデアアル、一度一定ノ期間ヲ以テ制定シタモノガ、臺灣ノ都合、即チ政府ノ都合ニ依テ期間ヲ延長セラレタコトガ再々デアアル、ソレカラ非常特別稅ハ如何營業稅其他ノ法律案ハ國家多事ノ場合デアアルカラ、或一定ノ期間ハ國民ハ忍ンデ其重稅ヲ負擔シナケレバナラヌト云フコトデ、一度期間ヲ制定シ、其期間ノ到來シタ場合ニ於テ更ニ永久的ニ直シタ例モアルノデアアル、政府ガ取ル方ニ都合ガ好イト云フコトニナルト、期間ヲ延長スルコトハ法ノ威信ニ關係ガ無イト云フコトナラバ兎モ角、此ノ如キ類例ト云フモノハ幾ツモアリマスカラ、茲ニ更ニ延期ヲ致シテ三十年法律五十號ノ期間内ニ、イロ／＼ノ事情ノタメニ出願シ若クハ訴訟スルコトガ出來ナイモノニ向ッテ、モウ一遍寛大ノ處置ヲシテ救済ヲシテ見タイト云フガ本案ノ趣意デアリマス、政府委員ハ法ノ威信若クハ收支償ハナイナドト云フ言ガアリマスガ、其期間ヲ延長シタ類例トシテモウ一ツ申シマスレバ、彼ノ明治三十七年ニ煙草專賣法ヲ實施シテ、之ヲ實施スルト共ニ營業者ノ或部分ニ對シテハ、補償ヲ與ヘルト云フコトノ法案デアリマシテ、是ヨリ以後ハ補償ヲ與ヘナイト云フ趣意デアッタガ、其翌々年ノ四十年ニ至ッテ是モ議員ガ提出シテ一部ノ救済ヲ再ビシタルコトノ例モアルノデアリマス、此時モ政府ハ盛ニ反對ヲシタ、即チ當時ノ政府ヲ代表トシテ若槻君、濱口君其他御反對ニナッタケレドモ、貴衆兩院通過ノ結果法律トナッテ、再ビ救済シタ例ハ是ニモアルノデアリマス、是ハ物事ノ見ヤウ一ツデ、一度期間ヲ制定シタモノヲ再ビ延長セントシタ類例ハ、本院ニ於テハ彼ノ國有林野拂下法案ノ如キニ至ッテモ、期間延長ノ動議モ出テ、法律案モ

屢、出タコトモアルノデアアル、之ニ向ッテハ政府モ反對シ本院多數モ反對シタ、其反對致シマシタ理由ハ、人民ノ所有ナリトシテ證據トシテ提供スルモノ、中ニ過半ハ賈デアアル、偽造デアアル、行政處分ヲシテ山林ヲ伐採スル半バニ至ッテ、其證據物件ノ偽造デアルト云フコトガ分ッテ行政處分トシテソレヲ中止シ若クハ取消ヲ命ジタト云フコトガアル、唯一ノ證據タルモノニ偽造ガ多イノデアリマスカラ、之ニ向ッテハ更ニ期間延長ヲ與ヘナカッタコトガアルノデアアル、併シ此家祿賞典祿其他ノモノニ付テハ證據トシテ提供スルモノハ偽造ガ無イノデアリマス、出願者ガ即チ過失ヨリシテ期間ガ遅レタト云フコトナラバ、之ヲ他ノ問題ト混同セズシテ其證據ノ上ニ於テ真正動カスベカラザルモノデアアルナラバ、武士ノ情ヲ以テモウ一遍期間ヲ延長シテ、而シテ相當ノ救済ヲ致シタイト云フ意味デアリマスカラ、政府ガ區々タル無情ノ反對ヲ願ミズシテ、本院ハ大多數御賛成ノ上デ、本案ヲ成立セシメラレンコトヲ希望致シマス

表決ニ及ヒ兩案ハ孰レモ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會、第三讀會ヲ開キ兩案ヲ可決確定シ即日貴族院ニ送付シタルモ同院ノ議決ヲ經ルニ至ラサリキ

一三 賣藥法中改正法律案

賣藥法中左ノ通改正ス

第六條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ獸醫ニシテ家畜用ノ賣藥ヲ調製販賣スルハ此ノ限ニ在ラス

四年十二月二十三日小西和君之ヲ提出ス五年一月二十二日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ



此議案ハ極メテ簡單ナルモノデアリマスル故ニ、極メテ簡單ニ提出ノ理由ヲ辯明ヲ致シマス、現行ノ賣藥法ニ依リマスレバ、賣藥ヲ製造販賣シ得ル者ハ藥劑師、藥劑師ヲ使用スル者並醫師ニ限ラレテ居リマスル、是ハ吾々人類ニ對スル賣藥ニ付テノ規定デアリマスガ故ニ、是デ差支ナイノデアリマスガ、一方牛馬其他家畜ノ側ニ付テ見マスルト、是等ノ治療診察投藥ニ付キマシテハ、自ラ特種ノ學術經驗並ニ技能ヲ要スルノデアリマスル、從テ家畜ニ對スルモノニ向ッテハ特ニ獸醫學ノ發達ヲ告ゲ、獸醫ヲ要シテ居ルノデアリマス、然ルニ此獸醫ガ家畜ニ用ウルトコロノ賣藥ヲ製造スル場合ニ、法律ガ之ヲ許サナイト云フコトハ、是ハ法ノ缺陷デアラウト存ジマス、此理由ニ依リマシテ家畜ニ用ウル賣藥ハ獸醫ガ之ヲ製造シ並販賣スルコトヲ得セシムルヤウニシタイト申スノガ本案ノ提出ノ理由デゴザイマス、ドウゾ御審議ノ上御贊成アラントヲ希望致シマス

次テ本案ハ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ同月二十四日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末二月九日原案ヲ可決シ報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月十二日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長綾部惣兵衛君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

賣藥法中改正法律案ノ委員會ノ經過及結果ヲ極メテ簡單ニ御報告致シマス、本案ハ小西君ノ御提出ニ係ル案デゴザイマシテ、現行賣藥法第六條「藥劑師、藥劑師ヲ使用スル者又ハ醫師ニ非サレハ賣藥ヲ調製シテ販賣スルコトヲ得ス」斯様ニアリマス、第六條ニ對シテ「但シ獸醫ニシテ家畜用ノ賣藥ヲ調製販賣スルハ此ノ限ニ在ラス」此但書ヲ加ヘタイト云フノガ御提案ノ趣意デアリマス、委員會ニ於キマシテハ内務省及農商務省ヨリ政府委員ノ出席ヲ請ヒマシテ、質問應答ヲナシタル結果、本案ハ原案ノ如ク可決致シタノデアリマス、此段御報告致シマス

別ニ討論ナク院議第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ本案ヲ可決確定シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ同月二十三日可決奏上シ六月二十九日法律第四十一號ヲ以テ公布セラル

一四 明治三十七八年戰役ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スル法律案

第一條 明治三十七八年戰役ノ際陸軍徵發内命ニ基キ航行中敵艦ノ爲損害ヲ被リタル船舶又ハ其ノ積荷ノ所有者ニ對シテハ本法ニ依リ救恤金ヲ下付ス

第二條 前條ノ救恤金ハ六萬圓以内トス

第三條 本法ニ依リ救恤金ヲ受ケムトスル者ハ大正五年七月三十一日迄ニ申請スヘシ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

四年十二月二十六日請願委員長之ヲ提出ス 五年一月二十二日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(請願委員長加藤彰廉君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

此法律案ハ明治三十七八年戰役、即チ日露戰役ノ際ニ人民ノ蒙リマシタル損害ニ付テ、其當時多分ハ救恤シタノデアリマスガ、未ダ救恤ヲシテ居ラナイモノガアルト云フコトヲ發見シマシタノデアリマス、ソレデ此度之ヲ救恤シヤウト云フ趣意ヲ提出ニナッタノデゴザイマス、其救恤ノ漏レテ居ルモノニ付キマシテハ、數年來請願ヲシテ參ッテ居ルノデアリマス、此度モ亦請願ガ出テ居リマス、ソレデ、請願委員會ニ於テ之レヲ審査シマシタ所ガ之ニ對シテ救恤ヲスルノガ至極デアルト云フコトヲ全會一致決議ヲシタノデゴザイマス、其救恤ヲシマスルニ就テ、此法律案ト云フモノガ無イト、救恤ノ手續ガ出來マセヌノデゴザイマス、ソレ故ニ此法律案ヲ提出シタノデゴザイマス、而シテ此法律案ハ今回初メテ出タノデハゴザイマセヌ、大正三年三月ノ議會ニ於キマシテ是ト同一ナル法案ガ提出ニナリマシテ、衆議院ヲ通過シテ貴族院ニ送付ニナッタノデゴザイマシタガ、會期切迫ノ爲ニ貴族院ノ議了ヲ見ズシテ終ッテ今日ニ至ッタノデゴザイマス、ソレ故ニソレヲ再ビ今日提出シタノデゴザイマスカ



ラ、ドウカ請願委員會ノ決議通り速ニ御賛成アラムコトヲ希望致シマス  
院議異議ナク第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ本案ヲ可決確定シ即日  
貴族院ニ送付シタルモ同院ノ議決ヲ經ルニ至ラサリキ

一五 衆議院議員選舉法中改正法律案

衆議院議員選舉法別表中左ノ通改正ス

神奈川縣橫濱市ノ次ニ

橫須賀市

一人

長崎縣長崎市ノ次ニ

佐世保市

一人

新潟縣新潟市ノ次ニ

長岡市

一人

高田市

一人

三重縣四日市市ノ次ニ

宇治山田市

一人

愛知縣名古屋市ノ次ニ

豊橋市

一人

静岡縣静岡市ノ次ニ

濱松市

一人

長野縣長野市ノ次ニ

松本市

一人

福島縣若松市ノ次ニ

福島市

一人

廣島縣廣島市ノ次ニ

吳市

一人

福岡縣小倉市ノ次ニ

若松市

一人

大分縣ニ

大分市

一人

北海道小樽區ノ次ニ

旭川區

一人

ヲ加フ

五年一月二十二日小泉又次郎君外十五名之ヲ提出ス 同月二十七日日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(小泉



又次郎君ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ハ本案提出ノ理由ヲ簡單ニ説明致シマス、此案ニ列記シテアリマス所ノ横須賀市外十一市及一區ハ、現行ノ選舉法制定以後ニ於テ新ニ市ニナリマシタ所ノ市及區デアアルノデアアリマス、現在ニ獨立選舉權ヲ有スル所ノ市ト對比致シマシテ、何等ノ差異ガ無イノデアアリマス、其總テノ状態ヲ同ジウシテ居ルノデアアリマスカラ、獨立選舉權ヲ有スルノガ當然デアアルト云フノ考デアアリマス、唯現在ノ法律即チ別表ノ末項ニ「人員ノ増加ニ依ルトモ少クモ十年間ハ更正スルコトヲ得ス」ト云フ此窮窟ナル但書ノアリマシタ故ニ、今日マデ當然獲得スル所ノ權利ヲ獲得シ得ナカッタト云フノデアアリマス、本院ニ於キマシテモ數回此案ハ通過致シマシテ、貴族院ニ於テ何時モ通過シナカッタノデアアリマス、併ナガラニ十八議會ト記憶シテ居リマスガ、時ノ西園寺内閣ノトキニ選舉法ノ改正案ガ出マシタ、其案ノ要旨ハ申スマデモナク、現在ノ大選舉區ヲ變更シテ小選舉ト改メ、而シテ此案ニ列記致シテアリマス、コロノ各市ヲ獨立選舉區ト認メル、但シ本案ニ書イテアリマスルトコロノ若松市、北海道ノ旭川區ハ其當時ニハ無カッタト思ッテ居リマス、其他選舉區ニ關スル改正案ハアッタノデアアリマスガ、本院ハ通過致シマシテ貴族院デ此獨立權ヲ有スル獨立市ノ方ハ賛成ヲ得タノデアアリマスケレドモ、大選舉區ト小選舉區ノ意見ヲ異ニシマシタガ爲ニ、此關聯シテ居ルトコロノ議案ナルガ故ニ不成立ニ終ッタト云フノデアアリマス、サウシテ見マスルト云フト、既ニ此案ハ本院ハ申スニ及バズ、貴族院ニ於キマシテモ何等異議ノナイコト、私ハ信ズルノデアアリマス、聞クトコロニ依リマスレバ政府ニ於キマシテハ、近キ中ニ相當ノ機關ヲ設ケ選舉法ノ改正案ヲ調査ラシテ、次期ノ議會ニ提出スルト云フトデアアリマスガ、其政府ガ調査セントスルト云フトハ、要スルニ選舉權並被選舉權、選舉法ノ罰則及ビ人口ノ増殖ニ伴フ増員及ビ本案ト云フモノガ主タル問題ダラウト思フノデアアリマス、而シテ既ニ本案ハ前申シマシタ如ク、本院及ビ貴族院ニ於テ既ニ通過ヲ致シ、事實ノ上ニ於テ通過ヲ致シテ居リマスルガ故ニ、既ニ攻究スル餘地ガナク、此選舉法中ノ改正スベキ點ニ於テハ、先ヅ以テ直ニ之ヲ改正シナケレバナラス、確定シタモノト見テモ差支ナイト私ハ信ズルノデアアリマス、此故ニ政府ガ相當ノ機關ヲ設ケテ選舉法ヲ改正スルト云フトデアアリマスルケレドモ、此案ハ改正研究スルノ餘地ナク、確定シテ居

ルモノデアアルト信ジマスルガ故ニ、本案ヲ提出致シタ次第デアリマス、何卒御賛成ヲ乞ヒマス  
次テ本案ハ議長指名(十八名)ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ翌二十八日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末二月二日原案ニ修正ヲ加ヘ報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

(小字及一ハ委員會修正)

衆議院議員選舉法別表中左ノ通改正ス

神奈川縣横濱市。〇二人

横須賀市 一人

長崎縣長崎市。〇一人

佐世保市 一人

新潟縣新潟市。〇一人

長岡市 一人

高田市 一人

三重縣四日市市。〇一人

宇治山田市 一人

愛知縣名古屋市。〇二人

豊橋市 一人

静岡縣静岡市。〇一人

静岡縣静岡市。〇一人



濱松市 一人  
 長野縣長野市。ノ次ニ  
 松本市 一人  
 福島縣若松市。ノ次ニ  
 福島市 一人  
 廣島縣廣島市。ノ次ニ  
 吳市 一人  
 福岡縣小倉市。ノ次ニ  
 若松市 一人  
 大分縣ニ  
 大分市 一人  
 北海道廳小樽區。ノ次ニ  
 旭川區 一人  
 フ加フ  
 沖繩縣 一人  
 那霸區 一人

首里區 二人  
 島尻郡  
 中頭郡  
 國頭郡  
 附則

本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

二月五日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長長川崎克君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

衆議院議員選舉法中改正法律案委員會ノ一部結了ヲ告ゲマシタ結果ヲ御報告致シマス、委員會ハ小泉君ノ提出ニ係リマスル獨立選舉區ニ關スル法律ノ改正案ノ外、高木益太郎君ヨリ選舉權ノ擴張並別表ノ改正ニ關スル法律案、小池君ヨリ提出セラレマシタ北海道及沖繩縣ノ區並郡部ノ選舉區ノ改正ニ關スル法律案、以上三案ヲ此委員會ニ付託セラレタノデアリマスルガ、小泉君外提出ニ係リマスル——高木君並小池君ノ兩案ハ一ハ選舉區ノ獨立選舉區以外ノ郡部ノ選舉區ニ關係ヲ有スルノト、一ハ選舉權ノ根本ニ關係ヲ有シテ居ル問題デアリマシテ、之ニ對シテハ種々ナル質問應答等アリ、尙此二ノ問題ハ慎重審議ヲ重ナルノ必要アリトシテ、第一ノ最モ簡單ナル獨立選舉區ニ關スル改正法律案ノミニ付テ先キニ之ヲ決定スベク審議ヲ致シタノデアリマス、其結果之ニ對スル政府ノ意見ヲ求メマシタル所、政府ハ獨立選舉區ニ對スル選舉區ヲ作ルト云フコトハ、其主義ニ於テ異議ガナイノデアルガ、政府ハ曩ニ選舉法ノ全體ニ對シテ調査委員ヲ設ケルコトニナリ、既ニ其豫算モ要求シテ居ル次第アルカラ、成ルベク此時ニ共ニシテ貫ヒタイト云フ希望デアッタノデアリマス、併ナガラ委員會ニ於テハ政府既ニ其主義ニ於テ反對ガナイ以上ハ、是ハ早ク結了シタ方ガ宜イト云フ意見ニ一致シマシテ、本案ハ之ヲ認ムルコトニナルニ方リマシテ、更ニ岸本君カラ修正意見ガ出マシタ、ソレハ沖繩縣ノ那霸區ガ此中ニ漏レテ居リマシタカラ、此那霸區ヲ加フルト云フコトノ修正意見ガアリマシタ、是ハ明治三十五年本法制定當時ニ於キマシテ、既ニ那霸區ガ獨立シテ居ッタノデアリマスガ、勅令其他ノ



關係上選舉權ヲ實施スルコトガ出來ナカッタメニ遲レテ居ッタノデアリマスルカラ、是ハ本法改正ト同時ニ之ヲ加フルト云フコトヲ委員會ハ認メルコトニナッタノデアリマス、ソレカラ小泉君ノ原案ノ末尾ニ此施行期日ガ定メテナカッタカラ、本法ハ之ハ次ノ總選舉ヨリ施行スルト云フコトニ修正致シマシテ、之ニ對シテ幾許カ字句ノ修正等ヲ行ヒマシテ、委員會ハ滿場一致ヲ以テ可決致シタノデアリマス、尙附帶決議ト致シマシテ廣岡君カラ御希望ガアリマシタ、ソレハ一體此選舉法ノ改正ニ付テハ貴族院ハ單一院ヲ以テ規定シ得ルニモ拘ラズ、衆議院ハ兩院ノ議決ヲ經ナケレバナラヌト云フコトニナツテ居リマス、是ハ今日法制上已ムヲ得ヌ結果デアアルガ、甚ダ遺憾ノ次第デアアル、殊ニ衆議院議員選舉法ノ改正ニ付テハ、常ニ此委員トナルベキモノノ中ニ、衆議院以外ニ貴族院議員アリ、官吏アリ、斯ノ如ク直接本法ニ關係ノ淺イ人々ガ此委員トナルト云フコトハ、衆議院選舉法ノ精神ニ於テ甚ダ遺憾ニ堪ヘナイ次第デアラカシテ、政府ハ此委員ノ任命ヲ爲ス場合ニ於テハ、此意味ヲ加味シテ委員ノ選擇ヲ爲スニ注意セラレタコトヲ希望スルト云フ意見デアッタノデアリマス、ソレモ委員會ニ於テ滿場異議ナク之ヲ認メルコトニナッタノデアリマス、以上御報告致シマス

岸本賀昌君ハ政府ニ對シ左ノ希望ヲ述フ

唯今委員長カラ報告ニナリマシタ選舉法ノ改正案ニ付キマシテハ、各派トモ是ハ御異議ナイコトニ承ツテ居リマス、ノデ、無論滿場一致ヲ以テ忽チニ此議場ヲ通過スルデアラウト信ジテ居リマス、此場合ニ於キマシテ一ツ政府ニ對シマシテ希望ヲ述ベタイト思フテ居リマス、此選舉法ノ改正ハ十數年ニ跨リテ度々此議場ニ現ハレ、イツモ大多數ヲ以テ通過シテ居ルニモ拘ラズ、未ダ法律トナツテ實現スルニ至ラヌト云フコトハ、甚ダ遺憾千萬ナコトデアリマス、是ニハ一ツノ原因ガアラウト思フノデアリマス、其原因ナルモノハ政府ガ常ニ選舉法ノ全體ニ互ツテ改正ヲ企テタイト云フ考ヲ有ツテ居ラレル様デアリマシテ、其自分ガ作ツテ出サル、所ノ選舉法ノ中ノ一部分トシテ、之ヲ作ツテ政府案トシテ出サウト云フ様ナ斯ウ云フ様ナ考ガアリマスカラ常ニ此案ガ衆議院ヲ通過シマシテモ、成ベク是ハ成立ニ至ラシメヌ様ニト云フ考ヲ有ツテ居ル爲ニ、未ダ實現スルニ至ラヌノデアラウト思ヒマス、ソレ故ニ委員會アタリニ於キマシテノ政府委員ノ語氣ヲ藉リマス、本案ノ精神ニ付テハ贊成デアアル、又本案ノ實質ニ於テ

ハ異存ハナイト、斯ノ如キコトヲ申サレテ居ルニ拘ラズ、一度本院ヲ通過致シマスルト云フト、態度一變致シテ、成ルベク貴族院ニ於テハ、是ガ握潰シニナツテ終ラムコトヲ祈ツテ居ラル、ヤウナ感シガスルノデアリマス、此誠意ナキトコロノ結果ガ常ニ此案ヲ流産セシメルト云フヤウナ姿ニナツテ居ルト思ヒマス、勿論衆議院ノ選舉法ノ全體ニ互ツテ改正ヲ要スベキトコロノ點々ハ多々アルノデアリマシテ、多年ノ懸案ニナツテ居リマスルトコロノ選舉權ノ擴張ノ問題ト云ヒ、又大選舉區、小選舉區ノ争ト云ヒ、選舉取締ノ改善ト云ヒ、又人口ノ増員ニ付トコロノ議員ノ配當方法ト云ヒ、其他重大ナルトコロノ改正ヲ試ムベキモノガ前途ニ横ツテ居ルノデアリマス、是ハ早晚解決ヲ告ゲヌケレバナラヌコトデアラウト思ヒマス、是等ノ重要ナル問題ニ付テハ、是ハ宜シク政府ハ徐々ニ調査研究ヲ重ネラレテ、サウシテ一大成案ヲ作ツテ提案サレルノガ當然デアラウト思フノデアリマス、サリナガラ本案ノ如キハ此重大ナルトコロノ調査研究ヲ要スルトコロノ問題トハ、全く別物デアリマス、性質ニ於テモマルデ違フノデアリマス、又此性質ノ違フテ居ル關係ノナイトコロノモノヲ、強テ政府ノ調査研究サレルトコロノ案ニ結び著ケテ、サウシテ是非道連ニシテ行カヌケレバナラヌト云フヤウナコトニ、政府ノ方デハサレル結果ト致シマシテ、常ニ此御親切ガ剩ツテ却ツテ此案ヲ不成立ニ終ラシムルヤウナ風ノコトニナルト思フノデアリマス、現ニ二十八回議會ニ於キマシテ、政府ハ一大成案ヲ得ラレマシテ、其一部分ニ此案ヲ加ヘマシテ、サウシテ此議場ニ出マシタ、此議場ハ通過致シマシテ貴族院ニ廻リマシタトコロガ、衆議院ニ於キマシテモ此案ニ付テハ少シモ異議ハナカッタニ拘ラズ、大選舉區小選舉區ト云フ其問題ニ於キマシテ、本院ト意見ヲ異ニシマシテ、常ニ共倒レニナツテシマッタノデアリマス、若シ今日カラ見マスルト、若シモ二十九議會若クハ其後ノ議會ニ於キマシテ、單獨ニ此案ダケヲ政府ガ誠意ヲ以テカラニ成立セシメルコトニ盡力セラレタナラバ、解散後ノ昨年ノ議會ニ於キマシテハ、此郡部ヨリ致シマシテ十數名ノ代議士ガ選舉セラレマシテ、今日ハ此議場ニ列席シ互ニ國事ヲ議スルト云フ結果ヲ見タノデアラウト思ヒマス、サウ云フヤウナ譯デアリマスルガ、遂ニ其結果ヲ見ルコトガ出來ズニシマッタノハ、全く政府ノ方デ以テカラニ、此院ヲ通過シテモ貴族院ノ方デ成ベク不成立ニ終ラシテ、サウシテ御自分ノ案ニ加ヘテイツカハ出サウト斯ウ云フ御考ガアルカラ、斯ノ如キ不幸ヲ見ルヤウナ結果ニ終ッタノデアラウト思ヒマス、ソレデアリマスカラ政府ニ於キマシテモ是非此案ヲ單



獨ニ成立セシムルコトニ御盡力アラムコトヲ希望スルノデアリマス、是ガ私ノ希望ノ趣意デアリマスガ、チヨット之ニ附加ヘテ尙申上ゲタイノハ、選舉法ト云フモノハ憲法ノ附屬法律デアルカラシテ、輕シク改正ヲ試ミテハナラヌト云フコトヲ能ク聞クノデアリマス、又一部ノ改正ナド、云フコトヲシテハナラヌト云フヤウナコトヲ聞クノデアリマス、是ハ萬吾ニ於テモ承知ノコトデアリマスガ、併ナガラ社會ノ進運ニ伴フテ必要已ムヲ得ザルトコロノモノト云フハ速カニ改正スルノガ當然デアル、其一部分デアリマセウガ、全體ニ互ラウガ、サウ云フコトハ問フトコロデハナイノデ、其必要ニ迫ラレタトコロノ部分ニ對シテハ、イツ何時デモ改正スルノガ、寧ロ是ハ正當ノコトデアラウト思フ、此趣意ニ付テハ政府モ蓋シ所感ヲ一ニシテ居ラル、コトデアラウト思ヒマス、現ニ數日前ニ此議場ニ出サレマシタトコロノ、彼ノ守衛長ヲ奏任官ニスル爲ニ議院法ノ修正案ヲ御出シニナッタ、即チ是ガ何ヨリノ證據デアリマス、同ジクヤハリ憲法附屬ノ法律デアルトコロノ議院法ノ極ク一部分即チ守衛長ヲ奏任トスルト云フコトヲ出サレタ、之ニ對シテ高木益太郎君カラ質問ヲ頗ル詳細ニ述べラレテ、是ハ守衛長パカリデナイ、古イ時分ニ出來タトコロノ此議院法ヲ、今日ノ場合ニ當符メルニハ多大ノ改正ヲスル必要ガアルト云フコトヲ、詳細ニ論ゼラレテ質問ヲセラレマシタトコロガ、政府委員ガ之ニ對シテ、是ハ尙改正スルトコロノ重大ナルコトガアルダラウケレドモ、此重大ナルコトニ付テハ政府ハ研究調査シツ、アルノデアルガ、守衛長ヲ奏任ニスルト云フコトハ、目下ノ必要ニ迫ラレテ居ルカラシテ、此一部分ケハ是非改正シタイト斯ウ云フ御答辯デアリマシタ、私ハ高木君ノ詳細ナル御質問ニ對シテ頗ル感服シテ聽イテ居リマシタガ、政府委員ノ御答辯ヲ聽キマシテ是亦感服シタノデアリマス、ソレハ必要ニ應ジテハイツ何時デモ改正スルガ、如何ニ一部分デモ當然ノコトデアルト思ヒマス、サウ致シマスレバ同ジク憲法附屬ノ議院法ノ一部ノ改正ヲ御出シニナツテ居ル、又ソレニ對シテ唯今申上ゲルヤウナ答辯ヲ爲サツテ居ルト云フ以上ハ、等シク又一部ノ改正タルトコロノ憲法附屬ノ選舉法ノ修正案ニ對シテモ、彼ニ厚ク此レニ薄イト云フコトハナイ、政府ニ於キマシテハ兩方共ニ其主義ニ於テ御贊成デアル以上ハ、兩方共其成立ヲ希望サレルノガ當然ノコトデアルト思ヒマス、政府ノ御出シニナルトコロノ法案ニ致シマシテモ、議員ガ提出スルトコロノ法案ニシマシテモ、等シク是ガ兩院ヲ通過致シマシテ上奏裁可ヲ經テ公布サレル曉ニハ、均シク是ハ國家ノ法律トシテ遵奉ノ義務ヲ有スルモノ

デアリマス、彼此別ニ茲ニ違フトコロハナイノデアリマス、ソレ故ニ政府ニ於テハヤハリ此選舉法ト云フモノガ、本院ヲ通過致シマシテ貴族院ニ是ガ迴ツタ曉ニ於テモ、ヤハリ彼ノ憲法附屬ノ、法律タルトコロノ議院法ヲ通過セルニ就テ熱心ナルガ如クニ、此ノ案ノ貴族院ニ於テモ通過スルヤウニ十分ニ御盡力ニナツテ戴キタイト云フコトヲ私ハ希望スルノデアル、チヨット是ダケ……

別ニ討論ナク院議第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第三讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通修正議決ヲ爲シ即日貴族院ニ送付シタルモ同院ノ議決ヲ經ルニ至ラサリキ

一六 衆議院議員選舉法中改正法律案

衆議院議員選舉法中左ノ通改正ス

第八條第一號中「年齡滿二十五年以上ノ者」ヲ「年齡滿二十年以上ノ者」ニ改ム

同條第三號中「選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上土地租十圓以上又ハ滿二年以上土地租以外ノ直接國稅十圓以上若ハ地租ト其ノ他ノ直接國稅トヲ通シテ十圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者」ヲ「選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上直接國稅五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者」ニ改ム

同條第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

四 府縣立師範學校、中學校若ハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校又ハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學、政治學、理財學ヲ教授スル私立學校ヲ卒業セル者

第十條中「年齡滿三十年以上ノ者」ヲ「年齡滿二十五年以上ノ者」ニ改ム







第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議及表決 第四項 法律案

|     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 盛岡市 | 巖手縣 | 福島縣 | 若松市 | 福島縣 | 松本市 | 長野縣 | 長野縣 | 岐阜縣 | 岐阜縣 | 濱松市 | 靜岡縣 | 靜岡縣 |
| 市   | 縣   | 縣   | 市   | 縣   | 市   | 縣   | 縣   | 市   | 市   | 市   | 市   | 市   |
| 一人  | 九人  | 一人  | 一人  | 十人  | 一人  | 一人  | 八人  | 一人  | 一人  | 十人  | 一人  | 一人  |

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議及表決 第四項 法律案

|     |     |      |     |    |       |      |    |     |    |      |     |    |     |     |     |     |     |
|-----|-----|------|-----|----|-------|------|----|-----|----|------|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 郡   | 豐橋市 | 名古屋市 | 愛知縣 | 郡  | 宇治山田市 | 四日市市 | 津市 | 三重縣 | 郡  | 宇都宮市 | 栃木縣 | 郡  | 高崎縣 | 前橋市 | 群馬縣 | 埼玉縣 | 埼玉縣 |
| 部   | 市   | 市    | 市   | 部  | 市     | 市    | 市  | 市   | 部  | 市    | 縣   | 部  | 市   | 市   | 縣   | 縣   | 縣   |
| 十一人 | 一人  | 三人   | 三人  | 七人 | 一人    | 一人   | 一人 | 一人  | 七人 | 一人   | 七人  | 一人 | 一人  | 一人  | 十一人 | 十人  | 十人  |



第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議及表決 第四項 法律案

|     |     |     |      |    |    |      |      |    |     |     |    |     |     |    |     |     |
|-----|-----|-----|------|----|----|------|------|----|-----|-----|----|-----|-----|----|-----|-----|
| 小樽區 | 函館區 | 札幌區 | 北海道廳 | 大島 | 郡部 | 鹿兒島市 | 鹿兒島縣 | 郡部 | 熊本縣 | 熊本縣 | 郡部 | 大分縣 | 大分縣 | 郡部 | 若松市 | 小倉市 |
| 一人  | 一人  | 一人  | 一人   | 一人 | 八人 | 一人   | 九人   | 一人 | 一人  | 六人  | 一人 | 十二人 | 一人  | 一人 | 一人  | 一人  |

|     |      |     |     |     |     |     |    |     |     |     |    |     |     |     |    |
|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|----|
| 門司市 | 久留米市 | 福岡縣 | 福岡縣 | 松山縣 | 愛媛縣 | 郡部  | 吳市 | 尾道市 | 廣島縣 | 廣島縣 | 郡部 | 青森縣 | 弘前市 | 青森縣 | 郡部 |
| 一人  | 一人   | 一人  | 八人  | 一人  | 一人  | 十一人 | 一人 | 一人  | 五人  | 一人  | 一人 | 一人  | 一人  | 一人  | 六人 |



|                                   |    |
|-----------------------------------|----|
| 旭川區                               | 一人 |
| 札幌、留萌、宗谷、<br>上川、空知、室蘭、<br>浦河各支廳管内 | 六人 |
| 函館、檜山、後志<br>各支廳管内                 | 三人 |
| 根室、釧路、河西、<br>網走各支廳管内              | 一人 |
| (根室支廳管内千島ニ屬スル諸郡ヲ除ク)               |    |
| 沖繩縣                               |    |
| 那覇區                               | 一人 |
| 郡 首里區トモ                           | 三人 |

五年一月二十五日高木益太郎君外一名之ヲ提出ス 同月二十九日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(相島勘次郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ヨリ本案提出ノ理由ヲ説明致シマスル、此議案ハ今年初メテ出タノデアリマセヌノデ、數回此議場ニ説明ヲ申上ゲルノデアリマスルガ、何時デモ此議案ノ重大デアルニ拘ハラズ日程ニ上ル時分ニハ必ズ其日ノ最後ノ案トシテ所謂打出シ案ニ必ズ出タノデアリマスルガ、今回ニ限ッテ政府案ノ一讀

會——委員長報告ノアル議案ノ後ニ第一ニ上程サレタト云フコトハ、私ハ洵ニ從來ノ議長ニ類ノ無イヤリ方デアッテ、此點ニ於キマシテハ私ハ現議長ガ如何ニ斯ウ云フ問題ニ就テ、御熱心且進歩サレタ御方デアアルカト云フコトヲ感謝モ致シマスルシ、又之ヲ諸君ノ前ニ聲明モシテ見タイト思フノデアリマスル、吾々共ハ毎度申シマスル通り、斯ウ云フ風ナ制限選舉法ノ議案ヲ出シマスケレドモ、吾々ノ理想ヲ申シマスレバ、吾々ハ普通選舉ノ考ヲ持ッテ居ルノデアリマス、吾々ノ理想ハ普通選舉デアリマス、普通選舉ノ此學理的議論ニ付キマシテハ、今私ガ説明スル必要モアリマセヌケレドモ、要スルニ普通選舉ト云フモノニ依ラナケレバ、今日ノヤウナ此階級政治ヲ打破スルコトハドウシテモ出來マセヌ又普通選舉ニ於テ非常ニ澤山ニ選舉權ヲ有スル者ガ出來タナラバ、今日ノヤウナ忌ハシイ所謂買収ト云フヤウナコトハ、必ラズ行ハレルコトガ出來ナクナルダラウト私ハ思ヒマスル、又政治思想ヲ周ク普及サセルト云フコトハ、丁度吾々國民ガ所謂皆兵主義ニ依テ、如何ナル平民ノ子デモ、必ズ兵ニ出テ生命ヲ國家ノ爲ニ捧ゲルト云フ此制度ガ出來タコトニ依ッテ、吾々ノ愛國心ガ遺憾ナク發揮サレタル如ク、苟モ國ノ御厄介ニナッテ居ルトカ、或ハ法律規則ニ依テ、或缺點ノアルモノデナイ丁年以上ノ男子ガ選舉權ヲ持ツト云フコトハ、必ズ此政治的ニ於テ吾々ノ愛國心ト云フモノヲ必ズ遺憾ナク發揮セシムルトコロノ最良手段デアリマシテ、此普通選舉ノ理法ニ依テ非常ニ澤山ノ人ニ選舉權ヲ與ヘルト云フコトデナケレバ、本當ノ愛國心ノ發揮ト云フコトハ私ハ見ラレナイト思ッテ居リマス、斯ウ云フ理由カラ致シマシテ、私共ハ普通選舉ヲ主張スルノデアリマスケレドモ、併ナガラ今直ニサウ云フコトヲ申シマシテハ、必ズ贊成ヲ得ナイコトト思ヒマスカラシテ、私共ハ漸進主義ヲ執リマシテ、段々ニ改革ヲシテ行キタイト思フノデアリマス、元來此普通選舉ト云フコトハ二十七議會、此時ニ衆議院ヲ通過シテ居ルノデアアル、サウシテ之ヲ貴族院ニ持ッテ參リマスト云フト、當時ノ貴族院ニ於テ穂積八束先生デアリマシタラウト私ハ考ヘテ居ル、此人ガ非常ニ此普通選舉ト云フコトヲ厭ガリマシテ、將來斯ノ如キ議案ト云フモノハ決シテ貴族院ノ門戸ヲ入レテハナラヌト云フヤウナコトヲ論斷ヲシタノデアリマシタ、是ニ於テ吾々ハ第三十議會、此時分ニ此議案ヲ出シタ時分ニ、當時吾々ノ同黨員デアリマシタ今日ノ司法省副參政官關和知君ガ、此壇ニ立チマシテ、濃厚ナル關和知君ガ其時ドウ云フ言葉ヲ用キタカト云フト、關和知君ハ平素ニ於テハ濃厚ナル長者デアアルケレドモ、此選舉權ニ付テ普通



選舉ガ貴族院ニ於テ破ラレタト云フコトハ、所謂謹厚ナル者尙スノ如キカノ慨ヲ以テ、關君ハ斯ウ云フコトヲ言ッテ居ル、一種ノ固陋ナル閥族政治家、官僚政治家、而シテ曲學阿世ノ學者ニ於テ云々ト云サレタト云フコトヲ非常ニ憤慨サレタノデアリマス、ソレカラ又一般ノ人モ普通選舉ガ貴族院ニ於テ拒絕ルノデアアル、ナゼ之ヲ厭ガルカト云フト、是ハ佛國革命ノ時分カラシテ、斯ウ云フ議論ガ湧イテ居タカラシテ、此普通選舉ヲヤレバ必ズ何か危険思想デモ起ルカノヤウニ、大層之ヲ驚クノデアアルケレドモ、今ノ學者ハ普通選舉ト云フモノハ、危険思想ヲ防グ所ノ安全瓣デアルトシテ學者ハ認メテ居ルノデアアリマシテ、今日デハ少シモ危険ナコトモ何デモナイノデアリマス、此普通選舉ト云フコトニ付テハ誰デモ恐レテ居リマシテ、大隈伯ノヤウナ實ニ此大膽ニ物ヲ放言スル所ノ方デモ、此ノ普通選舉ト云フコトダケハ大層驚イテ居ッテ、雜誌記者ナドガ訪ネテ行クト云フト、選舉法ノ改正モ宜シイケレドモ、普通選舉ト云フコトダケハ、説クナヨト云フコトヲ能ク演説シテ居ルト云フコトヲ吾々ガ聽イテ居ル大隈伯ニシテ尙スクノ如シ、況ンヤ此頑冥不靈ナル人達ガ、普通選舉ヲ厭ガルコトハ殆ド想像スルニ餘リアルノデアリマス、併ナガラ普通選舉ト云フコトハサウ怖イモノデハナイ、所謂危険思想ノ安全瓣デアアル「ビスマーク」ノヤウナ所謂鐵血宰相デアッタケレドモ、アノ人ハ死ヌマデモ選舉ト云フモノハ、普通選舉デナケレバイカヌト云フコトヲ言ッテ居ッタノデアリマス、殊ニ普通選舉ガ怖クナイト云フコトハ、日本ハ一院ノ國デハナイ上下兩院ガアル、貴族院ト云フモノガ一ツ此衆議院ニ對立ヲ致シテガ直ニ國ノ法律トナッテ行ハレルノデハゴザイマセヌ、貴族院ト云フモノガ一ツ此衆議院ニ對立ヲ致シテ儼然トシテ立ッテ居ッテ、サウシテ衆議院ノ議論デモ是ハ穩當デナイトカ、或ハ自分達ノ議論ニ合ハナイイモノハ修正モスルシ、反對モスルノデアアルカラ、決シテ此衆議院ノ議論ガ直ニ法律トナルノデハゴザイマセヌ、ソレ故ニ一方ニ於テハ成ベク廣ク選舉權ヲ與ヘテ、サウシテ衆議院ト云フモノハ全ク民論ノ府ト致シテ置イテモ少シモ差支ハナイ、若モ是ガ日本ノヤウデナク、貴族院ト云フモノノ權力ガ洵ニ強イトコロノ英國デアルトカ云フノナラバ、普通選舉ハ非常ニ危険デアルカモ知レマセヌケレドモ、日本ノ様ニ貴族院モアリ又樞密院モアッテ、此國論ヲ矯正シテ行ク所ノ國ニ於テハ、決シテ普通選舉ハ怖イコトハナイノデアリマス、現ニ今日ニ於テモ還元問題、斯ウ云フコトニ付マシテハ此衆議院ト云フ

モノガ手モナク通過シテ居ルノデアアルケレドモ、貴族院ニ於テハドウデアリマスカ、今ヤ内閣ハ此問題ノ爲ニ瓦解スルカモ知レナイト言ハレテ居ルデハアリマセヌカ、サウ云フ風ニ貴族院ト云フモノガアリマシテ、民論ガ直ニ行ハル、コトガ出來ナイヤウニナッテ居ル國ニアッテハ却テ選舉權ハ普通選舉ニシテ方ガ利益ガアルノデアアル、又選舉權ヲ持ッテ居ル人ガ非常ニ少ナイ爲ニ、イロ／＼ノコトガ起ッタ例シハ澤山ニアル、現ニ丸龜市ノ如キハ人口ハ三萬以上今日ハ無イノデアアル、二萬六千幾ラ外ナイノデアアル、サウ云フ風ニ人口モ少ナイ選舉權モ少ナイカラシテ今回ノ議員買収デアルトカ、選舉干渉デアルトカ云フ、其根本ガアノ丸龜市ノヤウナ處カラ胚胎シタコトハ何デアアルカト言ヘバ、是ハ選舉權ノ少ナイ爲ニ、斯ウ云フコトガ出來タノデアリマス、若モ有權者ガ多數デアッタナラバ、恐ラクハ斯ウ云フ忌ハシイ憲政上ニ汚點ヲ打ツヤウナ問題ハ起ラナカッタト私ハ思ヒマス、サウ云フ關係カラシテ私共ハ普通選舉ヲ主張スル者デアリマス、其事ヲ私ハ此演壇ニ於テ斷言致シマスケレドモ、私共ノ今回出シタノハサウ云フ理論ヲ其儘ニ用キヤウトスルノデアリマセヌ、漸進主義ヲ執ッテ居ル、唯年齡ヲ今日ノ年齡ヨリハ若クスル、或ハ財産ノ制限ヲ低下シテ今日ハ十圓トアルモノヲ直接國稅五圓ニ改メル、又知識階級ヲ加ヘルト云フコトノ此三點ガ私共ノ出シマシタ議案ノ主ナル點デゴザリマス、選舉權ヲ擴張スルト云フコトニ付テハ、イロ／＼説ヲ爲ス者ガアリマスケレドモ、大隈伯ハ嘗テ或ル雜誌記者ニ談ッテ、斯ウ云フコトヲ仰シヤッテ居リマス、與ヘナクテナラヌモノハ何トシテモ與ヘナケレバナラヌノデアアル、弊害ヲ除ク方法ナドハ其上デ講ズレバ澤山デアルト、斯ウ云フノデアアル、與ヘナクテナラナイモノハドウセ與ヘナクテナラヌノデアアルカラシテ、與ヘルダケハ與ヘテ置イテサウシテ、其處ニ弊害ガアルナラバ、弊害ハ後デサウ云フ弊害ヲ防グ方法ヲ講ズレバソレデ宜シイノデアアッテサウ云フコトニ愚圖々々シテ居ッテハナラヌト仰シヤッテ居リマス、是ハ實ニ名論デアリマスソレデアアルカラ伯ノ内閣ハ、内閣組織ニ當リマシテ政綱ニモ選舉權擴張、選舉界ノ廓清ト云フヤウナコトヲ宣言サレタノデゴザイマセウ、然ルニデス——然ルニ大隈伯ノ内閣ガ斯ウ云フコトヲ仰シヤッテ、ソレカラ斯ウ云フ政綱ヲ發表シタ所ノ大隈内閣ガ今日ニ至ッテ選舉法ノ調査委員會ヲ開クト云フヤウナコトハ何デアアルカ、調査モ何ニモ要ラナイ、與ヘルモノハ與ヘナケレバナラヌト云フコトハ伯爵ガ常ニ言ッテ居ル言葉デアアル、然ルニ今ニナッテ調査會ヲ開イテ、サウシテ其調査ノ結果ニ待ッテ擴張



ヲスルナント云フコトハ何タルコトデアリマスカ、私ハ其無責任ヲ憤リ且ツ笑ハザルヲ得ナイノデアリマス、諸君モ御存知ノ通り今日ハ何處ノ國ニ參リマシテモ、選舉權ヲ擴張スルトカシナイトカ云フ、サウ云フ馬鹿ナコトハ議論シテ居ル國ハ一國モゴザリマセヌ、今日デハ普通選舉ノ結果ニ依テ、其結果ヲ如何ニ能ク收メルカ、民論ヲ如何ニ代表セシメルカト云フコトニ就テハ議論ハアリマスケレドモ擴張シロトカシナイトカ云フサウ云フ、時勢後レノ議論ヲシテ居ル國ハ一國モゴザリマセヌ、是ハ日本限リ獨特專賣デアリマス、私共ハサウ云フ後レ切ッタコトヲシテ居ル譯ニハ往キマセヌ、一日モ早ク此擴張ヲ圖ラナケレバナライ、ソレカラ又毎度申スコトデアリマスルガ、英國デハ百人ノ中デ十人ナニガシノ議員ヲ出シテ居ル、佛蘭西デハ百人ニ付テ二十七人出シテ居ル、獨逸デサヘモ百人ニ付テ二十二人以上出シテ居ル、日本ハドウデアルカ、百人ニ付テ二人ナニガシト云フ比例ニナッテ居ルデアアル、是レデハ代議政體ヲ布イテモ全ク唯階級ノ——或ル階級ノ人ノ政治デアッテ是ハ日本ノ政治トハ殆ド言ハレナイト言ッテモ宜イノデアリマスル、又私共ハ十圓ノ制限ヲ五圓ニ下ゲヤウトスルノデアリマスルガ、是ハ丁度十二議會ノ……簡單ヲ希望スル方ハ聽カズニ議場ヲ出テ行ケバ宜イノデス、是ハ重大ナル議案デアリマス、決シテ唯一局部ノ利害若クハ其時限リノ問題デハナイ、凡ソ立憲國トシテ是ダケ重大ナル問題ハアリマセヌ、今日國民ノ要求ハ何ガ一番切實デアアルカト云ヘバ選舉權ノ要求デアアル、吾々ハ之ヲ代表シテ居ルノデアリマス、此重大ナル議案ヲ議スルニ當ッテ簡單ニシロトカ何トカ云フナラバサウ云フ方ハオトナシク此議場ヲ去ルコトガ宜シイト私ハ思ヒマス、ソレカラ此五圓ニ下ゲタト云フコトニ就テハ伊藤内閣ノ時分ニモ、所謂十二議會ノ時分ニ出シタ時モ、地租ハ五圓、營業稅所得稅ハ三圓トナッテ居リマス、其後十三議會十四議會ニ於テ山縣内閣ニ於テモ此現行法律ヲ出シタ時分ニモ五圓トナッテ居ッタ、ケレドモ、貴族院ノ反對ガアリマシタカラシテ、時ノ内閣ハ之ヲ容レテ十圓ニシタノデアリマシテ、此五圓說ト云フモノハ必ズシモ今私共ガ新ニ發明シタノデハナイ、長イ歴史ノアルモノデアリマスカラ、此五圓ト云フコトニシタノデアリマス、ソレカラ私共ガ第一ニ主張スルノハ智識階級ヲ有權者ニ入レルト云フコトデアリマシタ、智識階級ニハ財産上ノ規定ナシト雖モ選舉權ヲ與ヘルト云フコトニ付キマシテハ隨分議論ガゴザリマス、議論ガアリマシテモ私共ハ之ニ付テハ非常ナル熱心ヲ持ッテ居リマス、若シ今日此智識階級、所謂中等教育ヲ受ケタル人ニ

選舉權ヲ與ヘテ、ソレデモ尙且此日本ノ代議政體ト云フモノハ今日ノ如ク腐敗シ、今日ノ如ク不進歩デアアルナラバ、日本ハモウソレデハイケナイノデアリマス、モウ日本ガ本統ニ發達スルカシナイカモ之ニ由ッテ極ルノデアリマス、若シ本統ニ健全ナル智識階級ノ人達ニ選舉權ヲ與ヘテ、ソレデモ——ソレデモ何デモ此選舉ト云フモノハ今日ノヤウニ腐敗ヲシテ居ル、今日ノヤウニ買收ガ行ハレルト云フコトデアッテハモウ日本ノ國ハ何トカシナケレバナラヌノデアリマス、ソレ故ニ何ト云フ理窟ガアリマシテモ、此智識階級ニ選舉權ヲ與ヘルト云フコトハ、之ヲシテ見ナケレバ本統ニ日本ノ國ト云フモノハ、駭々トシテ發達スベキモノデアアルカ、代議政體ト云フモノハ日本ノ國ニハ不適當ナルモノデアアルカ、實ニ是レハサウ云フコトノ岐レ目デアッテ、重大ナル事デアリマス、私共ハドウシテモ此智識階級ヲ今日ノ有權者ノ中ニ加ヘタイノデアアル、丁度是ハ酒ガ腐レカカッテ居ル中ヘ「サルチル」酸ヲ打込マウトスルノデアリマシテ「サルチル」酸ヲ打込デモ尙且酒ガ腐ルト云フコトデアレバモウドウシテモ仕方ガナイ、飲ムコトガ出來ナイノデアリマスカラ、私共ハ此「サルチル」酸ヲ打込ムト云フコトニ就テ熱心ヲ持ツモノデアリマス、此智識階級ニ選舉權ヲ與ヘテアッタナラバ、假令今回ノ如キ選舉干渉ガゴザリマシテモ、アノ前橋市ニ行ハレタト云フ様ナ有權者ノ數ヨリモ運動者ノ數ガ多カッタト云フヤウナ馬鹿ナ事ガ行ハレル譯ハナイノデマス、又金澤市ニ行ハレタヤウニ規則ニハチヤント西ノ内「ホドムラ」ト明カニ書イテアルノニ、ソレガ裁判沙汰ニナッテサウシテアレハ、類例ヲ示シタモノデアアルト云フヤウナ馬鹿ナ裁判ガ起ル譯ハナイノデアアル、斯ウ云フ風ニ吾々ガ聞クモ忌ハシキ法律ヲ曲解スルトカ、實ニ此士君子トシテ爲スベカラザルヤウナコトガ往々ニシテ行ハレルト云フコトモ、是ハ智識階級ニ選舉權ガ分タレテ居ラナイカラシテ、日本ノ國論ガ本統ニ立派ニ映ッテ來ナイノデアアル、或ル特定ノ人ガ持ッテ居ッテ、サウシテソレ等ノ人ト云フモノハ、毎年々々ノ選舉ニ慣レテ居ッテ選舉ニ於テ腐敗ヲスルト云フコトハ、少シモ彼等ハ何トモ思ッテ居ラヌノデアアル、然ルヲ今ノ選舉界ハドウデアアルカト云フト、此民法上ノ隱居ヲスルト云フコトハ非常ニムヅカシクナッテ居ルヤウナ結果トシテ、實際家ノ身代ト云フモノハ、若旦那ガシテ居ルノデアアルケレドモ、此隱居ヲシナイ——隱居ヲナイ爲ニ選舉ノ時ダケハ此老人先生ガ出テ來ルノデアアル、此老人先生ハ新知識ガアルモノデアリマセヌ、又相續稅ノ關係デ子供ニ世ヲ渡セバ稅ヲ納メナケレバナラヌト云フヤウナコトデ、若イ人ガ本



統ニ實際ノ實務ハシテ居ルノデアリマスケレドモ、其人ニ世ヲ渡サナイカラシテ、イツデモ選舉ト云フ時分ニ必ズ爺サンガ出テ來テ選舉ヲスルト云フヤウナ結果トシテ、本統ノ選舉ガ行ハレナイノデゴザイマス、ソレカラ若イ知識アル人、智識ハ駁々トシテ進ンデ居ルノデアリマスガ、此智識アル人ニ選舉權ヲ與ヘナイト云フト、其結果ハ實ニ恐ルベキモノガゴザイマス、ツマリ大隈伯ナドバ實ニ大言壯語ヲナサル政治家デゴザイマスガ、此人ハ初メカラ選舉權ハ無イノデアアル、選舉權ガ無クテサウシテ政治ヲ長イ間ヤッタカラアンナ方ニナッタノデアアル、選舉權ハ無イ人デアッテ、智識ノアル程危險ナコトハアリマセス、ドウシテモ智識アル人ニ選舉權ヲ與ヘルヤウニシナケレバ、本統ノ政治ハ行ハレテ來ナイノデアリマス、或ハ此大選舉區ハドウデアルトカ、小選舉區ガドウガアルトカ、或ハ投票取縮ノ方法ガドウデアルトカ云フヤウナ議論モゴザイマスガ、併ナガラサウ云フコトハ後日ノ問題デアル、先以テ一般ノ此位ノ程度ニマデ知識階級ヲ第一トシテ、直接國稅ナラバ五圓、年齢ナラバ今日ノ二十五歳ヲ二十歳、若イ人ニ權利ヲ與ヘテ誰モ彼モ此選舉權ヲ持チ、恰モ誰モ彼モ丁年ノ男子ガ國ノタメ兵隊ニ出ルト云フヤウナコトニシタナラバ、必ズ此責任ヲ誰モ感ズルノデアアル、政治ハ或ル某ガヤッテ居テ、吾々國民ハ相關セズト云フ氣風ノアルノハ何ノタメカト言ヘバ、之ヲ今日最モ進歩シタル智識階級ニ向ッテ選舉權ヲ與ヘナイタメデアルト吾々ハ斷言スルノデアリマス、ソレ故ニ此事ダケハドウシテモヤッテ見タイ、政府ガ唯今モ申ス通り或ハ調査ヲスルトカ何トカ言フケレドモ、イロ／＼ノ考ヲ持ッタ人ヲ集メテ調査シタトコロデ、其調査ト云フモノハ丁度米價調節カ何カヲヤッテ居ルト同ジニ、小田原評定ヲスルニハ宜カラウケレドモ、本統ノ結果ハ得ラレルモノデハゴザイセス、ソレ故ニ私ハ此内閣ガ嘗テ宣言シタコトモアリスシ、又大隈伯ガ平素選舉權ノ擴張、選舉ノ廓清ニ付テ熱心ナル方デアリマスカラ、セメテ此内閣ニ於テ是ダケノ事デモナスッタナラ、或ハ今ヤ將ニ瓦解セントシテモ此ニ一ノ事業ガ殘ルデハナイカト親切ニ考ヘルノデアリマス、サウ云フ結果カラ致シマシテ、私ハ私共ノ案ノ中デ惡イ所ガゴザイマシタナラバ、多少修正ヲナサルナリドウナリナサレマシテモ、先以テ此若イ智識階級ノ人ニ選舉權ヲ與ヘルト云フ大體ノ方針ダケハ、諸君ノ御賛成ヲ得テ、是非此議會ニ於テ之ヲ通過シタイト熱心ニ考ヘテ居ルノデアリマス、或ハ此問題ガ黨派ニ超越シテ居ルトコロノ問題ナルニ拘ラス、私ノ熱心ノ餘リニ或ハ自然ツマラヌコトヲ申シタカモ知レマセヌ、併シナガラサウ云フコトハ

告ヲ經ルニ至ラサリキ  
 次テ本案ハ小泉又次郎君外十五名提出同案ノ委員ニ併セ付託スルニ決ス委員ハ審査ニ著手シタルモ報

一七 齒科醫師法中改正法律案

齒科醫師法中左ノ通改正ス

第一條第一號中「齒科醫學學校」ヲ「齒科醫學專門學校」ニ改ム  
 同條ニ左ノ二號ヲ加フ

- 四 醫師ニシテ齒科醫師試驗規則第二條中齒科治術學、齒科技工學及實地試驗ニ合格シタル者
- 五 醫師ニシテ齒科學講座ヲ有スル帝國大學醫科大學又ハ文部大臣ノ指定シタル齒科醫學專門學校ニ於テ二箇年間齒科學ヲ專攻シタル證明ヲ有スル者

第十一條ニ左ノ一項ヲ加フ  
 醫師ニシテ齒科醫業中技工ニ屬スル行爲ヲ爲シタル者又ハ齒科專門ヲ標榜シタル者亦前項ニ同シ

附 則  
 本法ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス



五年一月二十五日綾部惣兵衛君外七名之ヲ提出ス同月二十九日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(綾部惣兵衛君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ハ提出者ノ一人ト致シマシテ、齒科醫師法中改正案提出ノ理由ヲ簡單ニ説明致シマス、本案ハ曩キニ三十五議會ニ於キマシテ、清水市太郎君及根本正君ヨリ御提出ニ相成リマシテ、一讀會ヲ通過致シテ委員會ニ附議セラレマシテ、委員會ニ於テ可決致シタ問題デアリマス、當時議會ガ解散セラレマシタ爲ニ不幸ニシテ其目的ヲ達スルコトヲ得ナカッタノデアリマス、此度再ビ根本君、清水君、其他ノ諸君ト再ビ此議場ニ本案ヲ提出シタ次第デアリマス、本案ノ要點ハ、齒科醫師法ノ第一條ヲ改正シヤウト云フノガ本案ノ趣意デアリマス、齒科醫師法ノ第一條ハ、齒科醫師ノ資格ヲ定メタ箇條デアリマシテ、第一條ニ齒科醫師トナルモノニハ左ノ資格ヲ要ス云々ト云フコトガ規定シテアリマシテ、齒科醫師ニナリマスノニハ、文部大臣ノ認可シタルトコロノ齒科醫學專門學校ヲ卒業シタル者又齒科醫師試驗ニ及第シタル者、三ニハ外國ノ齒科醫學學校ヲ卒業シ、若クハ齒科醫師ノ免許ヲ得タル者ニシテ、命令ニ背カザルモノニ齒科醫師ヲ許スト云フコトガ規定サレテ居ルノデアリマス、此度提出致シマシタ改正案ハ、此外ニ四、五ノ二項ヲ加ヘタノデアリマス、其二項ト申スハ、四ニ於キマシテハ、四醫師ニシテ齒科醫師試驗規則第二條中齒科治術學、齒科技工學及實地試驗ニ合格シタル者、五、醫師ニシテ齒科醫學講座ヲ有スル帝國大學醫科大學又ハ文部大臣ノ指定シタル齒科醫學專門學校ニ於テ二箇年間齒科學ヲ專攻シタル證明ヲ有スル者、此二箇條ヲ加ヘタイト云フノガ今回改正案ノ趣意デアリマス、其理由ハ齒科醫師ト云フ者ハ普通ノ醫師トハ餘程異ナッタ獨特ノ技術ヲ要スト云フコトガアルノデアリマス、故ニ政府ニ於キマシテモ會テ帝國醫科大學ノ中ニ齒科學科ヲ置キ、又醫師ヲ養成スルガ爲メニ、專門學校ヲ設立サレマシタガ齒科醫師ニモ特ニ齒科醫師專門學校ト云フモノヲ設立シテ、一般ノ醫師ト齒科醫師トハ其教育ヲ別々ニシテ居ルノミナラス、齒科醫師ト齒科醫師トハ開業ヲ致スニ付キマシテモ取締方法ガ別ニ立ッテ居ルノデアリマス、醫師ノ方ニ於キマシテハ、醫師法ト云フモノニ依リマシテ齒科醫師ヲ支配致シテ、雙方ノ權利義務ヲ明カニ區別シテアルノデアリマス、併ナガラ此齒

科醫師法ハ明治三十九年五月法律第八十四號ニ依テ出來タル所ノ法律デアリマシテ、當時マダ齒科醫師ノ幼稚ナル時代ニ於テ出來タ所ノ法律デアリマス、故ニ此現行ノ齒科醫師法ニハ、不完全ノ點ガアルノデアリマス、其不完全ノ點ト云フハ、普通醫師ト齒科醫師トノ間ガハッキリト區別ガ付イテ居ラヌガ爲メニ、普通醫師ニシテ往々齒科醫師ヲ兼ヌル者ガ近來出來テ來ルノデアリマス、近來普通ノ醫師ハ兎角齒科醫師ヲ輕視シテ居ッタノデアリマスガ、近時齒科醫方段々發達スルト同時ニ、普通醫師ノ方ニ於テモ齒科醫師ヲ兼ヌル者ガ出來テ來タノデアリマス、承ル所ニ依ルト全國デ百七八十モアルト云フコトデアリマスガ、是等ノ人々ハ然ラバ齒科ニ必要ナル所ノ治術學トカ、若クハ技術ニ關スル技工學ト云フモノヲ研究シタ人々デアアルカト云フト、全ク是等ニ付テハ研究ヲシタコトノ無イ人々ガ、普通醫師デ、齒科醫師ヲ兼ネテ居ルノデアリマス、是ハ洵ニ衛生上ニ取ッテ危險千萬ナ事デアリマス、元來齒科醫師ト云フモノハ、治術及技工ノ二ツガ齒科醫師獨得ノ科目デアリマシテ、例ヘバ治術トハ彼ノ充填ヲスル金銀、若クハ「セメント」ノヤウナモノデ齒ヲ埋メルトカ、又ハ技工ノ方ニナリマストハ齒ヲスルトカ、齒ノ折レタノヲ接グトカ、或ハ齒ニ金ヲ被セルトカ、若クハ齒並ビノ惡イノヲ直ストカ、整ヘルト云フコトハ全ク學問以外ノ獨特ノ技術デアリマス、此技術ヲ研究シナイ者ガ齒科醫師ヲ兼ヌルト云フコトハ、衛生上甚ダ憂フベキ事デアリマスニ依テ、此區域ヲ判然ト致シタイト云フノガ此改正法ノ要旨デアリマス、但シ普通一般ノ醫師ニ齒科醫師ヲ許サナイト云フノデアリマス、一般ノ醫師ガ齒科醫師ヲ兼ヌル者クハ、齒科醫師タラント欲スルナラバ、此齒科治術學及齒科技工ニ關スル實地試驗ニ及第シタル者若クハ、大學ニ在ル所ノ齒科醫師ノ講座又ハ、齒科醫師專門學校ニ於テ、二年間治術及技工ニ關スル事ヲ研究シタ證明書ヲ得タ者ニ許スト云フコトニ致シタイトデアリマス、之ヲハッキリ區域ヲ立テマセヌガ爲メ、一方ニ於テハ醫師會ガアリ一方ニ於テハ齒科醫師會ガアリマシテ、此齒科醫師會ト普通ノ醫師會トノ間ニ常ニ紛爭ヲ免レナイノハ洵ニ遺憾トスル次第デアリマス、此法律ノ缺點ヲ補ハンガ爲メ、此改正案ヲ提出シタノデアリマス、而シテ此改正案ハ各派ノ諸君ニ依テ提出セラレ、各派ノ諸君ノ多數ノ贊成ヲ得テ提出シタ案デアリマス、諸君ニ於キマシテモ願クハ政黨政派ニ關セズ、一致ノ御贊成アラントヲ希望致シマス

次テ本案ハ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ同月三十一日委員長及理事



ノ五選ヲ行ヒ審査ノ末二月七日原案ニ修正ヲ加ヘ報告書ヲ議長ニ提出セリ  
(委員會報告書)

(小字及一ハ委員會修正)

齒科醫師法中左ノ通改正ス

第一條第一號中「齒科醫學學校」ヲ「齒科醫學專門學校」ニ改ム

同條ニ左ノ二號ヲ加フ

四 醫師ニシテ齒科醫師試驗規則第二條中齒科治術學、齒科技工學及實地試驗ニ合格シタル者

五 醫師ニシテ齒科學講座ヲ有スル帝國大學醫科大學又ハ文部大臣ノ指定シタル齒科醫學專門學

校ニ於テ二箇年間齒科學ヲ專攻シタル證明ヲ有スル者

第十一條ニ左ノ一項ヲ加フ

齒科學ノ課程ヲ設ケル醫學專門學校以上ノ學校ニ於テ一年以上齒科學ヲ專攻シタル證明ヲ有セサル。  
○醫師ニシテ齒科醫學中技工ニ屬スル行為ヲ爲シタル者又ハ齒科專門ヲ標榜シタル者亦前項ニ同シ

附則

本法ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法公布前一年以上齒科專門ヲ標榜シ引續キ齒科醫學ヲ爲ス醫師ニ對シテハ第十一條第二項ノ規定ヲ適用セス

同月十日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長綾部惣兵衛君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

齒科醫師法案中改正法律案ノ委員會ノ經過及結果ヲ御報告致シマス、當委員會ハ去月三十一日ヲ以テ第一回ヲ開キマシテ、委員長理事ノ互選ヲ致シマシテ、引續イテ提案者ノ一人タル根本君ヨリ提案ノ理由ヲ詳細ニ御説明ニ相成リマシテ、尙引續イテ委員會ヲ開キマシタルコト二回、内務省ノ政府委

員及大藏省ノ政府委員、兩省ヨリ政府委員ノ出席ヲ請ヒマシテ、委員諸君ト政府委員トノ間ニ質問應答ヲ重ネタノデアリマス、屢、委員ト政府委員トノ間ニ質問應答ヲ致シマシテ、其結果遂ニ討議ニ入りマシタトキニ、津末君及根本君ヨリ原案賛成ノ御演說ガアリマシテ、其他ノ諸君ヨリモ質問的ノ御意見モアッタノデアリマス、政府委員ニ於キマシテモ此案ニ絶對ニ反對ハシテ居ラナイノデアリマシテ、案ノ形ヲ直シタナラバ同意ヲスルカノ意見ヲ政府委員ヨリ漏ラサレタノデアリマス、此ニ於キマシテ、委員長ハ委員會ニ諮ツテ懇談會ヲ開キ、而シテ懇談會ヲ重ネマシタ結果、更ニ委員會ヲ開イタノデアリマス、其委員會ニ於テ津末君ヨリ一ノ修正案ガ出タノデアリマス、其修正案ハ委員會ニ於テ全會一致ヲ以テ可決シ、又政府委員ニ於キマシテモ、内務省及文部省ノ委員兩方トモ之ニ同意ヲ表シタノデアリマス、其ノ修正案ハ原案ノ第一條ハ其儘ニシテ置キマシテ、第一條第一項中「齒科醫學學校」齒科醫學學校ニ改ム」ト云フノハ原案ノ儘ニ致シマシテ、同條ノ二號ノ「四醫師ニシテ齒科醫師試驗規則第二條中齒科治術學齒科技工學及實地試驗ニ合格シタル者、五、醫師ニシテ齒科學講座ヲ有スル帝國大學醫科大學又ハ文部大臣ノ指定シタル齒科醫學專門學校ニ於テ二箇年間齒科學ヲ專攻シタル證明ヲ有スル者」以上朗讀致シマシタ四、五ノ二號ハ委員會ニ於テ削除致シマシテ、更ニ第十一條ニ「左ノ一項ヲ加フ」ト云フ所ヲ修正シタノデアリマス、「醫師ニシテ齒科醫學中技工ニ屬スル行為ヲ爲シタル者又ハ齒科專門ヲ標榜シタル者亦前項ニ同シ」ト云フ箇條デアリマスガ、之ヲ修正致シマシテ「齒科學ノ課程ヲ設ケル醫學專門學校以上ノ學校ニ於テ一年以上齒科學ヲ專攻シタル證明ヲ有セサル醫師ニシテ齒科醫學中技工ニ屬スル行為ヲ爲シタル者又ハ齒科專門ヲ標榜シタル者亦前項ニ同シ」ト云フコトニ修正シタノデアリマス、尙アルノヲ修正案ノ方デハ「本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス」ト云フコトニ修正シタノデアリマス、尙「本法公布前一年以上齒科專門ヲ標榜シ引續キ齒科醫學ヲ爲ス醫師ニ對シテハ第十一條第二項ノ規定ヲ適用セス」ト斯様ナ修正案ガ出タノデアリマス、此本案ノ公布以前ニ齒科醫師ニ非ザルモノニシテ、普通ノ醫師ニシテ齒科醫師ヲ標榜シ、若クハ開業シテ居ル者ニ對シテハ一年以上開業シテ居ル者ニ對シテ特ニ既得權ヲ認メタノデアリマス、此修正ガ津末君カラ出マシテ、滿場一致ヲ以テ可決ニナッタノデゴザイマス、故ニ本議會ニ於キマシテモ滿場一致ノ御賛成ヲ希望スル次第デアリマス、尙此場



合ニ述ベテ置キマスコトハ、政府ニ一ノ希望ガアルノデアリマス、此法案ガ——此修正案ガ本會及貴族院ニ於テ可決ニナリマシタ以上ハ、速ニ本法公布ノ手續ヲ運バレテ、而シテ實行セラレンコトヲ特ニ政府ニ希望スル次第デアリマス、其理由ハ、唯今ノ附則ニアリマス如ク、本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行スト云フコトニ修正致シ、且ツ既得權ヲ認メテ、特ニ一年以上開業シテ居ル從來ノ醫師ニシテ、齒科醫ヲ兼ネテ居ル者ノ既得權ヲ認メテアリマスガ故ニ、此法案ガ通過致シマシタナラバ、政府ハ一日モ早ク公布ノ手續キヲ運バレンコトヲ此機會ニ於テ希望致シテ置キマス

院議異議ナク第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通修正議決ヲ爲シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ二月二十六日修正議決ヲ爲シ本院ニ回付セリ

(回付案)

(小字及——ハ貴族院修正)

齒科醫師法中左ノ通改正ス

第一條第一號中「齒科醫學專門學校」ニ改ム

第十一條ニ左ノ一項ヲ加フ

醫師ニシテ特ニ內務大臣ノ許可ヲ受ケスシテ齒科專門ヲ標榜シ又ハ齒科醫業中金屬充填、鑲嵌、義齒、齒冠鑲嵌及架工、齒列矯正並齒科學ノ課程ヲ設クル醫學專門學校以上ノ學校ニ於テ一年以上齒科學ヲ專攻シタル證明ヲ有セザル蓋補綴ノ技術ニ屬スル行爲ヲ爲シタル者亦前項ニ同シ  
ル醫師ニシテ齒科醫業中技工ニ屬スル行爲ヲ爲シタル者又ハ齒科專門ヲ標榜シタル者亦前項ニ同

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法公布前一年以上齒科專門ヲ標榜シ引續キ齒科醫業ヲ爲ス醫師ニ對シテハ第十一條第二項ノ規定ヲ適用セス

本院ハ翌二十七日回付案ヲ院議ニ付ス別ニ討論ナク院議貴族院ノ修正ニ同意スルニ決シ即日裁可ヲ奉請シ同時ニ其ノ旨ヲ貴族院ニ通知ス九月九日法律第四十四號ヲ以テ公布セラレ

一八 社寺上下戻ニ關スル法律案

- 第一條 社寺境内地ニシテ社寺上土地處分ニ依リ現ニ國有ニ屬スル土地林野ハ其ノ社寺ニ下戻スヘシ
- 第二條 本法ニ依リ下戻ノ申請ハ大正六年七月三十一日迄トス
- 第三條 此ノ申請ニ對スル處分ニ付不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 第四條 第一條ニ依リ下戻ヲ受ケタル者ハ國ノ有スル權利義務ヲ承繼ス
- 第五條 本法ニ依リ下戻ヲ受ケタル土地林野及其ノ立木竹ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ抵當權、質權ノ設定若ハ讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

附則

本法ハ大正五年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

五年一月二十五日齋藤隆夫君外四名之ヲ提出ス同月二十九日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(齋藤隆夫君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、本案ハ是マデ屢々此議場ニ現ハレマシテ、其度毎ニ全會一致ヲ以テ通過致シマシタガ、未ダ貴族



院ニ於テ審議決定セラレザル所ノ議案デアリマス、今回モ各派ノ有志諸君ト共ニ更ニ之ヲ提出シテ諸君ノ御賛成ヲ仰ギタイト思フノデアアル、而シテ此議案ニ付キマシテハ、政府當局者ノ反省ヲ促シタ  
イ事モアリマス、旁々多少ノ説明ヲ要シマス、暫クノ間御清聴ヲ煩シマス、本案ノ趣旨ハ第一條ニ明記  
シテアリマス如ク、今日社寺ノ境内ニ在ル土地ニシテ明治八年彼ノ上地處分ナルモノニ依テ政府ニ  
沒收セラレ、現ニ國有ニ屬シテ居リマスモノヲ舊トノ持主タル社寺ニ下戻スベシト云フノガ本案ノ  
趣旨デアリマス、今日我國ニ於キマシテハ七萬有餘ノ寺院ガアリマス、又十三萬有餘ノ神社ガアリマ  
ス、是等ノ社寺ノ全部トハ申シマセヌガ、其中ノ或部分ハ遠キ古ヨリ多少ノ土地ヲ所有シ、是ニ依テ其  
獨立ヲ維持シ併セテ其天職ヲ盡スガタメニ努メテ居ッタコトハ是ハ爭ナキ事實デアリマス、而シテ其  
等ノ社寺ガ其不動產ヲ獲得スルニ至リタル起源ヲ尋ネマシタナラバ、多クハ數百年長キハ一千年以  
上ノ歴史ヲ有シテ居ルノデアアル、又是等ノ不動產ヲ得ルニ至リタル原因ヲ尋ネマシタナラバ、ソレ  
ハ一様ニ非ラズシテ多様デアリマス、或ハ時ノ君主將軍若クハ領主ヨリ下付セラレタルモノモアル、或  
ハ一人ヨリ寄附セラレタルモノモアリマス、或ハ又名僧ト云ヒ、高僧ト唱ヘラル、者ガ自ラ進ンデ  
深山幽谷ヲ切り開キ其處ニ殿堂ヲ設ケテ其地ノ所有ヲ公認セラレタルモノモアリマス、或ハ寺院  
自ラ代金ヲ拂フテ買得シタモノモアリマス、其他種々ノ原因ハゴザイマスガ、何レニスルモ當時法律  
若クハ習慣ガ認メタル正當ノ手段ヲ以テ、其所有權ヲ獲得シ永キ間之ヲ保チ來ッタノデアアル、然ルトコ  
ロ明治維新ノ際彼ノ亂脈時代ニ於キマシテ、我國ヲバ吹荒シタコロノ暴風ノタメニ捲込マレテ、是  
等ノ土地ハ全ク一掃セラレテシマツテ居ルノデアリマス、即チ時ノ政府——政府ト云フヨリハ時ノ内  
務省ノ中ニ於テ僅ニ一ツノ地位ヲ占メテ居リマシタコロノ地租改正局ナルモノガ、一片ノ訓令ヲ以  
テ是等ノ土地ハ悉ク沒取シ爾來今日ニ至ルマデ國有トナツテ政府ノ管理ニ屬シ、元ノ持主タル社寺ハ全ク權利  
ヲ喪失シテ居ルト云フノガ今日ノ有様デアリマス、本員等ノ見ルトコロニ依レバ、今日我國ノ社寺、其  
社寺ノ大部分ハ頗ル窮狀ヲ呈シテ居ルノデアアル、甚シキニ至ツテハ年ト共ニ衰亡ニ向ヒツツアルモノモ  
決シテ少クハアリマセヌ、從テ我國ノ宗教界殊ニ我國固有ノ宗教界ハ萎靡トシテ振ハザルコトハ、諸君ノ  
知ラレル通りデアアル、是ハ宗教道德ノタメ延テ國家社會ノタメニ喜ブベキコトデアアルカ、又憂フベキコ  
トデアアルカ、是ハ此處ニ明言スルノ必要ヲ認メマセヌガ、何レニスルモ斯ル現象ヲ來シタル其原因ハ

何處ニアルカト言ヘバ、明治政府ガ一朝ニシテ彼等ノ財產ヲ奪ヒ、彼等ガ活動スル資源ヲ斷チタル  
コトガ其原因中ノ最モ大ナルモノデアルト本員ハ確信致シテ居リマス、固ヨリ神社其モノ、中ニ安  
置セラレテ居ルモノハ、是ハ人間デアリマセヌ、人間ヲ超越シテ居ルトコロノ神佛デアリマス、併ナ  
ガラ是等ノ神佛ノ德ヲ傳ヘ教ヲ廣メルモノハ吾等ト同ジク人間デアアル、衣食住ヲ以テ生存條件トシ  
テ居ルトコロノ人間デアリマス、然ルニ一方ニ於キマシテハ彼等ノ生存條件ヲ奪ヒ、彼等ヲシテ窮地  
ニ落シテ置キナガラ、他ノ一方ニ於テハ彼等ニ活動ヲ求メ宗教道德ノ振ハザルコトヲ攻メルト云フ  
コトハ、是ハ人間トシテハ頗ル無理ナル注文デアリマス、況ヤ正當ノ原因ニ依ツテ之ヲ獲得シ永キ間之  
ヲ保チ來リ、殊ニ深キ歴史上ノ因縁ノアルトコロノ宗教上ノ所有物ヲバ、何等正當ノ理由ナクシテ之  
ヲ沒取シテ、今日ニ至ルマデ恬トシテ過去リタルガ如キハ、明治政府以來ノ大失態デアルト本員ハ確  
信シテ居リマス、尤モ明治三十二年ニ是等ノモノヲ救済スルガ爲ニ一ノ法律ガ發布ニナリマシタ、ソ  
レハ國有土地林野下戻法ナルモノデアリマス、若シ此法律ガ正當ニ運用セラレマシタナラバ、ソレ等  
ノ土地ハ當然社寺ニ下戻スベキ性質ノモノデアリマスガ、政府當局ハ確ニ此法律ノ運用ヲ誤ッタノ  
デアリマス、ソレハ如何ナルコトデアアルカト申シマスルト云フト、政府ノ見解ニ依レバ社寺境内ノ土  
地ハ是ハ私有地ニアラズシテ公領地デアアル、即チ大名方領地ニ對スル關係ト同一ノ性質ノモノデア  
ルカラシテ、之ヲ沒收シタノハ當リ前デアアル、各藩ニ對シテ藩籍奉還ヲ命ジタルト同一ノ性質ノ事柄  
デアアルカラ、是ハ政府ニ沒收スベキモノニシテ、今更ニ之ヲ還スベキモノデアナイト云フ此理由ヲ以  
テ、社寺ノ請願ヲバ盡ク却下シテシマウタノデアリマス、トコロガ是ガ抑ノ誤リノ大ナルモノデアリ  
マス、古來我國ノ社寺ニハ境内地下境外地下トツアアリマス、此境外ニ屬スル方ハ全ク公領地ノ性質ヲ  
帯ビテ居リマシタカラシテ、是ハ歴史上ノ事實ニ徴シ又法理ニ訴ヘテ本員ハ斯ク論結ラスベキ根據ヲ  
ハ公領地デナイトデアリマス、是ハ歴史上ノ事實ニ徴シ又法理ニ訴ヘテ本員ハ斯ク論結ラスベキ根據ヲ  
有シテ居ルノデアリマス、而シテ此行政廳ニ於テ却下セラレマシタルトコロノ事件ガ行政裁判所ニ現  
ハレ、行政裁判所ハ如何ナル判決ヲシタカト云フト、初メノ程ハ行政廳ト同一ノ見解ヲ取リマシテ其  
訴訟ヲバ盡ク原告ノ敗訴ニ歸シタモノデアリマス、トコロガ追々ト事實ヲ審理シ法理ヲ研究スルニ  
從ツテ、初メノ見解ガ誤ツテ居ルト云フトコトヲ覺エテ、後ニ至ツテハ社寺境内ノ土地ハ是ハ盡ク私有地デ



アルト云フ見解ヲ下シテ、遂ニ原告勝訴ノ判決ヲ下ス様ニナッタノデアリマス、ソレ故ニ同ジ性質ノ事件デアリマシテモ、前ニ訴ヘタ者ハ負けタ、後ニ訴ヘタ者ハ勝ツタ、例ヘバ同ジ性質ノ事件デモ前ニ判決ヲ受ケタトコロノ高野山ハ負けテシマッタ、後ニ判決ヲ受ケタトコロノ叡山ハ勝ツタト云フガ如キ、斯様ナ不公平ナル結果ヲ來シマシタコトハ、是亦行政上及裁判上ニ於ケル大失態デアリマス、此事柄ノ不當不公平ナル處分ヲ取消シテ、社寺ノ權利ヲ回復シ、彼等ノ窮狀ヲ救ヒマスルノハ新タナル立法手段ニ訴ヘルヨリ外ニ途ハナイト、斯様ニ確信致シマシタニ依テ、此議案ヲ提出致シマシテ諸君ノ御賛成ヲ求メントスルノデアリマス、此處ニ一言附加ヘテ置キタイコトガアリマスガ、若シ斯ウ云フヤウナ土地ヲ社寺ニ返還シタナラバ、彼等ハ自由ニ之ヲ處分シテ遂ニハ歴史上ノ風致ヲ害シ、其他種々有害ナル結果ヲ惹起スコトガアルカモ分ラヌト云フ懸念ガゴザイマスカラシテ、之ヲ救フガ爲ニ第五條ニ於テ嚴格ナル制限ヲ設ケテ置キマシタ、即チ拂下ヲ受ケタル土地ハ主務大臣ノ許可ヲ得ルニアラザレバ一切處分スルコトガ出來ナイト云フ制限ガ設ケテアリマスカラ、此制限ニ依ッテ其懸念ハ取り去ラル、コト、信ジマス、更ニ一言附加ヘテ置キタイコトハ、本案ハ多年ニ跨ル本院ノ懸案デアリマス、第二十八回議會ニ於キマシテ社寺ノ總代ヨリ貴衆兩院ニ向ッテ請願ヲ致シマシタ、此請願ヲ兩院共ニ採擇シテ居ルノデアリマス、次ニ第二十八議會ニ於キマシテ、此衆議院ノ請願委員會ハ更ニ之ヲ採擇シテ法律案ヲ起草致シマシテ、之ヲ本會ニ提出致シマシタガ、滿場一致ヲ以テ可決シタノデアリマス、次ニ第三十議會ニ於キマシテハ、各派ノ代表者ガ之ヲ提出致シマシテ本議會ニ於テ再ビ可決ヲシテ居リマス、又第三十一議會ニ於キマシテハ是亦請願委員長ヨリ本案ヲ提出シテ滿場一致ヲ以テ可決シテ居ルノデアリマス、斯ノ如ク屢々請願委員會ニ於テ採擇シ、屢々本會ヲ通過致シマシタガ、何時モ議會ノ閉會ノ間際デアリマシタカラ、貴族院ニ於テ今日ニ至ルマデ其我立ヲ見ルコトガ出來ヌト云フノハ御互ニ遺憾トスル所デアリマス、又政府ノ中ニ於テ農商務省ハ之ニ反對ヲシテ居リマス、併シ本員ノ見ル所ニ依リマスレバ、其反對ノ理由ハ頗ル薄弱デアリマス、今回ハ政府當局者モ前議ヲ翻シテ、本案ニ全然賛成セラル、デアラウト思フ、尙又今日最モ都合ノ宜イコトハ、現農商務大臣タル河野君ハ本案ニ付テハ最モ熱心ナル賛成者デアリマス、何ヲ以テ之ヲ言フカト申シマスルト、同君ハ第二十八議會及第三十議會ニ於ケル本案ノ請願ニ付キマシテハ、多數ノ同志ヲ代表シテ紹介者トシテ自ら署

名シテ居ラレコトハ何ヨリノ證據デアアル、又現遞信大臣タル箕浦君モ賛成者ノ一人デアリマス、同君ハ第三十一議會ニ於ケル請願ニ付テ、是亦多數ノ同志ヲ代表シテ紹介者トナッテ居ラル、ノデアアル、大臣ニシテ既ニ賛成者デアアル以上ハ、其指揮命令ノ下ニ立タ、ル、所ノ政府委員諸子ハ、少クトモ本案ニ付テハ反對セラル、所ノ資格ガ無イト云フコトヲバ、充分ニ御記憶ヲ願ッテ置キマス、本員ハ此兩大臣ノ平生ノ主張ガ今將ニ實現セラレントスルコトヲ喜ビ、併セテ此兩君ハ、本案ノ成立、殊ニ貴族院ニ於ケル本案ノ成立ニ付テ最善ノ努力ヲ致サル、コトハ、本員ノ確信シテ疑ハヌ所デアリマス、願クハ滿場諸君ノ御賛成ト、政府ノ同意ト兩々相俟テ本案ガ速ニ成立シ多年ノ懸案ヲバ此ニ解決セラレムコトヲ切ニ希望致シマス

次テ本案ハ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ同月三十一日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末二月八日原案ニ修正ヲ加ヘ報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

(小字及——ハ委員會修正)

- 第一條 社寺境内地ニシテ社寺上地處分ニ依リ現ニ國有ニ屬スル土地林野ハ其ノ社寺ニ下戻スヘシ
- 第二條 本法ニ依ル下戻ノ申請ハ大正六年七月三十一日迄トス ニ主務大臣ニ差出スヘシ
- 第三條 此ノ申請ニ對スル處分ニ付不服アル者ハ ○其ノ指令ヲ受ケタル日ヨリ三箇月内ニ 行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 第四條 第一條ニ依リ下戻ヲ受ケタル者ハ ○其ノ下戻ニ依リ所有權ヲ取得ス 國ノ有スル權利義務ヲ承繼ス
- 第五條 本法ニ依リ下戻ヲ受ケタル土地林野及其ノ立木竹ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ抵當權、質權ノ設定若ハ讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 本法施行前行政處分又ハ裁判所ノ判決ヲ受ケタル者ト雖本法ニ依リ下戻ノ申請ヲ爲スコトヲ妨ケス



本法ハ大正五年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

二月十日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長肥田景之君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

社寺上地下戻ニ關スル法律案ノ委員會ノ報告ヲ申上ゲマス、本案ハ前ニ提出者ヨリモ縷々陳述ナリマシタ通り、是マデ度々請願委員會又ハ本會ヲ經由致シ、貴族院ニ於テ會期切迫等ノ爲メ其儘ニ相成リ居リマスルモノニテ、諸君ニモ其概要ハ豫テ御承知ノコト、存ジマスルニ依テ、詳細ノ說明ハ省略シ、單ニ要點ダケヲ申上ゲヤウト存ジマス、委員會ハ政府委員トモ屢々質問交渉等ヲ重ネ慎重審議ノ結果、法文ニ對シ不備ヲ感ジマシタ點ニ付キマシテ、御手許ニ配布ノ修正案第六條ヲ加ヘ、其他多少ノ修正ヲ致シ、全會一致ヲ以テ本案ヲ可決スルコトト決定致シマシタ、何卒御賛成アラムコトヲ希望致シマス

岡本農商務省山林局長ハ本案ニ反對、齋藤隆夫君ハ本案維持ノ演說ヲ爲シ高木正年君ハ賛成ノ演說ヲ爲セリ

岡本農商務省山林局長ノ演說

社寺ノ舊境内地ノ性質ニ付キマシテハ、政府ニ於キマシテ慎重ニ調査致シマシタ結果、大體ニ於キマシテハ舊諸侯ノ領地ト同様ノ性質ヲ有ッテ居リマシテ、社寺ノ私有地ニアラザルモノト認メテ居リマス、サウ致シマシテ此社寺ノ所有關係ノゴザイマシタモノニ付キマシテハ、地租改正處分以來引續イテ誤謬ヲ訂正シ來リマシテ、遂ニ御承知ノ如ク明治三十一年ニ至リマシテ下戻法ノ制定トナリ、是ガ誤謬處分ノ救済ニ付キマシテ盡シテ居ルコト、存ジマス、然ルニ今又本案ノ制定ヲ見ルニ至リマスレバ、際限ナク此ニ下戻ヲ致スト云フ端緒ヲ啓クコトニ至ルト存ジマス、加之此社寺ノ舊境内地ノ中ニ於キマシテ、政府ニ於キマシテ既ニ賣拂處分ヲ致シテ居ルモノモ甚ダ少カラヌノデアリマス、本案ハ

是等ノ社寺ニ對シマシテ甚ダ不權衡不公平ヲ來スコト、存ジマス、依テ本案ニハ遺憾ナガラ同意ヲ表スルコトハ出來ヌノデゴザイマス

齋藤隆夫君ノ演說

此席ヨリ一言致シタイト思ヒマス、唯今政府委員ノ反對セラレタ理由ハ、第一ハ社寺ノ境内地ハ公領關係デアッテ私有關係デナイト云フコトデアリマス、是ハ行政裁判所ノ判決例ニ依ッテ概シテ公領關係ナリト云フコトニ決定サレテ居ルノデアアル、行政裁判所ノ判決ハ行政廳ヲ羈束スル力ガアリマス、行政裁判所ハ行政官廳ノ違法處分ヲ正スガ爲ニ設定セラレテ居ルトコロノ國家ノ機關デアアル、此國家ノ機關ガ屢々斯カル判決ヲ下シテ居ルニ拘ラズ、今日ニ至ッテモ尙行政官廳ガ之ニ反對スルトコロノ意見ヲ固執スルト云フコトハ、行政官廳ト行政裁判所トノ地位ヲ辨ヘザルトコロノ暴論デアリマス、次ニ若シ之ヲ下戻ストシタナラバ、是迄賣渡シタコロノモノニ向ッテ不公平デアルト云フコトデアリマス、是ハ既往ノ事デゴザイマシテ、此法律ノ根本ニ反對スルトコロノ理由ニハナリマセヌ、本案ノ必要ナルコトハ提出ノ理由ニ於テ詳シク申述ベテ置キマシタカラ、此以上説明スル必要ハナイト思ヒマス、委員長ヨリ報告セラレマシタ如ク、本案ハ第二十七議會以來貴衆兩院ノ請願委員會ニ於テ屢々採擇セラレ、本會ニ於テ三回マデモ全會一致ヲ以テ通過シ、今回ハ第四回目デアリマス、殊ニ現農商務大臣タル河野君ハ本案ノ請願ニ付テハ、二回マデ紹介ノ勞ヲ取ラレテ居ルノデアアル、又現遞信大臣タル箕浦君モ紹介ノ勞ヲ取ラレテ居ルノデアリス、是等ノ方ガ大臣トナッテ居ラレル、其屬僚カラシテ本案ニ反對スルト云フガ如キハ、恐クハ大臣ノ意見デハナイト思フノデアリマス、ソレ故ニ政府モ斯カルコトヲ固執セズシテ、多數ノ意見ニ從ッテ翻然トシテ前議ヲ翻スガ宜カラウト思フ、此議案ガ貴族院ニ送付セラレタル場合ニ於テ、衆議院ノ院議ヲ屢々無視シテ反對ヲ固執セラレルト云フガ如キコトガアッタナラバ、吾々モ亦考ヘルトコロガアルノデアリマス

高木正年君ノ演說

此場合私モ極ク簡單ニ此席カラ賛成ノ意ヲ表シタイト思ヒマス、此案ハ唯今齋藤君ノ申サレタ通り、此



議會ニ於テハ幾多ノ歴史ヲ有ツテ居ル案デアリマス、私モ屢々此問題ニ付テハ演壇ニ立ツタ歴史ヲ有スル一人デアリマスガ、元來政府ガ反對セラレルトコロノ主義ニ付テ、私ハ一言シナケレバ暴ナ處分ヲシタコトハナイノデアリマス、今日政府ハ之ヲ以テ公領地同様トシテ反對セラレルノデアリマスガ、社寺ノ境内ノ如キハ況ヤ其境内ニ關スル所謂植林ノ如キモノハ、全ク一種ノ喜捨物トシテ名義ヲ以テ朱印地ヲ與ヘ、或ハ有志ノ喜捨ニ依ッテ植林ヲシタ結果、彼ノ社寺上地林ナルモノハ、實體ガ出來タノデアアル、信教ノ自由ノ上ニ於テ既ニ個人ガ寄附シタモノニ對シテ、政府ガ之ヲ奪フト云フコトノ道理ナキト同様、維新前ニ於テ各大名ガ其領地ノ社寺ニ寄附シテ、若クハ各大名ナラザルトコロノ徳川幕府等ニ於テ之ヲ寄附シタルモノニ付テ、政府ガ之ヲ掠奪同様ニ上地セシムルト云フコトハ、全ク維新事業中最モ亂暴ナル仕事ノ一ツトシテ世間之ヲ認メテ居ルノデアリマス、此趣意ニ於テ社寺ノ上地ナルモノハ、是非トモ之ヲ社寺ニ下戻シテ、但國家ハ之ニ對シテ相當ノ保護ヲ與ヘテ、各個人ノ寄附シタモノ各領地ノ大各其他ガ個人ノ資格ヲ以テ寄附シタモノニ對シテハ之ヲ保管スルト云フコトハ、國家ノ上デ爲スベキトコロノ監督ノ事業デアリマスカラ、政府ガ之ニ對シテ相當ノ處分ヲナスコトハ、相當ノ保護ヲナスコトハ相當デアリマスガ、唯公領地デアルト云フ意味ニ於テ之ニ反對スルトキハ、全ク政府ガ其方針ヲ誤ッテ居ルト云フコトヲ從來唱ヘ來ツタノデアリマス、今日モ其意味ニ於テ此法案ニ贊成スルノデアリマスガ、政府ハ何時迄モ此誤リヲ固持シナイデ、ドウカ本院ノ決定通りニ貴族院ニ於テモ此案ノ通過スルヤウニ、政府ハ努メテ本院ノ決議ニ服從セラレンコトヲ、私ハ希望シテ止マヌノデアリマス

他ニ討論ナク院議第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通修正議決ヲ爲シ即日貴族院ニ送付シタルモ同院ノ議決ヲ經ルニ至ラザリキ

一九 醫師法中改正法律案

醫師法中左ノ通改正ス

第八條第一項中「設立スルコトヲ得」ヲ「設立スヘシ」ニ改メ第二項中「内務大臣之ヲ定ム」ヲ「勅令ヲ以テ之ヲ定ム」ニ改ム

五年一月二十五日山根正次君外二名之ヲ提出ス同月二十九日本案ノ第一讀會ヲ開キ本案贊成者關戸寅松君ハ提出者ニ代リ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ハ本案提出ノ理由ヲ説明致シマシテ、諸君ノ御贊成ヲ仰ギタイト思ヒマス、本案ハ誠ニ簡單ナ法案デゴザイマスカラ説明モ至極簡單ニ致シマス、本案ノ目的ト致シマス所ハ、現行ノ醫師法ノ第八條ヲ改正スルノガ本案ノ目的デアリマス、現行ノ醫師法ノ第八條ニ依リマスルト、斯様ニ規定サレテアルノデゴザイマス「醫師ハ醫師會ヲ設立スルコトヲ得」ト云フノガ第一項デアリマス、ソレカラ第二項ニ醫師會ニ關スル規定ハ内務大臣之ヲ定ムト云フノガ同條ノ第二項デアリマス、此條項ヲ斯様ニ改正シタイノデアリマス「醫師ハ醫師會ヲ設立スヘシ」ト云フコトニ改正シタイノガ一ツノ目的デアリマス、ソレカラ同條ノ第二項ヲ「醫師會ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」ト斯ウ云フコトニ改正シタイノガ第二ノ目的デアリマス、ツマリ現行法ニ依リマスレバ醫師會ヲ設立スルコトヲ得トアルノデゴザイマスカラ、醫師會ヲ設ケルト否トハ今日ノ所デハ醫師ノ自由ニナツテ居ルノデアリマス、併ナガラ現今ノ實際ノ状態ハドウデアアルカト申シマスルト、全國各地到ル處ニ醫師會ガ設立サレテアルルノデゴザイマス、ソレデゴザイマスカラ如何ニ實際ニ於テハ醫師會ト云フモノガ必要デアアルカト云フコトガ十分ニ此實際ノ事實デ證明サレテ居ルノデゴザイマスカラシテ、此醫師法ノ第八條ヲ改正致シマシテ、必ズ醫師會ヲ設立スベシト云フコトニ改正致シマスルノガ最モ實際ノ必要ニモ當テハマルト存ジマシテ、此第一項ノ改正案ヲ出シタ次第デゴザイマス、ソレカラ尙醫師會ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テツマリ醫師ノ業務、ソレカラ醫師ノ風紀、ソレカラ又醫師ノ名譽等ニ關スル事柄ハ之ヲ勅令ヲ以テ定ムルコトニ改正シタイト云フノガ本案ノ第二ノ目的デゴザイマス、以上ノ次第デゴザ



イマスカラ、ドウカ満場諸君ノ御賛成ヲ希望致シマス

次テ本案ハ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ同月三十一日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末二月十日原案ニ修正ヲ加ヘ報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

(ハ委員會修正)

醫師法中左ノ通改正ス

第八條第一項中「設立スルコトヲ得」ヲ「設立スヘシ」ニ改メ第二項中「内務大臣之ヲ定ム」ヲ「勅令ヲ以テ之ヲ定ム」ニ改ム

二月十六日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長山根正次君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

此ニ委員會ノ經過及結果ヲ御報告致シマス、委員會ヲ開クコト三回デアリマシタ、總テノコトハ速記録ニ載ッテ居リマスルカラ御覽ノコトト存ジマシテ精シイコトヲ申シマセヌ、イロク質問モ出マシタガ、又政府ニ對シマシマシテモ是ハドウデアアルカト云フコトヲ問フタ際、政府デモ之ハ全然反對デハナイ、反對デハナイガ之ヲ勅令ニ改メルト云フコトハ賛成ガ出來ナイト云フコトデゴザイマシタ、ソコデ委員カラ修正ガ出マシテ第八條ノ一號中ニ「設立スルコトヲ得」トアルヲ「設立スヘシ」トシテ、後トハ内務大臣勅令ヲ以テ之ヲ定ムト云フコトニハ賛成ヲシナイ、是ハ修正ヲシタ方ガ宜カラウ是ダケノコトニナク、タノデアリマスル、強制設立ヲ今日ハ必要トスル理由ニ付テ、此間カラ大分質問ガ出マシタガ、醫師會ヲ強制シテサウシテ醫師ヲシテ其團結ヲ鞏固ニシ、其紀律節制ヲ下ニアリテ業務ヲ行ハシムルノガ宜シイト云フコトヲ考ヘタノデアリマス、サウシテ衛生——醫務衛生ニ關スル事項ノ改善發達ヲ圖ルト云フコトハ、醫師會ヲ強制シタ方ガ宜シイト云フコトノ原因ニナッテ居リマスルガ、ドウカ修正通り全會一致ヲ以テ決シタノデゴザイマスルカラ、此處ニ於テモ御賛成ヲ願ヒマスル

院議異議ナク第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通修正議決ヲ爲シ即日貴族院ニ送付シタルモ同院ノ議決ヲ經ルニ至ラサリキ

二〇 私立學校及公益法人ノ用地免租ニ關スル法律案

第一條 左ニ掲クルモノノ用ニ供スル土地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ因リ其ノ地租ヲ免除ス但シ有料借地ハ此ノ限ニ在ラス

一 私立ノ幼稚園、小學校、中學校、高等女學校、實業學校及專門學校

二 前號以外ノ私立學校ニシテ大藏大臣ニ於テ指定シタルモノ

三 日本赤十字社、恩賜財團濟生會其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル公益法人

第二條 前條ニ依リ地租ヲ免除スヘキ土地ハ幼稚園及學校ニ在リテハ校舍、寄宿舎、圖書館其ノ他必要ナル附屬建物ノ敷地、運動場、實習用地及保育又ハ教授上直接ノ用途ニ供スルモノニ限り公益法人ニ在リテハ事務所ノ敷地其ノ他事業ノ執行上直接ノ用途ニ供スルモノニ限ル

第三條 府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ本法ニ依リ免租セラレタル土地ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

附 則

本法ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

五年一月二十五日林毅陸君外二名之ヲ提出ス同月二十九日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(林毅陸君)ハ



此私立學校及公益法人ノ用地免租ニ關スル法律案ノ提出理由ヲ簡單ニ申上ゲマス、是ハ會テ本議會モ通過致シテ貴族院ニ送ラレタコトモアル案デアリマス、其趣意トスル所ハ私立學校ノ用地並ニ赤字社財團法人濟生會、其他勅令ヲ以テ指定セラレタ公益法人、是等ノモノ、用ニ供スル土地ニ對シテ、租稅ヲ免除シヤウト云フノデアリマス、此私立學校ニ關シテハ申スマデモナク教育獎勵ノ趣意ヨリ致シテ、官私ノ間ニ區別ヲ設ケナイヤウニスル、ソレガ爲メニイロク爲スベキコトガアリマスケレドモ、此私立學校ニ對シマシテハ租稅ヲ取ルト云フコトモヤハリ區別ノ待遇ノ一箇條デアリマス、之ヲ撤廢致シテ官立學校等ト同ジヤウナ風ニ取扱フト云フコトハ、即チ教育ノ獎勵ノ上ヨリ見マシテ當然ノコト、思フノデアリマス、其私立ノ諸學校ト申ス中ニハ、勿論幼稚園、小學校、中學校、高等女學校、實業專門學校等總テ是等ヲ含ムノデアリマス、其他政府ニ於テ適當ナリト指定シタル私立學校モ含マレル等ニナツテ居リマス、其外慈善事業等ニ關シマスル赤十字社ナリ、或ハ濟生會等ノ公益事業ノ法人團體、是等モ同ジク地租ヲ免除シテヤルノハ、多ク辯明ヲ俟タズシテ相當ナコト、思ヒマスカラ、二ツヲ含メマシテノ免租案デアリマス、是ハ今マデ此議會ニ於テ同ジ形ニ於テ一度通過致シ、少シク變リタル形ニ於テ此前一度通過シタコトガアル、山口縣選出久保通猷君ガ度々熱心ニ私立學校ノ用地免租ノコトヲ企テラレマシテ、既ニ二回此議會ニ案ヲ提出セラレタノデアリマス、大正二年ニ久保君ガ提出セラレテ、ソレハ本院ニ於テ修正ノ上可決ヲ致シ、貴族院ガソレヲ決議スルニ至ラズシテ其儘終ッタクコトガアル、ソレカラ大正三年ノ一月ニ久保君ガ再ビ案ヲ提出セラレマシテ、其場合ニモヤハリ私立學校ト云フモノガ主意ニナツテ居ッタノデアリマスガ、政府ノ方ニ於テハソレバカリデハ宜クナカラウ、ヤハリ慈善事業等ニ相當ノ資格ノアルモノニモ、ヤハリ免除スルト云フコトヲ含マセタ方ガ宜カラウト云フコトデ、當時政府ノ案ト致サレテ今本員ガ此ニ提出致シテ居リマスル案ヲ出サレタノデアリマス、ツマリ此案ハ久保君ガ出サレマシタ所ノ案ト、ソレカラ當時ノ政府當局者ガ考ヘラレマシタ新ニ加フベキ點ヲ添ヘテ、サウシテソレヲ混ゼ混ジテ雙方ノ趣意ヲ合セテ出來上ゲラレタモノデアリマス、大正三年ノ二月ニ本院ハ之ヲ可決致シタノデアリマス、其場合ニ於テ唯或ル文字ニ就テノ意見

ノ相違ガ少シクアリマシタケレドモ、殆ド全會一致ヲ以テ各派諸君ノ御同意ニ依ッテ通過ヲ致シタノデアリマス、其字句ノ修正ハ極ク些々タルモノデアリマシテ、此案ヲ御覽ニナレバ分リマスガ、第二條ニ公益又ハ教授上直接ノ用途ニ供スル云々ト云フ文字ガアリマス、此直接ト云フ文字ヲ省イタラドウカト云フコトハ私ノ意見デアリマシタ、ソレヲ其儘ニ殘シテ置キタイト云フノガ多數ノ意見デアリマシテ、直接ト云フ字ハ其儘保存サレテアツテ、其文字ニ就テ多少議論ガアツタ、其議論ヲ致シタノモ實ハ私デアッタノデアリマス、私ハ其時ノ議論ハ撤回ヲ致シマシテ、成ベク此案ノ成立ヲ計リマスル爲ニ、其當時ニ通過セラレタ案其儘ヲ提出致シタノデアリマス、當時ノ大藏當局者、大藏ノ政府委員トシテ菅原君サドハ熱心ニ此案ヲ作ル爲ニ御盡力下スッタノデアリマシテ、今回ノ政府モ定メテ御異議ハナイコト、思ヒマス、願クハ諸君ノ御贊成ヲ得マシテ、速ニ貴族院ノ方ニ廻シタイト思ヒマス、貴族院ニ廻リマシタ場合ニ於テハ丁度山本内閣ノ一番シマイノ時デアリマシテ、議會ハ停會ニナリ引續イテ其儘議會ハ閉會ニナルト云フヤウナ状態デアッタ爲ニ、遂ニ貴族院ニ於テハ決議ニ至ラズシテ終ッタノデアリマス、サウ云フ始末ニナツテ居リマスノデ、最モ是ハ惜ムベキ案ト思ヒマスカラ、私ガ諸君ト御協議ヲ致シテ此ニ提出ヲ致シタ所以デアリマス、何卒御調査ノ上、速ニ通過ヲ見ルヤウニ御運ビヲ願ヒタイノデアリマス

次テ本案ハ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ同月三十一日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末二月二日原案ヲ可決シ報告書ヲ議長ニ提出セリ  
二月五日第一讀會ノ續會ヲ開キ(二月三日延期)委員長山口嘉七君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

私立學校及公益法人ニ關シマスル用地免租ノ法律案ノ委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告致シマス、私ハ新議員デアリマシテ慣レマセヌカラ、諸君ニ徹底致シマスルヤウニ報告ノ出來難イヲ苦ムノデゴザイマス、依テ御聽取リ易キヤウ第一委員長及理事ノ選舉、第二用地免租法案ノ趣旨、第三沿革、第四結果ノ四項ニ大別ヲ致シマシテ簡單ニ申上ゲマス、御了承ヲ願ヒマス、去月三十一日ニ委員會ヲ開キマシテ